

中期目標の達成状況報告書

平成28年6月

東京藝術大学

目 次

I. 法人の特徴	1
II. 中期目標ごとの自己評価	7
1 教育に関する目標	7
2 研究に関する目標	58
3 社会連携・社会貢献, 国際化に関する目標	88

I 法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

東京芸術大学は、我国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことが、その使命である。この使命の遂行のため、下記のことを基本的目標とする。

1. 教育に関する基本的目標

- ・世界最高水準の芸術教育を行い、高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者を養成する。

2. 研究に関する基本的目標

- ・国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進する。

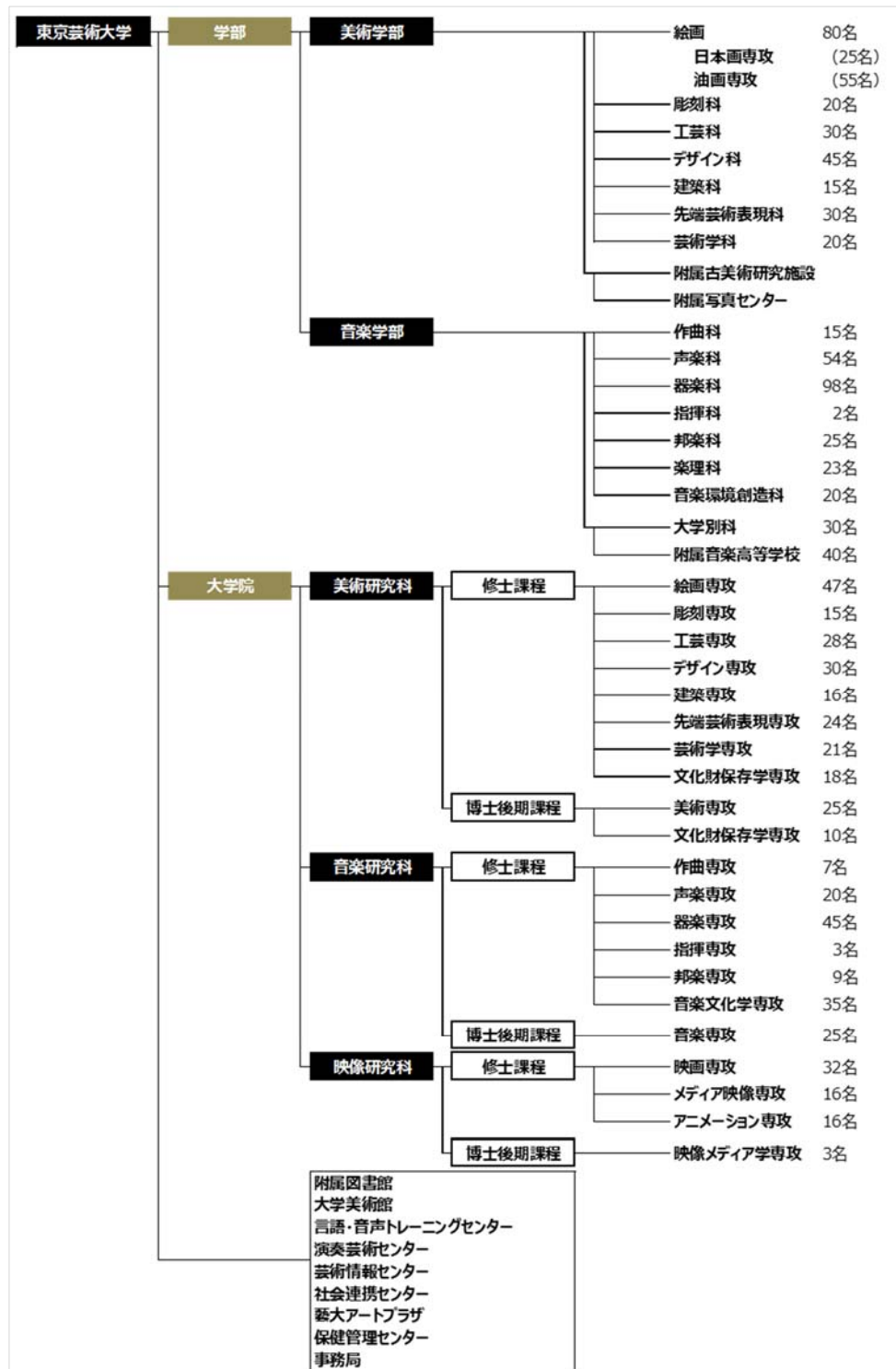
3. 社会との連携や社会貢献に関する基本的目標

- ・心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促す活動や、市民が芸術に親しむ機会の創出に努める。

- 1 本学は、前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来、128年の歴史があり、これまで、日本の近代美術史や音楽史に輝く多くの芸術家を輩出してきている我が国唯一の国立芸術大学である。美術学部は、絵画（日本画、油画）、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現、芸術学の各科がある。音楽学部は、作曲、声楽、器楽（鍵盤楽器、弦管打楽器、古楽）、指揮、邦楽、楽理、音楽環境創造の各科がある。大学院は、両学部の専門分野に対応した、修士課程、博士後期課程の専攻があり、さらに美術研究科には、独立専攻として、文化財保存学専攻が置かれている。また、映像表現分野を担う独立研究科として新たに設置された映像研究科は、映画、メディア映像、アニメーション専攻があり、平成27年度設立10周年を迎えた。
- 2 本学の専門教育の特色は、美術学部・美術研究科においては、主としてアトリエを中心とした制作活動、音楽学部・音楽研究科においては個人レッスンを中心とした個人指導、映像研究科においては、映像作品の創作活動によって、学生の実技修練、創造性の開発を図ることにある。そのため、教育方法については、1対多数ではなく、少人数指導または1対1のマンツーマンによる方法が、芸術教育の伝統的教育手法として確立されている。こうした伝統的手法による地道で、継続的な教育活動が、本学の大きな特色の一つである。また、新しい創造活動の基盤として、伝統芸術を専門的な見地から学ぶことを重視しており、数千年を超える伝統を持つ諸芸術を学ぶために、様々な授業科目を設けているほか、実地見学や特別講義・講演会といった機会を設けて、伝統的芸術技法を学生が習得できるように配慮している。
- 3 本学の教員の多くは、作家、演奏家として個々に「表現者」「芸術家」として成り立っていることが大きな特徴といえる。そのため本学教員の「研究活動」は、狭義のいわゆる学術的研究だけでなく創造的表現活動を含んでいる。その成果物は、論文等として発表されるのではなく、展覧会への出品、演奏会への出演などとして発表され、また、単に出品や出演だけでなく、展覧会や演奏会、その他のイベントなどを総合的に企画・運営・実施することなどまで多岐に及ぶ。本学の教員にとって研究開発とは、新たな芸術表現の開拓や作品制作に他ならないため、各専門に留まることなく、分野横断による複合的な領域において、常に新しい芸術表現創造を模索している。
- 4 本学は、大学全体として、国立大学の中で唯一の芸術大学としての使命（即ち芸術家の育成と芸術創造の具現化）を果たすだけでなく、芸術をもって、より社会に貢献できる大学として各種の取組・活動を行うことを重視している。また、本学には、国宝・重要文化財から学生の卒業制作品まで約29,000点以上の所蔵品があり、国内有数の所蔵品数を誇る大学美術館と国内で最も音響効果の優れたコンサートホールのひとつである奏楽堂を有している。これらの施設は、本学の教育研究の場として活用されているだけでなく、各種の展覧会、演奏会が開催され、多くの一般の鑑賞者を集めており、本学の教育研究成果を社会に発信し、還元する場として十分な役割を果たしている。

- 5 本学は、美術分野では油画学科、音楽分野では器楽学科に代表されるように、西洋古典における美術・音楽表現の教育を受容してきたという経緯があり、必然的に海外、とりわけ欧米を志向し、学生や教員は積極的な留学や国際舞台での活動を行っている。また、日本画や邦楽をはじめ、日本古来の伝統的な技術手法に基づく芸術表現や、海外からの評価も高い映画やアニメーションなどは、我が国の文化そのものの発露であり、作品や研究成果を通じた異文化交流を実施し、海外関係機関との協定や連携を行っている。今日のグローバル化時代にあたっては、アジアにおける高等芸術教育の中心機関としての地位を確立し、各国からの留学生を積極的に受け入れるとともに、数多の芸術家・研究者・教育者を全世界に輩出している。

資料 東京芸術大学 教育研究組織の構成（平成 27 年度） 数字は入学定員



【個性の伸長に向けた取組】

明治開国以来、我が国の芸術教育の礎を築き、文化芸術発展の指導的役割を担ってきた歴史的経緯を持つ本学は、21世紀以降の加速度的に変化する社会情勢の中、国立唯一の総合芸術大学として、芸術分野の強み・特性を活かすという“オンリーワン”の戦略によって大学改革を断行することとし、その機軸として「グローバル展開戦略」を掲げた。

本学は常に世界を志向し、世界レベルの諸活動を展開してきた。その従来の取組を一気に開花させ、ロンドン芸術大学等海外からの一線級アーティストの招聘をはじめ、数々の海外一流芸術系大学等との連携強化、国際共同プロジェクトの実施のほか、共同作品制作、学生の海外派遣、留学生の受入を積極的に実施することとした。また、国内においては、国際芸術祭である越後妻有アートトリエンナーレ等地域アートプロジェクトによる成果発表、音楽分野では地方における小中学生を対象とした公開レッスンの実施など、芸術文化の向上とともに地方創生に資するものとして、国内全域における展開をみせている。加えて、世界に伍するトップアーティストの人材育成を戦略的に行うため、新しい大学院組織整備について制度設計を行ったほか、飛び入学を起点とする早期教育制度の構築を図った。

こうした「海外」と「国内」の両輪で芸術文化の活性化を行う一方で、これまで培ってきた伝統的手法から導かれる、新たな芸術表現分野の開拓も行っている。芸術におけるイノベーションの創出＝“アートイノベーション”と名づけられた一連の取組では、特許取得に至った高精度複製技術を用いた作品による新たな芸術体験、今では消失してしまった文化財の高次元での復元、アンドロイドによる演劇表現をはじめとした芸術と科学の融合などが試みられ、その多岐にわたる革新的な成果は、展覧会・演奏会等で広く一般に公開されている。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定を受け、2020年をターゲットイヤーと定め、本学が中心となり全国の芸術系大学と連携し、数々の文化プログラムの実施計画をたてることとし、また、本学の立地する上野地区は、国内唯一の芸術文化関連施設の集積地であり、その利点を活かし、世界文化交流の拠点化を目指す「上野『文化の杜』新構想」の推進会議を設置するなど、本学の教育研究機能を最大限に発揮し、グローバル化時代における社会貢献を実施している。

芸術表現というグローバルツールを武器に、戦略的に国内外での展開をみせることで、文化芸術立国としての我が国の繁栄に寄与すべく、本学のプレゼンス向上を図っている。

（関連する中期計画）

- 計画1－（1）－3－2【6】（P.14）
- 計画1－（2）－1－1【7】（P.24）
- 計画1－（2）－1－2【8】（P.32）
- 計画1－（2）－2－2【12】（P.43）
- 計画2－（1）－1－1【19】（P.59）
- 計画2－（1）－1－5【23】（P.77）
- 計画2－（2）－1－2【25】（P.84）
- 計画3－（1）－1－1【27】（P.90）
- 計画3－（2）－1－1【31】（P.121）
- 計画3－（2）－2－1【32】（P.123）
- 計画3－（2）－2－3【34】（P.125）

【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】

震災から復興への歩みは、人の心、人と人とのつながりを回復・再生するものとして、奇しくも文化芸術の価値を改めて呼び覚ます契機ともなった。そこで本学では、「芸術の力」を活かした、芸術にしかできない復興支援を、“オール藝大”体制で全学的に取り組んでいる。

美術分野では、復興支援作品展の開催やアート作品頒布によるチャリティー活動をはじめ、慰霊記念像の制作、建築分野の知見を活かした復興まちづくり事業の協力などを実施しており、なかでも、本学が有する文化財保存・修復の技術を活かした被災作品の復元、文化財ドクターの派遣等による支援は特筆される。当該支援により、震災によって甚大な被害を受けた美術館等の所蔵作品を多数修復したほか、津波により消失した、本学との縁深い「六角堂」の再建協力を行った。

また、音楽分野では、復興支援チャリティコンサートの開催、被災地域における演奏指導（音楽アウトリーチ活動）や早期教育等を実施しているほか、映像分野では、ドキュメンタリー作品制作により震災・復興記憶のアーカイブ化を行った。当該作品は被災地での上映会や映画祭など、各地で上映されている。

さらに、学生ボランティアや教員個人による活動支援もさかんに行われている。「ふたばの教育復興応援団」は、小泉進次郎復興大臣政務官（当時）の呼びかけにより、福島県双葉郡の教育復興を応援しようという各界の有志により 2014 年 7 月に設立され、本学からは宮田亮平学長、平田オリザ特任教授が参画している。福島県立ふたば未来学園高校において、アート作品や演劇の持つ力を活かした「未来創造ゼミ」を実施するなど、福島県双葉郡の教育復興を支援した。

資料 主な東日本大震災からの復旧・復興へ向けた主な取組例

No.	年度	事項	活動実績
1	23	文化財ドクター派遣事業	東日本大震災後、5月から開始された文化庁・日本建築学会による文化財ドクター派遣事業に参加し、栃木県の文化財建造物を担当した。5月～10月に計5回の被害状況調査を実施、9月～12月に計3回の復旧の現地指導を行った。
2	23	茨城大学六角堂 宝珠復元研究	東日本大震災の津波によって、明治38年に岡倉天心が建設した六角堂は、津波により土台だけ残して流失するという甚大な被害を受けた。海中調査の結果、建物頂部の宝珠の破片を複数発見。これらの破片から3D デジタル技術で形状を復元し再建に協力した。
3	23	被災文化財のレスキュー	海水で被災した紙資料の救助のために必要な洗浄の効果を実際に検討し、現状の方法で問題無いことを明らかにし、その結果を奈良文化財研究所の研究集会（2011年12月）などで公表した。
4	23	震災復興アーカイブ作成	せんだいメディアテークが開設した「3がつ11にちをわすれないためにセンター」と協力し、大学院映像研究科学生で構成する複数の撮影チームを継続的に派遣して震災復興の記録映像を制作し、震災復興アーカイブ作成を支援。その成果は『なみのおと』としてまとめられ、10月の山形国際ドキュメンタリー映画祭2011で公開され、その後、被災地での上映会や映画祭など、各地で順次上映された。
5	23	被災地美術館応援企画 「今、美術の力で被災地美術館所蔵作品から」(8月2日～21日)	被災地美術館の所蔵品から、今回の震災及びかつての震災や原発事故に関連する作品や、復興を支えるような表現をもった地元ゆかりの作家による作品などを選抜し、一つの会場に結集することで、厳しい現状を乗り越えるエネルギーとしたいとの願いから本展を企画。
6	23	チャリティーコンサート 「故郷（ふるさと）～被災地出身演奏家の祈りに応えて～」	2011年4月3日に行われたフランスのボーヴェ大聖堂にてチャリティーコンサートのリハーサル時に「難民を助ける会」等の関係者が集まり、本学教授から、震災被災者のために音楽を通した復興支援を行いたい旨を伝えたことがきっかけとなる。宮城県石巻市出身、東京藝術大学音楽学部卒で、現在東京フィルハーモニー交響楽団のトランペット奏者の呼びかけとし、「故郷（ふるさと）チャリティーコンサートを開催した。 ウインドオーケストラ（吹奏楽団）は、今回の趣旨に賛同した被災地出身等の演奏家75名、合唱20名、制作スタッフ等が参加、そのほとんどを東京藝術大学関係者やOB等で構成。 また、津波で楽器を全て流された石巻市の小中高等学校へ募金及び寄附金を原資として楽器を寄贈。
7	23	Save Tohoku in 松戸（音楽学部教員、学生）	河川敷やギャラリーでコンサートやトークイベントを行い、支援物資の寄付を募った。NPO 法人や東北大学と連携して実施。
8	23	学生による被災地でのボランティア活動	【現地ボランティア】 B2：学生2名： 5月1日～4日（岩手） B4：学生2名： 5月3日～6日（仙台） M2：学生1名： 5月7日～1ヶ月間（被災地各所） M1：学生2名： 5月15日～22日（岩手、宮城、福島、茨城の被災地各所） 学生2名： 5月19日～20日（仙台） M2：学生1名： 5月21日～25日・28日～6月1日（福島県相馬郡新地町） 学生1名： 5月29日～6月1日（石巻・牡鹿半島） 【メディア棟内における被災写真の洗浄】 M1：指導教員の立ち会いのもと、学生10数名による被災写真の洗浄作業を行った。

			期日：8月17日、19日、22日、23日、24日 場所：取手校地メディア教育棟ピロティーギャラリー 作業：約7万枚の写真の洗浄
9	24	「日本一美しい漁村」をめざし、石巻市雄勝の地区特性を活かした復興住宅モデルづくり等事業	震災直後から復興まちづくり協議会及び石巻市雄勝総合支所と連携し、地域の固有性を継承する集落再建をめざすプロジェクト。石巻市雄勝各浜マスタープランの制作（建築）を行う。
10	24	陸前高田みんなの家建設工事	東日本大震災で津波被害をうけた陸前高田にて、仮設住宅に暮らす市民が集うことのできる「みんなの家」を構想、設計、工事監理、一部施工を行った。また、建設費の資金集めも行った。さらに、ヴェネチア・ビエンナーレ建築展にて日本代表の展示者として、模型などをつかってプロセスの展示を行い、被災地における建築の意義、可能性を自ら問い、表現した。
11	24	岩手県陸前高田市 普門寺地藏堂の設計監修	保存修復彫刻研究室では、平成23年度に、東日本大震災の被災者の冥福のため、「高田松原」の倒木を用いて親子地藏像を造立した。保存修復建造物研究室では、地元の陸前高田市の普門寺に、その親子地藏像3軀を奉安する地藏堂を設計し、その建設を指導した。
12	24	栃木県指定文化財建造物 金鈴荘の災害復旧	金鈴荘は、真岡市の豪商岡部氏により、明治前期に建てられた近代和風建築の離れである。2階建、棧瓦葺で、東日本大震災によって、外壁のなまこ壁が大きく崩落し、軸組もかなり変形した。所有者の真岡市は昨年からの復旧の準備に取りかかり、栃木県と協議の上、24年度に復旧工事を行うことになった。この保存修復工事について、全体計画、保存手法などの指導を行い、25年3月に完了した。
13	24	真岡市登録文化財建造物 旧下野紡績所の災害復旧	旧下野紡績所は明治29年に創業されたが、後に廃止となり、一部が民間に払い下げられたものである。平屋建ての木造、外壁大谷石積の構造形式で、東日本大震災によって、軸組と外壁の一部が損傷した。日本ナショナルトラストの震災復旧助成を受けて、24年度に復旧工事を行うことになった。この保存修復工事について、全体計画、保存手法などの指導を行い、25年3月に完了した。
14	24	石巻文化センター所蔵作品 の応急修理	東日本大震災で被災した石巻文化センター所蔵作品を31点応急修理のため受け入れ、約半数の作品の応急修理を完了した。
15	24	平成24年度の文化財ドクター派遣事業への参加・協力	「東日本大震災文化財建造物復旧支援委員会（事務局：社団法人日本建築家協会）」が設置され、文化財ドクター派遣事業が進められることになった。事業内容のうち、23年度調査のフォローアップ調査（23年度に調査した被災文化財建造物の経過調査）について、専門家として栃木県を担当し、完了した。
16	24	工芸基礎1年集中講義 「アーティストが考える復興支援のカタチ」	本学の卒業生で集中講義講師の亀井伸二氏が立ち上げた「サボサボ project」の概要を学び、学生がワークショップ形式で制作した作品を実際に展示販売し、復興支援活動を行っているNPOなどに対して資金援助活動を行った。
17	24	東北関東大震災チャリティーコンサート（埼玉県入間市）	埼玉県入間市武蔵ホールで開催され、このコンサートの収益金は、東北関東大震災の支援金として日本赤十字を通して全額寄付された。
18	24	東日本大震災メモリアルコンサート（茨城県神栖市）	東日本大震災から一年の日に、茨城県神栖市文化センター大ホールにて開催された。会場にて募金を募り、震災の被害を受けた神栖市に寄付された。
19	24	東日本大震災復興アーカイブ支援プロジェクト	宮城県仙台市のせんだいメディアテークが開設した「3がつ11にちをわすれないためにセンター」と協力し、平成23年7月から大学院映像研究科学生及び修士生によるチームを継続的に派遣して復興の記録映像を撮影し、アーカイブ作成を支援する東日本大震災復興アーカイブ支援プロジェクトを実施。またその映像をドキュメンタリー映画として取りまとめ、昨年度は『なみのおと』、今年度は『なみのこえ』を各地の映画祭や上映会で公開した。
20	25	いわき市勿来地区の津波被災者が実体験を遺すタイムカプセル事業	震災の記録を収集しタイムカプセルに収め、将来の地域防災に活かすために後世に伝え遺すことを目的とするタイムカプセルの委託事業調査を実施。
21	25	『文化遺産とまち、ひと、復興』プロジェクト	文化庁・気仙沼風待ち復興検討会等が主催し、宮城県を中心に各地の文化遺産の被災と復旧の状況を報告するもので、文化遺産がふるさとの復興に果たす意義や、さらなる支援の必要性について呼びかけた。保存建造物研究室と筑波大学の学生が中心となり、宮城県各地の有形・無形の文化遺産について、これまでの取り組みについて現地調査を行った。2013年9月に宮城、12月に東京で、それぞれシンポジウムを行い報告した。
22	26	石巻市雄勝大浜地区防災集団移転促進事業サポート	雄勝総合支所において行われる、大浜地区防災集団移転事業に係る住民説明会に参加。精密な模型を制作し、造成についての説明補助・まちなみの創造、集会所建設等

			のアドバイスをを行った。
23	26	クズのトンネル	東日本大震災で被災した「アクアマリンふくしま」の復興計画である「クウェート・ふくしま友好記念日本庭園」のアプローチの構造設計及び現場制作を行った。同庭園は、人工の埤頭全体を須賀（防潮林）で津波から護り、その内側に、浜通りの水源である阿武隈山地の森と水系流域の自然と空間を再現した。
24	26	日立システムズホーム仙台復興支援演奏会	声学科、菅准教授監修による復興支援演奏会。菅准教授、地元の方々、藝大学生が共同での演奏会を実施した。
25	26	伊達市吹奏楽きらめき事業	年に5回現地に出向いて指導を行い、5月には地元の中学生たちの伊達市ジュニア・ウィンドオーケストラとの吹奏楽合同演奏会を開催、また、11月23日の吹奏楽定期演奏会には、中学生及びきらめき事業にかかわる先生方、約150名を奏楽堂に招待した。
26	26	ふたばの教育復興応援団	「ふたばの教育復興応援団」は、福島県双葉郡の教育復興を応援しようという各界の有志により2014年7月に設立。 「前例なき環境には、前例なき教育を」の想いで、双葉郡の中高一貫校となる「ふたば未来学園高校」開校にあたる校歌や制服の制作協力、双葉郡内小中高校の授業や部活動への協力のほか、子供たちが地域との絆を深める行事等への協力等を行う。 本学からは宮田亮平学長、平田オリザ特任教授が参加。
27	27	藝大アウトリーチ in 宮城	11月14日～11月16日 栗原市、気仙沼市、登米市等自治体や教育委員会等と連携し、本学教員と学生によるワークショップとコンサートが一体となったアウトリーチ活動を展開。
28	27	展覧会開催 東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年 「法隆寺－祈りとかたち」	東日本大震災から3年を迎えるのを機に、復興を祈念して選ばれた、国宝・重文をふくむ約70件を展示。

Ⅱ 中期目標ごとの自己評価

1 教育に関する目標(大項目)

(1) 中項目 1 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の達成状況分析

① 小項目の分析

○小項目 1 「高度な芸術専門教育を支える人間性の基盤を涵養する教育を行う。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 1-1 「【1】芸術大学における教養教育の在り方についての指針を、平成 25 年度までに明示する。」に係る状況

本学各科専攻の専門教育においては、新しい芸術表現・自己表現手法をつくり出していく基盤として、伝統的な芸術表現手法や技術の教授に力を入れてきた。また、近年の急速なグローバル化やテクノロジーの普及による表現方法の変化への対応や、新たな芸術領域としての諸芸術分野融合型の表現といった現代的な要請についても、新しい専門科目群の開講や、異分野の専門科目の履修指導等により対応を行ってきたところである。

こうした高度な専門教育に注力する一方で、それ以外の教育、特に教養教育についての議論は、各科専攻のカリキュラムには組み込まれているものの、これまで厳密には行われてこなかったという実状があった。

そこで全学の協力のもとに、専門教育と有機的に連携した教養教育の充実を図ることを目標に定め、副学長（教育担当）、各学部教務委員会委員長、言語・音声トレーニングセンター長、各学部・演奏芸術センター・芸術情報センター所属教員等からなる「東京芸術大学教養教育検討センター」を設置し、教養教育の質の向上を図るための検討体制を整備するとともに、方策等について議論を行った。

その結果、美術学部・音楽学部の教養教育を洗い出し、本学における「教養教育」の位置づけを明確化するとともに、芸術諸領域において共通して求められる教養教育の在り方について提言を行うため、「芸術大学における教養教育の在り方についての指針」を作成し、本学 WEB サイト等を通じて学内外に公表した（資料 1-1：芸術大学における教養教育の在り方についての指針 参照）。

資料 1-1：芸術大学における教養教育の在り方についての指針

芸術大学における教養教育の在り方についての指針

大学教育における教養教育のあり方について、日本学術会議の「日本の展望—学術からの提言 2010」では以下の様に謳われている。「現代社会が直面しているさまざまな問題や課題の性質と構造を見極め、合理的かつ適切な解決方法を構想し実行していくためには、その基盤となる知識と教養（知性・智恵・実践的能力）の向上を図っていくことが不可欠である。大学は、この知識の深化・蓄積・普及と教養の形成・向上を中核的な役割として担い発展してきた。特に、その教養形成の役割は、「リベラル・アーツ」を核とする教養教育として概念化され、専門教育と並んで大学教育の中核的要素とされてきた。この大学教育・教養教育のミッションを再確認し、その充実を図っていくことが、いま改めて求められている。」

芸術大学においてもその状況に変わりはなく、芸術大学の特性を活かしつつ様々な課題に対応することが強く求められている。その中で「教養教育」の重要性は、かつて無いほど高まっていると言えよう。

しかしながら、「教養」について厳密な定義を定め、その内容を特定することは、グローバル化が謳われながらも、世界が多様化し、多くの価値観が存在する現代において適切であるとは言いがたい。又、日本における芸術大学は、欧米と違い、美術或いは音楽といった単一の専門領域を持つ大学以外に、映像、演劇なども含めた複数の専門領域を持つ芸術大学が多く存在している。

従って、本指針は、芸術大学における教養教育について絶対的なあり方を提示するものではなく、ある特定領域に偏ること無く、芸術諸領域において共通して求められるであろう教養教育のあ

り方について、一つの提言をおこなうものである。

そもそも、芸術の要諦は優れた自己表現によって人間精神を活性化し、心豊かな社会を作るところにある。芸術創造・表現の内容が時とともに変化することはあっても、その根幹にある、人の思考や時代精神の顕れとしての芸術は不易であり、芸術大学はそれを支える根幹的存在として、伝統を継承するとともに、常に新たな道を模索し、社会に大きな貢献を図るものである。加えて、芸術活動の長い歴史を批判的に検証する作業もまた、人類史における芸術と人間社会の関係性を巡る考察を広く社会に促すという重要な役割を担っている。

すなわち、芸術と社会とは不可分であり、芸術領域における専門家の育成機関である芸術大学においても、専門教育と有機的な関連性を保ちつつ、相互に有意義に浸透し合う存在として、歴史感覚、社会感覚、国際感覚をバランス良く涵養し、人間に対する洞察力を高める学科目が必須である。芸術大学における教養教育の意義はまさにそこに存在する。

さて、芸術大学における実際の教養教育科目とはどのようなものが考えられるのであろうか。

ここでは、必要な学習分野として以下のものを提言したい。

1. 歴史を識る

芸術は諸民族・国家固有の歴史や文化の上に成り立つものであり、歴史についての知識を学び、理解を深めることは、同時に芸術の成り立ち・変遷を知ることでもある。

2. 社会を識る

芸術は常に社会と共にある以上、社会の理解と社会への貢献は欠かせない。又、芸術は、諸民族・国家間の交流によっても発展或いは変貌していく。歴史を識ることが縦軸であれば、社会を識ることは横軸である。歴史と同様、社会を理解することは芸術とその存在理由を知ることでもある。

3. コミュニケーション力を身につける

芸術領域における専門家は自らの創作物や演奏について言語化し、発信することが必要である。特に、グローバル化によりボーダレスが進む現代にあつて、世界共通言語である英語、或いはその他の外国語による自己表現能力の育成が強く求められている。キャリア形成の一端を担う教養教育という視点からも、日本語も含めた言語能力の強化は必須である。

4. 自然を識る

自然は常に芸術的インスピレーションの母体であった。自然や自然現象についての知識を深め、その奥底にある原理を探究することは、自然への畏敬の念を高め、芸術的感性を磨くことでもある。

5. 科学的な知識を身につける

科学技術の発達によって、芸術の素材や表現方法、芸術のあり方や伝達方法も常に変化していく。又、現代では必須となったインターネットについての理解を深め、活用することはもはや全ての芸術家にとって不可欠のものと言えよう。

6. 他分野の芸術を識る

専門分野以外の芸術について知ることは、大きなインスピレーションの元であり、感性を高め、専門領域の客観化を可能にすると共に、人間性を涵養する上で必須のものである。

7. 専門基礎科目の活用

なお、上記1～6に加えて、専門基礎科目についても教養教育の一端として活用されることが望ましい。専門基礎科目は、直接的には専門教育の基礎となるものであり、専門教育の糧となることを目的とするが、それぞれの芸術分野において共通する基礎知識でもあり、専門教育と教養教育を有機的に結びつけるものとして大きな機能を果たしているからである。

ここで肝要なことは、どのような教養科目であっても、その科目を学ぶことが直ちに芸術的感性や能力を発達させ、創作活動や演奏活動の向上に結びつくわけではないことを理解することである。

芸術家は、必ずしも社会の要請に応えることを目的として創作活動を行うわけではない。むしろ、個人の芸術的感性による、やむにやまれぬ表現意欲・表現衝動が創作活動を呼び起こすのである。勿論、自分の表現を受け止める存在についての意識は必ずやどこかに存在している。ただ、それが、今この瞬間なのか、或いは100年後なのかは表現者それぞれによって異なるであろう。教養教育とは、そうした長期的なスパンの中での人間性や感性の錬磨を目的とすべきである。

又、高度に専門的な技能の修得及び錬磨に多くの時間を割く必要がある芸術系大学においては、専門領域の学習に費やす時間が一般大学に比べてかなり多いものと思われる。その事を考慮すると、教養教育においては特定分野の学習に多くの時間を割くのでは無く、出来るだけ多くの分野の学習がバランスよく行われるような、柔軟なカリキュラム編成が望まれる。

芸術大学の形態は多様であり、それぞれの大学が異なった理念を持ち、特色ある教育を行っている。又、時間と予算が有限である以上、教養教育のカリキュラム策定に当たっては各大学の個性を活かした創意と工夫、取捨選択が必要となることはいままでもない。

なお、この指針はあくまで現時点でのものであり、社会情勢の変化や、継続的な検討によって深化させていくべきものである。

本学においては、平成 26 年度より教養教育センターを発足させ、この指針を活かし、より良い教養教育の実現のために検討と実践を行っていく予定である。

(http://www.geidai.ac.jp/wp-content/uploads/2014/03/kyoyo_shishin.pdf)

(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) 本学における「教養教育」の位置づけを確認するとともに、芸術諸領域において共通して求められる教養教育の在り方について提言を纏めた「芸術大学における教養教育の在り方についての指針」を作成したこと、及び本学 WEB サイト等を通じて学内外に公表し、本学在学学生、教職員への指針としてはもとより、広く外部関係者に対しても明示することができたことにより、実施状況は良好であると判断できる。

計画 1-2 「【2】教養教育及び芸術専門教育における専門基礎科目の内容、配分、履修方法等について見直しを行い改善する。」に係る状況

望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育、いわゆるキャリア教育の実施について、両学部教務委員会において検討を行い、特に音楽学部では、平成 23 年度より学部 1 年生を対象に初年次教育とキャリア教育を目的とした科目「芸大生入門～大学生活とキャリアを考える～」を開講した(資料 2-1: シラバス 参照)。平成 25 年度については、更なるキャリア教育の充実及び高度化を図るため、3 年生以上を対象とした教養科目「キャリア教育講座」を開講した。

資料 2-1：平成 27 年度「芸大生入門～大学生活とキャリアを考える～」シラバス

東京芸術大学教務システムCampusPlan

ヘルプ

シラバス参照

PRINT

先実施事項 / Disclaimer

言語を選択

Powered by Google 翻訳

講義名	芸大生入門～大学生活とキャリアを考える～		
(副題)			
開講責任部署	音楽学部 対象学生：音楽(学部)		
講義開講時期	前期	講義区分	教養科目(一般教養科目)
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時間	2時間
校地	上野		
授業を行う教員	安良岡 希夫		
時間割に関する注意事項			
授業で使用する言語			
特記事項			

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安良岡 希夫	音楽学部

授業概要

大学での学習に必要な基本的スキルや自覚史。特に今年度は今後のキャリア形成のための講義(本学教員による)を重視する。主なトピックは、藝大史、健康増進、キャリアを考える、等。

○藝大史
藝大の歴史、各科の成り立ち(大学史史料室橋本久美子教員)

○健康増進
演奏・制作・学術活動には心身の健康が不可欠である。健康維持・増進やリスク回避の方法などについて、内科医の立場から解説する。(保健管理センター 内海健教員(精神科医))

○精神衛生
精神的な健康のためのノウハウを解説するとともに、創造性と精神の病との関連について、臨床心理学的な見地から入門的な解説を行う。(保健管理センター 内海健教員(精神科医))

○レポートの書き方、発表の仕方
ノート・レポート作成上の注意、引用マナー、プレゼンテーションの方法等(音楽教育 佐野雄教員)

○音楽を専門とする学生、職業人に必要な法
律知識～著作権・著作隣接権を中心に～
著作権、著作隣接権を中心とした法知識(弁護士 桑野雄一郎氏)

○キャリアを考える(1)
教員の講演(音楽科 大塚直哉教員)

○キャリアを考える(2)
教員の講演(言語芸術 大森音輔教員、音楽系理教員)

○キャリアを考える(3)
教員の講演(音楽環境創造科 毛利高孝教員)

○キャリアを考える(4)
教員の講演(ピアノ科 伊藤恵教員)

○キャリアを考える(5)
教員の講演(音楽科 吉田勇教員)

授業計画・内容

また、「計画1-1【1】(P.7)」に記載したとおり、全学における教養教育の一層の充実を図るとともに、全学の協力のもとに専門教育と有機的に連携した教養教育を円滑に運営・実施するため平成26年12月に教養教育センターを設置し、検討推進体制を整備した。

さらに、本学の機能強化戦略であるグローバル展開に併せ、海外の学事暦に合わせたセメスター制（教養科目、外国語科目や専門基礎科目など全科目）の導入のほか、これらに対応する教務システムの機能等について、検討を行い、平成27年度より導入を開始した（中項目3計画1-1【16】(P.52)参照）。加えて、本学で実施されている授業科目について、学修分野やレベル等に応じて特定のコースナンバーを付与することで、順次性のある、より体系的なカリキュラムへと改善するため、科目ナンバリング制度の作成にも着手した。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）教養教育センターによる推進体制を構築し、キャリア支援に特化した新たな授業科目の開講や、多様な修学スタイルを可能とするセメスター制度の導入、学生の体系的な履修の手助けとなる科目ナンバリング制度の着手等、教養教育及び芸術専門教育における専門基礎科目の内容、配分、履修方法等について改善が進んでいるため、実施状況は良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

音楽学部 観点「教育内容・方法」(P.3-11)

○小項目2「各芸術領域の伝統的な教育手法や、社会的要請を踏まえた授業を行い、高い芸術性を身に付けさせる芸術専門教育を行う。」の分析

関連する中期計画の分析

計画2-1「【3】美術学部においては、領域、学科等を越えた横断的な芸術教育の可能性を検討し、専門教育の充実を図る。」に係る状況

美術分野においては、伝統的な手法に根ざした専門技術の修得が必須である一方、新しい時代の芸術の形として、複合領域に及ぶ芸術表現が近年特に求められている。そうした状況にあって、各学科・各専攻においては、専門領域の教育を堅持しつつ、領域・分野を超えた連携授業の在り方を検討し、それを実践している。

例えば、絵画科日本画専攻では、絵画科油画専攻、工芸科、芸術学科等を対象に、「日本画実習・講義」を行っている。扇面制作や鳥獣戯画模写、風景写生などを通して日本画の材料技法を実習することで、各分野の古典作品、現代作品に対する考察や見識を深めるものとなっている。

また、上野キャンパスでは制作出来ない大型の作品制作、特殊な機械加工を必要とする制作、精密かつ高度な専門性と技術を必要とする研究制作等に対応する設備を備えた工房群である「取手校地共通工房」は、美術学部全科の学生と教員が利用するための施設であることから、専門外の知識を持たない他学科の学生のために、全科を対象とした基礎的な演習を開講している。平成27年度は、「金属造形技法」「素材表現技法」「鋳造技法」「木材造形技法」「漆芸技法」演習をそれぞれ実施し、自己表現手法の幅を広げることに寄与している。

さらに、次代を担いグローバルに活躍する人材育成には、現代アートの社会実践（ソーシャル・プラクティス）が必須であるとの認識のもと、単に領域や学科等を超えた連携のみならず、実社会とのコミュニケーションを通じた実践的な芸術教育を図っており、その代表的な取組としては、「GTS観光アートプロジェクト」と「グローバルアート国際共同カリキュラム」が挙げられる（具体的な取組内容については計画3-2【6】(P.14)を参照）。

加えて、平成26年度文化庁委託事業「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」においては、「現代アートの社会実践」と銘打たれた連続講演、ワークショップを実施した（資料3-1：講義等一覧参照）。7名の世界トップクラスのアー

ティストとアート専門家が長年にわたり行ってきた、現代アートにおける社会実践の実体験に基づく考察が紹介され、学生等は自身の課題に向き合う好機会となった。

資料３－１：平成 26 年度「現代アートの社会実践」講義等一覧

No.	実施日	講義等名称	講師	講師所属等
1	H26. 9. 6	講義「ジェネレーション 00：市民としてのアーティスト」	アブデラ・カラム	マトハフ：アラブ近代美術館館長
2	H26. 9. 6	講義「多元的な観客参加のための美術館」	ウォン・シュンキット	上海ビマラヤ美術館館長
3	H26. 9. 7	講義「困難」	アルフレッド・ジャー	アーティスト，建築家
4	H24. 9. 8～12	ワークショップ「パブリックな介入」	アルフレッド・ジャー	アーティスト，建築家
5	H26. 10. 2	講義「逆転」	西野達	アーティスト
6	H26. 10. 11	講義「グローバル時代のアート，キュレーション：日本という立場から」	長谷川祐子	東京都現代美術館チーフキュレーター
7	H26. 10. 25	講義「光州ビエンナーレの 20 年」	イ・ヨンウ	国際ビエンナーレ協会会長
8	H26. 12. 2	講義「午後のお茶を一緒に」	リー・ミンウェイ	アーティスト

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）領域，学科等を超えた横断的な芸術教育のみならず，時代に要請される社会とのコミュニケーションを通じた現代美術の実践による人材育成も積極的に進められているため，実施状況は良好であると判断できる。

計画 2－2 「【４】音楽学部においては，カリキュラム等の見直しを平成 25 年度までに行い，専門教育の充実を図る。」に係る状況

平成 20 年度において，専門科目と教養・外国語教育とのバランスの検討を行い，単位の実質化を推進するため各科のカリキュラム改定を行ったところであるが，平成 22 年度においては音楽環境創造科のカリキュラムについても同様の観点に基づき改定を実施した（資料 4－1：カリキュラム変更 参照）。

資料 4－1：平成 22 年度 音楽環境創造科カリキュラム変更

【変更前】

履修 区分	授業科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修 科目	プロジェクト	12	12	12				36	64	124		
	卒業制作	12						12				
	専門講義	16						16				
選択 科目	演習	12						12	52			
	特殊講義	12						12				
	外国語科目	8						8				
	教養科目	16						16				
	副科実技	2～4						4				
	先端芸術表現科科目	2～4										
	自由科目	8						8	8			



【変更後】

履修 区分	授業科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		修得単位数		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
専門 科目	必修 科目	スタディ・スキル	4							4	52	124
		プロジェクト			8		8			16		
		卒業制作・研究							8	8		
		音楽文化史		4						4		
		音楽基礎演習		4						4		
		音楽環境創造概説		16						16		
	選択 科目	特殊講義・演習			40					40	48	
		副科実技			2～6							
		美術学部開設科目										
		芸術情報センター開設科目			2～6					8		
共通 科目	教養 科目	一般教養科目			12～16					24	24	
	専門基礎科目	専門基礎科目										
		外国語科目			8～12							

また、音楽学部における専門教育の充実を図るための方策については、教務委員会のもとにWGを設置し、平成22年度においては、オーケストラ授業の開設時間帯の変更について検討を行った。オーケストラ授業は、毎週の授業時間での授業と本番及び本番に向けての特別練習から構成している。従来、本番直前は、授業時間に代えて特別練習を行うこともあり、他の授業の履修に影響を及ぼすことがあった。本番直前の特別練習も、授業時間内に行うことができるよう、ホールの使用状況や他の授業科目の配置状況を確認し、平成24年度からオーケストラ授業の開設時間を変更し、専門教育の一層の充実を図れるようにする方針を決定した。

また、平成23年度においては、音楽学部全実技学科の必修科目となっている「ソルフェージュ」について、全科の代表教員で構成するソルフェージュ運営委員会においてソルフェージュ教育の在り方を検討し、授業内容、履修方法及び能力や専攻科に応じたクラス編成を見直し、後期授業から試行的に導入した。また、これらの見直しに伴い、平成25年度学部入学試験からソルフェージュ試験の出題内容や出題方法を変更する方針を決定した。

さらに、平成26年度以降においては、本学の大学改革・機能強化と連動した戦略的人材育成の取組として、類まれな才能を持った演奏家人材の発掘及び育成を目的に、高校2年からの「飛び入学」を起点として展開する「スペシャルソリストプログラム(SSP: Special Soloist Program)」制度を構築し、平成28年度以降適用する予定としている(3 国際化に関する目標 中項目2 計画2-3【34】(P.125) 参照)。

(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) 音楽環境創造科カリキュラムの改定や、オーケストラやソルフェージュといった音楽の根幹となる専門教育の充実を図ったほか、戦略的な人材育成のため「飛び入学」を起点として展開する「スペシャルソリストプログラム(SSP: Special Soloist Program)」制度構築を行ったため、実施状況は良好といえる。

○小項目3「学士課程で身に付けた高い専門性を発展させ、各自の独自性や創造性を向上させる教育研究指導を行う。」の分析

関連する中期計画の分析

計画3-1「【5】実技をともなう芸術分野の博士課程における学位授与の審査方法・プロセスの在り方を、平成24年度までに明確にする。」に係る状況

本学の博士後期課程では、研究領域により、「研究作品又は研究演奏を加える」(東京藝術大学大学院学則第5条及び第19条)ことを義務付けてきたが、芸術表現と論文執筆に代表される学術研究の有機的な結び付けについて、明確な指針が明文化されていなかった。一方、近年欧米では「芸術実践に基づく研究」(practice-based research)という領域が生まれ、国際的な議論が交わされながら、新しいタイプの博士プログラムが世界各地で整備されつつあった。

そこで本学においても、平成20年度から平成24年度までの5年間、芸術系博士課程の在り方に関する研究の不足や芸術評価の方法等の明確化を図り、国内における芸術実践系博士プログラム・モデルを構築するため、文部科学省特別経費の助成のもと、本学に「芸術系大学院における学位授与プロセスの研究」(「芸術リサーチセンター」)を立ち上げた。同センターにおいて、国内外における芸術系博士課程の学位審査及び授与システムに関する調査、指導体制及び評価体制の研究を行い、特に芸術の実践と研究論文の作品の結びつきに関する調査を重点研究項目と位置づけ、研究成果の発信を実施した。また同時に、論文執筆に関する技術的な解決等、研究により得られた成果については、在籍する実技系博士課程学生へ随時還元できるサポート体制を構築した。

これらの研究の成果として、また、シンポジウム「芸術実践と研究～実技系博士学位授与プログラムの研究成果発表会(平成24年11月3日開催)」での芸術系大

学関係者の意見や国内外の専門家レビューを踏まえつつ「芸術実践領域（実技系）博士プログラム」を取りまとめた。同プログラムは、主に近年欧米で広まりつつある「芸術実践に基づく研究」の議論を踏まえ、本学がこれまで理念として掲げ、試行錯誤を繰り返しながら実践してきた博士プログラムの伝統を改めて理論化・体系化すると同時に、情報技術の発展や今日的なニーズを考慮し、我が国における芸術系大学の博士プログラムのアップグレードを図ることを目的としている。

以上の取組実績は「芸術リサーチセンター報告書」として纏められ、インターネットを通して公開されており、本学の博士課程在籍者はもとより、学外関係者についても参照が可能となっている（資料５－１：報告書掲載例 参照）。

加えて、論文執筆における技術的な課題や解決方法を記載した「芸術実践領域（実技系）学位論文作成マニュアル」を参照可能な一冊にまとめ、希望する学生へ頒布している。

資料５－１：東京芸術大学芸術リサーチセンター報告書 掲載例
(http://www.geidai.ac.jp/rc/research/pdf/final_report.pdf)



資料５－２：東京芸術大学大学院博士後期課程学位授与状況

博士後期課程	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
美術専攻	36	25	27	29	29	24
文化財保存学専攻	13	8	5	7	6	6
音楽専攻	16	18	14	16	16	18
映像メディア学専攻	2	2	2	2	1	1
合計	67	53	48	54	52	49

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）本学がこれまで構築してきた博士課程の伝統を「芸術実践領域（実技系）博士プログラム」として理論化・体系化し、情報技術の発展や今日的なニーズを考慮して内容のアップグレードを行うことで、実技をともなう芸術分野の博士課程における学位授与の審査方法・プロセスの在り方を明確にしたため、実施状況は良好であると判断できる。

計画３－２「【６】【★】地域社会や産業界、海外関係機関等との連携協力により、実践的な教育研究の場をつくり、複合芸術教育を行う。」に係る状況

大学院教育においては、学士課程で身に付けた高い専門性を発展させ、現代の芸術シーンとリンクしながら、国際コミュニケーション、社会との関係性、表現の多様性、地域活性化への貢献などをテーマとして設定し、大学の枠組みを越えたプロジェクト型の教育研究活動を積極的に展開している（資料６－１：複合芸術教育例参照）。

資料６－１：連携協力により行われた複合芸術教育例

No.	事業名（連携先）	実施内容
1	取手アートプロジェクト（取手市民、取手市）	取手アートプロジェクト（取手市民、取手市と連携）…若いアーティストたちの創作発表活動支援、広く市民に芸術を身近に触れる機会の提供を主目的としたプロジェクトを平成11年から毎年実施し、美術学部先端芸術表現科、音楽学部音楽環境創造科が参加。
2	取手ストリートアートステージ（取手市）	「タウン・ミュージアム構想」の一環として取手駅東口の歩道沿いに設置してある屋外ギャラリーに彫刻作品を展示。取手市における文化環境整備等に協力。
3	G T S 観光アートプロジェクト（台東区、墨田区と連携）	美術研究科大学院学生を中心に社会と連携した実践的芸術教育プロジェクトを平成22年～平成24年度実施。
4	みなかみ町芸術のまちづくりへの提案（群馬県みなかみ町）	芸術作品を活用した芸術文化の薫るまちづくりについて調査研究を行い、また、作品の管理、運搬方法を指導し、町民が作品に触れることができる展示方法についての助言を平成18年度から継続的に実施。
5	芸大デザインプロジェクト（花王（株））	美術研究科デザイン専攻1年生のカリキュラム。より実践的な研究プログラムとして、「新しいライフスタイル」をテーマとした商品等のデザイン提案。
6	台東区地場産業の芸術による活性化の研究（東京都台東区）	台東区観光みやげ品協会に属する店舗のプロモーション企画を提案。
7	幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究（荒川区教育委員会）	幼児期における芸術教育の意義と可能性をさぐるための荒川区教育委員会から委託された研究として、幼稚園における美術教育実践プログラムに美術研究科美術教育学生を派遣。
8	音楽学部アトリエゾンセンターを核とした「足立区における多層的な文化芸術環境の創造に関する調査研究」（足立区）	足立区の幼稚園、保育園、小学生、中学生の教育現場を対象とした音楽教育支援活動、同区の福祉と子育ての支援を目的とした福祉と子育て支援事業、区民が芸術に親しむ環境整備を目的とした芸術によるまちづくり事業を実施。毎年、足立区立の小中学校及び子供園を対象とした「音楽普及支援活動」では、延べ9,000人を超える生徒等が参加。
9	演奏依頼（自治体、企業等）	実践的な演奏の場を確保するため、東京トヨペットなどの企業等の演奏依頼により演奏会を実施。毎年、延べ100件程度の演奏依頼を受け付けている。
10	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業（横浜市）	横浜市民を対象とした公開講座「馬車道エッジズ」、各専攻公開イベント研究成果発表・市民公開制作展、こども・青少年向け事業、市庁舎における地域貢献事業広報ブース制作・展示、地域開放演奏会「馬車道コンサート」「関内コンサート」を実施。

代表的な取組の一つである「GTS 観光アートプロジェクト」は、平成 22 年度から 24 年度の 3 年間、文部科学省特別経費事業の支援により、地域連携事業及び大学院複合芸術研究事業として、台東区・墨田区との共催で実施された。「アート環境プロジェクト」「隅田川 Art Bridge」の 2 つの事業を軸に、2012 年に開業した新名所の東京スカイツリーから浅草を結ぶ地域において、本学の各分野における創作研究のノウハウを結集した複合的な芸術分野のプロジェクトを実施することで、街全体をミュージアム化し、新しい形のコミュニケーションを創出すると共に地域に貢献する芸術環境拠点の形成と新しい芸術の発信地となる地域創成を目指した（資料 6－2：GTS 観光アートプロジェクト 参照）。

資料 6－2：GTS 観光アートプロジェクト

①アート環境プロジェクト

ビューポイントアート環境作品設置計画	ビューポイントアート環境作品を年間 4 基、3 年間で計 12 作品を設置（台東・墨田 両区に各 6 点設置）
アートベンチ、アートサイン計画	観光アートラインに沿って平成 22 年度は 4 点、平成 23、24 年度は各 2 点、3 年間で計 8 作品を両区に設置
マケット・プランニング展	制作過程におけるマケットやプランを展示し、会場でプレゼンテーションを実施

②－1 隅田川 Art Bridge

屋外作品の展示	ササクスエリア⇄浅草エリア⇄隅田公園エリア⇄北十間川エリア東京スカイツリー周辺に作品を展示し、芸術作品と名所を巡るアートラインを作成
屋内作品の展示	地域の歴史・環境をテーマにした作品を、隅田公園リバーサイドギャラリー、浅草文化観光センター、シタマチ Base（東武線高架下倉庫）などに展示
映像祭	アサヒ・アートスクエア、浅草文化観光センターを会場とする映像インスタレーション作品の展示・上映と、隅田公園・牛嶋神社に会場を設定した、日没から始まる映像作品展示・野外上映会を実施
コミュニケーション関連チーム	複数のプロジェクトがリンクし、ひとつのアートフェスティバルとして相乗効果をもたらすよう、各会場を結ぶネットワーク作りを行う。両区に設置されるインフォメーションセンターを基点として、回遊コースの設定や冊子制作、WEB、キャラクター、サインなど、多方向からコミュニケーションの可能性を探る。
イノベーションプロジェクト	地域に散在する観光資源に着目し、新しい視点からの提案を行う。
ワークショップ・絵画展	東京スカイツリーをテーマとしたワークショップと絵画展を開催
音楽コンサート	台東区、墨田区で計 5 回、音楽コンサートを実施
GTS シンポジウム	観光をテーマとしたシンポジウムを開催
GTS Art Talk Café	GTS における様々な活動を紹介するとともに、そこから広がる問題について、参加教員と学生、ゲストを交えながら意見交換を行う。

②－2 隅田川 Art Bridge における実施プロジェクト例

No.	事業名	期間	場所	内容
平成 22 年度				

1	隅田川新名所物語 2010	H22.10.20～ 11.6	東本願寺慈光殿 2 階	隅田川を挟んだ台東区、墨田区は歴史の逸話に溢れ、様々な絵画や文学の舞台にもなった地域である。このプロジェクトは、藝大学生が両区を歩いて徹底調査し、観光地として既に著名なこの地域の隠された魅力と事実を発見、作品を通して同地域の観光活性化の一翼を担おうとする試みである。学生にとっては、普段の個人制作にとどまらぬ共同研究の成果、専門性を越えた共同作業体験、歴史認識の深化などが期待され、同時に、展覧会を通して、この地域の魅力を伝える新たな観光活性化をめざす。
2	ササクサス	H22.10.23～ 11.14	雷門 1 丁目、2 丁目地区各所の店先、路上、公園、学校	『ササクサス』とは東京芸術大学先端芸術表現専攻日比野克彦研究室が中心となって企画、運営を行う 3 年間の長期継続的活動である。この名は 1960 年代に NY を中心に起こった反芸術運動「フルクサス」に起因し、「ASAKUSA」の地名を「S」ではさんで『SASAKUSAS』と名付けられた。「S」の形には浅草を回遊する、巡る、というイメージが込められている。雷門 1 丁目、2 丁目地区を舞台に、地元住民との交流、雷門地区の地域性をベースとした様々な活動をおこなう。その活動は「モノ」づくりとしての作品というより、「コト」づくりとして、街の中に新たなコミュニケーションの場をつくるための試みである。
3	GTS × TWS 連携企画 Tokyo void	H22.11.2～ 11.14	隅田公園リバーサイドギャラリー	本企画は、GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト、トーキョーワンダーサイト、ロンドン芸術大学が連携し、ジャンルや国籍の異なるクリエイターと協働して課題に取り組み、新しい創造の地平を開くことを目的としている。今、文化、経済、環境などあらゆる分野で総合的、長期的な視野のもと新しい価値を見出すことが急務となっている。江戸時代の中心地であり、2012 年の東京スカイツリー完成に向けて熱い注目を集めている隅田川両岸地域の台東区、墨田区のリサーチを通して、地球と人にとっての豊かさを考える。Part 1（2010 年 8 月 4 日～26 日）で、ワークショップとしてレクチャーやグループワークを行い、Part 2 は「隅田川 Art Bridge 2010」展において制作発表（「Tokyo void」展）、そしてトーキョーワンダーサイト本郷におけるドキュメント展を行う。
4	川辺の虹色から光へ	H22.10.20～ 11.14	言問橋－吾妻橋の川岸	近世まで隅田川を渡る風は交易を可能とするエネルギーの源となり、四季の色を映す衣食住の生活文化を育み、時には大火をもたらす、まさに江戸の川辺には「風の景」があった。竹の先の吹き流しは、立ち並ぶ仮設の見せ物小屋、水茶屋、屋台へと人々を誘う。風の記憶は郷愁を越え、今も街に活力をもたらすだろう。隅田川の川面を行き交う風を布面が受け止め、時には激しく、時には優しく乱舞される。人々はその空気の涼感を求め引き寄せられる。ひかりきらめく川面に呼応して、布面は虹色にかがやく。隅田川の風からインスピレーションされた光のイルミネーションが夜の川面を彩る。

5	Memorial Rebirth Sumida river	H22.11.6	墨田区役所うるおい広場	壮大な数のシャボン玉により風景を一変させるアートパフォーマンス。見慣れた日常風景を幻想的な空間へと生まれ変わらせることで、その瞬間、その場所に関する記憶を刻み込み、そこに集う人々、パフォーマンスが展開されてきた各地の人々の思いをつなぎ再生させてゆく作品。
6	アジアの影・陰・ネガ -伝統と現代-	H22.10.20～30	すみだリバーサイドギャラリー	アジアの伝統的な切り絵の技法などを中心として、陰と陽、表と裏、外と内などの関係性の中で表現されその境界にまつわる物語をテーマとした現代美術の作品展を開催。
7	マイタワークラブ	H22.9.下旬～10.19	東武鉄道高架下倉庫	北十間川に沿って位置する鉄道の高架下は、台東区、墨田区に繋がる重要なルートに面している。そこで地域の人たちと改めて「まち」を考えるために、ワークインプログレスとしてのクラブ（工房・活動拠点・地域との交流の場の創造）を行いながら「マイタワー」をつくる。場所の制作過程それ自体が情報発信であり、パフォーマンス・作品である。ワークインプログレスとしてクラブ（工房）を東武鉄道高架下のスペースにつくる。
8	こよみのよぶね	H22.10.20～11.14	東武鉄道高架下倉庫	岐阜市の長良川で 2006 年から行われている「こよみのよぶね」は日比野克彦が企画・監修し市民とともに制作してきている。川を通じて遠くの地域と繋がることにより、川のある地域の交流の可能性を追求する。また地域の人と学生が制作することにより今後の活動の人間関係を形成させていく。巨大数字行燈は竹を骨組みにし、和紙を表面に貼り、中に電球を入れる。それを船に取り付け、川面にあかりが映り込むように停泊させる。
9	「記憶の森」夜の上映会	H22.10.23ほか	大横川親水公園など	日本を代表するアニメーション作家による作品から、若手作家の現代映像表現、墨田区で撮影された 8 ミリフィルムなど、海外からの作品も交えた映像展。会場となる牛嶋神社では、墨田区内で撮影された 8 ミリフィルムの上映や新進気鋭の作家による映像インスタレーションを行います。世界の先端を行くアニメーション作家による作品は大横川親水公園で屋外上映。すみだリバーサイドミニシアターでは海外の作家によるアニメーション作品などを上映。
10	東京スカイツリー®を描く絵画展	H22.10.6～10.11	東京芸術大学陳列館	GTS 市民参加ワークショップを広く市民に公募。小中学生にはワークショップによって東京スカイツリー®建設の歴史的環境に立ち会い、景観スポットを探しながら東京スカイツリーを描く事で、この風景を人々の記憶に深く留めようというコンセプトである。東京スカイツリーを背景にした風景を描いた絵画を展示し、観客に様々なスポットからの絵画を楽しんで頂く。
11	GTS 国際音楽コンサート	H22.10.19ほか	東本願寺、墨田区役所 1 階アトリウム	東京芸術大学音楽学部教員、在学学生、留学生による国際的な音楽コンサート。区民の皆さんに広く東京芸術大学の演奏を楽しんで頂く。台東区東本願寺における 2 回の演奏会、墨田区役所 1 階アトリウムにおける 2 回の演奏会を開催する。

平成 23 年度				
12	隅田川新名所物語 2011	H23.11.7～ 11.13	隅田公園リバー サイドギャラリー	隅田川を挟んだ台東区・墨田区は歴史の逸話に溢れ、様々な絵画や文学の舞台にもなった地域である。時代を超え、現代に生きる芸大生が隅田川界隈の歴史を調べ、自分の足で歩いて、新たなこの地域の「名所」を見つける。東京スカイツリー®や浅草地区など既に観光名所として有名なこの地域の隠された魅力を発見しながら作品を創り、作品に触れた人々がまた新たな視点を持って町歩きを楽しめることを目指す。40名超の芸大生が絵画、立体、インスタレーション、映像など多様なメディアによる作品で展覧会を作り、また、展覧会で配布する小型のカタログは観光のガイドブックとしても持ち歩けるような工夫が凝らされている。
13	MIST	H23.10.10～ 10.23	墨田区役所前 うるおい広場、 墨田区 枕橋・源 森橋 ほか	MIST とは霧、非日常の風景を立ち上げ、晴れの日を予兆する自然のマジカルな力である。見えない水蒸気が小さな水滴となって集まり風景が浮かびあがるように、墨田区の子供達や住民の方々と作品づくりをすすめる、空、風、土、光に着目する作品群は、東京スカイツリー®のお膝元に設置され、自然の動きと対話する明るい風景をつくりだす。会期末には、MIST フェスティバルと前日祭を開催、にぎやかに展開される。
14	記憶の森 映像展	H23.11.3 ほか	墨田区 牛嶋神社、隅田公園	『記憶』をテーマに、東京スカイツリー®をのぞむ牛嶋神社と隅田公園一帯を舞台として映像インスタレーション、アニメーションや 8 ミリフィルムの上映会、ワークショップなどを行う野外映像展。映像の力によって、人々の間に過去の記憶から未来を考えるコミュニケーションを誘発し、地域におけるあらたな人と人のつながりを創り出すことを目指す。
15	下町で発生した見世物、エスプリ展	H23.10.23～ 10.29	すみだリバー サイドホールガ ラリー、会議室	美術の発生においては様々なプロセスがある。かつて幕末から明治にかけての浅草下町界隈では「見世物」といった今でいうところの大道芸や芸能、芝居、奇術、美術館、動物園、おばけ屋敷などの要素を含んだ庶民の好奇心を刺激するものを生み出していて、きっと「街」そのものが想像、創造のつぼであったと思われる。それら大衆娯楽の流行した様子は浮世絵や絵画にも題材となっており多く描かれていた。このような下町で生まれた文化の背景や地域性、風土、気質などは、今現在の美術の状況にもつよく刺激を与えると考える。 この企画展では、日常の生活や下町の一つの場所や出来事に触れ、その中に内包されるユーモアや、意外な視点の迷宮、手作り、遊び、対話、エスプリなどから派生した作品を一同に介し、一つの「見世物」としてエンターテインメント性を帯びた創造のプロセスをみせる展示を試みる。
16	イノベーションプロジェクト	H23.10.13～ 10.18	東京芸術大学大 学会館 2F 展示 スペース	台東区、墨田区のいわゆる伝統和菓子は、幾何学的な美しさを持つものが多い。江戸の「粋の美学」に支えられたカタチは、見方を変えれば決して古くなく、シンプルで愛らしくくむしる現代的である。伝統という枠からそれらの和菓子を一度解放し、洋菓子さながらの自由な小舞台（器、台、皿）を与えることがこのプロジェクトのコンセプトである。今回は白磁とガラスというモノクロームの素材と伝

				統和菓子のコラボレーション作品, 20~30 点を展示, 新たな和菓子のしつらえを提案する。
17	油 絵 茶 屋 再 現 : アートサ イトクルージ ング	H23.10.15~ 11.15	浅草寺境内	日本で初めて行われた油絵の展覧会会場は、浅草寺の境内に現れた見世物小屋だったことはあまり知られていない。 その当時の浅草は、日本で最も活気に満ちた新しい文化を発祥する活気ある場であったという。残念ながら当時の絵は残ってはいないが、わずかに残る資料をもとに徹底検証し、小屋もろとも再現した。
18	GTS 国際音 楽コンサート	H23.10.10 ほか	墨田区 すみだ リバーサイドホ ール アトリウ ムほか	東京藝術大学音楽学部教員、在学生、留学生による国際的な音楽コンサート。区民の皆さんに広く東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く。計 6 回開催。
平成 24 年度				
19	隅田川新名所 物語 2012	H24.10.27~ 11.7	隅田公園リバー サイドギャラリ ー	藝大の学生、卒業生、留学生、教員、助手たちが、科や専門性を越えひとつの「名所図」展を作り上げる。 隅田川をはさんだ台東区、墨田区は、歴史の逸話にあふれる街。様々な絵画や文学の舞台にもなった。このプロジェクトでは、そんな隅田川界隈を学生や作家が歩き、埋もれた歴史を掘り起こし、新たな視点で隠された「名所」を見い出し、そのリサーチをもとに作品を制作する。最終的には、『新名所物語展』(場所: 隅田公園リバーサイドギャラリー)での展示を開催。同時に、同展のカタログと観光ガイドマップの役割を兼ねた『名所図絵本』を作成する。2012 年の「隅田川新名所物語」は、新たに「場の物語」「人の物語」「時の物語」の 3 テーマによって作品を展開する。
20	GTS AWARD	H24.10.11~ 11.11	シタマチ Base ほか	台東区、墨田区の隅田川両岸エリアに設定された各会場に、東京藝術大学学生、教員、ゲスト・アーティストなど総勢約 40 名の作品展示、パフォーマンスなどを展開。プロジェクトの拠点となる「シタマチ Base (東武線高架下倉庫)」では、旧高架下倉庫を建築科の学生が中心となって一部改装し、展示やワークショップの会場として、まちに開いていくことを目指す。また台東区 浅草神社、ササクスエリア (雷門一丁目・二丁目界隈) では、五十嵐靖晃による「そらあみ」や、一昨年度より実施されている「ササクス」における、日常の視点を少し変えてみせる試みなど、まちのなかで様々な活動を行う。 AWARD の名のとおり、展示・発表された全ての作品のなかから優秀な作品を選考し、各賞が贈られる。
21	「東京スカイ ツリー®を描 く」ワークシ ョップ/絵画 展	H24.10.30~ 11.4	東京藝術大学大 学美術館陳列館 2 階	「東京スカイツリーを描く絵画展」は、台東区と墨田区の在住・在勤・在学の方々を対象とした区民参加型プロジェクト。7 月 22 日 (日) に実施するワークショップでは、両区から約 80 名の小・中学生が参加し「東京スカイツリーを描く、東京スカイツリースポットを探せ!」をテーマに、隅田公園で写生大会を行う。 また、8 月には子供からお年寄りまで参加できる一般作品公募を実施し、両区民の幅広い年齢層の方々から作品応募を募る。本展では、これらの東京スカイツリーのある風景作品 123 点と、2010 年度、2011 年度の受賞作品をあわせて、東京藝術大学大学美術館陳列館

				に展示する。
22	イノベーションプロジェクト	H24.10.30～11.4	浅草文化観光センター7F	ぼち袋に駄賃を渡す時期や相手によって粹な絵をあしらうような、墨田区、台東区に今なお息づく粋な江戸東京の四季の楽しみや遊びごとを東京藝術大学美術学部若きクリエイターが現代のエッセンスを養分に再編・再構築にチャレンジする。
23	記憶の森 映像祭	H24.10.17～10.21	牛嶋神社ほか	4 会場を中心とした隅田川周辺の地域一帯を壮大な”記憶の森”と見立て、様々な作品の展示やパフォーマンスを展開。地域における記憶の掘り起こしと共有、人々の出会いの場の創出を目指す。
24	GTS 音楽コンサート	H24.10.21 ほか	東本願寺本堂ほか	東京藝術大学音楽学部教員、在学生による音楽コンサート。区民の皆さんに東京藝術大学の演奏を楽しんで頂く音楽会。平成 23 年度は、中央音楽院との音楽交流会や、親子で楽しめるファミリーコンサートを企画するなど、より広い層の皆さんが楽しめるように多彩で充実したプログラムを企画する。
25	GTS Art Talk Café	H24. 9.14 ほか	東京藝術大学ほか	GTS Art Talk Café は、主に在学中の大学院生、学部生に向けてプロジェクトの周知を計るとともに、ゲストの方々と交え、芸術や大学と社会との接点について、様々な視点からの意見交換を行う全 3 回（予定）の講演会企画である。
26	GTS シンポジウム 2012	H24.10.31	東京藝術大学	近年、アートによって地域の活性化に貢献することを目的とした様々なプロジェクトが開催されている。こうした企画のなかには、風土や習俗を含めた固有の地域文化と関わり合いながら、地域とアートを融合し、そこから生まれる文化的環境の可能性を模索したり、地域の観光と結びつけている例も見られる。本企画は、平成 24 年度が最終年度となる GTS 観光アートプロジェクトにおいて、2010 年から 2012 年度の 3 年間におこなった実施内容を振り返り、その成果や問題点などを踏まえてアートと社会の関係性による観光という視点から、隅田川両岸地域におけるアートプロジェクトの可能性を探るシンポジウムである。



(参考 <http://gts-sap.jp/index.php>)

さらに本学では、平成 26 年度以降、大学改革・機能強化の機軸として「グローバル展開戦略」を掲げ、実践的な教育研究の場を、海外関係機関等との連携により世界規模のものへと拡大している。

平成 27 年 2 月 23 日、美術分野においてロンドン芸術大学・パリ国立高等美術学校・シカゴ美術館附属美術大学と、「国際共同カリキュラム（ジョイント・ディグリー）」構築に向けた連携協定を締結した（資料 6－3：連携協定調印 参照）。

資料 6－3：4 芸術大学連合による国際共同カリキュラム構築に向けた連携協定の調印



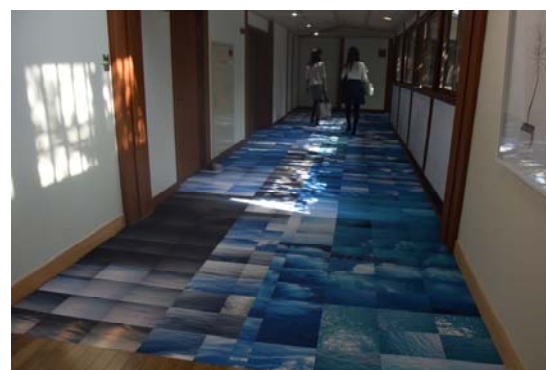
（参考 <http://www.geidai.ac.jp/news/2015030627694.html>）

本協定を受け、平成 27 年度双方で単位化する共同制作プロジェクトとして、各大学から教員・アシスタントスタッフ・学生からなるユニットを誘致するとともに、本学においても同様のチームを構成し、東京とパリ／ロンドン／シカゴを行き来しながら共同授業・制作・成果発表を行う「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実行した。

パリ国立高等美術学校とは、フランスの同校キャンパスにおける共同授業・共同制作・展示、日本の本学キャンパスにおける共同授業・共同制作を経て、新潟県で開催された国際芸術祭である越後妻有トリエンナーレで成果発表を実施した。日仏の学生は、「私と自然」をテーマに事前にリサーチワークを行い、お互いに英語を共通言語としてテーマを深く掘り下げる様々な議論を重ね、二人一組がペアとなって衣装・音楽・振付を創作し、ショートストーリーを構成したパフォーマンスを完成させた。なお、音楽に関しては東京芸術大学音楽学部の学生と協働し、各ペアのコンセプトに基づき、事前に自然界から取材した音がアレンジされ、自然と一体となった会場をより一層完成度の高い独創的で幻想的な世界観に導いた。パフォーマンスには芸術祭プログラムの林間学校に参加した、東北及び日本各地から集まったこども約 30 名と香港の中高校生 20 名も出演し、こどもたちは林間学校で本学の教員とワークショップを行い、その成果として歌と竹の演奏を舞台の上で披露するなど、多様な参加者を巻き込んだ社会実践を複合的教育プログラムとして機能させた。ロンドン芸術大学、シカゴ美術館附属美術大学との取組についても、両校における共同授業として、特別講義、ワークショップ等を各国にて実施、香川県高松市特別名勝栗林公園や被爆近代建築である広島市元日本銀行広島支店などにおいて成果発表を行った（資料 6－4：グローバルアート国際共同カリキュラム 参照）。

資料 6－4：平成 27 年度 グローバルアート国際共同カリキュラム

No.	プロジェクトテーマ	連携大学	実施期間	本学 教員数	連携先 教員数	本学 学生数	連携先 学生数
1	「私と自然」	パリ国立高等美術 学校	H27. 5. 11～ 8. 8	9	4	16	10
2	「庭／ガーデン」	ロンドン芸術大学	H27. 5. 19～ 10. 27	12	6	7	5
3	「意識文化： フィールド実践」	シカゴ美術館附属 美術大学	H27. 5. 1～ H28. 1. 20	3	4	4	4



音楽分野では平成 27 年 5 月 13 日、英国王立音楽院と教員や学生の交流等についての協定を新たに結び、平成 27 年度においては邦楽科の教員・学生によるユニットを同院に派遣し邦楽演奏会を開催するなど、実践的な教育と同時に日本の芸術文化を世界に発信する取り組みを行った（資料 6－5：英国王立音楽院との交流協定参照）。また、パリ国立高等音楽院やベルリンフィルハーモニー管弦楽団など、世界的な芸術機関の演奏家をユニットとして招聘し、学生たちは在学しながらにして世界一流機関による指導を受けたほか、成果発表としてコンサートでの共演も実施した（資料 6－6：海外機関との連携による教育例 参照）。

資料 6－5：英国王立音楽院との交流協定



資料 6－6：音楽分野における海外機関との連携による教育例



映像分野でも韓国・中国・フランス等の芸術系大学とのアニメーションや映画の国際共同制作を毎年度実施したほか、世界的な人材を数多く輩出する南カリフォルニア大学等の教員や国際舞台の第一線で活躍するアーティストを招聘することで数多くの特別講義やワークショップを開講し、また、欧州有数のアニメーション学校であるゴブラン レコール・ド・リマージュの講師と日本の商業アニメーション界の監督やプロデューサーを同時に招き、産学共同国際アニメーション人材育成プロジェクトを開催した（資料 6－7：映像分野における海外機関との連携による教育例 参照）。

資料 6－7：映像分野における海外機関との連携による教育例



（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）地域社会における実践としての成果発表や産業界との連携により、複合芸術教育による人材育成が積極的に進められているだけでなく、国際共同カリキュラムの構築に向けた連携協定の締結など、海外関係機関との協力による教育研究の質向上が図られているため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

美術研究科	観点「教育内容・方法」(P. 2-10～16)
	質の向上度「教育活動の状況」(P. 2-30～31)
音楽研究科	観点「教育実施体制」(P. 4-3)
映像研究科	観点「教育内容・方法」(P. 5-25)
	質の向上度「教育活動の状況」(P. 5-33)

②優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）地域社会や産業界はもとより、海外関係機関等との連携協力により、実践的な教育研究の場をつくり、複合芸術教育を実施したこと。（計画 3－2【6】）

（改善を要する点）該当なし

(特色ある点)実技をともなう芸術分野の博士課程における学位授与の審査方法・プロセスの在り方を、「芸術実践領域(実技系)博士プログラム」として理論化・体系化し、公表したこと。(計画3-1【5】)

(2)中項目2「教育の実施体制等に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目1「学生の創造性を引き出す環境を整備し、専門教育の充実を図る。」の分析

関連する中期計画の分析

計画1-1「【7】【★】本学の伝統であり、芸術教育に欠かせない、少人数教育、個人指導を着実に実施する教員配置を行うとともに、ロンドン芸術大学等の海外から招聘した一線級芸術家等を併せて配置することにより、指導体制の強化・充実を図る。」に係る状況

本学の主要科目である「専門実技科目」については、個々の学生の発展段階に応じた教育指導をきめ細やかに行うため、各学科・専攻における少人数グループや個人レッスン制を採用しており、原則、専任の教授又は准教授を配置している。また、音楽学部では、専門実技科目のほか副科においても個人レッスン制を導入しているため、個人レッスンの充実、維持を図るため一部には非常勤講師を配置している。

このように、個人レッスン等を着実に実施するための体制を整備し、平成27年度(平成27年5月1日現在)において、教員(専任及び非常勤教員)一人あたりの学生数(学士、修士、博士、研究生、聴講生)は、大学全体として約2.74人となっている。

さらに本学では、平成26年度以降、大学改革・機能強化の機軸として「グローバル展開戦略」を掲げ、本学専任教員等のみならず、海外一線級芸術家等を併せて配置し、指導体制の強化・充実を図るため、芸術分野の特殊性を踏まえた弾力的な人事・給与システム改革を行い、海外からのアーティストユニット誘致に対応した「卓越教員」に係る就業規則やクロス・アポイントメント制度に関する規則を整備するとともに、積極的な雇用を行った(資料7-1:卓越教員等一覧 参照)。

資料7-1:平成27年度 卓越教員等一覧

所属	No.	英字氏名	職名	所属機関
美術学部	1	Jean-Luc Vilmoth	卓越教授	パリ国立高等美術学校
	2	Clelia Zernik	卓越教授	パリ国立高等美術学校
	3	Mao Tao	卓越助教	パリ国立高等美術学校
	4	村上 華子	卓越助教	パリ国立高等美術学校
	5	Graham Ellard	卓越教授	ロンドン芸術大学
	6	Louisa Minkin	卓越准教授	ロンドン芸術大学
	7	山田 健二	卓越助教	ロンドン芸術大学
	8	藤岡 勇人	卓越助教	ロンドン芸術大学
	9	Mary Jane Jacob	卓越教授	シカゴ美術館附属大学
	10	Ernesto de la Vega Pujol	卓越准教授	シカゴ美術館附属大学
	11	Kathrin Beatrice Zeller	卓越助教	シカゴ美術館附属大学
	12	Erika Danielle Raberg	卓越助教	シカゴ美術館附属大学
音楽学部	13	Neil Mackie	卓越教授	英国王立音楽院
	14	Timothy Jones	卓越教授	英国王立音楽院
	15	Olaf Ott	卓越教授	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団
	16	Wenzel Fuchs	卓越教授	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団
	17	Bruno Pasquier	卓越教授	元パリ国立高等音楽院
	18	Christian Ivaldi	卓越教授	元パリ国立高等音楽院

	19	Roland Daugareil	卓越教授	パリ国立高等音楽院
	20	Jaques Rouvier	卓越教授	ベルリン芸術大学 (元パリ国立高等音楽院)
	21	András Kemenes	卓越教授	リスト音楽院
	22	Pascal Moragues	卓越教授	パリ国立高等音楽院
	23	Pascal Bertin	卓越教授	パリ国立高等音楽院
	24	Michel Berof	卓越教授	パリ国立高等音楽院
	25	Philippe Muller	卓越教授	元パリ国立高等音楽院
映像研究科	26	Akira Mizuta Lippit	卓越教授	南カリフォルニア大学
	27	Sheila Margaret Sofian	卓越教授	南カリフォルニア大学
	28	Michael M. Patterson	卓越教授	南カリフォルニア大学
	29	Eric Hanson	卓越教授	南カリフォルニア大学
	30	Candace Reckinger	卓越教授	南カリフォルニア大学

美術分野ではロンドン芸術大学・パリ国立高等美術学校・シカゴ美術館附属美術大学と締結した「国際共同カリキュラム」の構築に向けた連携協定に基づき、各校を代表する一線級のアーティストをユニットとして誘致を行い、本学と各連携大学の学生・教員の混成チームを組み、芸術祭等における社会実践としての成果発表を伴うプロジェクトベースの少人数教育を実施した（中項目1 計画3-2【6】（P.14）参照）ほか、その他の国際交流協定校や連携機関からも多様な教員・専門家・アーティスト等を平成27年度において延べ52名招聘し、特別講義やワークショップを継続的に開催した（資料7-2：海外招聘者等による教育取組等 参照）。

資料7-2：平成27年度 美術分野における海外招聘者等による教育取組例

No.	実施日	実施概要	主な対象学科	相手国，相手先機関等
1	4.1～4	オーストラリア・クィーンズランド大学との合同ワークショップ	建築科	オーストラリア・クィーンズランド大学
2	4.7～17	AAスクールとの合同ワークショップ	建築科 デザイン科	英国・AAスクール
3	5.13	Clelia Zernik 講義「関係性の美学」そして「ポスト・フクシマのアート」	全学生	フランス・エコール・デ・ボザール
4	5.13	Jean-Luc Vilmoth 講義「アーティストとしての活動」	全学生	フランス・エコール・デ・ボザール
5	6.25	Gevork Hartppnian 講義「Mies van der Rohe: The Limits of Tectonics」	全学生	オーストラリア・キャンベラ大学
6	7.4～25	AAスサマースクール・プログラム	建築科	英国・AAスクール
7	7.9	WANG Hui 講義「万物の平等：代表の断裂」	全学生	北京・清華大学
8	7.28	Antoni Muntadas 講義「Project・Protocol」	全学生	スペイン・アーティスト
9	7.30	阮慶岳 講義「Salute to Illegal Architecture」	全学生	台湾・元智大学
10	9.17	Yongwoo Lee 講義「Shanghai Project」	全学生	上海ヒマラヤ美術館
11	9.24	オーストラリア・シドニー大学との合同ワークショップ	建築科	オーストラリア・シドニー大学
12	9.29	Mary Jane Jacob 講義「現代アートの社会実践」	全学生	シカゴ美術館附属美術大学
13	10.8	Andrew Higgot 講義「Corb, Photograph, Architecture」	全学生	英国・ロイヤル・カレッジ・オブ・アート
14	10.22	OTTO KUNZLI 講義	全学生	スイス・ジュエリーデザイナー
15	10.22～29	アメリカ・ハーバード大学との合同ワークショップ	建築科	アメリカ・ハーバード大学

16	11. 5	Bartomeu Mari 講義「Against Global Museum?」	全学生	韓国・国立現代美術館
17	11. 6	Dr.Lars Nittve 講演「M+美術館の活動と東アジアの牽引について」	全学生	香港・M+美術館
18	11.17	常嘉煌 講義「シルクロード敦煌の飛天達」	全学生	中国・アーティスト
19	11.24 ～27	ショートユニットプログラム デザインワークショップ	デザイン科	フィンランド・アアルト大学
20	11.25	ミラノ工科大学マルコ・インペラドーリ スタジオとの合同レクチャー・ディスカッション	建築科	イタリア・ミラノ工科大学
21	1.29	Emily Zilber 講演「欧米現代工芸の現状と展望」	工芸科	米国・ボストン美術館
22	1.29	ベツァエル美術デザインアカデミー講演	全学生	イスラエル・ベツァエル美術デザインアカデミー



参考 1 左：アアルト大学・デザインワークショップ（No.16）<http://aalto-geidai.tumblr.com/>

参考 2 右：AA スクール・合同ワークショップ（No.2）<http://arch.geidai.ac.jp/Workshop-AA-1>

音楽分野では英国王立音楽院・パリ国立高等音楽院等の国際交流協定校等から平成 27 年度において延べ 70 名の教員を招聘することで学生の個人レッスン時間を大幅に拡充したほか、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団をはじめ、高等教育機関以外の世界的な芸術機関からも継続的に一線級の音楽家を誘致し、学生への特別講座や演奏会での共演機会を充実化した（資料 7－3：海外招聘者等による教育取組等、資料 7－4：招聘教員等との共同演奏会例 参照）。

資料 7－3：平成 27 年度 音楽分野における海外招聘者等による教育取組例

No.	実施日	対象	題目	講師氏名	講師所属等
1	4.14	楽理科及び全科	“Im wunderschönen Monat Mai.” 175 Jahre Schumanns Dichterliebe op.48 「シューマンの《詩人の恋》の 175 年」	マティアス・ベント	デュッセルドルフ ローベルト・シューマン研究所研究員
2	4.27	器楽科	元ウィーンフィル首席ホルン奏者 ギュンター・ヘーグナー氏による 特別講座	ギュンター・ヘーグナー	元ウィーンフィル首席ホルン奏者
3	5. 7	オルガン科	フランスのオルガン音楽	エリック・ルブラン	オルガニスト
4	5.11	弦楽科	フェデリーコ・アゴスティーニ ヴァイオリンマスタークラス	フェデリーコ・アゴスティーニ	ヴァイオリン奏者
5	5.13	楽理科及び全科	ネパールのサーランギ：その様式と文化	バラト・ネパリ	カトマンズ大学芸術学部音楽科客員教授、サーランギ奏者
6	5.17	管打楽専攻	クラリネット特別講座	パスカル・モラゲス	パリ国立高等音楽院教授、パリ管弦楽団第 1 ソロクラ

					リネット奏者
7	5.19	管打楽専攻	フルート特別講座	サラ・ルヴィオン	フルート奏者
8	5.22	楽理科及び全科	琴律研究の師・沈知白先生を語る	陳 応時	上海音楽学院音楽学教授， 中国音楽史学会・中国学律 学学会顧問
9	5.26	音環，音楽音響創造	"Composing electronic music from environmental sounds " 「環境音からの電子音楽」	カルロ・フォルリヴェジ	イタリア国立ロディ音楽院教授
10	5.26	作曲科，楽理科	サーリアホ・レクチャーコンサート（フルート：窪田恵美 コンピュータ技術：折笠敏之）	カイア・サーリアホ	フィンランド学派として知られる女流作曲家
11	5.26	声楽・オペラ専攻の大学院生	ジュゼッペ・サッパティエーニ氏特別講座	ジュゼッペ・サッパティエーニ	テノール歌手
12	5.26	全学生	東京-ロンドンプロジェクト研究会 都市の中のアート：芸術とオリンピック，そして都市イベント	パトリック・ロックリー	英国，ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ学長
13	5.26	全学生	公開シンポジウム「グローバル時代の芸術大学の未来」	パトリック・ロックリー	英国，ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ学長
14	5.28	管打楽専攻	J. ボクン クラリネット特別講座（YAMAHA 寄附講座）	Jan Jakub Bokun	ポーランドのクラリネット奏者，指揮者
15	6.2	弦楽科	アントニオ・メネセス特別講座 チェロ マスタークラス	アントニオ・メネセス	チェロ奏者
16	6.3～4	全学生	グローバル市場で活躍できる音楽家になるためのキャリア形成法 Part1,2	チェズ・ジェンキンス	ユニバーサル・ミュージック・インターナショナルの バイスプレジデント
17	6.6	管打楽専攻	コントラファゴット特別講座	ビョルン・グロート	リューベック音楽大学コントラファゴット講師
18	6.9	室内楽科・弦楽科	ライブツィヒ弦楽四重奏団特別講座	ライブツィヒ弦楽四重奏団	ライブツィヒ弦楽四重奏団
19	6.16	音環・音楽音響創造研究院生	Composing with sounds and images	ヤルサロー・カプチンスキー	作曲科・ピアニスト
20	6.18	全学生	海を越えた太鼓——アメリカにおける太鼓の発展とスタンフォード大学における取り組み	ステファン・サノ	スタンフォード大学教授， 同大学太鼓顧問，スラック・キー・ギター奏者
21	6.19	全学生	レオニード・アニシモフ特別講座 「インスピレーションへの道」	レオニード・アニシモフ	ウラジオストク室内ドラマ劇場芸術監督，俳優，ワシントン大学大学院客員教授
22	6.27	管打楽専攻	トロンボーン特別講座	ミシェル・ベッケ	リヨン国立高等音楽院教授，ローザンヌ高等音楽院教授
23	6.29	管打楽専攻	クラリネット特別講座	ファブリツィオ・メローニ	ミラノ・スカラ座管弦楽団 首席クラリネット奏者
24	6.30	楽理科及び全科	日系アメリカ人の戦争記憶と日本芸能：ドキュメンタリー映画《隠れた遺産》を語る	シャリー・ムラモト，タカヨ・フィッシャー	日系 3 世。生田流筑紫会大師範，日系 2 世。女優，声優，歌手
25	7.3	全学生	ミハイル・カニユカ氏（ブラジャーク・クワルテットチェロ奏者）特別講座	ミハイル・カニユカ	ブラジャーク・クワルテットチェロ奏者
26	7.3	管打楽専攻	トロンボーン特別講座	オラフ・オット	ベルリンフィルハーモニー管弦楽団首席トロンボーン奏者

27	7.8～10	声楽科・古楽科	ニール・マッキー教授特別講座 ①声楽（英米歌曲演奏） ②古楽（ヘンデル、パーセルの声楽曲について）	ニール・マッキー	英国王立音楽院教授
28	7.14	全学生	モーツァルト晩年の断片を補完する一二つの弦楽五重奏断片（1787年）を中心に	ティモシー・ジョーンズ	王立音楽院副院長
29	7.30	オルガン科	ポジティブオルガン調律実習	マチュー・ガルニエ	オルガン製作家
30	9.15	音楽環境創造科	クラシック音楽の録音手法の理論と実践	ジャン＝マリ・ヘイセン	ポリフェミニア・インターナショナルのレコーディングエンジニア、ディレクター
31	9.29	管打楽専攻	バストロンボーン・オーケストラスタディ講座	ポール・ミルナー	現ロンドン交響楽団首席バストロンボーン奏者
32	10.1	管打楽専攻	オーボエ特別講座	モーリス・ブルグ	パリ管弦楽団ソロ・オーボエ奏者、指揮者
33	10.6	管打楽専攻	トランペット特別講座	パシ・ピリネン	トランペット奏者
34	10.13	古楽科	ヴァルター・ファン・ハウヴェ リコーダー特別講座	ヴァルター・ファン・ハウヴェ	リコーダー奏者、クワドロ・オトテール、リトル・コンソートのメンバー、アムステルダム音楽院教育学部長
35	10.16	声楽科大学院生	ライナー・ホフマン氏 ドイツ歌曲講座	ライナー・ホフマン	声楽伴奏者
36	10.16	全学生	クリスチャン・イヴァルディ氏室内楽特別講座	クリスチャン・イヴァルディ	バリ・エコール・ノルマル音楽院教育顧問
37	10.16	作曲科・打楽器専攻	ティリー・ミログリオ 現代打楽器作品によるワークショップ	ティリー・ミログリオ	打楽器奏者
38	10.19～27	管打楽専攻	イザベル・カンピオン特別講座＜音楽家のための運動療法＞	イザベル・カンピオン	運動療法士、アマチュアチェリスト
39	10.27	全学生	シューベルト音楽の「情動」を分析する	Micheal Spitzer	リヴァプール大学教授
40	10.30	楽理科・音楽学専攻院生	トゥバ共和国の音楽文化	ヴァレンティナ・スズケイ	トゥバ共和国功労研究者
41	11.2	弦楽科	ジャック・リーベック ヴァイオリン特別講座	ジャック・リーベック	英国王立音楽院、ヴァイオリニスト
42	11.9	全学生	ピアノ・マスタークラス	ジャン＝クロード・ペヌティエ	ピアニスト
43	11.9	大学院生	ダルトン・ボールドウィン フランス歌曲特別講座	ダルトン・ボールドウィン	プリンストン大学客員教授、オーバリン音楽院名誉教授、ジュリアード音楽院客員教授
44	11.19	全学生	ジャック・ルヴィエ教授 ピアノマスタークラス	ジャック・ルヴィエ	モーツァルテウム音楽大学教授
45	11.20	管打楽専攻	サクソフォーン特別講座	ケネス・ツェ	アイオワ大学教授
46	11.24	ピアノ科	アンドラーシュ・ケメネシュ教授ピアノ・マスタークラス	アンドラーシュ・ケメネシュ	ピアニスト
47	11.26	古楽科・声楽科	17世紀イタリアの歌唱装飾について～カッチーニとベルンハルトを中心に～	ゲルト・テュルク	バーゼル・スコラ・カントールム教授
48	1.7	声楽科	ザ・キングス・シンガーズ特別講座	ジョナサン・ハワード, ジュリアン・グレゴリー	声楽グループ
49	1.8	全学生	ドビュッシー・ラヴェル・20世紀のピアノ音楽	ミッシェル・ペロフ	ピアニスト

50	1. 8	管打楽専攻	即興演奏特別講座	マルク・ピラノバ	新進気鋭のサクソフォーン奏者
51	1. 12	オルガン科	オルガン マスタークラス	ヴォルフガング・リュプサム	オルガニスト, 作曲家
52	2. 4	全学生	ライナー・ホーネック特別講座	ライナー・ホーネック	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスター



参考 1 左 : ニール・マッキー特別講座 (No.27)

参考 2 右 : 公開シンポジウム「グローバル時代の芸術大学の未来」(No.13)

http://mce.geidai.ac.jp/topics/future_of_art_university#more-3044

資料 7-4 : 平成 27 年度 招聘教員等との共同演奏会例

No.	実施日	演奏会名	招聘教員名	会場
1	5. 22	管打楽器シリーズ 2015 「ベルリン・フィル首席トロンボーン奏者オラフ・オットを迎えて」	オラフ・オット	奏楽堂
2	7. 7	シモン・ゴールドベルク メモリアル・コンサート	ヴォルフガング・ヘントリッヒ (ドレスデン・フィルハーモニー室内管弦楽団)	奏楽堂
3	7. 9	ベルリン・フィル首席クラリネット奏者 ヴェンツェル・フックスを迎えて	ヴェンツェル・フックス	奏楽堂
4	10. 17	管打楽器シリーズ 2015 名手で聴くバロック音楽「オール協奏曲プログラム」	ディートヘルム・ヨナス セルジオ・アツォリーニ	奏楽堂
5	10. 31	弦楽シリーズ 2015 フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」	ロラン・ドガレイユ クリスチャン・イヴァルディ	奏楽堂
6	11. 22	パスカル・モラゲスを迎えて「モーツァルトは好き？」	パスカル・モラゲス	奏楽堂
7	11. 29	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol. 3 ブラームス 室内楽のよろこび 第 4 回	ジャック・ルビエ	奏楽堂
8	1. 22	フィリップ・ミュレールを迎えて	フィリップ・ミュレール	奏楽堂



参考 1 左：名手で聴くバロック音楽「オール協奏曲プログラム」(No.4)

参考 2 右：パスカル・モラゲスを迎えて「モーツァルトは好き？」(No.6)

映像分野においても、世界最先端の映像教育を行っている南カリフォルニア大学から教員ユニットを招聘することで「映像学」「国際映像メディア論」として講座を開講し、大学院映像研究科の共通科目として、ドキュメンタリーからミュージックビデオ、バーチャルリアリティなど先端分野の特別講義やワークショップを開催した。また、毎年度継続開催している韓国芸術総合学校及び中国伝媒大学との「日中韓学生アニメーション共同制作」を実施し、三カ国の混成チームにより、企画から制作、ポストプロダクションまで行い、短編アニメーションを完成させ、上映会を開催した。映画専攻においても韓国国立映画アカデミー及びフランス国立映画学校との連携により短編映画の共同制作やワークショップを実施。また、産学連携による研究が活発であるセンター・フォー・デジタルメディアから講師を招聘し、メディアとゲームを中心テーマとし、博士後期課程の学生を対象とした英語による研究発表・討論を実施したほか、延べ 47 名の教員を招聘し、特別講義等を実施した(資料 7-5：海外招聘者等による教育取組例 参照)。

資料 7-5：平成 27 年度 映像分野における海外招聘者等による教育取組例

No.	実施日	専攻	交流活動等の概要	招聘講師等	講師所属等
1	5.11	アニメーション	「韓国インディペンデントアニメーションについて」	チェ・ユジン	韓国インディペンデント・アニメーション協会 (KIAFA) 事務局長
2	6.8～29	映画	『コアユニットプロジェクト南カリフォルニア大学ユニット招聘による最先端映像に関するカリキュラム強化』 「映画学」	リビット・水田堯	アメリカ合衆国：南カリフォルニア大学
3	6.15～7.25	アニメーション	国際共同プロジェクト「日中韓学生アニメーション共同制作」	パク・セヒョン／ イ・ジョンミン／ ジャー・シュウチン／ リュウ・ダーイウ	中国：中国伝媒大学 (CUC) 韓国：韓国芸術総合学校 (K' ARTS)
4	6.22	映画	「アメリカのイラン映画監督による特別講義」	アミール・ナデリ	アメリカ国籍のイラン映画監督
5	6.25～26	映画	「映画編集表現」	ドミニク・オーブレイ	フランスの映画監督、映画編集者
6	7.27～31	アニメーション	『コアユニットプロジェクト南カリフォルニア大学ユニット招聘による最先端映像に関するカリキュラム強化』 「国際映像メディア論」アニメーション・ドキュメンタリー	シーラ・ソフィアン	アメリカ合衆国：南カリフォルニア大学
7	8.2～3	アニメーション	「アンドレアス・ヒュカーデの衝撃」	アンドレアス・ヒュカーデ	独バーデン・ヴュルテンベルク州立フィルムアカデミー・アニメーションコースのディレクター
8	9.26	アニメーション	「最新中国独立系動画 1：様々な作家たち」	レイ・レイ	中国気鋭の若手アニメーション・アーティスト
9	10.17～19	アニメーション	「最新中国独立系動画 2：チェン・シー特集」	チェン・シー	中国・テレビアニメーションやインディペンデント作品のディレクター
10	10.19	映画	「ゴダールとフランス映画」	オリビエ・ボレー／ セリーヌ・ガイエール	オリビエ・ボレー (Nocturnes Productions)／ セリーヌ・ガイエール (パリ第 8 大学)
11	10.21～24	映画	『エクステンションユニットプロジェクト 01 映画制作特別講義』	パク・キヨン	韓国：檀国大学

			テーマ：映画制作について		
12	10.27 ～ 30	メディア 映像	『コアユニットプロジェクト 南カリフォルニア大学ユニッ ト招聘による最先端映像に関 するカリキュラム強化』 「国際映像メディア論」映像制 作における VR (Virtual Reality)	エリック・ハンソン	アメリカ合衆国： 南カリフォルニア大学
13	10.30	映画	「旧東ドイツのアンダーグラ ウンド映画 1979 年～ 1989 年」	クラウス・レーザー	旧東ドイツの映画史研究 者，映画評論家，映像作家
14	11.14 ～15	アニメー ション， 美術学部	国際共同プロジェクト「産学共 同アニメーション人材育成ケ ーススタディ」	アントワーン・アン タン/ セシル・ブロンデル	フランス：ゴブラン，レコ ール・ド・リマージュ
15	11.28 ～29	映画	「ミゲル・ゴメス監督最新作 『アラビアン・ナイト』（全三 部）」	ミゲル・ゴメス	ポルトガルの映画監督
16	12.1～ 3	映画	『エクステンションユニット プロジェクト 01 映画制作特別講義』 テーマ：映画撮影について	ピエール＝ウィリア ム・グレン	フランス：フランス国立映 画学校（FEMIS）
17	12.15	映像メデ ィア学学 生（博士 課程）	『エクステンションユニット プロジェクト 02 博士課程特別講義』	ローレンス・バフィ ア/ リチャード・スミス	カナダ： センター・フォー・デ ジタルメディア（CDM）
18	12.22 ～25	映画	『エクステンションユニット プロジェクト 01 映画制作特別講義』 テーマ 映画脚本について	ナグミ・サミニ	イラン：テヘラン大学
19	① 1.20 ～21 ② 3.9	アニメー ション	『エクステンションユニット プロジェクト 03 アニメーショ ン特別講義／国際合同講評会』	ジョルジュ・スイフ ィアノス／ルース・ リングフォード／ボ ール・ブッシュ／ガ オ・ウェイファ／パ ク・セヒョン／ジュ ・ワンス／チャニー ・サ・チャンガドヴェ ック／チャイヨッ ト・イサボラパン	①特別講義「アニメーショ ン哲学」：フランス国立装 飾芸術高等学校（ENSAD）/ フランス②「国際合同講評 会」：ハーバード大学/アメ リカ 中国伝媒大学/中国 韓国芸術総合学校/韓国 シラパコン大学/タイ
20	1.25～ 28	アニメー ション	『コアユニットプロジェクト 南カリフォルニア大学ユニッ ト招聘による最先端映像に関 するカリキュラム強化』 「国際映像メディア論」ビジュ アル・ミュージック	マイケル・パターソ ン/ キャンデス・レッキ ンジャー	アメリカ合衆国： 南カリフォルニア大学



参考 1 左：リビット・水田堯「映画学」（No.2）

参考 2 右：日中韓学生アニメーション共同制作（No.3）

さらに、音楽分野における卓越した才能を高度に発展させ、我が国はもとより世界的な音楽文化の振興に対して生涯にわたって貢献する個性的・先駆的な人材を戦略的に育成するため、高校2年からの「飛び入学」を起点として展開する「スペシャルソリストプログラム（SSP: Special Soloist Program）」制度を、音楽学部器楽科ピアノ専攻及び弦楽専攻（ヴァイオリン、チェロ分野）において構築した。平成28年度から導入される本プログラムでは、個人レッスン時間の倍増や、海外招聘教員の優先的な配置等の優遇が実施される予定である（3 国際化に関する目標 中項目2 計画2－3【34】（P.125）参照）。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）従来からの少人数教育、個人指導に加え、積極的・継続的に海外から教員を招聘することにより指導体制の強化・充実が図られているほか、そうした体制に適合した効果的な教育形態・内容が構築されているため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

美術学部	観点「教育実施体制」（P.1-3～4） 質の向上度「教育活動の状況」（P.1-25）
美術研究科	観点「教育内容・方法」（P.2-10） 質の向上度「教育活動の状況」（P.2-30～31）
音楽学部	観点「教育実施体制」（P.3-3） 質の向上度「教育活動の状況」（P.3-31）
音楽研究科	観点「教育実施体制」（P.4-3）
映像研究科	観点「教育内容・方法」（P.5-25） 質の向上度「教育活動の状況」（P.-33）

計画1－2「【8】【★】国内及び海外に展覧会・演奏会等多様な発表の場を確保し、教育研究活動の成果を積極的に発信する。」に係る状況

本学では、大学美術館、奏楽堂をはじめ、陳列館を含む各種展示スペース、ギャラリー、能舞台を含む大小ホール、上映スペースを保有しており、学生・教員等により生み出される教育研究成果は、学内で日常的に発表され、多くは広く一般に公開されているが（3 社会連携・社会貢献に関する目標 中項目1 計画1－2【28】（P.99）参照）、学生の多様な修業機会を設けるとともに、実社会において適正な評価を得ることや、地域社会への還元、国内外の芸術文化のさらなる向上等を目的に、本学では様々な形で大学外での発表の場を設けている。

美術分野では、キャンパスが立地する上野・取手地域で、東京都恩賜上野動物園や東京都美術館等での展示、「取手アートパス」での展示等を実施している。また、企業等と連携し、三越銀座での展示や、株式会社花王においてデザイン研究成果発表等を実施している（資料8－1：学外での成果発表例 参照）。

資料 8－1：美術分野における学外での成果発表例



(参考)

<http://mitsukoshi.mistore.jp/store/nihombashi/event/geidai/index.html?jsessionid=wQTFX2vTNvGh19CnhcsgHrP0217sFZ6t0mcl9pcWddK6b7qWgppx!4542807>

さらに、文部科学省特別経費支援事業である「GTS 観光アートプロジェクト」では、台東区及び墨田区と連携し、実践的な教育研究を行ったが、その成果は、プロジェクト内で実施された数々の展示会、演奏会、上映会等において発表された（中項目 1 計画 3－2【6】(P.14) 参照）。

音楽分野では、自治体、教育機関、企業等から依頼演奏を受け入れ、日本各地で実施し、その数は平成 27 年度実績では 119 件となっている（資料 8－2：依頼演奏一覧 参照）。その際には、ただコンサートを行うだけでなく、訪れた地の小中高校等において演奏指導や音楽普及活動等（音楽アウトリーチ）を実施することも多く、受け手側・教える側双方における教育効果を生んでいる。

資料 8－2：平成 27 年度 依頼演奏実績一覧

No.	実施日	演奏会名	内容	会場	主催
1	4.2	平成 27 年度東京工業大学学部入学記念ピアノ演奏会	ピアノ	東京工業大学体育館	東京工業大学
2	4.22	フェルメール絵画に描かれた 17 世紀オランダ古楽器の説明と実演	チェンバロ等, 15 回開催予定	東洋文庫ミュージアム	(公財) 東洋文庫
3	4.23	木曜コンサート	ピアノ	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
4	4.23	【受託演奏】2015 日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	学生オーケストラ・弦楽四重奏, Hp	国立劇場大劇場, ホテルニューオータニ	(財) 国際科学技術財団
5	4.27	第 9 回みどりの式典	管弦楽研究部 (弦楽四重奏)	憲政記念館	内閣府
6	5.5 5.6	第 85 回読売新聞社新人演奏会	声楽・ピアノ・弦楽・管打楽	東京文化会館大ホール	読売新聞社
7	5.13	【受託演奏】平成 27 年度春の叙勲勲章伝達式	箏曲	国立劇場大劇場	文部科学省
8	5.15	【受託演奏】平成 27 年度春の褒章伝達式	管弦楽研究部 (弦楽四重奏)	如水会館スターホール	文部科学省

9	5.18	京都・国際音楽学生フェスティバル 2015 (5/18～5/28)	Vn, Cb	京都府立府民ホールアルティ	(公財) ローム・ミュージック・ファンデーション
10	5.21	木曜コンサート	弦楽	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
11	5.27	第559回定期演奏会(トリフォニーシリーズ) (28日の二日公演)	合唱	すみだトリフォニーホール	(公財) 新日本フィルハーモニー交響楽団
12	5.30	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	戸頭中学校ほか	取手市
13	6.1	第105回日本学士院授賞式	管弦楽研究部(弦楽四重奏)	日本学士院	日本学士院
14	6.6	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代中学校	取手市
15	6.6	平成27年度 安曇野市内中学校への楽器演奏指導	管打楽器	安曇野市立徳高西中学校ほか	安曇野市教育委員会
16	6.6	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	クラリネット四重奏ほか	レクサス町田ほか	東京トヨペット(株)
17	6.7	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏	レクサス晴海	東京トヨペット(株)
18	6.13	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏ほか	レクサス雪谷ほか	東京トヨペット(株)
19	6.13	伊達市吹奏楽きらめき事業「吹奏楽指導」	管打楽器講習, アンサンブルミニコンサート	梁川中学校	伊達市教育委員会
	6.14				
20	6.14	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏	レクサスときわ台	東京トヨペット(株)
21	6.18	木曜コンサート	指揮	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
22	6.20	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代南中学校	取手市
23	6.20	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏ほか	レクサス荻窪ほか	東京トヨペット(株)
24	6.20	ヤマハコンサート・シリーズ	ピアノ	ヤマハホール	(株) ヤマハ
	6.21				
25	6.21	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	サクソフォンカルテット	レクサス深川	東京トヨペット(株)
26	6.22	第71回日本芸術院授賞式	箏曲, 尺八	日本芸術院	日本芸術院
27	6.23	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサート in 渋谷第3回	Sax カルテット, Tb カルテット	メトロ渋谷駅13出口付近	(公財) メトロ文化財団
28	6.27	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	戸頭中学校ほか	取手市
29	6.28	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	取手市第二中学校	取手市
30	7.4	東京芸術大学音楽学部生による「ふれあいコンサート」	声楽, ピアノ, 弦楽	取手市戸頭公民館	取手市文化芸術課
31	7.4	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏	レクサス三鷹	東京トヨペット(株)
32	7.5	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏	レクサス高輪	東京トヨペット(株)
33	7.8	【受託演奏】霞ヶ関コモンゲートミニコンサート～木管楽器の世界～	木管楽器	霞ヶ関コモンゲート東館2階ロビー	文化庁・霞ヶ関コモンゲート管理組合
34	7.11	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏	レクサス用賀ほか	東京トヨペット(株)
35	7.11	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	取手第一中学校ほか	取手市
36	7.12	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	木管五重奏	レクサスときわ	東京トヨペット(株)

		サート		台	
37	7.16	木曜コンサート	オペラ・指揮	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
38	7.19	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	弦楽四重奏	レクサス高輪	東京トヨペット(株)
39	7.23	夏フェス 2015Touchi the Art Program 打楽器 DE リズムあそび	打楽器	ギャラクシティ西新井文化ホール	あだち未来創造ネットワーク
40	7.25	【受託演奏】レクサス・ミニコンサート	金管五重奏	レクサス府中	東京トヨペット(株)
41	7.26	青洲文庫で聴くファミリーコンサート&たてもののレクチャー	弦楽四重奏	渋沢史料館	渋沢史料館
42	7.29	【受託演奏】霞ヶ関ビルディングコンサート～JAZZのタベ～	管打楽器等	霞ヶ関ビルディング	三井不動産(株)
43	7.29	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサート in 渋谷第3回	F1 カルテット, 金管五重奏	メトロ渋谷駅13出口付近	(公財) メトロ文化財団
44	7.30	【受託演奏】霞ヶ関ビルディングコンサート～アカペラ四重唱の魅力～	声楽	霞ヶ関ビル1階プラザホール	三井不動産(株)
45	7.31	【受託演奏】霞ヶ関コモンゲートミニコンサート～サクソフォン四重奏のタベ～	サクソフォン	霞ヶ関コモンゲート東館2階ロビー	文化庁・霞ヶ関コモンゲート管理組合
46	8.3 8.4	平成27年度 伝統音楽指導者研修会	邦楽	音楽学部各教室	文部科学省
47	8.15	全国戦没者追悼式	指揮者, 管弦楽研究部	日本武道館	厚生労働省
48	8.27	木曜コンサート	声楽	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
49	8.28	馬車道コンサート第1回	ピアノクインテット	映像研究科馬車道校舎1階	大学院映像研究科
50	8.29	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代南中学校	取手市
51	9.3	木曜コンサート	木管・金管	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
52	9.12	大学院映像研究科設置10周年式典における演奏	声楽	映像研究科馬車道校舎1階	大学院映像研究科
53	9.19	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導)	管打楽器	藤代中学校	取手市
54	9.26	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導・三校合同)	管打楽器	取手第二中学校	取手市
55	9.26	取手 JAZZ・DAY z ! 2015	ビックバンド	取手市民会館大ホール	取手市
56	9.26 9.27	伊達市吹奏楽きらめき事業「オータムスクール」	管打楽器講習, アンサンブルミニコンサート	国立磐梯青少年交流の家	伊達市教育委員会
57	9.28	馬車道コンサート第2回	ピアノクインテット	映像研究科馬車道校舎1階	大学院映像研究科
58	10.1	取手ウエルネスプラザ開館記念コンサート	ピアノ, 弦楽四重奏, 金管五重奏	ウエルネスプラザ 多目的ホール	取手市
59	10.3	取手市中学校と交流事業(吹奏楽指導・三校合同)	管打楽器	取手第一中学校	取手市
60	10.6	東洋文庫創立91周年記念レセプション	弦楽四重奏	東洋文庫ミュージアム	(公財) 東洋文庫
61	10.10	「ながさき文化のちから」創生事業 青少年音楽セミナー in 五島発表演奏会	吹奏楽指導等	福江文化会館	長崎県文化観光国際部文化振興課
62	10.11	成田市オリジナル・オペラ	オペラ	成田市文化芸術センター	成田市教育委員会

63	10.11	第34回東和住区祭における演奏	金管五重奏	東和地域学習センター体育館	東和住区センター祭実行委員会
64	10.15	木曜コンサート	古楽	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
65	10.16	東京芸術大学表参道フレッシュコンサート	ピアノ	カワイ表参道「パウゼ」	カワイ音楽振興会
66	10.17	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線, 邦楽囃子(笛, 小鼓), 長唄	邦楽科教室	(公財) 台東区芸術文化財団
67	10.18	第8回(公財) 加藤山崎教育基金贈呈式	管弦楽研究部(弦楽四重奏)	日本学士院	(公財) 加藤山崎教育基金
68	10.24	邦楽フレッシュコンサート 2015	邦楽科学生	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
69	10.24	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサート in 渋谷第3回	ピアノカルテットほか	メトロ渋谷駅13出口付近	(公財) メトロ文化財団
70	10.25	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線, 邦楽囃子(笛, 小鼓), 長唄	邦楽科教室	(公財) 台東区芸術文化財団
71	10.25	【受託演奏】メトロ・ステーションコンサート in 渋谷第4回	ピアノクインテットほか	メトロ渋谷駅13出口付近	(公財) メトロ文化財団
72	10.28	馬車道コンサート第3回	ピアノソロ	映像研究科馬車道校舎1階	大学院映像研究科
73	10.31	第29回伊澤修二記念音楽祭	Sax カルテット, 指揮者, 学生オケ	長野県伊那文化会館ほか	伊那市
74	10.31	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線, 邦楽囃子(笛, 小鼓), 長唄	邦楽科教室	(公財) 台東区芸術文化財団
75	11.1	馬車道まつり トワイライトコンサート 「東京藝大ウィンドオーケストラ」	ブラスアンサンブル	関内ホール 大ホール	大学院映像研究科
76	11.4	【受託演奏】文部功労者顕彰式	管弦楽研究部(弦楽四重奏)	ホテルオークラ東京	文部科学省
77	11.6	東京芸術大学表参道フレッシュコンサート	ピアノ	カワイ表参道「パウゼ」	カワイ音楽振興会
78	11.7	したまち邦楽ワークショップ	長唄三味線, 邦楽囃子(笛, 小鼓), 長唄	邦楽科教室	(公財) 台東区芸術文化財団
79	11.8	平成27年度 安曇野市内中学校への楽器演奏指導	管弦, ピアノ, アンサンブル, ウィンドオーケストラ合同演奏会他	安曇野市立豊科北中学校	安曇野市教育委員会
80	11.9	【受託演奏】平成27年度秋の褒章伝達式	管弦楽研究部(弦楽四重奏)	如水会館スターホール	文部科学省
81	11.10	【受託演奏】平成27年度秋の叙勲勲章伝達式	邦楽	国立劇場 大劇場	文部科学省
82	11.15	荒川第九演奏会	ソリスト	南千住第二中学校体育館	(公財) 荒川区芸術文化振興財団
83	11.17	馬車道コンサート第4回	室内楽	映像研究科馬車道校舎1階	大学院映像研究科
84	11.19	木曜コンサート	作曲	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
85	11.20	第15回山崎貞一賞贈呈式	管弦楽研究部(弦楽四重奏)	日本学士院	(財) 科学技術振興財団
86	11.21	【受託演奏】北とぴあ国際音楽祭 2015 藝大とあそぼう in 北とぴあ	クラシック公演, 企画	北とぴあ さくらホール	(公財) 北区文化振興財団

87	12.7	第31回国際生物学賞授賞式	管弦楽研究部 (弦楽四重奏)	日本学士院	(独法) 日本学術振興会
88	12.11	東京芸術大学表参道フレッシュコンサート	ピアノ	カワイ表参道「パウゼ」	カワイ音楽振興会
89	12.12	【受託演奏】どりーむコンサート Vol.94 オーケストラの扉Ⅳ	学生オーケストラ	府中の森芸術劇場	公益財団法人府中文化振興財団
90	12.12	【受託演奏】LEXUSコンサート in 東京藝大2015	オーケストラほか	奏楽堂	東京トヨペット株式会社
	12.13				
91	12.17	木曜コンサート	打楽器	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
92	12.19	東京芸術大学音楽学部生による「ふれあいコンサート」	木管五重奏	福祉交流センター	取手市文化芸術課
93	12.19	中央区第九の会 トリトンスクエア公演	声楽ソリスト	晴海トリトンスクエア・グランドロビー	中央区第九の会
94	12.20	第35回「台東第九公演」	指揮者, ソリスト, 管弦楽	奏楽堂	台東区
95	12.24	【受託演奏】第65回チャリティーコンサート「メサイア」	指揮者, ソリスト, 管弦楽研究部	東京文化会館大ホール	(社)朝日新聞厚生文化事業団
96	12.25	足立区東和住区センター「学童クリスマスパーティー」	Sax カルテット	足立区東和住区センター児童館	足立区東和住区センター
97	1.9	フレッシュ名曲コンサート ニューイヤーコンサート	声楽	日暮里サニーホール	(公財) 荒川区芸術文化振興財団
98	1.9	高校生による「メサイア」全曲演奏会	声楽ソリスト	杜のホールはしもと	神奈川県立音楽堂
99	1.11	大学院生コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホール	(株) ヤマハ
100	1.15	東京芸術大学表参道フレッシュコンサート	ピアノ	カワイ表参道「パウゼ」	カワイ音楽振興会
101	1.18	【受託演奏】文部科学省大臣優秀教員表彰式	箏曲	メルパルク イベントホール	文部科学省
102	1.21	木曜コンサート	声楽	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
103	1.23	伊達市吹奏楽きらめき事業第5回交流活動	管打楽器講習, アンサンブルミニコンサート	伊達市立桃陵中学校	伊達市教育委員会
	1.24				
104	1.31	【受託演奏】東京芸術大学コンサート	弦楽五重奏, 金管五重奏	坂東市民音楽ホール	坂東市文化振興事業団
105	2.5	東京芸術大学表参道フレッシュコンサート	ピアノ	カワイ表参道「パウゼ」	カワイ音楽振興会
106	2.5	邦楽鑑賞教室	雅楽	学習院初等科正堂	学習院初等科
107	2.6	東京芸術大学音楽学部生による「ふれあいコンサート」	弦楽, ピアノ	ウエルネスプラザ 多目的ホール	取手市文化芸術課
108	2.7	平成27年度 安曇野市内中学校への楽器演奏指導	管打楽器	安曇野市立穂高西中学校ほか	安曇野市教育委員会
109	2.16	大学院コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホール	(株) ヤマハ
110	2.19	恵泉女学園中学校2年生邦楽鑑賞教室	長唄, 三味線, 邦楽囃子	恵泉女学園グレイスホール	恵泉女学園中学・高等学校
111	2.25	木曜コンサート	邦楽	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団
112	3.4	大学院コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホール	(株) ヤマハ
113	3.5	足立区第20回こころの健康フェスティバル	弦楽四重奏	足立区役所庁舎ホール	こころと健康フェスティバル実行委員会 (足立区保健所)
114	3.17	木曜コンサート	室内楽	台東区ミレニアムホール	(公財) 台東区芸術文化財団

115	3.23	大学院コンサートシリーズ	ピアノ	ヤマハホール	(株) ヤマハ
116	3.25	平成27年度卒業式	弦楽	奏楽堂	総務課
117	3.26	音楽大学オーケストラフェスティバル	弦・管楽	東京芸術劇場	音楽大学オーケストラ実行委員会
118	3.27	音楽大学オーケストラフェスティバル	弦・管楽	ミューザ川崎シンフォニーホール	音楽大学オーケストラ実行委員会
119	3.30	音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会)	弦楽, 仕舞	皇居内 桃華楽堂	宮内庁

また、平成23年度、財団法人新国立劇場運営財団との間で連携・協力に関する協定を締結したことにより、新国立劇場において藝大オペラ特別公演「秘密の結婚」(平成25年度)、「コシ・ファン・トゥッテ」(平成26年度)を上演した。さらに、三菱地所株式会社との共同主催事業「藝大アーツイン丸の内」(3 社会連携・社会貢献に関する目標 計画1-1【27】(P.90) 参照)では、音楽学部ピアノ科各教員の門下学生による演奏が実施されている。

映像分野では、映像研究科映画専攻の修了制作の作品は、学内での上映のほか、映画館「ユーロスペース」(東京渋谷)により上映されている。また、アニメーション専攻は、動画サイトYouTubeに番組サイトを持ち、学生の作品を全世界に向けて発信している。映画専攻、アニメーション専攻の作品は、毎年DVDに纏められ頒布されているほか、国内外で実施される数々の映画祭等においても上映されている。

こうした学外における成果発表は、国内に限らず、海外においても長年にわたり実施してきたが、平成26年度以降、本学では国立大学の機能強化と連動した「グローバル展開戦略」を掲げ、近年その取組がさらに活発になっている。

美術分野ではパリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、シカゴ美術館附属美術大学との「グローバルアート国際共同カリキュラム」において、各国にて共同授業・共同制作を実施し、パリ国立高等美術学校での展示をはじめ、国際芸術祭である越後妻有トリエンナーレや香川県の栗林公園において成果発表を行うなど、海外及び国内での先進的な教育成果の発信を行った(中項目1 計画3-2【6】(P.14) 参照)。

音楽分野では海外における演奏会を定期的実施している。平成25年度においては選抜された弦楽・管楽の学生15名と教職員6名をスイス・ジュネーヴ音楽大学に派遣、合同オーケストラを組織し、現地でオーケストラや室内楽の演奏を行うとともに、ジュネーヴ音楽大学の学生・教員を日本に招聘し、大阪(大阪いずみホール)及び東京(本学奏楽堂及びヤマハホール(中央区銀座))で交流演奏会を実施した。また、平成27年度には韓国・延世大学とも同様に、両校の教員・学生による合同オーケストラによる演奏会を双方の大学で行った(資料8-3:海外交流演奏会 参照)。



(参考) 映像研究科映画専攻修了制作上映実績

<http://geidai-film.jp/2016/01/366/>

資料 8 - 3 : 海外交流演奏会



また、邦楽科の教員・学生によるユニットを英国王立音楽院に派遣し邦楽演奏会を開催するなど、教育研究成果と同時に日本の芸術文化を世界に発信する取り組みについても推進した（計画 3 - 2 【6】（P.14）資料 6 - 5 参照）。

映像分野では、海外大学との共同制作及び上映会等の共同成果発表を実施しており、その一つである「日中韓アニメーション共同制作」は平成 22 年度より継続的に実施している。本学、韓国芸術総合学校、中国伝媒大学（平成 24 年度から参加）の 3 校のアニメーションを学ぶ学生たちが、共同で作品を制作。平成 27 年度の実施成果は金沢 21 世紀美術館で開催された「日中韓アニメーションフェスティバル 2015」において発表された（資料 8 - 4 : 日中韓アニメーションフェスティバル 参照）。さらに、国内はもとより、海外映画祭等への作品出品も積極的に行っている。

資料 8 - 4 : 日中韓アニメーションフェスティバル



（参考 <http://animation.geidai.ac.jp/jcksaf/index.html>）

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）各分野において国内外で多数の展覧会・演奏会等の場が確保されており、海外大学等との共同制作や共同演奏のプロジェクトと連動させることで、教育研究及びその成果発表を効果的に行っており、また、国内では新潟県、香川県等の地方においても積極的な発信を実施しているため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

美術学部	観点「学業の成果」(P.1-20～22)
美術研究科	観点「教育内容・方法」(P.2-10～16)
	観点「学業の成果」(P.2-23～25)
音楽学部	観点「教育内容・方法」(P.3-19～25)
音楽研究科	観点「教育内容・方法」(P.4-16～28)
映像研究科	観点「学業の成果」(P.5-28～29)

計画 1－3「【9】大学美術館の施設や所蔵資料を活用した実践的な授業を展開し、学芸員課程の充実を図る。」に係る状況

本学の学芸員教育課程では、従前より、学内共同利用施設である大学美術館と連携して、美術館教員の指導のもと、収蔵品を活用して、古美術品の取り扱い方や展示の仕方などの知識と技術を修得させ、一定の実務能力を身につけさせることとしてきた（資料 9－1：学芸員資格取得者数 参照）。

学芸員の質の向上を目的として、平成 24 年 4 月 1 日に改正「博物館法施行規則」が施行され、「博物館に関する科目」の最低修得単位数が旧課程 8 科目 12 単位から新課程 9 科目 19 単位に変更になったことを受け、平成 24 年度から新たに科目を開講した。

大学美術館においては、学芸員教育課程のカリキュラムとして新科目を含む「博物館概論」、「美術館資料論」、「企画展示論」及び「美術館実習」等の授業科目を開講し、大学美術館では美術館展示施設などの機材と所蔵作品を教材として、作品調査点検、作品展示などの実践的な授業を実施した。このうちで、「美術館資料論」と「美術館実習」は資料を取り扱うことの特性と安全性から少人数による教育が必要であり、AコースとBコースの2コースを開講した。受講生には実技系の学生も多いため、彼らが個展やグループ展を開催するために必要な技術として、照明の実習を行っていることも本学の「美術館実習」の特徴のひとつであり、将来的には、さらに細分化された領域での実施を検討しているところである。また、大学美術館が協力を行い、美術学部教職課程のカリキュラムとして「塑像」の授業を開講し、彫刻作品を多数閲覧している。

その他、各科の授業(または学術目的)として行われる収蔵庫内等での作品閲覧（平成 27 年度実績：75 件，701 人，473 点）や正木記念館等での作品模写（平成 27 年度実績：20 日間，延べ 80 人）に所蔵作品を提供し、作品の有効利用を図った。

資料 9－1：学芸員資格取得者数

区分		H22	H23	H24	H25	H26	H27
美術学部	絵画科	17	25	7	12	11	4
	彫刻科	1		1	1	3	2
	工芸科	1	3	5	1		
	デザイン科			4			3
	建築科		1				
	芸術学科	16	15	19	12	11	13
	先端芸術表現科		2	3	7	3	2
美術研究科 (修士)	絵画専攻	5	1	1	1		
	工芸専攻	4	5	1	1	1	2
	デザイン専攻					1	
	建築専攻	1					
	芸術学専攻	2	6	2	1	3	5
	先端芸術表現専攻	1	2				1
	文化財保存学専攻	4	4	2		4	1
美術研究科 (博士後期)	美術専攻			1		1	
	文化財保存学専攻	1	1		1		1
音楽学部	声楽科						1
	器楽科						1

	邦楽科					2	1
	楽理科		1	1	1	1	
音楽研究科 (修士)	邦楽専攻					1	
	音楽文化学専攻		4	1		1	
音楽研究科 (博士後期)	音楽専攻				1		
その他	科目等履修生		4		3	4	2
計		53	74	48	42	47	39

(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) 改正「博物館法施行規則」に対応した授業科目を開設したほか、大学美術館と連携した少人数教育を徹底し、貴重な所蔵品や現場で実際に使用されている機材等を活用した高度で実践的な授業を展開し、充実を図ったため、実施状況は良好であると判断できる。

計画１－４「【10】教職員や学生の制作・表現活動等を支援するため、ネットワーク環境を整備し、ポータルサイトを構築する。」に係る状況

近年進展の著しい情報通信技術（IT）への適切な対応は、教育研究活動を支える基盤として全国的な課題と考えられるが、作品や演奏等を公開・発表・発信して完結する芸術分野にとって、IT は単に情報基盤という役割を超え、芸術の伝達手段の一つとして重要性を担いつつある。また、IT を活用するなどした近年の新しい芸術表現においては、大容量データの処理等ネットワーク環境の強化が課題となっている。

こうした状況において、本学はネットワーク環境整備を重要課題と位置づけ、次のとおり計画的に実施した。

22 年 度	教職員への支援を対象として学内情報の集約化に向けたクラウドサーバ（藝大クラウドサーバ）の導入を行った。 また、ネットワークの整備事業として藝大クラウド上でグループウェア、中期目標・中期計画進捗管理システム、教員情報データベースシステム、貴重書データベースのシステムを導入するとともに、美術館収蔵品システムを移行した。
23 年 度	学生、教員、事務職員の個人情報是一次情報源から集約して再利用し、情報システムの円滑な活用を促すための共通認証基盤を計画的に構築するため、平成 23 年度では一次情報のフローについて聞き取り調査等を行い情報の集約と再利用のためのシステムを藝大クラウド上で構築・提供した。 また、認証基盤の名寄せ基盤のプロトタイプを独自に開発し、テストデータを用いた実験運用を行った。当初目的を拡張し、国立情報学研究所（NII）が提供する認証フェデレーション「学認」と連携するための機能をさらに付加した。これにより、芸術情報センターのアカウントを利用することで他大学の無線 LAN 網を利用するなど様々なサービスを享受することが可能となった。
24 年 度	教職員や学生の制作・表現活動を支援するためのネットワーク環境整備に、無線 LAN アクセスポイントを 141 カ所に拡充を行った（平成 23 年度 46 カ所）。また、無線 LAN には認証不要の接続の仕組みを設け、制作や研究が円滑に進められるよう整備した。
25 年 度	教職員や学生の制作・表現活動を支援するためのネットワーク環境整備に関し、インターネット回線の増強工事を行う（平成 25 年 9 月完了）とともに、学内基盤サーバシステムの更改についても詳細設計を作成し、12 月末に更新した。

26 年 度	教職員や学生の制作・表現活動等を支援するため、上野校地では、学外回線サービス SINET の勧告に従い、学外ネットワークに関する DNS サーバの設定変更を実施した。 千住校地では、2014 年 10 月 30 日に学外ネットワーク回線及び環境整備を実施した。 横浜校地(馬車道・新港・万国橋)では、2015 年 4 月の回線切り替えに向けた設計・調整を実施した。 また、産学連携棟の新設に伴うネットワーク工事では、2015 年 4 月に実施する建物内のネットワーク敷設に伴う設計を実施した。
27 年 度	横浜新港校地移転に伴う万国橋、馬車道校地のインターネット回線の切り替えを実施した。産学連携棟（新棟）の学内ネットワーク設定と無線 LAN を整備した。教育・研究系のデータ・ストレージ利用の検討は、いくつかの研究室でデータ保存に関するヒアリングを実施した。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）ネットワーク環境整備や無線 LAN アクセスポイント拡充等の実施により、教職員や学生の制作・表現活動等の支援を行ったため、実施状況は良好であると判断できる。

○小項目 2「学部・研究科における入学定員，組織等の見直しを行う。」の分析 関連する中期計画の分析

計画 2－1「【11】学部・研究科毎の委員会等において，社会的状況等を勘案し，入学定員や組織等についての見直しを行う。」に係る状況

各学部及び研究科における委員会等において，毎年度，社会的状況の変化等の観点から，入学定員や組織等についての検討を行っている。

平成 23 年度においては，大学院音楽研究科修士課程の入学定員について，適切な定員規模について検討を行い，作曲専攻を 9 名から 7 名に，器楽専攻を 43 名から 45 名へ改定を行った。

また，社会全体の急速なグローバル化の進展の中，平成 26 年度以降，本学においても「グローバル展開」を大学改革・機能強化の中核と位置づけ，国際舞台で活躍する芸術家育成等を推進することとし，平成 28 年度より新たにグローバル化に対応する研究科及び既存研究科に 2 専攻を設置するほか，志願倍率を踏まえた入学定員の適正化等による学部・大学院の入学定員の見直しなど，教育研究組織の改革案を取りまとめるとともに（資料 11－1：組織改革案 参照），新研究科等の設置に向けた準備を行い，文部科学省に対し設置認可を申請した。

資料 11－1：平成 28 年度 教育研究組織改革案

【設置前（平成 27 年度）】

○美術学部	
先端芸術表現科	<u>30 人</u>
○大学院美術研究科（修士課程）	
絵画専攻	<u>47 人</u>
彫刻専攻	<u>15 人</u>
工芸専攻	<u>28 人</u>
建築専攻	<u>16 人</u>
先端芸術表現専攻	<u>24 人</u>
○大学院音楽研究科（修士課程）	
声楽専攻	<u>20 人</u>
音楽文化学専攻	<u>35 人</u>



【設置後（平成 28 年度）】

○美術学部	
先端芸術表現科	<u>24 人（6 人減）</u>
○大学院美術研究科（修士課程）	
絵画専攻	<u>50 人（3 人増）</u>
彫刻専攻	<u>13 人（2 人減）</u>
工芸専攻	<u>26 人（2 人減）</u>
建築専攻	<u>18 人（2 人増）</u>
先端芸術表現専攻	<u>22 人（2 人減）</u>
グローバルアートプラクティス専攻	<u>18 人（新設）</u>
○大学院音楽研究科（修士課程）	
声楽専攻	<u>12 人（8 人減）</u>
音楽文化学専攻	<u>29 人（6 人減）</u>
オペラ専攻	<u>8 人（新設）</u>
○大学院国際芸術創造研究科（修士課程）	
アートプロデュース専攻	<u>10 人（新設）</u>

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）学部・研究科毎の委員会等において、社会的状況の変化や本学の機能強化推進等の観点から検討を行った結果、平成 23 年度及び平成 28 年度において入学定員の変更、及び新組織等の整備を実施することとし、設置計画等を申請したことから、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

美術研究科 質の向上度「教育活動の状況」（P. 2-31）

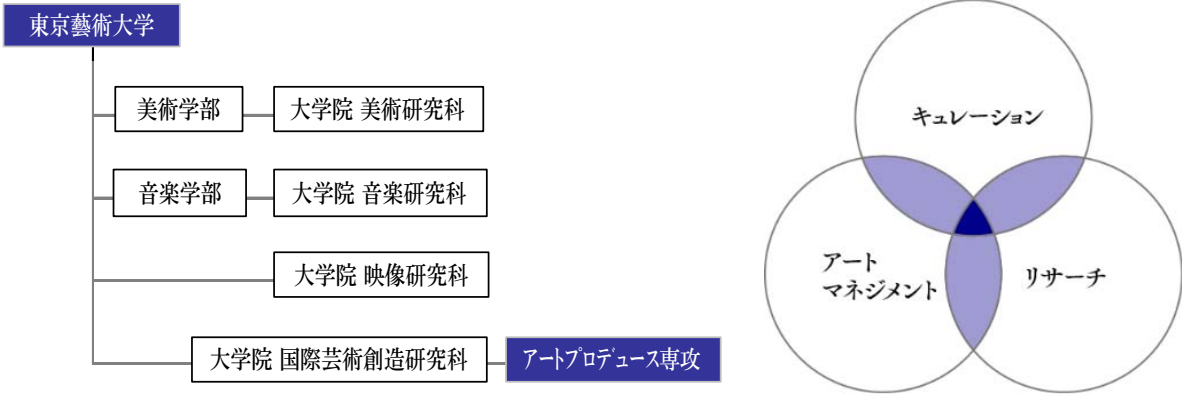
音楽研究科 観点「教育実施体制」（P. 4-6）

計画 2－2 「【12】【★】国際舞台で活躍できる芸術家育成のための新たな大学院組織整備について、平成 28 年度設置に向けた制度設計を行う。」に係る状況

「計画 2－1 【11】（P.42）」に記載したとおり、平成 26 年度以降、「グローバル展開」を大学改革・機能強化の中核と位置づけ、国際舞台で活躍する人材育成等を戦略的に行うこととし、平成 28 年度より新たにグローバル化に対応する研究科及び既存研究科に 2 専攻を設置する計画を立案し、文部科学省に対し設置認可申請を行った。

新しく独立研究科として設置予定の国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻は、「アートマネジメント」「キュレーション」「リサーチ」の 3 つの研究分野を持ち、本学が所有する芸術資源等を活かしながら、専門領域によって分かれている芸術文化のさまざまな実践を横断的かつ有機的に結びつけ、戦略的に企画・運営・発信し、芸術と社会との新しい関係を提案する人材を養成することとしている（資料 12－1：大学院国際芸術創造研究科 参照）。

資料 12－ 1：大学院国際芸術創造研究科



既存研究科である美術研究科に設置予定のグローバルアートプラクティス専攻では、グローバルな視野をもち、とりわけ現代芸術分野において、実践的に社会と関係し、我が国独自の制作手法（ジャパンオリジナル）を強みにした新しい芸術の価値を創出し、発信することを推進できる人材の育成を目的としている。また、社会のニーズを踏まえた地域創生や世界の Social Art Practice の分野で世界を牽引できる芸術家の育成を目指している。

また、音楽研究科に設置予定のオペラ専攻では、オペラ劇場において歌手に必要とされる歌唱技術は勿論、国際的に通用する身体表現や語学能力等を修得できる、より専門的なプログラムを展開する予定である。国内外で活躍する指揮者、歌手、演出家、音楽・言語指導者を積極的に招聘することにより、第一線の国際的な舞台で活躍でき得るグローバルな人材を育成し、輩出することを目指している。

さらに、これらの新研究科・専攻においては、海外一流芸術大学等から教員等を招聘し、授業を実施するとともに、国際共同カリキュラム（ジョイントディグリー）構築を予定している。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）本学の機能強化と一体となった大学院組織改革として、新研究科及び新専攻の制度設計を行い、平成 28 年度からの設置が認可されたため、また、入試状況においても、志願者確保や定員充足率等を十分に対応している（資料 12－ 2：入試状況 参照）と考えられるため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

美術研究科 質の向上度「教育活動の状況」（P. 2-31）

音楽研究科 観点「教育実施体制」（P. 4-6）

資料 12－ 2：平成 28 年度入試状況（抜粋）

区 分		入学 定員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			倍率
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
美術研究科	グローバルアート プラクティス	18	(3) 9	(15) 15	(18) 24	(2) 8	(15) 14	(17) 22	(1) 5	(6) 8	(7) 13	4	(6) 8	(6) 12	1.3
音楽研究科	オ ペ ラ	8	19	37	56	18	36	54	3	6	9	3	6	9	7.0
国際芸術 創造研究科	ア ー ト プ ロ デ ュ ー ス	10	(2) 13	(1) 25	(3) 38	(2) 13	(1) 24	(3) 37	(2) 4	(2) 9	(2) 13	(2) 4	(2) 8	(2) 12	3.8

注 ()内数は、外国人留学生を外数で表す。

○小項目 3「教育力の向上を図るため、芸術分野の特性に応じた F D 等を実践する。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 3-1 「【13】 学生による授業評価アンケートを、定期的実施する。」に係る状況

本学では、個々の教員による授業内容、シラバスの記述、授業方法等の改善支援を目的に実施する「学生による授業評価アンケート」と、学習や学生生活、そして施設や学生支援面の現状を把握し、各種の学生支援方策の基礎とする「学習と学生生活アンケート」を隔年で在学生に対し実施している（資料 13-1：学生アンケート実施状況 参照）。集計結果については、前者においては各学部教務委員会及び大学院映像研究科教授会を通して各教員へフィードバックし、後者においては教育研究評議会等へ配布し、改善課題を確認・検討している（アンケート結果を受けて取り組んだ学生支援については、中項目 3 計画 1-2 【17】（P.53）を参照）。

資料 13-1：学生アンケート実施状況

① 「学生による授業評価アンケート」実施年度及び状況

平成 23 年度	対象者数：4,751 名 回答者数：3,039 名（回収率：64.0%）
平成 25 年度	対象者数：4,466 名 回答者数：2,529 名（回収率：56.6%）
平成 27 年度	対象者数：5,131 名 回答者数：3,399 名（回収率：66.2%）

② 「学習と学生生活アンケート」実施年度及び状況

平成 22 年度	対象者数：1,281 名 回答者数：266 名（回収率：20.8%）
平成 24 年度	対象者数：1,393 名 回答者数：268 名（回収率：19.2%）
平成 26 年度	対象者数：3,528 名 回答者数：601 名（回収率：18.5%）

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）「学生による授業評価アンケート」及び「学習と学生生活アンケート」を隔年で実施し、各教員及び各種委員会において、教育力向上を図るための改善課題の検討に役立てているため、実施状況が良好であると判断できる。

計画 3-2 「【14】 講評会、公開レッスン等の実施を、教育力評価に活用する。」に係る状況

本学の専門教育は、個人指導、少人数グループでの指導を中心とした授業方法を採用している。こうした授業方法を採っていることから、専門実技（又は制作）に関する授業においては、常に教員と学生の間での双方向のやりとりが行われ、個別にあるいは適時的に指導方法を見直しつつ進められており、教員は常日頃から学生から授業を評価され、FD 的効果を得ていると言える。また、各科・専攻内での教員会議や、複数教員担当制の実施、講評会・公開試験演奏などを通して、教員間の指導方法の交換、評価を行っている。

美術学部においては講評会という形で評価審査が行われ、それを同時に FD の中心として位置付けている。また、学内の教員に止まらず、広く外部からの意見も積極的に取り入れるため、外部の専門家を招聘する場合がある。例えば美術学部建築科では科内の講評会のほかに、東京大学、東京工業大学から選抜された卒業設計の作品を講評する「卒業設計合同講評会」を開催し、活発な意見交換が行われている。また、絵画科油画専攻では、教育及び評価の透明性を図るため、各学年において公開で講評会



（参考）外部者による講評会

<http://geidai-oil.com/>

を実施し、その結果は進級制作展において発表され、その中でさらに外部講師を招き講評会を実施することもある。進級制作展にとどまらず、卒業・修了制作展、内覧会においても、外部評論家、美術家等をゲストに招き、教育現場に外部からのFDに対する評価・意見を積極的に取り入れている。さらに、本学教員が他大学の講評会に出席し、相互評価の関係を構築するということもある。

音楽学部においては、FD推進週間を設け、毎年度特定の学科・専攻を定め、公開授業・定期演奏試験、研究分野においては論文発表会等を利用したFDを実施し、終了後には実科教員と参加教員による意見交換等を行っている。

映像研究科においては、制作課題修了ごとに講評会を実施しており、当該分野の全教員の他、他分野の教員及び外部の専門家も参加している。講評会では、教員同士の意見交換を行い、その結果、具体的な指導方法の改善等を行っている（資料14-1、14-2、14-3：講評会等実施例 参照）。

資料14-1：平成27年度 美術学部・美術研究科講評会等実施例

No.	実施日	学科・専攻等	対象学年	参加学生数	内 容	参加教員数
1	7.23	日本画	修士1, 2年	26	修士1, 2年生合同研究会	7
2	9.7	日本画	修士2年	4	修士2年第2研究室（下図）研究会	2
3	1.21	日本画	修士1年	4	修士1年第1研究室研究会	2
4	1.21	日本画	修士1年	4	修士1年第2研究室研究会	2
5	5.7	日本画	学部4年	27	学部4年自由制作研究会	2
6	9.7	日本画	学部4年	28	学部4年自画像研究会	2
7	7.23	日本画	学部4年	27	学部4年自由制作合同研究会	7
8	9.7	日本画	学部4年	28	学部4年（下図）合同研究会	6
9	1.14	日本画	学部4年	28	学部4年自由制作研究会	2
10	5.25	日本画	学部3年	25	学部3年人物制作研究会	2
11	6.18	日本画	学部3年	25	学部3年風景制作研究会	2
12	7.16	日本画	学部3年	25	学部3年自由制作研究会	2
13	10.29	日本画	学部3年	25	学部3年合同研究会	7
14	12.17	日本画	学部3年	25	学部3年自由制作研究会	2
15	1.21	日本画	学部3年	25	学部3年自由制作研究会	2
16	6.15	日本画	学部2年	27	学部2年合同研究会	7
17	7.21	日本画	学部2年	27	学部2年動物制作研究会	2
18	11.30	日本画	学部2年	27	学部2年人物制作研究会	2
19	12.21	日本画	学部2年	27	学部2年風景制作研究会	2
20	1.25	日本画	学部2年	27	学部2年自由制作絹本研究会	2
21	7.16	日本画	学部1年	27	学部1年風景制作研究会	2
22	12.7	日本画	学部1年	27	学部1年人物制作研究会	2
23	12.18	日本画	学部1年	27	学部1年合同研究会	7
24	10.22	日本画	学部1年	27	学部1年静物制作研究会	2
25	1.26	日本画	学部1年	27	学部1年自画像絹本研究会	2
26	5.21	油画	学部2年	59	2年生前期全教員批評会	23
27	5.23	油画	学部1年	60	1年生前期全教員批評会	23
28	6.24～25	油画	学部4年	54	4年生前期全教員批評会	23
29	6.29～7.10	油画	学部3年	53	3年生前期全教員批評会（チュートリアル）	23
30	11.9～20	油画	学部3年	53	3年生後期チュートリアル	23
31	11.18～22	油画	学部4年	53	4年生後期全教員批評会	23
32	12.4	油画	学部1年	60	1年生後期全教員批評会	23
33	12.18	油画	学部3年	53	3年生後期全教員批評会	23
34	12.21	油画	博士3年	5	博士展批評会	4
35	1.5～6	油画	学部2年	59	2年生後期全教員批評会	23
36	1.6	油画	博士1年	6	上野校地博士1年批評会	13
37	1.27	油画	学部4年	53	卒制批評会（客員教授）	23
38	1.28	油画	学部4年	53	学部4年最終批評会	2
39	1.29	油画	修士2年	37	修了制作批評会	3
40	2.15	油画	博士1年	2	取手校地博士1年批評会	13
41	7.2	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7
42	7.17	彫刻	学部1年	22	学部1年講評会	7

43	11. 9	彫刻	学部 1 年	22	学部 1 年講評会	7
44	12. 26	彫刻	学部 1 年	22	学部 1 年講評会	7
45	1. 15	彫刻	学部 1 年	22	学部 1 年講評会	7
46	5. 18	彫刻	学部 2 年	22	学部 2 年講評会	4
47	7. 3	彫刻	学部 2 年	22	学部 2 年講評会	7
48	1. 9	彫刻	学部 2 年	22	学部 2 年合同講評会	8
49	1. 9	彫刻	学部 3 年	7	学部 3 年講評会	3
50	1. 9	彫刻	学部 3 年	7	学部 3 年講評会	2
51	1. 10	彫刻	学部 3 年	7	学部 3 年講評会	2
52	1. 11	彫刻	学部 1 年	22	学部 1 年講評会	7
53	1. 21	彫刻	修士 2 年 学部 4 年	38	修士 2 年学部 4 年合同講評会	8
54	4. 28	工芸基礎	学部 1 年	30	基礎造形実習Ⅰ(立体造形実習) 講評会	4
55	5. 26	工芸基礎	学部 1 年	30	絵画実習Ⅰ(素描) 講評会	5
56	6. 27	工芸基礎	学部 1 年	30	塑像実習実習 講評会	7
57	7. 25	工芸基礎	学部 1 年	30	絵画実習Ⅱ(毛筆・扇面) 講評会	5
58	11. 1	工芸基礎	学部 1 年	30	基礎造形実習Ⅱ(ガラス造形実習) 講評会	7
59	12. 5	工芸基礎	学部 1 年	30	基礎造形実習Ⅲ(表示図法, 木工芸実習) 講評会	7
60	1. 18	工芸基礎	学部 1 年	30	基礎造形実習Ⅳ(自由造形実習) 講評会	4
61	7. 22	工芸鍛金	全学年	20	前期講評会	6
62	7. 14	工芸鍛金	修士 1 年	5	取手前期講評会	6
63	1. 19	工芸鍛金	全学年	25	後期講評会(卒業・修了作品含む)	6
64	4. 7	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業・修了制作研究会	6
65	4. 11	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業・修了制作研究会	6
66	4. 14	漆芸	修士 1 年	5	修士 1 年制作研究会	6
67	5. 9	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業・修了制作研究会	6
68	5. 12	漆芸	全学年	30	古典研究発表会	6
69	5. 19	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業・修了制作研究会	6
70	6. 16	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業・修了制作研究会	6
71	7. 21	漆芸	全学年	30	前期講評会	6
72	10. 3	漆芸	学部 4 年 修士 2 年	13	卒業・修了制作研究会	6
73	12. 24	デザイン	博士 3 年	1	博士審査展 審査	10
74	4. 28	デザイン	修士 1 年	35	「デザインプロジェクト」STEP1 講評	11
75	6. 22	デザイン	修士 1 年	35	「デザインプロジェクト」中間講評	11
76	7. 22	デザイン	博士 1 年	35	「デザインプロジェクト」講評	11
77	4. 22	デザイン	博士 3 年	1	博士中間講評	9
78	10. 13	デザイン	博士 2 年	1	博士中間講評	10
79	4. 14	デザイン	修士 2 年 博士 2 年	39	成果展審査	9
80	12. 14	デザイン	修士 2 年	37	「修了制作」講評	10
81	1. 15	デザイン	学部 4 年 修士 2 年	88	「卒業制作, 修了制作」採点	10
82	5. 27	デザイン	学部 4 年	52	実技課題「ブレ卒業制作」講評	9
83	12. 17	デザイン	学部 4 年	51	「卒業制作」講評	10
84	5. 28	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「FUTURE VISION」講評	11
85	7. 14	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「伝統と革新」講評	9
86	11. 10	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「THINK 1」第 1 講評	10
87	11. 17	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「THINK 1」第 2 講評	10
88	12. 22	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「THINK 2」第 1 講評	12
89	1. 5	デザイン	学部 3 年	45	実技課題「THINK 2」第 2 講評	10
90	5. 14	デザイン	学部 2 年	48	実技課題「プレイグラウンド」講評	2
91	6. 16	デザイン	学部 2 年	48	実技課題「旅」講評	2
92	7. 21	デザイン	学部 2 年	48	実技課題「座る」講評	3
93	10. 27	デザイン	学部 2 年	48	実技課題「食のデザイン」講評	2

東京芸術大学 教育

94	12.3	デザイン	学部2年	48	「トキのかたち」講評	5
95	1.12	デザイン	学部2年	48	実技課題「対話のかたち」講評	2
96	5.20	デザイン	学部1年	48	デザイン基礎実技「塑造」講評	2
97	5.22	デザイン	学部1年	48	デザイン基礎実技「線描」講評	2
98	7.2	デザイン	学部1年	48	実技課題「調べる」講評	1
99	10.2	デザイン	学部1年	48	実技課題「にぎる」講評	2
100	11.26	デザイン	学部1年	48	実技課題「観る・探す」講評	2
101	1.13	デザイン	学部1年	48	実技課題「マテリアルズ」講評	2
102	4.15	建築	学部4年, 修士1年	16	AAスクール合同WS講評会	10
103	4.27	建築	学部1年	15	学部1年課題「場所」講評会	5
104	5.11	建築	学部2年	15	学部2年課題「住宅Ⅰ」講評会	3
105	5.18	建築	学部3年	16	学部3年課題「教育施設」講評会	3
106	5.25	建築	学部1年	15	学部1年課題「空間」講評会	5
107	6.8	建築	学部4年	17	学部4年課題「建築と表現」講評会	4
108	6.8	建築	学部2年	15	学部2年課題「住宅Ⅱ」講評会	3
109	6.15	建築	学部1年	15	学部1年課題「基礎」講評会	4
110	6.22	建築専攻	修士2年	22	大学院「修了論文・制作」中間講評会	20
111	7.6	建築	学部4年	17	学部4年課題「プレディプロマ」講評会	3
112	7.6	建築	学部3年	49	学部3年課題「地域施設」講評会	3
113	7.6	建築	学部2年	15	学部2年課題「集合住宅Ⅰ」講評会	3
114	7.7	建築専攻	修士1・2年	15	大学院課題「建築設計Ⅰ」講評会	20
115	7.14	建築	学部1～4年	60	学部前期合同講評会	20
116	10.26	建築	学部2年	15	学部1年課題「椅子」講評会	6
117	10.27	建築	学部4年	20	学部4年「卒業制作」中間講評会	20
118	11.30	建築	学部1年	15	大学院「修了論文・制作」中間講評会2	20
119	11.30	建築	学部2年	15	学部2年課題「集合住宅Ⅱ」講評会	3
120	11.30	建築	学部3年	15	学部3年課題「地区設計」講評会	6
121	12.4	建築	学部1～3年	30	学部後期合同講評会	20
122	12.15	建築専攻	修士1・2年	14	大学院課題「建築設計Ⅱ」講評会	20
123	12.22	建築	学部4年	20	学部4年「卒業制作」講評会	5
124	12.23	建築	学部4年	22	大学院「修了制作」講評会	20
125	1.16	建築	学部1～3年	47	学部科内コンペ講評会	26
126	4.10	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
127	4.24	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
128	5.8	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
129	5.29	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
130	6.5	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
131	6.12	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
132	6.26	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
133	7.3	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
134	7.10	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
135	7.12	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
136	7.19	芸術学	修士・博士	21	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
137	10.2	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
138	10.9	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
139	10.16	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
140	11.6	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
141	11.13	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
142	11.20	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
143	11.27	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
144	12.11	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
145	12.18	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
146	12.25	芸術学	修士・博士	23	日本東洋美術史, 工芸研究室大学院講評会	4
147	4.21	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
148	4.28	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
149	5.19	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
150	6.2	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
151	6.9	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
152	6.16	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
153	6.23	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3

154	6.30	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
155	7.7	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
156	7.14	芸術学	修士・博士	18	西洋美術史研究室大学院講評会	3
157	10.6	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
158	10.13	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
159	10.20	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
160	10.27	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
161	11.10	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
162	11.17	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
163	11.24	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
164	12.1	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
165	12.8	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
166	12.15	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
167	1.5	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
168	1.12	芸術学	修士・博士	20	西洋美術史研究室大学院講評会	3
169	7.29	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
170	7.31	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
171	9.7	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
172	9.9	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
173	9.11	芸術学	修士・博士	10	美学研究室大学院講評会	2
174	5.14	美術教育	全学年	24	課題研究検討会	13
175	5.21	美術教育	全学年	24	課題研究検討会	13
176	6.25	美術教育	全学年	24	課題研究検討会	13
177	7.22	美術教育	全学年	24	講評会	16
178	7.23	美術教育	全学年	24	講評会	16
179	10.15	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
180	10.22	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
181	10.29	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
182	11.19	美術教育	全学年	23	課題研究検討会	13
183	12.21	美術教育	全学年	23	博士論文発表会	14
184	12.24	美術教育	全学年	23	博士論文発表会	15
185	1.19	美術教育	全学年	23	講評会	16
186	1.20	美術教育	全学年	23	講評会	16
187	1.27	美術教育	全学年	23	修士論文発表会	13

資料 14－2：平成 27 年度 音楽学部・音楽研究科公開試験等実施例

No.	開催日	演奏会名	会場
1	5.13	学内演奏会（古楽）	第 6 ホール
2	5.11	学内演奏会（オルガン）	奏楽堂
3	5.8	学内演奏会（管打楽）	奏楽堂
4	5.15	学内演奏会（管打楽）	奏楽堂
5	5.18	学内演奏会（管打楽）	奏楽堂
6	5.14	学内演奏会（ピアノ）	奏楽堂
7	5.20	学内演奏会（ピアノ）	奏楽堂
8	5.26	学内演奏会（ピアノ）	奏楽堂
9	6.16	学内演奏会（ピアノ）	奏楽堂
10	6.19	学内演奏会（ピアノ）	奏楽堂
11	10.13	学内演奏会（声楽）	奏楽堂
12	10.14	学内演奏会（声楽）	奏楽堂
13	10.15	学内演奏会（声楽）	奏楽堂
14	10.16	学内演奏会（声楽）	奏楽堂
15	10.19	学内演奏会（箏曲，尺八）	奏楽堂
16	10.20	学内演奏会（三味線音楽・日本舞踊・雅楽）	奏楽堂
17	10.21	学内演奏会（能楽）	第 4 ホール
18	10.22	学内演奏会（指揮）	奏楽堂
19	11.4	学内演奏会（弦楽）	奏楽堂
20	11.5	学内演奏会（弦楽）	奏楽堂
21	11.6	学内演奏会（弦楽）	奏楽堂
22	11.24	学内演奏会（作曲）	奏楽堂
23	11.27	学内演奏会（作曲）	奏楽堂

24	12. 8	学内演奏会（楽理）	第 6 ホール
25	12. 7	卒業演奏会（ピアノ）	奏楽堂
26	12. 8	卒業演奏会（ピアノ）	奏楽堂
27	12. 9	卒業演奏会（ピアノ）	奏楽堂
28	12. 14	卒業演奏会（管打楽）	奏楽堂
29	12. 15	卒業演奏会（管打楽）	奏楽堂
30	1. 5	卒業演奏会（弦楽）	奏楽堂
31	1. 6	卒業演奏会（弦楽）	奏楽堂
32	1. 6	卒業演奏会（古楽）	第 6 ホール
33	1. 7	卒業演奏会（尺八・箏曲）	奏楽堂
34	1. 8	卒業演奏会（オルガン）	奏楽堂
35	1. 12	卒業演奏会（声楽）	奏楽堂
36	1. 13	卒業演奏会（声楽）	奏楽堂
37	1. 13	卒業演奏会（能楽）	第 4 ホール
38	1. 14	卒業演奏会（指揮）	奏楽堂
39	1. 15	卒業演奏会（三味線音楽・日本舞踊・雅楽）	奏楽堂
40	1. 19	修士学位審査会公開演奏会（弦楽）	第 6 ホール
41	1. 19	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	奏楽堂
42	1. 20	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	奏楽堂
43	1. 21	修士学位審査会公開演奏会（弦楽・室内楽）	第 6 ホール
44	1. 25	修士学位審査会公開演奏会（オルガン）	奏楽堂
45	1. 25	修士学位審査会公開演奏会（邦楽）	第 6 ホール
46	1. 26	修士学位審査会公開演奏会（ピアノ）	第 6 ホール
47	1. 27	修士学位審査会公開演奏会（ピアノ）	第 6 ホール
48	1. 28	修士学位審査会公開演奏会（ピアノ）	第 6 ホール
49	1. 28	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	奏楽堂
50	1. 29	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	奏楽堂
51	1. 29	修士学位審査会公開演奏会（管打楽）	第 6 ホール
52	2. 1	修士学位審査会公開演奏会（管打楽）	第 6 ホール
53	2. 2	修士学位審査会公開演奏会（古楽）	奏楽堂

資料 14－3：平成 27 年度 映像研究科講評会等実施例

No.	実施日	専攻名	内容	参加教員数
1	6. 27	映画	1 年生春期実習	6
2	12. 11	映画	1 年生夏期実習	6
3	11. 25	映画	2 年生オムニバス作品講評会	6
4	1. 28～29	映画	2 年生修了制作作品講評会	8
5	4. 10	メディア映像	修士 2 年 講評会	5
6	4. 24	メディア映像	修士 1 年 メディアアート特別演習 講評会	5
7	5. 29	メディア映像	修士 1 年 メディアデザイン特別演習 講評会	5
8	6. 19	メディア映像	修士 1 年 メディア研究特別演習 講評会	7
9	7. 10	メディア映像	修士 1 年 メディア技術特別演習 講評会	4
10	7. 17	メディア映像	修士 2 年 修了制作 中間審査会	5
11	7. 24	メディア映像	修士 1 年 特別演習成果発表 講評会	5
12	10. 2	メディア映像	修士 2 年 修了制作 経過報告会	4
13	10. 9	メディア映像	修士 1 年 夏期成果発表会	4
14	11. 20	メディア映像	修士 2 年 修了制作 事前審査会	4
15	11. 27	メディア映像	修士 1 年 年次成果発表 中間講評会	4
16	1. 13	メディア映像	修士 2 年 修了制作 最終審査会	4
17	1. 21	メディア映像	修士 1 年 年次成果発表 講評会	4
18	4. 10	アニメーション	一年二年合同上映会	2
19	4. 7	アニメーション	修了制作 企画発表	4
20	6. 2	アニメーション	修了制作 音楽環境創造科 V コンテプレゼン	4
21	6. 19	アニメーション	M1 演習課題講評会	4
22	4. 8	アニメーション	一年次制作 企画発表 I	4
23	11. 4	アニメーション	一年次制作 映像完成上映	4
24	10. 13	アニメーション	一年次制作 音楽環境創造科 V コンテプレゼン	6
25	1. 12	アニメーション	修了制作 サウンド講評会	7
26	2. 25	アニメーション	修了制作 学内完成上映	4

27	1. 23	アニメーション	一年次制作 作品上映会	6
28	7. 3	アニメーション	修了制作 中間発表Ⅰ	5
29	10. 2	アニメーション	修了制作 中間発表Ⅱ	4
30	7. 10	アニメーション	一年次制作 中間発表	4
31	12. 8	アニメーション	修了制作 映像完成上映	4

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）本学の特色である個人指導や少人数教育という授業形態を生かし、日々、教員・学生間での双方向の意見交換が行われており、日常的にFDや教育力評価が行われていると言える。また、その教育成果は講評会、演奏会等により、学内者はもとより学外者を含め公開されており、FDの向上が図られているといえるため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

- 美術学部 観点「教育実施体制」（P.1-6～8）
- 美術研究科 観点「教育実施体制」（P.2-5～7）
- 音楽学部 観点「教育実施体制」（P.3-4）
観点「教育内容・方法」（P.3-13～19）
- 音楽研究科 観点「教育実施体制」（P.4-3～10）
観点「教育内容・方法」（P.4-16～18）
- 映像研究科 観点「教育実施体制」（P.5-8～9）

計画3-3「【15】FDに関する研修会、講演会等を実施する。」に係る状況

FDに関する実際の取組については、計画3-2【14】(P.45)に記載したとおりであるが、さらに、授業内容、方法等の改善・向上に関する企画立案等を担当するFD対策部会を教育推進室に置いて、教育内容改善のための検討や講習会等を実施している（資料15-1：研修会、講演会実績例 参照）（開催実績：平成22年度5回＋講習会1回、平成23年度3回＋講習会1回、平成24年度5回＋講習会1回、平成25年度3回＋講習会1回、平成26年度3回＋講習会1回、平成27年度6回＋講習会1回）。

資料15-1：FDに関する研修会、講演会実績例

No.	開催時期	講習会名	内容	講師名
1	22～24年度	藝大生のメンタルヘルス	核家族や少子化等の進展、さらに地域における子どもを育成する機能の弱体化などが進行する中で、幼少期から人との関わりや実体験を得る機会が乏しくなっていることや、親への依存が高まっていることも指摘され、その結果として、「人とうまくつきあえない」、「人の噂が気になる」、「無気力」など、様々な心の問題を抱えている学生が増えており、初期対応としてのスキルを修得する。	内海健 ・保健管理センター准教授 ・精神科医
2	25年度	藝大教職員・学生のフィジカルヘルス～大学における生活習慣が蝕む体の健康～	広くには教育研究、社会的サービス、管理運営の各側面の機能開発、それらを包括する組織体と教授職の両方の自己点検・評価を、また、狭義には教育の規範構造、内容（専門教育と教養教育）、カリキュラム、技術などに関する教授陣の資質の改善を目的とする。	須甲松信 ・保健管理センター長 ・内科医
3	26年度	我が国の健康政策	我が国は、世界でもトップクラスの長寿国	寺本民生

		について－健康寿命の延伸のために－	であるが、同時に健康寿命との差である「不健康な期間」（WHO が提示）も世界でトップクラスにある。 国家的に問題となる医療費の問題も考えると、この不健康な期間を短縮することが喫緊の課題である。そこに内在する問題が脳梗塞や心筋梗塞などの心血管病である。 本講演では健康寿命の延伸のために、国を挙げて行っている特定健診の意義及びその対策を教授する。	・帝京大学臨床研究センター長
4	27 年度	国際バカロレア（IB）理解のための講演会	本学のグローバル戦略の中で、グローバルに活躍できる芸術家育成に向けた多面的な入学試験・選抜方法として、国際バカロレアの導入が予定されていることを踏まえ、今後入学が期待される学生の中高等教育段階での学びを理解し、入試方法や教育・指導方法の改善に資する知識を得る。	カメダ・クインシー 玉川大学 K-16 一貫教育研究センター講師

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）教育推進室及び FD 対策部会を設置し、教育内容、方法その他改善のための検討を行う全学的な組織を整備しており、また、FD に関する研修会、講演会等を実施し教育力向上に役立てているため、実施状況が良好であると判断できる。

②優れた点及び改善を要する点等

（優れた点） 1. 本学の伝統であり、芸術教育に欠かせない、少人数教育、個人指導を着実に実施する教員配置を行ったことに加え、世界トップアーティスト人材育成のため、ロンドン芸術大学等の海外から招聘した一線級芸術家等を併せて配置することにより、指導体制の強化・充実に図ったこと。（計画 1－1 【7】）

2. 国内における展覧会・演奏会等多様な発表の場を確保し、教育研究活動の成果を積極的に発信したことに加え、海外協定機関等と連携し、越後妻有アートトリエンナーレ等国际舞台における教育成果発表を積極的に実施したこと。（計画 1－2 【8】）

（改善を要する点）該当なし

（特色ある点）国際舞台で活躍できる芸術家を戦略的に育成するため、新たな大学院組織整備の制度設計をおこなったこと。（計画 2－2 【12】）

（3）中項目 3 「学生への支援に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目 1 「学生が充実した大学生活を送ることができるよう支援体制を整備し、支援方を展開する。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 1－1 「【16】アドミッションポリシー・教育方針・教育内容等について、印刷物や WEB サイトを通じて平成 24 年度までに具体的に明示する。」に係る状況

本学のアドミッションポリシーについては、各学部・研究科のそれぞれの特性や理念に応じ、求める学生像を中心に明確に定め、本学ウェブサイト、入学者選抜要項、大学案内及び募集要項等で公表し、周知を行ってきたところである。

これまで明確には制定されていなかったディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについては、平成 24 年度までに明示すべく、教育推進室を中心に各学部教務委員会と連携し、調査・検討を実施し、本学公式 WEB サイトより学内外へ公表した（資料 16－1：掲載例 参照）。

資料 16－1：カリキュラム・ポリシー掲載例

（例：美術学部カリキュラムポリシー

http://www.geidai.ac.jp/department/fine_arts/curriculum_policy）



また、本学を受験希望する生徒等に対しては、これまで各学科・専攻独自の HP 等により教育内容の情報公開を行うほか、音楽学部邦楽科、楽理科、音楽環境創造科、大学院音楽研究科音楽文化学専攻、大学院映像研究科において毎年入試説明会を開催し、入試概要説明、教育内容紹介を行い、各学科・専攻による個別対応を行ってきた。

平成 25 年度からは、より具体的な教育内容や教育現場の実態を公開するため、美術学部・美術研究科において全学科・専攻の大学説明会を実施し、カリキュラムはもとより入試課題やその解答例等具体的な説明を行うとともに、当日来場できなかった生徒等に対しては、大学 HP を通して当日の説明資料を公開した。また音楽学部においては、平成 27 年度に大学初となるオープンキャンパスを開催し、各学科の説明会のほか、体験レッスンや在学生に対する公開レッスン、模擬授業、オペラ公開リハーサル見学、奏楽堂バックステージツアーなどを実施した。

また、平成 27 年度には受験者向けの大学案内を全面改訂し、各学部・専攻等で行われている教育研究の実際を具体的なかつ詳細に記載したほか、WEB 入力フォームによる入学手続きの実施、入試総合 WEB サイトの開設、平成 29 年度入試から WEB 出願を導入するための準備等を行い、受験生を含めた学生サービスの向上を図った。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを本学 WEB サイトを通じて公開したほか、これまで行ってきた各科での取組に加え、学部全体での入試説明会やオープンキャンパス等を実施し、積極的に教育実施内容等を発信するなど、学修支援体制の向上が図られたため、実施状況が良好であると判断できる。

計画 1－2 「【17】 学生支援体制（修学支援，生活支援，各種相談等）を充実させ

る。」に係る状況

①学生相談体制の充実

「中項目2 計画3-1【13】(P.44)」に記載したとおり、学生の多様なニーズ及び学生支援の更なる充実を図るため、学部・修士・博士の学生を対象に、学生生活の満足度調査「学習と学生生活アンケート」を実施し、集計結果を踏まえた学生支援の方策等について見直しを行っているところである。

見直しの一つとしては、学生相談体制の強化がある。平成25年度においては、教育担当理事の下「学生支援室」において「学生相談パンフレット」を作成し、新入生オリエンテーションで配布するとともに、学内掲示板、本学公式WEBサイトでの掲載を行い、メールにおいても全学生に配信した。

平成27年度からは、学生相談窓口となる学生相談室に新たに専門の相談員（臨床心理士）を設け、学生の相談体制を拡充した。また、新たに特別修学支援室を保健管理センター内に設置し、センターの職員を中心に支援を行っている。

②メンタルケアの充実

社会情勢の不安等から、近年増加傾向にある学生の精神面での問題に対応するため、平成22年度より、従来からの「心理カウンセラー」に加え、「臨床心理士」を採用し、心理テストの実施を開始するなど、メンタルケアの充実を図った。加えて4月の学生定期健康診断実施時に、メンタルヘルスに関するアンケート調査を実施し、精神疾患患者のスクリーニングを開始した。平成27年度からは臨床心理士によるカウンセリングの時間を増加し、増加するニーズに対応できる体制を整えた（資料17-1：平成27年度診療時間 参照）。

資料17-1：平成27年度診療時間

常勤の精神科医による診療	週4日
非常勤の臨床心理士による学生カウンセリング	週1日（6時間）
非常勤の臨床心理士による学生心理テスト	月1回（午前・午後）
常駐の保健師・看護師による学生の個別相談	随時

③新学生寮の整備

学生寮整備事業（平成23年度～平成25年度の3ヶ年計画）として、老朽化が著しく、建替え時期が到来していた学生寮「石神井寮」（東京都練馬区）を廃止し、上野キャンパス、千住キャンパス、取手キャンパスへの通学がより便利な場所である東京都足立区に、民間資金による長期借入金を活用した事業スキームにより、学生寮「藝心寮」を平成26年2月に竣工した。

総戸数300の個室のうち、20室については音楽の学生による練習を想定した防音室を完備している。その他、住宅棟1階には30室の音楽練習室、別棟の16室にはアトリエを完備するなど、学生の創作・演奏活動を支援する設備が整えられている（資料17-2：藝心寮 参照）。

また、管理人、警備員が昼夜対応するほか、通常のマンションより高い耐震性を確保している。さらに、男女それぞれにエリア分けされ、セキュリティ付きのエントランスホールやエレベーターホールによってプライベートを保ちつつ、交流サロン、談話コーナーをはじめ、寮生同士が交流できる場も用意されている。なお、本学のみならず他大学の学生も寮生として受入れており、多様な学生への支援充実を図っている（資料17-3：藝心寮入居状況 参照）。

資料 17-2 : 藝心寮



資料 17-3 : 藝心寮入居状況（平成 28 年 3 月 31 日現在） ※（ ）内は定員

	男子 126 名 (126 名)	女子 174 名 (174 名)	合計 300 名 (300 名)
留学生（内数）	10 名	16 名	26 名
他大学（日本人・内数）	7 名	3 名	10 名
他大学（留学生・内数）	1 名	0 名	1 名
附属高校（内数）	1 名	1 名	2 名

④新教務システムの導入

学生の学籍、履修、成績等の一元管理を行う教務システム「G-net」を平成 21 年度より導入した。その後、操作マニュアルや FAQ を充実させ、利便性の向上を図ってきたが、PC やスマートフォン等の情報技術の急速な進展に伴い、平成 26 年度より新たな教務システムを導入することとし、「キャンパスプラン」をオープンした。

これにより学籍情報や履修・成績情報がリアルタイムで学生、教員、事務職員間で共有され、また、これまで各担当者がそれぞれ管理していた学生に関する詳細なデータが一元管理されることとなり、学生支援・履修サポートの基礎となる学生データの収集・管理体制が大きく改善された。

⑤キャリア支援・就職支援

近年の不安定な社会情勢において、キャリア支援・就職支援に関する学生からの要望は年々高まっており、本学ではキャリア支援・就職支援体制等を充実させている。

学生課において求人情報・OB 訪問等各種相談を随時受け付けるとともに、東京新卒応援ハローワークから派遣されるジョブサポーターによる週 1 回の職業相談等の対応、また、学部 4 年生をワークスタディとして雇用し、下級生に対してキャリアに関する相談を行っている。

また、就職情報サービス企業の協力により、進路・キャリアの考え方、就職活動の基礎知識・分野別の対策といった内容のセミナーを開催している。近年増加傾向にある美術系学生向けの求人情報サービス企業の提案により、平成 26 年度より、アート系専門職志望の学生対象の合同企業説明会やポートフォリオセミナーを開催している。また、平成 27 年度には、学生の提案により、企業の協力を得て藝大生向けキャリアセミナーを開催した。特にアート系専門職を募集する企業からの説明会開催の要望が多いため、開催回数は年々増加しており、さらに、数社合同で行う合同企業説明会も毎年 1 回開催している（資料 17-4 : 企業セミナー等実施例参照）。

資料 17-4 : 平成 27 年度 企業セミナー等実施例

No.	開催日	セミナー名称	セミナーの内容
1	4.27	リクルートコミュニケーションズ 会社説明会	個別の企業説明会等

2	4.28	DeNA 企業セミナー	個別の企業説明会等
3	4.30	InDesign を使って作成するポートフォリオ講座	就職活動 各分野の対策講座
4	5.7	第1回マイナビセミナー：藝大生のための進路ガイダンス 学生生活と就職活動	就職活動の基礎講座
5	5.21	有限会社ソラ 企業説明会	個別の企業説明会等
6	5.28	インターンシップ講座	就職活動 各分野の対策講座
7	5.28	職務適性テスト	就職活動 各分野の対策講座
8	6.25	朝日新聞 会社説明会	個別の企業説明会等
9	6.25	毎日新聞社 会社説明会	個別の企業説明会等
10	7.3	DeNA 企業セミナー	個別の企業説明会等
11	7.15	広告ビジュアル業界研究セミナー	個別の企業説明会等
12	7.17	ビビビット主催インターンフェア	合同説明会等
13	10.6	NAKED 会社説明会	個別の企業説明会等
14	10.8	第2回マイナビセミナー：藝大生のための就活ガイダンス 後期スタートアップ講座	就職活動の基礎講座
15	10.27	インターンシップ講座	就職活動 各分野の対策講座
16	10.27	職務適性テスト	就職活動 各分野の対策講座
17	11.12	第3回マイナビセミナー：藝大生のための就活ガイダンス エントリーシート・面接対策	就職活動の基礎講座
18	11.18	広告ビジュアル業界研究セミナー	個別の企業説明会等
19	11.23	Honda Design インターンシップ説明会	個別の企業説明会等
20	11.24	ビビビット×Adobe ポートフォリオのつくりかた	就職活動 各分野の対策講座
21	11.19	SPI セミナー&受検会 前半：SPI 概要解説 後半：SPI 受検会	就職活動 各分野の対策講座
22	12.3	藝大 OB によるキャリアセミナー	将来のキャリア・進路を考える
23	12.10	第4回マイナビセミナー：藝大生のための就活ガイダンス 実践！模擬面接講座	就職活動 各分野の対策講座
24	12.11	シャープ株式会社 会社説明会	個別の企業説明会等
25	12.18	博報堂 企業研究セミナー&ポートフォリオ相談会	個別の企業説明会等
26	1.9	平成27年度第1回合同企業研究セミナー（午前の部）	合同説明会等
27	1.9	平成27年度第1回合同企業研究セミナー（午後の部）	合同説明会等
28	1.16	平成27年度第2回合同企業研究セミナー（午前の部）	合同説明会等
29	1.16	平成27年度第2回合同企業研究セミナー（午後の部）	合同説明会等
30	1.28	SPI セミナー&受検会 前半：SPI 概要解説 後半：SPI 受検会	就職活動 各分野の対策講座
31	1.26	電通 業界研究セミナー&ポートフォリオ相談会	個別の企業説明会等

⑥ グローバルサポートセンターの設置

平成26年度より、本学の機能強化戦略の一つとして標榜する「グローバル展開」に対応するべく、教育研究に関する国際化の推進を担う組織として、「東京芸術大学グローバルサポートセンター」を平成26年12月に設置した。

同センターには、専任のコーディネーターやサポートスタッフ等を配置し、海外大学等との国際プロジェクトに係る企画立案及び支援、学生・教職員に対する国際化教育及び海外留学支援、留学生教育に関する調査研究などを行うことで、海外留学等への支援体制が強化されることとなった（3 国際化に関する目標 計画1－1【31】（P.121）及び計画3－1【36】（P.127）を参照）。

⑦ アントレプレヌール支援

また音楽分野における支援として、音楽創造・研究センターによる「アントレプレヌール支援」がある（当該センター事業については2 研究に関する目標 計画1

ー 1 【19】(P.58) を参照)。近年、欧米を中心に注目されてきた音楽系大学の教育研究領域に、「音楽家のための起業家（アントレプレヌール）的な精神とスキルの養成支援」があり、既存の枠に留まらない自由な発想と実現させる行動力をもったアーティストの育成をめざして、音楽キャリアを起業家的な精神をもって築き続けることのできる意識とスキルを養うもので、音楽創造・研究センターでは、アントレプレヌール支援の領域における国際的な動向を調査しながら、①音楽芸術に関する社会発信方法の開発、②新時代の芸術創造を担う人材育成、③さまざまなマニュアル等のツールの作成に取り組み、アントレプレヌール支援を行っている。

事業例の一つに、「邦楽科におけるグローバル・キャリア展開」がある。従来、活動領域として国内に限定的であった「邦楽」分野において、日本伝統音楽の魅力を国外に伝え、将来グローバルな舞台でのキャリア展開を目指す邦楽専攻の大学院生が、即戦力を身に付けていくための契機づくりとして実施している。具体的には、モスクワ音楽院で毎年開催されている国際音楽祭「日本の心」に、自主企画で出演するまでの一連の流れを支援するプロジェクトとして、実際の公演のほか、演奏家個人ポートフォリオ・サイトの作成、企画案の準備、ワークショップの実施等を行った。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）修学支援体制として教務システムの導入や留学支援体制の強化、各種相談体制として学生相談パンフレットの発行や学生相談室の整備、生活支援体制として新学生寮の整備、また就職支援として企業説明会や企業家精神を養うアントレプレヌール支援等を行うなど、学修支援体制の強化が行われたため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

音楽研究科 質の向上度「教育活動の状況」（P.2-30～31）

計画 1－3 「【18】奨学寄付金の拡充等により、学生への経済的支援を強化する。」に係る状況

①奨学金支援

学生への経済的支援の方策について、日本学生支援機構及び地方公共団体や民間奨学団体の各種奨学金を斡旋しているほか、個人又は団体等からの寄附金等による学内奨学金制度を整備しているところである。これらの情報は、本学 WEB サイト上に掲載しており、奨学金を希望する学生は、各自、提出資料や応募締め切りについて随時確認を行っている。

学内奨学金制度の拡充については、以下のとおり実施し、平成 27 年度末現在 37 の学内奨学金制度を整備している。

- ・ 邦楽（箏曲）専攻の大学院生を対象とした芸大奨学金「中能島賞」を新設し、これにより 26 件の学内奨学金を整備した。（平成 22 年度）
- ・ 美術学部及び美術研究科における優れた芸術文化活動を行う若手芸術家を対象として、次世代の美術界を担う才能のある者を選考し、奨励金を授与して表彰するため「藝大美術エメラルド賞」を創設した。（平成 23 年度）
- ・ 音楽学部及び音楽研究科では、次世代の音楽界を担うことが期待される者を選考し、国内外での音楽研究活動を奨励することを目的として「東京藝術大学宗次徳二特待奨学生」を創設した。（平成 25 年度）この特待制度は、新入生を対象とし、在学期間中における短期留学を含めた国内外の音楽活動を支援することを目的としたものであり、例えば、学部学生では総額として 250 万円（4 年間の授業料相当額）を 4 年間支給する。平成 27 年度の実績では、平成 28 年度の学部及び修士課程の新入生 4 名を決定した。
- ・ 海外渡航に係る学生の負担を軽減し、海外留学をはじめとする学生の海外活動の促進及び充実化、ひいては、国際舞台で活躍できる芸術家育成に資するため、東京藝術大学基金「海外派遣奨学金制度」を創設した。（平成 26 年度）平成 27 年度実績では、イギリ

ス、フランス、中国、カンボジア、インドネシア等に 86 名の学生を派遣するとともに、約 800 万円を助成した（3 国際化に関する目標 計画 3－2 【37】（P.125）参照）。

- ・ 故若杉弘氏の遺贈により、指揮専攻学生の人材育成を図ることを目的として、「若杉弘メモリアル基金賞」を設立した。（平成 27 年度）

②東日本大震災への対応

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災（長野県北部の地震を含む）により授業料等の納付が困難となった学生を対象に「東日本大震災による授業料・入学料・検定料免除制度」を実施する（資料 18－1：免除実績 参照）とともに、国際交流協定校等から寄せられた義援金により、被災者への支援を行うことを目的として緊急災害奨学金「東日本大震災被災学生支援金」を給付型で創設した。

資料 18－1：東日本大震災による授業料・入学料・検定料免除実績

年度	授業料免除	入学料免除	検定料免除
平成 23 年度	延べ 34 名	13 名	3 名
平成 24 年度	延べ 40 名	3 名	1 名
平成 25 年度	延べ 30 名	2 名	2 名
平成 26 年度	延べ 16 名	1 名	6 名
平成 27 年度	延べ 16 名	3 名	8 名

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）奨学寄附金の拡充等により給付型奨学金の充実や、海外活動や留学に特化した奨学金制度の構築、また、東日本大震災被災による経済的困窮者への学納金免除等を実施し、修学支援内容の拡充が行われたため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

美術学部 観点「教育内容・方法」（P.1-15～16）

美術研究科 観点「教育内容・方法」（P.2-19）

②優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）学生支援体制を充実させるものとして、アトリエや音楽練習室を備えた学生寮の整備や、芸術家としての企業家精神を養う取り組みであるアントレプレヌール支援等を実施したこと。（計画 1－2 【17】）

（改善を要する点）該当なし

（特色ある点）該当なし

2 研究に関する目標(大項目)

(1) 中項目 1 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の達成状況分析

① 小項目の分析

○小項目 1 「伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進し、我が国の芸術文化向上に貢献する。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 1-1 「【19】【★】伝統文化や新たな芸術表現創造に関する研究成果を、展覧会や演奏会等を通して広く社会に発信する。」に係る状況

学科・専攻等が企画して大学美術館等で行う展覧会、奏楽堂で行う定期演奏会、演奏芸術センター企画演奏会などを通じ、学科・専攻としての組織的な研究の成果や、学科・専攻等の枠を越えた連携の成果を発信している（3 社会連携・社会貢献に関する目標 計画 1-2 【28】(P.99) に記載の状況を参照）。

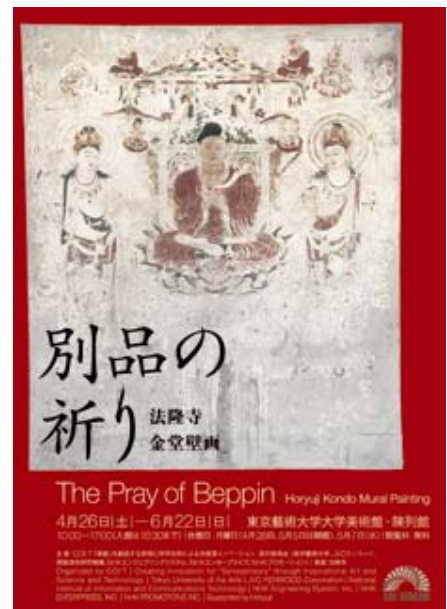
美術分野における伝統文化と新たな芸術表現における研究成果の代表例では、文部科学省特別経費プロジェクトとして、平成 25 年 4 月に設置された「アートイノベーションセンター」による事業がある。

同事業は、我が国における芸術文化資源の利活用を目的とした大学創生事業、戦略的文化外交の実践研究、さらには技術開発力と文化外交力の人材育成を目的としている。

センターによる研究成果の一つとして、通常は公開されていない貴重な芸術作品や失われてしまった文化遺産を、絵画や立体物を問わず、本学が有する特許技術により、現物の質感（手触り）までも忠実に再現した高精細複製作品による展示が挙げられる。例えば、フランス国立クリュニー中世美術館所蔵で、仏国の至宝と呼ばれている「貴婦人と一角獣」タピスリーを、本邦における初公開となる展覧会に合わせ、本学の特許技術により高精細に複製し、同展覧会において発表した（平成 25 年度）。

また、同技術を活用し、文部科学省及び科学技術振興機構採択事業である「革新的イノベーション創出プログラム(COI-T)」において、平成 26 年度開催された「別品の祈りー法隆寺金堂壁画ー」展（平成 26 年 4 月 26 日～6 月 22 日・東京藝術大学陳列館）では、昭和 24 年に甚だしく焼損した法隆寺金堂壁画を焼損前の姿に復元するとともに、最先端技術のスーパーハイビジョン（8K）プロジェクターを用いて、法隆寺金堂をテーマとした超高精細映像表現作品を展示し、飛鳥時代の造営当初の姿をイメージさせる芸術性豊かなコンテンツを開発した（51 日間、入場者数 40,268 人、1 日平均 790 人）。

さらに、COI-T の発展として平成 27 年度に採択された COI 拠点事業「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション」においては、「ハイカラ展ージャポニズムの覚醒」展を本学大学美術館・陳列館にて開催した。世界的に評価の高いボストン美術館に所蔵されている浮世絵コレクションを、高精細に複製した作品をはじめ、複製画を 500%に拡大し細部の質感等が鑑賞できる作品や、4K 映像表現による作品を展



（参考 1）「別品の祈りー法隆寺金堂壁画ー」展

http://innovation.geidai.ac.jp/geidaicoi_seikaten_beppin.html

示した。同展示は、その後、「ハイカラ2ー覚醒するジャポニズムー ボストン美術館スポルディング・コレクションとゴッホ」展へと発展し、東京メトロ銀座駅に開廊した「Glass Box Metro Ginza」（メトロ銀座ギャラリー）においても公開された（計画1ー5【23】（P.77）に記載の状況を参照）。



（参考2）東京メトロ銀座駅「Glass Box Metro Ginza」

音楽分野の代表例では、『カーリユー・リヴァー』＋『隅田川』公演が挙げられる。音楽学部では、平成22年度から3年間にわたって日本学術振興財団の助成を受け、日本と英国の文化交流をテーマとして、若手研究者等海外派遣事業を行った。その集大成として、平成24年度、イギリスの大作曲家、ベンジャミン・ブリテンが1956年の来日中に観劇した能楽『隅田川』から受けた大きな感銘をもとに、8年の歳月をかけて完成させた教会オペラ『カーリユー・リヴァー』を、ロンドン、及び同作品の初演の地であるサフォーク州のオースフォードにおいて、英国の演出家、指揮者、スタッフ、及び本学の声乐、器楽、邦楽という専攻を越えた教員の連携により、『隅田川』との比較同時上演を行った。また、本成果は、帰国後本学奏楽堂においても上演された。

また、日本独自のアピール力を備え、より広いオーディエンスを取り込む新たな芸術創造・社会発信のあり方を確立し、広く社会に呈示することを目的に、平成26年度、文部科学省特別経費を得て、〈創造ラボ〉と〈研究ラボ〉から成る「音楽創造・研究センター」を開設した。

〈創造ラボ〉では本学に蓄積している舞台上演の実践知に、最新テクノロジーを援用した新たな芸術創造をとおして、「藝大ブランド」による音楽舞台芸術表現の創造と発信をおこない、〈研究ラボ〉では、このようにして創造された音楽舞台芸術表現をより効果的に社会発信する方法を開発すると同時に、グローバル発信するための戦略的研究を実施している。また、シンクタンク機能を強化し、新時代の芸術創造を担う人材育成を行っている（アントレプレヌール支援については、教育に関する目標 中項目3計画1ー2【17】を参照）。

〈創造ラボ〉の成果の一つとして、能「胡蝶」を題材とし、現代劇と組み合わせた実験的な舞台芸術作品「演劇・能による「KOCHO/胡蝶」（千住で聴く世界の音 第8回）を上演した。通常の能舞台とは



（参考3）「KOCHO/胡蝶」

http://mcarcenter.main.jp/creative-lab_project/

異なる、現代的な舞台美術の中での能の上演は、かつてない試みだったと言える。

映像分野における研究成果では、佐藤雅彦教授（映像メディア専攻）監修のもと、本学修了生によって制作された短編映画『八芳園』がある。本作品の制作プロジェクト「C-Project」は、「カンヌ」（「C」＝Cannes）への出展を目指したもので、佐藤教授と4名の修了生（当時、修士学生）により2011年8月に立ち上げられた。「新しい感覚を要求する作品」制作を目指し、2年半以上もの間試行錯誤を重ねた結果、2014年第67回カンヌ国際映画祭短編コンペティション部門9作品中の1本として正式に出品された。

また、黒沢清教授（映画専攻）による映画監督作品『岸辺の旅』は、第68回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門に出品され、日本人初となる監督賞を受賞した。



（参考4）「八芳園」

<http://www.geidai.ac.jp/news/2014072920443.html>



（参考5）「岸辺の旅」

<http://www.geidai.ac.jp/news/2015052531064.html>

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）各分野における伝統文化や新たな芸術表現創造に関する研究成果は、展覧会、演奏会等を通じ、積極的に社会への発信がおこなわれており、我が国の芸術文化向上に貢献しているため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（研究）に関連する記載のある箇所】

- 美術学部・美術研究科 質の向上度「研究成果の状況」（P. 1-27）
- 音楽学部・音楽研究科 質の向上度「研究成果の状況」（P. 2-22）
- 映像研究科 質の向上度「研究成果の状況」（P. 3-16）

【関連する学部・研究科等研究業績】

美術学部・美術研究科

業績番号 13 研究テーマ「模倣と超越－美術における学習と創造－」

映像研究科

業績番号 1 研究テーマ「映画『岸辺の旅』の監督・共同脚本」

業績番号 5 研究テーマ「短編映画「八芳園」（2014年）」

計画1-2「【20】研究プロジェクトの活性化を図り、本学の教育研究成果の社会への還元を図るための基盤を強化する。」に係る状況

本学では、円滑な大学運営を行うために理事を補佐する理事室を置いている。各理事室ではそれぞれ所掌している事項に関する企画立案及びその実施並びに推進に関することがその任務とされており、研究については研究推進室が担当している。

研究推進室のもと、平成21年度から研究活動の活性化を図る目的に大型の科研費や国等からの補助金等、外部資金の獲得を目指したスタートアップ支援を行うこととし、科研費や受託研究費等の間接経費を活用した学内公募プロジェクト「東京

「藝術大学プロジェクト（研究プロジェクト・教育プロジェクト）」を展開している
（資料 20－1：東京藝術大学プロジェクト例 参照）。

資料 20－1：東京藝術大学プロジェクト（研究プロジェクト・教育プロジェクト）例

No.	プロジェクト名	研究代表者	期間
1	迎賓館赤坂離宮天井絵画修復事業に関わる予備調査	木島隆康 教授	平成 22 年度
2	総合芸術アーカイブ構築へ向けた予備調査	北郷悟 教授	平成 22～23 年度
3	より良い演奏を引き出す演奏空間の音響条件について	亀川徹 教授	平成 22～23 年度
4	17 世紀，日本製輸出漆器が影響を与えたヨーロッパ塗料芸術表現の実証研究	小椋範彦 准教授	平成 23 年度
5	デジタル時代における写真芸術について（銀塩プロセスとデジタルプロセスのあり方についての研究）	佐藤時啓 教授	平成 23～24 年度
6	アジアの電子音楽～ネットワーク・拠点構築のための予備調査	西岡龍彦 教授	平成 23～24 年度
7	野澤コレクション（クリストファ・N・野澤氏旧蔵の音楽関係資料等）に関する予備調査	大角欣矢 教授	平成 25 年度
8	藤田嗣治の絵画技法を総括する予備調査	木島隆康 教授	平成 26 年度
10	芸術文化資源としての本学所蔵 S P レコードの利活用に向けた予備的研究	土田英三郎 教授	平成 26～27 年度
11	東京藝術大学音響研究室（1967～）による電子音楽創作～その歴史的検証及びアーカイヴ構築にむけて～	福中冬子 准教授	平成 26 年度
12	他民族・多宗教国家における芸術文化の位相-東南アジア各国の現況調査を通して	荒井経 准教授	平成 27 年度
13	制作年代の異なる中国版画（海に見える杜美術館所蔵）に用いられた技法・材料の系統的研究	木島隆康 教授	平成 27 年度
14	金属の美術着色の機構解析に基づく新着色技法の開発	桐野文良 教授	平成 27 年度

これらのプロジェクトで得た具体的な成果として，例えば「総合芸術アーカイブ構築へ向けた予備調査」（No.2）では，本学が保有する各種文化資源の包括的データベース・システム構築に関する研究，及びそのデジタル化の技術開発や公開のための知的財産活用戦略のあり方を研究するため，米国ゲティ財団研究センターやスタンフォード大学等などアメリカにおけるアーカイブ体制等の訪問調査を実施した。また，国立国会図書館，文化庁委託メディア芸術コンソーシアム構築事業，国立情報学研究所の各分野の代表者を一堂に会したシンポジウム「アーカイブから紡ぎ出された知」を開催し，確実に調査研究が出来るための体制等を整備した。その結果，平成 23 年度文部科学省特別経費「次世代レベルの総合芸術アーカイブシステム構築のための研究-東京藝術大学総合芸術アーカイブセンターの設立-」事業が採択され，平成 23 年度から平成 27 年度，総合芸術アーカイブセンターの開設を実現した（計画 1－3【21】（P.63）を参照）。

「デジタル時代における写真芸術について（銀塩プロセスとデジタルプロセスのあり方についての研究）」（No.5）では，近年写真技術の急速なデジタル化により，銀塩写真技術が廃れつつある中で，後者の可能性を再発見するとともに，デジタル・アナログを共存させた写真芸術の可能性を研究した。本研究によりデジタル・アナログ技術を組み合わせた新たな教育方法を確立したほか，両技術を融合させた新たな撮影やプリント方法による作品制作等を実施した。また，こうした成果を踏まえた研究の集大成として「佐藤時啓 光－呼吸 そこにいる，そこにはない展（東京都写真美術館 2014 年）」を開催。平成 26 年度（第 65 回）芸術選奨・文部科学大臣賞・美術部門を得るなど，社会に対する多大なる研究成果の還元へと至った。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）研究推進室のもと、スタートアップ支援として研究プロジェクトを推進し、それによる研究成果に加え、大型の科研費や国等による補助金等の外部資金獲得へと繋がり、研究基盤の強化が図られているため、実施状況が良好であると判断できる。

【関連する学部・研究科等研究業績】

美術学部・美術研究科

業績番号 10 研究テーマ「佐藤時啓 光－呼吸 そこにいる、そこにはいない展」

計画 1－3 「【21】本学歴史的資料等の収集・保存体制の見直しを行い、アーカイブとしての機能強化、情報発信等の体制を整備する。」に係る状況

本学がこれまで生み出してきた教育研究の成果や、収集・蓄積してきた資料（芸術作品・図面・教材・文書・演奏記録・映像・写真・楽器・用具その他）等の文化資源は、学内の各部署においてそれぞれ保管されてきており、横断的に参照することは困難な状況であった。

そこで、多様な文化資源の一元的・横断的な検索・調査を可能ならしめるデータベースを構築しつつ、資料の形態に応じて高次のリアリティを持つデジタル化による利用・公開を通じて新しい芸術創造に寄与する、全学的な「循環型」芸術アーカイブを確立することとし、平成 23 年度～27 年度文部科学省特別経費事業「次世代レベルの総合芸術アーカイブシステム構築のための研究」が採択されるに併せて、東京藝術大学総合芸術アーカイブセンターを設置した。

本センターで扱う資料には、文化財を含む芸術品や、本学で行われた演奏会の録音・録画データなど多岐に渡り、また、組織面・技術面を含めたシステム構築、及び公開・外部利用へ向けた知的財産活用戦略のあり方に関する研究を実施するため、4 つのプロジェクトに分かれて分野を超えた連携をとり研究を行った。

(1) 情報システム研究	本学が蓄積してきた芸術に関するあらゆる情報を整理し、デジタルアーカイブとして統合的に情報を活用できるシステム(ハード・ソフトの両面)を構築する。 アーカイブしたデータは、本学内での教育や研究、創作活動に活用できるように情報基盤を整備するとともに、学内外に情報を発信し、広く社会で共有するためのシステムの研究を進める。
(2) 美術情報 (3Dデータ)研究	大型 3DC T スキャナ等を使用し、主に立体作品の詳細な 3D データを採取することで、目視等では確認できなかった作家の筆致等に至るまで、デジタルアーカイブを作成が可能となるとともに、立体素材として出力し、オリジナルに限りなく近い精巧な複製品として、種々の教育研究に役立てることが可能となる。
(3) 音響・映像 データ研究	本学における演奏会・講演などを記録し、編集作業などを経て、保存する一連のプロセスを円滑にすすめる事を目的とする。また保存したデータについては、学内での利用にとどまらず、外部に向けて発信する事も視野に入れた取り組みを行う。
(4) 大学史文書 史料研究	本学の故小泉文夫教授が世界数十カ国の現地調査で収集した諸民族の音楽資料を閲覧できる小泉文夫記念資料室と、本学の歴史に関わる各種史料を所蔵する大学史史料室を中心に、文書・書籍・楽譜・録音録画等資料の収集・整理を行い、調査研究及びその成果の公開を実施する。

これらの研究成果をもとに、シンポジウムや企画展示を行い、アーカイブがもたらす可能性と課題についての意見交換や、成果報告を実施した。なお、これらシンポジウムや展示内容についても、ウェブサイトでの視聴・閲覧が可能となっている（資料 21－1，21－2，21－3：総合芸術アーカイブセンター事業実績 参照）。

資料 21－1：総合芸術アーカイブセンター シンポジウム

「アーカイブから紡ぎ出される知」(2010 年 12 月 19 日)
国立国会図書館、文化庁メディア芸術コンソーシアム、国立情報学研究所の各分野を代表する機

関から、アーカイブの第一人者の方々を招聘し、東京藝術大学の取り組みとあわせて、各々の現状を紹介する。

高い専門性を踏まえた複合的な視点から意見交換を行い、芸術・文化のアーカイブの持つ特色を明らかにするだけでなく、今後とるべき方針をより明確なものにし、アーカイブ一般に関わる現在の問題点を共有することで、東京藝術大学、日本、そして世界が、どのように創造した芸術・文化、それらの集積、そしてその流通から、どのような知を紡ぎ出すことができるのか、その可能性を探る。

「芸術・文化情報とオープンデーター創造・研究と社会のためのアーカイブ」(2013年11月28日)

昨今、ヨーロッパを中心に人類共通の財産として芸術や文化的価値の高い資料をアーカイブし、データで公開する活動が盛んに行われている。このような状況の中で、東京藝術大学では、本学の活動記録や資料の保存と継承、社会に対するアカウンタビリティ、総合芸術大学としての特性と独自性を強くアピールすることを目標に掲げ、2011年に5ヵ年の計画で総合芸術アーカイブセンターを設立した。本シンポジウムでは、これまでの研究活動の中で明らかになった課題を報告するとともに、国内外で進む“情報のオープン化”の流れに対して、これからの日本の芸術や文化、学術情報の扱いについて法的な要素を絡めた議論を進めていく。

「芸術を記録すること、伝えること」(2015年9月5日)

アーカイブは誰に、何のために必要なのか。計画5年目の最終年度を迎える総合芸術アーカイブセンターは、これまでに本学に関する資料の収集・情報化のほか、資料や情報を再活性化する循環型の活用(収集→{保存・蓄積}→{編集・関連付け}→公開→共有→{教育・研究・創造})をめざして活動してきた。総合芸術アーカイブセンターの活動成果を踏まえ、東京藝術大学に必要なアーカイブとは何か、そしてそれらが組織にもたらす意義を考える。

資料 21-2：総合芸術アーカイブセンター 展覧会

「再構成：東京藝術大学の記録資料から芸術情報資源へ」展

(2015年6月17日～6月25日)

「藝祭100年の歴史」展

(2016年3月23日～3月30日)

資料 21-3：総合芸術アーカイブセンターHPによるデータ配信

(参考) <http://archive.geidai.ac.jp/>



(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) 総合芸術アーカイブセンターによるデータベース構築やウェブサイトによる情報配信、シンポジウムや展覧会等を通じた研究成果発表により、新しい芸術表現創造のための基盤整備が行われたため、実施状況が良好であると判断できる。

計画 1-4 「【22】芸術分野の他領域の研究者と連携し、複合的領域の研究を実施する。」に係る状況

本学の研究推進体制については、「計画 1-2 【20】(P.61)」に記載のとおりである。研究推進室の元、研究活動の一層の活性化及び外部資金の獲得を図るため、科学研究費助成事業、受託研究等の活用を奨励している(資料 22-1：科研費採択一覧、資料 22-2：受託研究一覧 参照)。

資料 22－ 1：科研費採択一覧

No.	研究種目	研究代表者氏名	所属	研究題目
平成 22 年度				
1	基盤研究(A)	藤幡正樹	映像研究科	「描画過程マトリクス」による描画行為の創造性研究
2	基盤研究(B)	桐野文良	美術研究科	金属文化財の腐食機構解析に基づく新防食法の開発
3	基盤研究(B)	大角欣矢	音楽学部	東京音楽学校の諸活動を通してみる日本近代音楽文化の成立－東アジアの視点を交えて－
4	基盤研究(B)	佐藤一郎	美術学部	東京美術学校西洋画科の絵画技法材料の解明－自画像群の自然科学的調査を通して－
5	基盤研究(B)	豊福誠	美術学部	ラビス・ラズリ青色釉薬実現に向けての研究
6	基盤研究(B)	藪内直樹 (佐斗司)	美術研究科	3D デジタルデータをもとにした快慶の特徴基準の作成－快慶とその周辺への形状伝播－
7	基盤研究(B)	桂英史	映像研究科	地域医療と「芸術の臨床」をめぐる相互作用に関する総合的研究
8	基盤研究(B)	アンドラス・モルゴス	美術研究科	Nanotechnology in the conservation
9	基盤研究(B)	橋本久美子	音楽学部	東京音楽学校・東京美術学校の受託作に見る近代日本の芸術教育
10	基盤研究(B)	佐藤直樹	美術学部	19 世紀ローマにおける外国人芸術家の活動と交流に関する包括的研究
11	基盤研究(B)(海外)	工藤晴也	美術学部	世界遺産ガッラ・ブラチディア廟モザイク壁画の保存修復調査と修復技法の実証的研究
12	基盤研究(B)(海外)	佐藤一郎	美術学部	シルクロード・キジル石窟壁画の材料・技法の研究
13	基盤研究(B)(海外)	関出	美術学部	中国における「岩彩画」の登場と戦後日本画のメチエ
14	基盤研究(B)(海外)	島田文雄	美術学部	陶磁描画だみ技法から考察した日本・中国－有田、景德鎮、醴陵の陶磁技法と交流史研究
15	基盤研究(C)	宮廻正明	美術研究科	文化財科学，美術史学，制作技法の情報統合による「薬師寺吉祥天井画像」の復元模写研究
16	基盤研究(C)	古川聖	美術学部	作曲（音楽デザイン）と視覚デザインの統合システムのための研究
17	基盤研究(C)	塚原康子	音楽学部	近代日本の雅楽に関する総合的研究
18	基盤研究(C)	赤沼潔	美術学部	工芸の展開－美術鑄物と表面処理の関係－
19	基盤研究(C)	北郷悟	美術学部	「彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用」
20	基盤研究(C)	三浦正義	音楽学部	三味線音楽における総合譜の作成と記譜法に関する研究
21	基盤研究(C)	毛利嘉孝	音楽学部	東アジアにおけるトランスナショナルなメディアと文化に対する社会学的研究
22	基盤研究(C)	桐山孝司	映像研究科	数理概念の体験的理解のための展示空間デザイン
23	基盤研究(C)	松井茂	映像研究科	音韻と感覚イメージによる触感覚デザインの研究
24	基盤研究(C)	上野勝久	美術研究科	木造建造物の保存修復における伝統技法の類型と革新的技術の考案に関する研究
25	基盤研究(C)	鈴嶋富士子	美術研究科	絵画に生じた結晶様物質に関する研究－顔料と媒剤の関連性及び修復処置について
26	基盤研究(C)	片山まび	美術学部	17 世紀・釜山窯の成立過程とその展開
27	基盤研究(C)	宮永美知代	美術学部	美術解剖学の教育としての今日的意義－日本とドイツの比較・交流を通して－
28	基盤研究(C)	太田暁子	音楽学部	ケンブリッジ大学所蔵の菊亭家旧蔵雅楽関係資料に関する調査研究
29	基盤研究(C)	出口丈人	映像研究科	ナショナル・フィルム期の日・米・仏映画におけるスタイルの比較
30	基盤研究(C)	長谷川慎	音楽学部	音楽科教育における箏指導の楽曲教材開発－古典の手ほどの調査研究を通じて－
31	基盤研究(C)	荒井経	美術学部	日本画と材料－近代に見出された岩絵具と和紙
32	基盤研究(C)	石田圭子	美術学部	ファシスト・モダニズムにおける政治と美学の相互浸透に関する研究
33	基盤研究(C)	三浦康道	美術研究科	幕末・明治期～昭和初期における彫刻道具の調査及び復元考察
34	基盤研究(C)	越川倫明	美術学部	ディントレット派素描のカatalog化：英国外に所蔵される作品総
35	基盤研究(C)	野口昌夫	美術学部	トスカナの歴史的海洋小都市と後背地域の形成に関する研究
36	基盤研究(C)	光井渉	美術学部	方丈建築の空間構成に関する研究
37	基盤研究(C)	尾高暁子	音楽学部	中華民国期後半の上海におけるアマチュア遊芸活動
38	基盤研究(C)	守山光三	音楽学部	作曲時の楽器の再現によるオーケストラレパートリーの探求
39	基盤研究(C)	嘉村哲朗	芸術情報センター	博物館学における新領域の基盤研究
40	基盤研究(C)	岡本美津子	映像研究科	アニメーションの教育・人材育成のためのアーカイブス設置へ向けての要件研究
41	萌芽研究	藪内直樹	美術研究科	教育現場における立体把握模倣による空間認識の研究～

		(佐斗司)		「まねる」は「学ぶ」～
42	萌芽研究	佐藤雅彦	映像研究科	高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究
43	萌芽研究	児美川佳代子(小松佳代子)	美術学部	美術とスポーツにおける身体観の相違についての理論的・実践的研究
44	萌芽研究	山下薫子(坂田薫子)	音楽学部	園田高弘研究ー使用楽譜と蔵書の解析及び弟子へのインタビューを通してー
45	萌芽研究	染谷香理	美術学部	日本画の作法ー「技法書」と「模本」から探る近代日本画の精神
46	若手研究(B)	高木真喜子	美術学部	国際ゴシック様式のフランス絵画ー宮廷・工房・伝統
47	若手研究(B)	磯部美和	音楽学部	言語獲得研究に基づく言語機能の解明ー子どもの日本語獲得を中心に
48	若手研究(B)	山田修	美術学部	彫刻文化財の修理における三次元デジタルデータの実践的な利活用とその効果の研究
49	若手研究(B)	森田都紀	音楽学部	能の音楽の歴史的研究ー森田流能管の音楽伝承の形成過程-
50	若手研究(B)	濱崎友絵	音楽学部	イスタンブール音楽院の設立にみるトルコの音楽変容
51	研究活動スタート支援	藤嶋ちはる	音楽学部	アイスラーとデッサウー亡命期の祖国を主題とした大規模作品をめぐるー
52	研究活動スタート支援	葛西周	音楽学部	日本の植民地政策における音楽の機能の研究: 1930～40年代の台湾・朝鮮を中心に
53	研究活動スタート支援	丸山洋司	音楽学部	近代における北インド古典音楽理論の構築ーラーガ分類法の確立をめぐる問題点
54	研究活動スタート支援	吉田朝子	大学美術館	日本の近代・洋風彫刻の受容についての考察ー工部美術学校彫刻学科卒業生の足跡から
平成 23 年度				
55	基盤研究(A)	木島隆康	美術研究科	迎賓館赤坂離宮天井絵画修復事業に関わる損傷と劣化原因の解明
56	基盤研究(B)	宮廻正明	美術研究科	模倣と超越ー美術における学習と創造ー
57	基盤研究(B)	毛利嘉孝	音楽学部	多文化社会におけるメディアの公共性と文化的市民権
58	基盤研究(B)	稲葉政満	美術研究科	耐久性に優れた楮紙の製造方法の開発
59	基盤研究(C)	赤沼潔	美術学部	工芸の展開ー美術鑄物の色沢と熱処理の関係
60	基盤研究(C)	松村智郁子	音楽学部	明治期における蠟管蓄音機の受容と普及の研究ー音楽, 声の記録と社会的背景を中心にー
61	基盤研究(C)	佐野靖	音楽学部	音楽アウトリーチ活動の評価に関する研究
62	基盤研究(C)	塚原康子	音楽学部	海軍軍楽長・吉本光蔵日記の研究ー20世紀初頭の日欧間における音楽情報交流
63	基盤研究(C)	福中冬子	音楽学部	「文化的自由の為の会議」から検証する, 現代音楽における「政治性」
64	基盤研究(C)	野川美穂子	音楽学部	地歌と地歌以外の三味線音楽との楽曲交流に関する研究
65	基盤研究(C)	伊藤有壱	映像研究科	クレイ・アニメーションにおける立体映像の撮影手法
66	萌芽研究	桐野文良	美術研究科	F e 系陶磁器釉薬の発色機構の解明
67	萌芽研究	安藤美奈	美術学部	訪日外国人旅行者の日本国内文化施設における芸術消費に関する調査研究
68	若手研究(B)	青木香代子	美術学部	17世紀ヴェネツィアにおける公衆オペラ劇場誕生の経緯とその実態
69	若手研究(B)	磯部美和	音トレ	統語理論を基礎とした日本語獲得過程の解明
70	若手研究(B)	田中圭子	大学美術館	平田郷陽と人形芸術運動の研究ー平田家資料の調査を通してー
71	研究活動スタート支援	杉岡菜穂子	美術研究科	染織文化財の微細構造解明と国際技術交流史の研究
72	研究活動スタート支援	成田麗奈	音楽学部	1920年代フランスにおける「前衛音楽」の表象
73	研究活動スタート支援	田中眞奈子	社会連携センター	非破壊分析による火縄銃に用いられた材料と製造方法の解明
平成 24 年度				
74	研究活動スタート支援	大原啓子(貴田啓子)	美術研究科	紙質文化財における彩色材が和紙の劣化に及ぼす影響
75	研究活動スタート支援	前島美保	音楽学部	江戸期上方歌舞伎の音楽演出に関する基礎的研究
76	研究活動スタート支援	大矢素子	音楽学部	文化史としての楽器開発ー20世紀前半フランスの電子楽器を事例として
77	基盤研究(C)	布山毅	映像研究科	創造性教育のための協調的アニメーション制作支援システムの研究開発
78	基盤研究(C)	鈴嶋富士子	美術研究科	絵画に発生する劣化生成物の研究ー発生原因と修復処置についてー
79	基盤研究(C)	河内晋平	総合芸術アーカイブセンター	文化財管理における美術品用語事典の作成

80	基盤研究(C)	鈴木賢子	美術学部	W.G.ゼーバルト研究
81	基盤研究(C)	長谷川 慎	音楽学部	野川流の地歌三味線についての研究
82	基盤研究(C)	宮 永 美 知代	美術学部	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開
83	基盤研究(C)	萩岡松韻	音楽学部	山田流箏曲の古曲についての研究
84	基盤研究(C)	枝川明敬	音楽学部	地域固有の精神文化に基づく文化活動が地域活性化に及ぼす効果とその方策に関する研究
85	基盤研究(C)	出口丈人	映像研究科	映像ボタンを通して現れる映画表現の国際比較研究
86	基盤研究(C)	古川聖	美術学部	音楽情動生成のモデル化とそれに基づく作品制作の研究
87	挑戦的萌芽研究	荒井経	美術研究科	東アジアにおける国号絵画と模写－1945年以降の日本画、韓国画、中国画を対象に
88	挑戦的萌芽研究	羽藤広輔	美術学部	書と建築－建築家白井晟一の事例を中心に－
89	挑戦的萌芽研究	中村 るい	美術学部	ギリシャ・クラシック期の身体表現の美術解剖学的考察
90	挑戦的萌芽研究	平論一郎	美術研究科	現代美術における保存・修復ネットワークの構築
91	挑戦的萌芽研究	長 嶋 寛 幸	映像研究科	デジタル音響技術による新たな物語表現研究
92	若手研究(B)	小 林 亜 起 子	美術学部	ブーシェによるボーヴェ製作所のタピスリー研究：下絵と関連素描のカタログ化の試み
93	若手研究(B)	船 岡 美 穂 子	美術学部	18世紀フランスの静物画研究－美術愛好家の展示空間の視点から
94	若手研究(B)	葛西周	音楽学部	近代日本の植民地映画における音楽の象徴性の比較的研究
95	若手研究(B)	馬定延	映像研究科	初期コンピュータアートの成立に関する実証的研究
96	若手研究(B)	大森晋輔	音楽学部	ピエール・クロソウスキーの作品における言語論の研究
97	若手研究(B)	大沼覚子	音楽学部	戦後日本の幼稚園における音楽活動の展開に関する総合的研究
98	基盤研究(B)(海外)	佐藤一郎	美術学部	シルクロード・キジル石窟壁画の絵画材料・絵画技術の研究
99	基盤研究(B)	植村幸生	音楽学部	大学と地域の連携による江戸伝統音楽・芸能の継承支援：新たなインリーチを求めて
100	基盤研究(B)	古田亮	大学美術館	遺品調査による藤田嗣治研究－君代夫人旧蔵資料のアーカイブ化と公開－
101	基盤研究(B)	藪内直樹(佐斗司)	美術研究科	3Dデジタルデータの仮想立体画像を用いた木取り・木寄せ研究 平安時代初期～鎌倉期
102	若手研究(A)	杉岡奈穂子	美術研究科	19世紀の東西文化交流でもたらされた染色・絵画材料のナノ構造解明
103	研究成果公開促進費(学術図書)	廣岡(須賀)みほ	美術学部	花木の象・国宝都久夫須麻神社
平成25年度				
104	基盤研究(C)	秋 枝 ユ ミ イザベル	美術学部	戦災を受けた歴史的建造物の復旧過程が文化財保護制度に与えた影響に関する研究
105	研究活動スタート支援	日高翠	美術研究科	技法分析を基盤とするバルカン地域正教会壁画美術の研究
106	研究活動スタート支援	宇高健太郎	美術研究科	墨における煤・膠間相互作用解明ならびに中国伝統的製法再現による松煙煤の性状体系化
107	研究活動スタート支援	安納真理子	音楽学部	現代における能楽の伝承形態と実践－外国人能指導プログラムを事例として－
108	研究活動スタート支援	高木麻紀子	美術学部	中世末期世俗美術の展開－1400年頃の北伊・南仏間の芸術家と作品の移動をめぐって－
109	研究活動スタート支援	太田智己	美術学部	正木直彦の人的ネットワークと美術鑑賞大衆化の研究－新出の正木直彦資料を中心に
110	研究活動スタート支援	長津結一郎	音楽学部	社会的排除と表現の現在的諸相：「良心的支持者」の立場に着目して
111	基盤研究(C)	嘉村哲郎	芸術情報センター	デジタル時代における芸術活動のアーカイブモデル構築の研究
112	基盤研究(C)	桐山孝司	映像研究科	工学知識の経験的理解のためのメディアデザイン
113	基盤研究(C)	安藤美奈	美術学部	国内文化施設における外国人を含む来館者指向マーケティングに関する考察
114	基盤研究(C)	児美川佳代子	美術学部	美術教育の哲学的基礎づけ
115	基盤研究(C)	片山まび	美術学部	近代御用窯における釜山窯の系譜
116	基盤研究(C)	武井美砂	美術研究科	12世紀後半のプラタジネット朝美術に関する研究
117	基盤研究(C)	佐間美智子	美術研究科	天然有機赤色顔料の資料作成と体系化・古典に学んだ堅牢な絵具の実現を目指して
118	基盤研究(C)	大塚直哉	音楽学部	17世紀の鍵盤音楽における分割鍵盤使用の可能性～中全音律による演奏法の研究～
119	基盤研究(C)	柳島克己	映像研究科	フィルム/デジタル映画における照明、美術比較による映画表現技術研究
120	基盤研究(C)	筒井武文	映像研究科	フィルムとデジタル編集の創造性と新しい表現方法の研究
121	挑戦的萌芽研究	中村美亜	音楽学部	東日本大震災後の追悼や復興と音楽の関わりに関する学

	究			際的研究
122	挑戦的萌芽研究	関根和江	音楽学部	シモン・ゴールドベルク文庫構築と公開に向けての研究
123	挑戦的萌芽研究	山下薫子 (坂田薫子)	音楽学部	わが国における数字譜の史的展開—その音楽知覚・認知的特性を視点とした再評価—
124	挑戦的萌芽研究	並木秀俊	美術研究科	ゴールドサンドウィッチガラスから見出す紀元前「截金」の起源と再生
125	挑戦的萌芽研究	仲裕次郎	美術研究科	古典彫刻彩色の蘇生研究
126	挑戦的萌芽研究	坂口英伸	美術学部	震災タイムカプセルの研究：その起源、制作過程及び影響について
127	挑戦的萌芽研究	今井紫緒	アートイノベーションセンター	3Dモデリングシステムを活用した彫刻作品のデジタル造形研究
128	挑戦的萌芽研究	古澤龍	芸術情報センター	映像投影と絵画のイメージ合成によるテクスチャの空間特性の研究と視覚表現
129	若手研究(B)	鈴木篤	美術研究科	木彫像の3Dデータによる図面再現と模刻研究による検証—平安後期～鎌倉期
130	若手研究(B)	丸山洋司	音楽研究科	インドとミャンマーにおける西洋楽器の受容に関する民族音楽的研究
131	若手研究(B)	白井英之	美術学部	環境における表現の可能性-偶発的な動きがつくり出すイメージフェノメナン-
132	若手研究(B)	安田友重 (村上友重)	美術学部	新しいイメージ生成方法に向けて—デジタルネガとビエソグラフィの研究と実践—
133	若手研究(B)	横山淳子	音楽学部	ドイツ歌曲の発展におけるゲーテの役割—民謡の受容と展開
134	若手研究(B)	成田麗奈	音楽学部	1870—1945年間のフランスで刊行された音楽史書における「現代音楽」記述
135	基盤研究(B)	原田一敏	大学美術館	東京美術学校収蔵写真の研究—明治期の古写真・ガラス乾板から見る美術教育—
136	基盤研究(B)	大角欣矢	音楽学部	信時潔に関する基礎的研究—作品・資料目録データベースの作成と主要作品の研究
137	基盤研究(B)	佐藤時啓	美術学部	『写真技術転換期における芸術表現』—超高解像度画像形成システムの開発と実践—
138	基盤研究(B)	桂英史	映像研究科	映像療法の方法論開発に関する総合的研究
139	基盤研究(B)(海外)	島田文雄	美術学部	薪窯の形成時間と陶磁器変化の焼成研究—中国・日本窯
140	若手研究(A)	山田修	総合芸術アーカイブセンター	携帯型端末機に対応した本物に魅せる3Dデータの制作・表現手法の研究
141	研究成果公開促進費(学術図書)	越川倫明	美術学部	ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第一巻
142	研究成果公開促進費(学術図書)	土田牧子	音楽学部	黒御簾音楽にみる歌舞伎の近代—囃子付帳を読み解く—
平成26年度				
143	研究活動スタート支援	釘屋奈都子	大学院美術研究科	室町末期から江戸時代の鎧に用いられる鋼鉄材料と和鉄の性質
144	研究活動スタート支援	岩谷秋美	美術学部	ニュルンベルク、ザンクト・ロレンツ聖堂の空間分析—ネット・ヴォールトと彫刻の関係
145	研究活動スタート支援	鈴木伸子	大学院美術研究科	16世紀前半以前の西部・北部ドイツ語圏におけるカンパン及びロヒールの受容
146	研究成果公開促進費(学術図書)	大森晋輔	音楽学部	ピエール・クロソウスキー—伝達のドラマトゥルギー
147	基盤研究(C)	福中冬子	音楽学部	戦後フランスの現代音楽創作・受容から検証する、音楽における冷戦の射程
148	基盤研究(C)	染谷香理	大学院美術研究科	経験と感性の継承—技法書データベースの構築
149	基盤研究(C)	越川倫明	美術学部	バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究
150	基盤研究(C)	ユウヨンゴ	アートイノベーションセンター	高麗仏画における技法材料の解明—複製画による研究情報の共有—
151	基盤研究(C)	松野誠(長谷部浩)	美術学部	森山威男のフリースタイル奏法のデジタルアーカイブ作成及び対話を通じた分析と考察
152	基盤研究(C)	野口昌夫	美術学部	トスカーナ・リグリーアの歴史的海洋小都市と後背地域・海域の形成に関する研究
153	基盤研究(C)	光井歩	美術学部	名勝庭園内に所在する歴史的建造物の保存活用に関する基礎的研究
154	基盤研究(C)	松井茂	芸術情報センター	戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学

155	挑戦的萌芽研究	三浦愛子	アートイノベーションセンター	3DCGを活用した東洋絵画における線描表現への挑戦
156	挑戦的萌芽研究	麻生弥希	アートイノベーションセンター	デジタルとアナログを柔軟にハイブリッドさせた古典絵画の復元手法に関する研究
157	挑戦的萌芽研究	久保仁志	総合芸術アーカイブセンター	勅使河原宏映画関連資料による「モンタージュとしてのアーカイヴ」研究
158	挑戦的萌芽研究	三好大輔	アートイノベーションセンター	ホームムービーを活用した新しい芸術表現に関する研究
159	挑戦的萌芽研究	越田乃梨子	アートイノベーションセンター	身体性を内包する映像メディア作品の制作手法に関する研究
160	挑戦的萌芽研究	松村公太	総合芸術アーカイブセンター	粒子と重層構造を持つ絵画の彩色を対象としたカラーマッチング手法の研究
161	挑戦的萌芽研究	桐野文良	美術学部	Fe系釉薬の発色機構の電子的解明
162	若手研究(B)	青柳路子	美術学部	「いのちの教育」における「身体」の位置づけ—歴史的展開からの再考—
163	若手研究(B)	堀朋平	大学院音楽研究科	シューベルトの歌曲創作に友人の思想が与えた影響—J. H. ゼンの草稿を中心に—
164	若手研究(B)	鳥谷部輝彦	音楽学部	日本伝七絃琴の研究—日本・中国の琴譜の比較と古譜の演奏解釈を通して—
165	若手研究(B)	土田牧子	音楽学部	「小芝居」における音楽演出の研究—近代歌舞伎の多様性をめぐって—
166	若手研究(B)	三枝まり	大学院音楽研究科	近衛秀麿研究—作品・資料目録データベース作成と資料の分析を通して—
167	若手研究(B)	船岡美穂子	美術学部	絵画に描かれた陶磁器—18世紀フランスの愛国的美術趣味
168	若手研究(B)	松浦昇	大学院映像研究科	浮世絵における西洋陰影法の消去に関する基礎研究
169	若手研究(B)	土居伸彰	大学院映像研究科	アニメーション映画祭をめぐる環境についての研究
170	若手研究(B)	柴田真希	大学院音楽研究科	黒川能の音楽技法に見られる五流との影響関係に関する研究
171	若手研究(B)	大久保遼	社会連携センター	映像文化史の構築：複合メディア環境におけるスクリーンの遍在を理解するために
172	若手研究(A)	毛 Y	大学院音楽研究科	中国古箏の楽器改良における日本伝統技術の活用に関する実践的研究
173	若手研究(A)	田中眞奈子	社会連携センター	パルス中性子及びこうエネルギーX線を用いた更迭文化財の非破壊分析手法の確立
174	若手研究(A)	宇高健太郎	大学院美術研究科	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—
175	研究成果公開促進費(学術図書)	越川倫明	美術学部	ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第一巻
平成27年度				
176	基盤研究(B)	佐藤直樹	美術学部	近代芸術におけるディレクタントの学際的研究
177	基盤研究(B)	藪内直樹(藪内佐斗司)	大学院美術研究科	3D・X線・修復調査から見る古典木彫像の制作プロセス—平安～鎌倉期—
178	基盤研究(B)	赤沼潔	美術学部	工芸の展開—金属工芸鑄金における真土型鑄造法の研究—
179	基盤研究(B)	古川聖	美術学部	共鳴の輪の中で：音楽の場とその形成について
180	基盤研究(C)	宮内基弥	音楽学部	近世邦楽と民謡の音楽構造の比較研究—音階及び音組織の観点から—
181	基盤研究(C)	城島亜子(増野亜子)	音楽学部	宗教的マイノリティの文化表象—インドネシア、バリ島ムスリムの芸能民族誌
182	基盤研究(C)	小林亜起子	美術学部	18世紀ゴブラン製作所のタピスリー研究—ブーシェの下絵に基づく作品を中心に—
183	基盤研究(C)	枝川明敬	音楽学部	地域活性化再構築につながる地域固有の文化活動の効果とその具体的展開に関する研究
184	基盤研究(C)	廣江理枝	音楽学部	日本のオルガン演奏黎明期の楽器研究
185	基盤研究(C)	松村智郁子	音楽学部	蠟管蓄音機の歴史的背景に関する総合的研究—明治期の新聞メディアを通じて—
186	基盤研究(C)	萩岡松韻	音楽学部	文化財としてみた地歌箏曲の研究—伝承の危機にある楽曲のアーカイブ化を目的として—
187	基盤研究(C)	長嶋寛幸	大学院映像研究科	オールアフレコを用いた次世代サウンドデザインの物語表現研究
188	基盤研究(C)	布山毅	大学院映像研究科	アニメーションにおける動きの表現の認知的発達過程

189	基盤研究(C)	木村 稔	大学院映像研究科	「視点の移動」をテーマとした身体装着型全方位映像表現装置の研究
190	基盤研究(C)	出口 丈人	大学院映像研究科	会話描写を通して見る映画の構成的変遷
191	基盤研究(C)	磯部 美和	言語・音声トレーニングセンター	動詞複合の獲得－実証研究と理論研究の接点
192	基盤研究(C)	樋口 和美 (水本 和美)	大学院美術研究科	江戸遺跡と窯資料による肥前色絵磁器の躍進事情の意匠・技術的解明と罹災文化財の復元
193	挑戦的萌芽研究	塚田 全彦	大学院美術研究科	金属薄膜センサーを用いた文化財展示保存容器製作材料の試験法の開発
194	挑戦的萌芽研究	杉浦 誠	大学院美術研究科	3D データを用いた錯視効果による装飾彫刻の表現手法の研究
195	挑戦的萌芽研究	古澤 龍	芸術情報センター (学内共同利用施設等)	ヴァルールの評価方法の確立と視覚表現
196	挑戦的萌芽研究	宮永 美知代	美術学部	宇宙滞在における人体フォルムと動きの美についての美術解剖学的研究
197	挑戦的萌芽研究	西川 竜司	社会連携センター	高精細デジタル画像データとアナログ手法を用いた油彩画作品の複製技術の開発
198	若手研究(B)	大谷 智子	芸術情報センター	能動的な観察と考察を促すワークショップ型科学的教育の開発
199	若手研究(B)	川口 嘉奈子	戦略企画課	サービスの設計段階からプライバシー保護を実現する思想的基盤構築のための学術的研究
200	若手研究(B)	小林 直子	大学院美術研究科	18 世紀後半ドイツにおける人間学的美学
201	若手研究(B)	葛西 周	音楽学部	戦前・戦中期東アジアにおける音楽ジャンル観の変遷
202	若手研究(B)	太田 智己	美術学部	近現代日本における嫌芸術意識の成立と展開
203	若手研究(B)	佐々木 あすか	大学院美術研究科	鎌倉時代彫刻史における京都仏師の造像ネットワークに関する研究
204	若手研究(B)	臼井 英之	大学院美術研究科	環境における表現の可能性・グローバル時代における作品テーマ及び表現の展開・
205	若手研究(B)	馬場 一幸	大学院映像研究科	8K 映像による国宝修復記録の無期限保存方法に関する研究
206	若手研究(B)	西岡 瞳	大学院音楽研究科	梵鐘の音響解析に基づく日本独自の音響創造に関する研究
207	若手研究(B)	藤曲 隆哉	大学院美術研究科	日本近代木彫における制作技法・星取り法を中心に・
208	若手研究(B)	京都 絵美	大学院美術研究科	「和様」をめぐる実証的研究－模倣と変容の位相－
209	若手研究(B)	馬定 延	大学院映像研究科	日本メディアアート史の再検証：1980 年代以後を中心に

資料 22－2：受託研究一覧

No.	受入部局	研究代表者	研究題目	委託者
平成 22 年度				
1	美術学部	北郷 悟	「人物彫刻の研究」	エコー会
2	美術研究科	藪内 佐斗司	奈良県奈良市大慈仙町 木造薬師如来坐像修復研究	大慈仙町自治会
3	美術学部	菅野 健一	台東区地場産業の芸術による活性化の研究	東京都台東区
4	美術研究科	藪内 佐斗司	茨城県 東福寺 木造地藏菩薩半跏像修復研究	東福寺
5	美術学部	大西 博	みなかみ町芸術のまちづくりへの提案①	みなかみ町
6	美術研究科	宮廻 正明	琉球王朝十八代尚育王御後絵 復元模写	首里城公園友の会
7	美術研究科	上野 勝久	鏝阿寺及び足利学校の建造物に関する調査研究	足利市
8	音楽学部	植田 克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 1 年次〕(音楽教育支援活動)	足立区
9	音楽学部	植田 克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 1 年次〕(福祉と子育て支援事業)	足立区
10	音楽学部	植田 克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第 2 期 1 年次〕(芸術によるまちづくり事業)	足立区
11	美術研究科	藪内 佐斗司	萬年山 青松寺「木造観音菩薩立像」調査研究及び修復研究	萬年山 青松寺
12	美術研究科	藪内 佐斗司	青蓮寺「木造愛染明王坐像の台座・光背」調査研究及び制作研究	真言宗 青蓮寺
13	美術研究科	藪内 佐斗司	小西大閑堂 木造狛犬(一対)修復研究	小西大閑堂

14	美術学部	本郷寛	幼児期における芸術教育に関する実践的研究：美術の造形と表現による教育の可能性	荒川区
15	美術研究科	藪内佐斗司	奈良県 東大寺 法華堂 月光菩薩立像 制作工程（縮小模刻）研究	東大寺
16	美術学部	関出	「絵画用紙の諸相とその発揮について」	株式会社小津商店
17	美術研究科	藪内佐斗司	深大寺 木造宝冠阿弥陀如来坐像、木造毘沙門天立像 修復研究	浮岳山 深大寺
18	美術学部	菅野健一	伝統品としての「手拭い」、生産の活性化とデザイン	藍熊染料株式会社
19	美術研究科	木島隆康	山下りん「聖像画」2 作品の調査と修復①	日本ハリストス正教会 須賀正教会
20	音楽学部	亀川徹	ラウドネスを考慮したテレビ音声レベルの最適化に関する研究	社団法人日本民間放送連盟
21	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期 1 年次〕（冬季における地域シンボル形成イベント）	足立区
22	音楽学部	西岡龍彦	美術展「陶酔のパリ・モンマルトル 1880-1910」の音楽制作	株式会社アートインプレッション
23	美術学部	池田政治	図画工作・美術等の授業から展開する子供の作品展示に関する実践的研究	台東区
24	美術学部	藪内佐斗司	鎌倉期 東大寺大仏殿 増長天立像（縮小復元模刻及び CG 映像制作）研究	テレビマンユニオン
平成 23 年度				
25	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期 2 年次〕（音楽教育支援活動）	足立区
26	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期 2 年次〕（福祉と子育て支援事業）	足立区
27	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期 2 年次〕（芸術によるまちづくり事業）	足立区
28	美術学部	松下計	お菓子（キットカット）外装を中心としたデザイン施策による社会的効果の研究①	ネスレ日本株式会社
29	美術学部	松下計	旭川医科大学におけるブランドマークについて	旭川医科大学
30	美術研究科	上野勝久	那須神社本殿の総合調査研究	大田原市
31	美術研究科	藪内佐斗司	室生寺蔵 木造地藏菩薩立像附厨子及び木造不動明王立像調査研究及び修復研究	宗教法人 大本山 室生寺
32	美術研究科	藪内佐斗司	小山寺蔵 木造毘沙門天立像 修復研究	天台宗 小山寺
33	美術学部	木戸修 篠原行雄	取手ストリートアートステージ 2011	取手市
34	美術研究科	藪内佐斗司	茨城県桜川市 木造虚空蔵菩薩坐像 修復研究	真壁町山口地区
35	美術研究科	藪内佐斗司	個人蔵 木造阿弥陀如来立像 修復研究	小西大閑堂
36	美術研究科	上野勝久	諏訪大社上社本宮の社殿群に関する調査研究	諏訪大社
37	美術学部	佐藤一郎	みなかみ町芸術のまちづくりへの提案②	みなかみ町
38	美術学部	関出 梅原幸雄	絵画用紙の諸相とその発揮について①	株式会社小津商店
39	美術学部	本郷寛	幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究①	荒川区
40	美術研究科	藪内佐斗司	静岡県 順成就院蔵 運慶作 木造毘沙門天立像縮尺模刻研究	静岡銀行
41	美術学部	本郷寛	図画工作・美術等の授業から展開する子どもの作品展示に関する実践的研究	台東区
42	美術研究科	木島隆康	山下りん「聖像画」2 作品の調査と修復②	日本ハリストス正教会 須賀正教会
43	美術研究科	荒井経	国宝出雲大社本殿天井絵 彩色調査	公益財団法人 文化財建造物保存技術協会
44	美術研究科	上野勝久	倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区のデザインガイドに関する研究	倉吉市
45	美術研究科	上野勝久	棚倉町の八槻都々古別神社・八槻家住宅の調査研究	棚倉町
46	美術学部	松下計	農産品(栗)外装を中心としたブランディング施策による社会的効果の研究	笠間市
47	美術研究科	木島隆康	長原孝太郎「明星」作品の調査と修復	岐阜県
48	美術研究科	上野勝久	大子町における歴史的建造物の基礎調査研究①	木の文化塾
49	美術研究科	上野勝久	谷中寺町・暮らしの町 歴史的建造物の総合評価及び実態調査	NPO 法人たいとう歴史都市研究会
50	美術学部	北郷悟	大熊氏廣作 吉田松陰（寅次郎）像の復元研究	松陰神社
51	美術研究科	藪内佐斗	東大寺法華堂 執金剛神立像 3D 及び彩色復元に	株式会社アイネックス

	科	司	おける総合的研究	
52	美術学部	菅野健一	台東区の産業を生かした地場製品の研究委託	台東区
53	美術研究科	簀内佐斗司	個人蔵 木造毘沙門天立像 修復研究	中川 本子
54	美術研究科	簀内佐斗司	東京藝術大学蔵 薬師寺三層裳階付大塔模型修復	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
55	美術研究科	簀内佐斗司	茨城大学六角堂 宝珠復元研究	茨城大学
56	美術学部	工藤晴也	熱海市歩道舗装面壁画制作ワークショップ	株式会社エヌケービー
57	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期2年次〕(千手の絆プロジェクト)	足立区
58	音楽学部	西岡龍彦	クラシック音楽を原曲とするアレンジの可能性	株式会社ランプリング・レコーズ
平成24年度				
59	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(音楽教育支援活動)①	足立区
60	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(福祉と子育て支援事業)①	足立区
61	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(芸術によるまちづくり事業)①	足立区
62	美術学部	松下計	お菓子(キットカット) 外装を中心としたデザイン施策による社会的効果の研究②	ネスレ日本株式会社
63	美術研究科	簀内佐斗司	茨城県桜川市 木造虚空蔵菩薩坐像 光背修復及び台座制作研究	真壁長山口地区区長
64	美術学部	本郷寛	幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究②	荒川区
65	美術研究科	上野勝久	棚倉町の馬場都々古別神社社殿調査研究	棚倉町伝統文化活性化実行委員会
66	美術学部	菅野健一	台東区地場産業の芸術による活性化の研究①	台東区
67	美術研究科	簀内佐斗司	深大寺蔵 深沙大王宮殿 修復研究	宗教法人深大寺
68	美術研究科	簀内佐斗司	深大寺蔵 深沙大王立像 修復研究	宗教法人深大寺
69	美術学部	北川原温	小淵沢駅周辺地域活性化計画	北杜市
70	美術学部	豊福誠	芸術が社会に与える影響についての研究	首都高速道路株式会社
71	美術研究科	簀内佐斗司	性高院蔵 木造玄道上人坐像 修復研究	性高院
72	美術研究科	荒井経	平等院ミュージアム鳳翔館 復元国宝扉絵複製画刷新	宗教法人平等院
73	美術研究科	簀内佐斗司	善光寺 世尊院蔵 木造阿弥陀三尊立像 修復研究	善光寺 世尊院
74	社会連携センター	宮廻正明	筑後広域公園芸術文化施設アートウォール制作	一般社団法人 Heart Art Communication
75	美術学部	佐藤一郎	みなかみ町芸術のまちづくりへの提案③	みなかみ町
76	美術学部	関出梅原幸雄	絵画用紙の諸相とその発揮について②	株式会社小津商店
77	美術研究科	簀内佐斗司	個人蔵木造四天王立像修復研究	小西大閑堂
78	美術研究科	簀内佐斗司	静岡県宝台院蔵木造阿弥陀如来立像模刻制作研究	株式会社静岡銀行
79	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の文化芸術環境に関する調査研究 新市民会館運営を中心とした文化行政への提言	長野市
80	美術学部	関出	チョウザメの浮袋(鰾)によるアイシングラスの製法研究	株式会社フジキン
81	美術研究科	上野勝久	大子町における歴史的建造物の基礎調査研究②	木の文化塾
82	美術研究科	上野勝久	歴史的建造物を活かした住居改修に関する調査研究	小林 寛
83	美術研究科	簀内佐斗司	木造薬師如来座像台座制作及び日光・月光菩薩立像制作	法相宗大本山薬師寺
84	美術学部	橋本和幸	「GEIDAI DESIGN PROJECT 2012」	花王株式会社
85	美術研究科	木島隆康	山下りん「聖像画」の調査と修復	日本ハリストス正教会 須賀正教会
86	美術研究科	簀内佐斗司	千葉県那古寺蔵木造阿弥陀如来坐像修復研究	真言宗智山派 那古寺
87	美術研究科	荒井経	好文亭襖絵修繕研究①	茨城県水戸土木事務所
88	美術学部	本郷寛	平成24年度都立葛飾特別支援学校における芸術教育の推進に関する研究	葛飾特別支援学校

89	美術学部	本郷寛	平成24年度都立城北特別支援学校における芸術教育の推進に関する研究	城北特別支援学校
90	美術学部	本郷寛	平成24年度都立田園調布特別支援学校における芸術教育の推進に関する研究	田園調布特別支援学校
91	美術学部	光井渉	国指定名勝「伝法院庭園」内の歴史的建造物に関する調査研究	金竜山浅草寺
92	美術学部	ヨコミゾマコト	文化資産を活かした観光振興・地域活性化事業における地域の文化遺産調査研究	新発田市歩く旅のまちづくり推進協議会
93	美術研究科	木島隆康	東京大学安田講堂の壁画修復研究	東京大学
平成25年度				
94	芸術情報センター	藤木淳	立体的メディアのための人間の知覚特性に基づく情報提示表現手法の開拓	独立行政法人科学技術振興機構
95	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(音楽教育支援活動)②	足立区
96	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(福祉と子育て支援事業)②	足立区
97	音楽学部	植田克己	足立区における多層的文化的芸術環境の創造に関する調査研究〔第2期3年次〕(芸術によるまちづくり事業)②	足立区
98	美術学部	橋本明夫	杉野服飾大学蔵 銅造 宝塔 修復研究	杉野服飾大学
99	美術研究科	荒井経	好文亭襖絵修繕研究②	茨城県水戸土木事務所
100	美術学部	北川原温	小淵沢駅周辺地域活性化計画策定業務	北杜市
101	美術学部	長濱雅彦	台東区地場産業の芸術による活性化の研究②	台東区
102	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の文化芸術環境に関する調査研究(2年次)新市民会館運営を中心とした文化行政への提言	長野市
103	音楽学部	熊倉純子	アートプロジェクトにおける「音」の記録研究①	公益財団法人東京都歴史文化財団
104	美術学部	工藤晴也	火山灰を原材料とするモルタルを用いた壁画表現の研究	株式会社高千穂
105	美術研究科	藪内佐斗司	龍岩寺木造伝中興上人坐像修復研究	龍岩寺
106	美術学部	篠原行雄	春日大社蔵 銅造 釣燈籠 修復研究①	春日大社
107	美術研究科	藪内佐斗司	東大寺戒壇道堂四天王立像3D及び彩色復元における総合研究	朝日放送株式会社
108	美術研究科	上野勝久	旧山崎家住宅の調査研究	掛川市教育委員会 教育長
109	美術研究科	上野勝久	栃木県指定文化財・岡部記念館「金鈴荘」保存修理工事に関する研究	真岡市長
110	美術研究科	上野勝久	旧小口小学校(現もうひとつの美術館)の保存活用に関する調査研究	もうひとつの美術館代表理事
111	美術研究科	上野勝久	棚倉町の社寺建造物の調査研究	棚倉町伝統文化活性化実行委員会
112	美術学部	本郷寛	幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究③	荒川区
113	美術学部	佐藤一郎	みなかみ町芸術のまちづくりへの提案④	みなかみ町
114	美術学部	松下計	お菓子(キットカット)外装を中心としたデザイン施策による社会的効果の研究③	ネスレ日本株式会社
115	美術学部	本郷寛	平成25年度都立城北特別支援学校における芸術教育の推進に関する研究	東京都立城北特別支援学校校長
116	美術研究科	藪内佐斗司	大西大閑堂 天部立像修復研究	大西大閑堂
117	美術研究科	藪内佐斗司	岩手県天台寺聖観音立像摸刻研究	静岡銀行
118	美術研究科	上野勝久	大子町における歴史的建造物の調査研究	大子町文化遺産活用実行委員会
119	美術学部	尾登誠一	大学生の力を活かした集落活性化事業	新潟県
120	音楽学部	亀川徹	ヘッドホン聴取とスピーカー聴取の比較に関する研究	一般社団法人日本オーディオ協会
121	社会連携センター	宮廻正明	筑後広域公園芸術文化交流施設「九州芸文館」アートウォール制作	一般社団法人 Heart Art Communication 代表理事
122	美術学部	松下計	LINE×GEIDAI,media kneading/メディアを捏ねてまだ見ぬ地平へ。	LINE株式会社
123	美術研究科	木島隆康	シャルル＝フランソワ・ドービニー「ヴェレールヴィルの海岸」油画作品の調査と修復	東京富士美術館
124	美術研究科	木島隆康	パブロ・ピカソ「鳩」(リトグラフ)他版画作品16点、油彩画品2点の調査と修復	東京富士美術館
125	美術学部	北川原温	革新的芸術文化都市の計画に関する研究	Melco Crown
126	美術学部	本郷寛	平成25年度都立葛飾特別支援学校における芸術教育の推進に関する事業	東京都立葛飾特別支援学校
127	美術学部	本郷寛	平成25年度都立田園調布特別支援学校における	東京都立田園調布特別

			芸術教育の推進に関する事業	支援学校
128	美術学部	関出	竹紙の絵画用紙としての改質研究	中越パルプ工業株式会社
129	美術学部	関出	チョウザメ（浮袋）からのアイシングラス試作評価	独立行政法人科学技術振興機構
130	美術学部	木島隆康	高橋由一作「第十一代山田莊左衛門顕善像Ⅱ（仮題）」油彩画作品の調査と修復	中野市
131	美術学部	橋本和幸	GEIDAI DESIGN PROJECT 2013	花王株式会社
132	美術学部	安藤美奈	『課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業』（実社会対応プログラム）「民間所蔵文化財の資源化・流通による学術観光創生の実証的研究」	独立行政法人日本学術振興会
133	音楽学部	畑瞬一郎	「子どもの心を育む音楽活動」の実施検証及び指導指針の策定	足立区
134	美術学部	ヨコミゾマコト	新発田市の歴史的建造物を活かした地域活性化に関する研究	新発田市歩く旅のまちづくり推進協議会
135	美術研究科	木島隆康	中村不折油画作品の調査と修復	台東区芸術文化財団
136	美術学部	橋本明夫	深大寺 深沙王堂の磬 復元研究	宗教法人深大寺
137	美術研究科	上野勝久	三越日本橋本店の保存管理・防災管理に関する調査・研究	株式会社横川建築設計事務所
138	社会連携センター	宮廻正明	「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション	独立行政法人科学技術振興機構
139	社会連携センター	宮廻正明	多様化・個別化社会イノベーションデザイン拠点～いつまでも生き活きと活動し暮らせる社会とモビリティ～	独立行政法人科学技術振興機構
平成 26 年度				
140	美術研究科	藪内佐斗司	荒川区西光寺木造阿弥陀如来立像及び厨子修復研究	浄土宗真覚山菩提院西光寺
141	美術研究科	藪内佐斗司	奈良県円成寺木造四天王立像修復研究	忍辱山円成寺
142	美術学部	長濱雅彦	「GEIDAI DESIGN PROJECT 2014」	台東区
143	美術研究科	藪内佐斗司	水戸市神崎寺蔵木造不動明王立像修復研究	宗教法人神崎寺
144	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究	足立区
145	音楽学部	畑瞬一郎	「子どもの心を育む音楽活動に向けたスキルアッププロジェクト」のための調査研究	足立区
146	美術研究科	荒井経	松戸神社神楽殿絵画修復研究	松戸神社神楽殿絵画修復実行委員会
147	美術学部	松下計	社会に実配置されるメディアを前提としたデザインプラクティスにおける読売新聞発刊隔月誌「オッホ」表紙デザイン	株式会社読売新聞東京本社
148	美術学部	篠原行雄	春日大社蔵 銅造 釣燈籠 修復研究②	春日大社
149	音楽学部	熊倉純子	アートプロジェクトにおける「音」の記録研究②	公益財団法人東京都歴史文化財団
150	美術学部	越川倫明	レオナルド・ダ・ヴィンチ《アンギアーリの戦い》をテーマとする展覧会の企画立案	公益財団法人 東京富士美術館
151	美術学部	坂口寛敏	みなかみ町芸術のまちづくりへの提案⑤	みなかみ町
152	美術学部	木戸修, 篠原行雄	取手ストリートアートステージ2014	取手市
153	美術研究科	長尾充	栃木県真岡市の大前神社の調査研究	大前神社
154	美術研究科	長尾充	重要文化財入野家住宅の保存活用計画策定に関する研究	市貝町
155	美術学部	本郷寛	幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究④	荒川区
156	美術研究科	藪内佐斗司	長野県寛慶寺木造金剛力士像修復研究	宗教法人 寛慶寺
157	美術学部	北川原温	小淵沢駅周辺地域活性化に係る調査研究	北杜市
158	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の文化芸術環境に関する調査研究	長野市
159	美術学部	本郷寛	平成 26 年度都立青山特別支援学校における芸術教育の推進に関する研究	東京都立青山特別支援学校
160	美術学部	本郷寛	平成 26 年度都立八王子盲学校における芸術教育の推進に関する研究	東京都立八王子盲学校
161	美術学部	本郷寛	平成 26 年度都立葛飾ろう学校における芸術教育の推進に関する研究	東京都立葛飾ろう学校
162	美術研究科	荒井経	琉球王朝第十七代尚瀨王御後絵 復元模写	一般財団法人 沖縄美ら島財団
163	美術学部	長濱雅彦	ロボットテクノロジーによるデザイン表現	株式会社 ZMP
164	美術研究科	長尾充	棚倉町の歴史的建造物の調査研究	棚倉町伝統文化活性化実行委員会
165	美術学部	松下計	お菓子（キットカット）外装を中心としたデザイン施策による社会的効果の研究④	ネスレ日本株式会社

166	美術研究科	藪内佐斗司	静岡県函南町蔵木造勢至菩薩立像縮尺模刻研究	株式会社静岡銀行
167	美術研究科	藪内佐斗司	東京都文京区日輪寺木造十一面観音菩薩立像修復研究	曹洞宗 慈昭山 日輪寺
168	美術研究科	長尾充	岡倉天心寄進・奈良県宇陀市大蔵寺弁事堂の調査研究	弁事堂修復「鵬の会」
169	美術学部	飯野一朗	東京国立近代美術館所蔵「十二の鷹」の自然科学的調査	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
170	総合芸術アーカイブセンター	北郷悟	フランス・セーブル製（アンリ・ラバンのデザイン）の香水塔3Dデータ計測とアーカイブコンテンツ化	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
171	美術研究科	木島隆康	藤田嗣治《舞踏会の前》油彩画作品の調査と修復	公益財団法人大原美術館
172	社会連携センター	宮廻正明	中国古代青銅鐘の高精細三次元計測及び検証	公益財団法人泉屋博古館
173	美術研究科	藪内佐斗司	磐梯町磐梯山慧日寺資料館金堂薬師如来坐像復元研究	磐梯町
174	総合芸術アーカイブセンター	北郷悟	レオナルド・ダ・ヴィンチと「アンギアーリの戦い」展に合わせての三次元モデルの制作	公益財団法人東京富士美術館
175	美術学部	ヨコミゾマコト	新発田市の歴史的建造物を活かした地域活性化事業	新発田市歩く旅のまちづくり推進協議会
176	音楽学部	西岡龍彦	美術展「エリック・サティとその時代」の音楽制作～新市民会館設立を契機とした文化行政への提言～	株式会社 アート インプレッション
177	美術研究科	長尾充	三越日本橋本店本館三越劇場に関する調査研究	株式会社 横河建築設計事務所
平成 27 年度				
178	美術研究科	荒井経	福島県飯館村山津見神社拝殿天井絵の復元に関する活動	国立大学法人 和歌山大学
179	音楽学部	亀川徹	放送音源のための適正な録音に関する研究	株式会社クリエイティブ Be
180	美術学部	林武史	「みやこ町森林公園【丸山】石舞台」制作研究	みやこ町
181	美術学部	北川原温	「小淵沢駅周辺地域活性化に係る調査研究」	北杜市
182	美術学部	藪内佐斗司	兵庫県養父市下八木薬師堂 木造薬師如来坐像修復研究	下八木区
183	美術学部	荒井経	琉球王朝第十七代尚瀬王御後絵 復元模写	一般財団法人 沖縄美ら島財団
184	美術学部	松下計	アート・デザイン専門領域からの視点を活かした大分県・地域の文化追究	大分県
185	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究委託（音楽教育支援活動）	足立区
186	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究委託（福祉子育て支援活動）	足立区
187	音楽学部	澤和樹	足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究委託（芸術によるまちづくり事業）	足立区
188	美術学部	長尾充	喜多方市小田村の歴史的建造物・町並みの調査研究	喜多方市
189	美術学部	藤崎圭一郎	GEIDAI DESIGN PROJECT 2015	台東区
190	美術学部	長濱雅彦	ロボットテクノロジーによるデザイン表現	株式会社 ZMP
191	美術学部	松下計	社会に実配置されるメディアを前提としたデザインプラクティスにおける読売新聞発刊隔月誌「オッホ」表紙デザイン	株式会社読売新聞東京本社
192	美術学部	飯野一朗	東京国立近代美術館工芸館所蔵『十二の鷹』の修復	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
193	美術学部	桐野文良	東京国立近代美術館所蔵『十二の鷹』の自然科学的調査(Ⅱ)	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
194	美術学部	坂口寛敏	みなかみ町芸術のまちづくりへの提案	みなかみ町
195	美術研究科	藪内佐斗司	木造地藏菩薩踏下像及び木造地藏菩薩立像修復研究	株式会社小西大閑堂
196	音楽学部	熊倉純子	日本型アートプロジェクトの歴史と現在についての情報発信研究	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
197	美術学部	本郷寛	平成 27 年度都立八王子盲学校における芸術教育の推進に関する研究	東京都立八王子盲学校
198	美術学部	本郷寛	平成 27 年度都立青山特別支援学校における芸術教育の推進に関する研究	東京都立青山特別支援学校
199	美術学部	本郷寛	平成 27 年度都立葛飾ろう学校における芸術教育の推進に関する研究	東京都立葛飾ろう学校
200	美術学部	小松佳代子	幼児期における美術の造形と表現による教育の可能性についての実践的研究	荒川区
201	美術研究科	長尾充	大子町における社寺建築の調査研究	大子町文化遺産活用実

	科			行委員会
202	美術学部	本郷寛	日ノ出町保育園の園内装飾の設置(エントランス)	社会福祉法人 南流山 福祉会 日ノ出町保育園
203	美術学部	本郷寛	日ノ出町保育園の園内装飾の設置(読書コーナー)	社会福祉法人 南流山 福祉会 日ノ出町保育園
204	美術研究科	長尾充	棚倉町の歴史的建造物の調査研究	棚倉町伝統文化活性化 実行委員会
205	美術研究科	藪内佐斗司	木造三宝荒神立像及び木造三面大黒天立像(雛形)修復研究	宗教法人 善光寺
206	美術学部	藤原信幸	春日部市立病院における新病院アートワーク	春日部市立病院
207	美術研究科	藪内佐斗司	宮城県双林寺木造薬師如来坐像 縮尺模刻研究	株式会社 静岡銀行
208	音楽学部	畑瞬一郎	長野市の市民参画型子ども向け文化イベントの創出に向けた参画型研究委託	長野市
209	美術研究科	荒井経	日本画表現の陶による再現・複製に関する研究	大塚オーミ陶業株式会社
210	美術学部	中山英之	飛騨の古民家調査及び改修検討計画に関する基礎研究及びコンセプト提案	株式会社 飛騨の森でクマは踊る
211	美術研究科	藪内佐斗司	史跡慧日寺跡金堂内 薬師如来坐像 台座復元研究	磐梯町
212	美術研究科	藪内佐斗司	神奈川県法蘭寺 阿弥陀如来立像及び厨子・菩薩倚像修復研究	宗教法人 法蘭寺
213	社会連携センター	宮廻正明	超多画素カメラ及びマルチバンドカメラの文化財復元・デジタルアーカイブ応用基礎研究	キャノン株式会社
214	美術学部	松下計	すべての人が共通して使えるボディ・ケア商品セットの開発	花王株式会社
215	社会連携センター	宮廻正明	玉堂美術館所蔵 川合玉堂《写生帖》の高精細複製及びデジタルアーカイブ研究	株式会社 オフィスエンズ
216	美術研究科	藪内佐斗司	八王子市長福寺木造千手観音菩薩坐像修復研究	宗教法人長福寺

こうした活発な研究活動状況の中、他領域の研究者と連携し、複合的領域の研究を実施した例では、まず「台東区地場産業の芸術による活性化の研究」(平成22年度～平成25年度)が挙げられる。これは、東京都台東区からの受託により美術学部工芸科及びデザイン科が横断的連携のもと研究を実施したものである。

さらに、朝日放送株式会社から受託された「東大寺戒壇堂四天王立像3D及び彩色復元における総合的研究」では、大学院美術研究科文化財保存学保存彫刻研究室、美術学部芸術学研究室が横断的連携のもと東大寺戒壇堂の四天王立像の3D計測及び彩色調査を行い、当初安置されていたとされる法華堂内の復元CGを制作した。

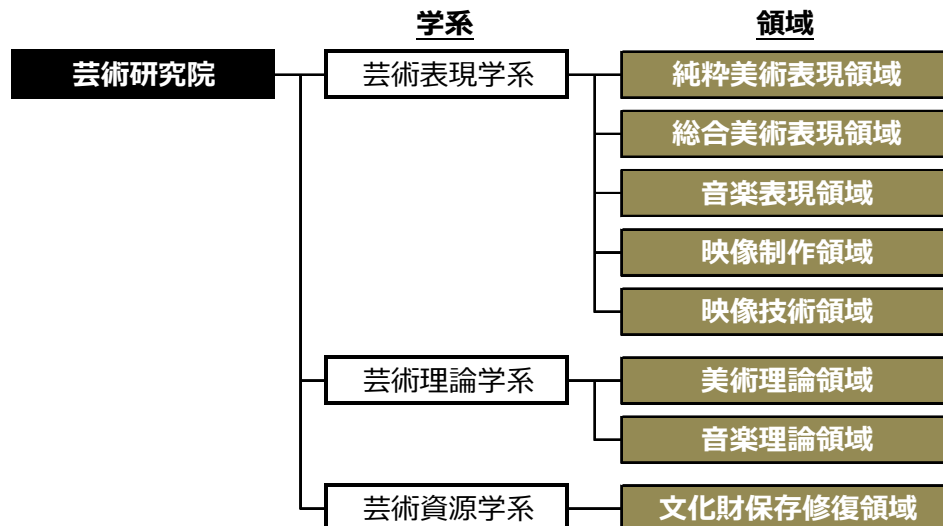
音楽分野では、「足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究」(平成22年度～平成27年度)を、東京都足立区からの受託により実施。音楽学部全科の横断的連携のもと、音楽教育支援活動、福祉と子育て支援事業、芸術によるまちづくり事業、冬季における地域シンボル形成イベント等、多岐にわたる調査研究を行った。

美術・音楽・映像分野での連携研究の成果である演奏芸術センター主催「藝大21和楽の美」では、新たな邦楽総合アンサンブル(邦楽器演奏と能、狂言や日本舞踊によるコラボレーション)の創造をテーマとし、美術学部制作の舞台美術による新たな芸術表現創造を目指した企画であり、平成14年度より継続的に実施している。邦楽科教員らが音楽を付けた和風楽劇で、邦楽の様々なジャンルを用いるだけでなく、邦楽と洋楽のコラボレーションまで行うことを意図したものとなっており、邦楽科を主軸に器楽科・声楽科も加わって教員・学生らがアンサンブルを構成して、専門の壁を超えた新しい邦楽の舞台作品の創作及び上演を行った。また、映像、舞台美術は美術学部絵画科油画専攻、デザイン科、美術研究科文化財保存学専攻保存修復(日本画)研究室、映像研究科などが担当し、コンピュータグラフィックスを使用した映像表現との融合など、従来の舞台表現に縛られない、新たな舞台芸術を創造している。

さらに、分野横断・融合型の研究を一層推進するため、教育組織と研究(教員)組織を分離し、3つの系(芸術表現学系・芸術理論学系・芸術資源学系)により構

成される新たな分野横断型研究（教員）組織「芸術研究院」を平成 27 年 4 月新設した（3 国際化に関する目標 計画 1－1【31】（P.121）参照）。これまで各学部・研究科に所属していた教員は、美術・音楽・映像の分野を超えた「学系」に所属することとなり、これまでにない複合的領域研究を行える体制を整えたところである（資料 22－3：芸術研究院の構成 参照）。

資料 22－3：芸術研究院の構成



（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）他領域の研究者と連携し複合的領域の研究が実施されていることに加え、「芸術研究院」新設による分野横断型の研究体制が構築される等、新たな芸術表現の創造が積極的に推進されているため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（研究）に関連する記載のある箇所】

美術学部・美術研究科 観点「研究活動の状況」（P.1-4～14）

音楽学部・音楽研究科 観点「研究活動の状況」（P.2-11～20）

映像研究科 観点「研究活動の状況」（P.3-8～11）

計画 1－5「【23】【★】他分野の研究者及び他機関と連携した学際的領域に関する共同研究等の実施を推進する。」に係る状況

本学では、科学研究費助成事業、受託研究のみならず、民間機関等から研究者及び研究経費等を受け入れ、共通課題について、分担もしくは共同で行う共同研究を行っている。共同研究では、芸術分野にとらわれない、学際的な領域での研究が実施されている（資料 23－1：共同研究一覧）。

資料 23－1：共同研究一覧

No.	受入部局	研究代表者	研究題目	委託者
平成 22 年度				
1	美術学部	手塚雄二	画家の感性に基づく理想的な膠の研究	東京日本画材料研究会
2	美術学部	古川聖	情動情報符号化方法の開発①	独立行政法人科学技術振興機構
3	音楽学部	亀川徹	再生音場空間における奥行き感評価手法の検討①	パナソニック株式会社 A V C ネットワークス社
平成 23 年度				
4	美術学部	古川聖	情動情報符号化方法の開発②	独立行政法人科学技術振興機構
5	美術学部	元倉眞琴	都市型住宅の新しいカタチの考察 ～重層長屋の可能性を探る～	株式会社コスモスイニシア

6	音楽学部	亀川 徹	奥ゆき感における立体映像とサラウンドの相互作用について	パナソニック株式会社 A V C ネットワークス社
7	美術学部	日比野克彦	アートコミュニティ形成のための人材養成に関する研究	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
8	美術学部	金田 充弘	エコリビングプロジェクト-省エネ・環境住宅研究計画	YKK ファスニングプロダクツ販売(株)
平成 24 年度				
9	美術学部	古川 聖	情動情報符号化方法の開発③	独立行政法人科学技術振興機構
10	美術研究科	上野勝久	谷中寺町・暮らしの町 歴史的建造物の総合評価及び実態調査	NP0 法人たいとう歴史都市研究会
11	音楽学部	亀川 徹	音楽練習室の音響特性と練習のしやすさについて①	株式会社 ソナ
12	音楽学部	亀川 徹	再生音場空間における奥行き感評価手法の検討②	パナソニック株式会社 A V C ネットワークス社
平成 25 年度				
13	美術学部	古川 聖	情動情報符号化方法の開発④	独立行政法人科学技術振興機構
14	音楽学部	亀川 徹	PCM, DSD のハイレゾリレーション録音の音質比較及び試聴評価手法の検討	ティアック株式会社
15	音楽学部	亀川 徹	音楽練習室の音響特性と練習のしやすさについて②	株式会社 ソナ
16	美術学部	藤原信幸	江戸切子の新しい加工法の開発研究	木本硝子株式会社
17	美術学部	藤原信幸	美術館におけるガラス工房創設に係る調査研究	株式会社 トータルメディア開発研究所
18	音楽学部	亀川 徹	小空間音場における空間性評価指標の検討について	パナソニック株式会社 A V C ネットワークス社
19	音楽学部	亀川 徹	渋滞後尾・規制内進入車両防止装置に関する研究	中日本高速道路株式会社
平成 26 年度				
20	音楽学部	亀川 徹	トランスオーラル再生のためのバイノーラル収録方法に関する研究	株式会社エー・アール・アイ
21	音楽学部	亀川 徹	高速道路走行車両への音声信号による注意喚起に関する研究	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社
22	美術学部	菅野健一	染織文化財の技法・材料に関する調査研究 実現のための基礎的研究	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
平成 27 年度				
23	社会連携センター	宮廻正明	国内における障害者による芸術活動の概要に関する研究	有限会社国際耕雲社
24	音楽学部	亀川 徹	楽器・音響製品の感性評価に関する研究	ヤマハ株式会社
25	音楽学部	亀川 徹	高速道路走行車両への音声信号による注意喚起に関する研究(その2)	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社
26	音楽学部	亀川 徹	再生音場の上方拡大に対する音場評価技術の検討	パナソニック株式会社 A V C ネットワークス社 オートモーティブ開発センター
27	映像研究科	岡本美津子	アニメーションを媒体とした「人と車の未来型コミュニケーション」	三菱電機株式会社
28	映像研究科	馬場一幸	フィルムスキャン技術に関する研究	Seven Dew 株式会社 株式会社エコロジー神戸

このうち、「情動情報符号化方法の開発」は、平成 21 年 3 月に本学と理化学研究所が取り結んだ「連携・協力の推進に関する基本協定書」に基づき実施された共同研究であり、音楽における情動情報研究として、古川聖教授（先端芸術表現科）が研究リーダーとなり、東京芸術大学、東京大学、筑波大学、東京電機大学、理化学研究所の研究者とアーティストが協力し、科学、芸術の領域を横断する研究を行なった。その成果の一つ、「悲しい音楽の心地よさ」の研究結果（平成 25 年度）では、一般的に「悲しい音楽」と呼ばれるものを聴くとき、鑑賞者は悲しいという認識をしながらも、同時に感情においては快を感じているということが科学的に実証され、音楽には快と不快という相反する感情を引き起こす作用があることを明らかにした。

また、平成 27 年度においては、順天堂大学との間で連携・協力協定を締結した。この締結により、音楽セラピー等の共同研究の推進や、解剖・病理分野と美術解剖学における連携、順天堂医院におけるホスピタルアート・ヒーリングアートの展開など、両大学の保有する世界最高水準の教育・研究資源の有効活用を図るとともに、「医学・医療と芸術の融合」による相乗効果を最大化することで、医学・芸術両分野のさらなる発展を目指すこととしている。

さらに本学では、平成 27 年度文部科学省 COI 拠点事業「『感動』を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション」を、芸術系大学としては唯一採択された（計画 1－1【19】(P.59) 参照）。

本拠点は、日本が誇る伝統的な芸術と最先端科学技術の融合によって、次世代の誰もが共有できる豊かな文化的コンテンツの開発をおこない、教育産業を通じた文化教育コンテンツの社会実装と、国際関係の構築に資する文化外交アイテムの社会実装を目指すものとしている。

研究組織は、美術・音楽・映像・身体表現という文化芸術を培ってきた本学を中核機関とし、教育産業や情報産業に専門性を有する企業との産学連携による組織となっている（資料 23－2：COI 拠点事業 参照）。

研究開発は、『文化を育む』イノベーション、『心を育む』イノベーションの二つの軸により展開している。『文化を育む』イノベーションでは、主に美術と映像に専門性を持つアーティストならびに研究者と企業が連携し、日本の芸術文化を伝承、世界へと発信することを目的に、世界中の文化遺産を共有すべく、文化財の調査、



（参考 1）理化学研究所 HP より

http://www.riken.jp/pr/press/2013/20130524_1/digest/



（参考 2）順天堂大学 HP より

<http://www.juntendo.ac.jp/news/20160323-01.html>

計測、分析、複製制作をおこなう「文化共有研究」と、視覚、聴覚、触覚などの感覚を刺激し、文化を体験できる新たな知覚を開拓する「共感覚メディア研究」を実施している。また、『心を育む』イノベーションでは、主に音楽と身体表現に専門性を持つアーティストならびに研究者と企業が連携し、演劇芸術とロボット工学を結び付けた教育や医療、新たなコミュニケーションを提案することを目的に、障がい者に学ぶをテーマとした感動と感性の研究をおこなう「障がいと表現研究」と、アンドロイドやロボットを用いたコンテンツ制作や医療福祉現場と連携する「ロボット・パフォーミングアーツ研究」を実施している。

研究により開発されたコンテンツやアプリケーションは、教育産業や情報産業に専門性を有する企業との協働により、広く国内外での社会実装を図っていく。

資料 23-2 : COI 拠点事業



中核機関	国立大学法人東京藝術大学 国立大学法人大阪大学 国立大学法人名古屋大学 国立大学法人京都大学 独立行政法人情報通信研究機構（NICT）
中心企業	株式会社 J V C ケンウッド 株式会社ベネッセホールディングス ソフトバンクロボティクス株式会社 株式会社 Makers' 一般財団法人NHKエンジニアリングシステム 株式会社NHKエンタープライズ 株式会社NHKプロモーション 株式会社ヤマハ

平成 27 年度においては、本学の特許技術を活用し制作された高精細浮世絵等による展覧会「ハイカラー覚醒するジャポニズムーボストン美術館ス波尔ディング・コレクション」（会期 H27. 4. 25-5. 13, 来場者 7,697 名）の開催や、JST フェア 2015 「科学技術による未来の産業創造展」, 「イノベーション・ジャパン 2015ー大学見本市&ビジネスマッチングー」（H27. 8. 27-8. 28：東京ビックサイト）への出展, また, 1 日 20 万人以上が利用する東京メトロ銀座駅に新たに設置されたギャラリー「Glass Box Metro Ginza」にて, 「ハイカラ2ー覚醒するジャポニズムーボストン美術館ス波尔ディング・コレクションとゴッホ」展を開催するなど, 広く研究成果を発信した。

加えて, アンドロイド演劇の海外公演や, 最先端ロボット・ペッパーに演劇演出手法を適用し, 城崎温泉等各観光拠点における多言語案内を実装する試み, 株式会社ヤマハとの共同による, 障害を持つ演奏者の演奏に合わせ自動的にピアノのペダルが駆動する装置の開発・特許出願, 富山県高岡市が持つ鋳物技術との融合による法隆寺釈迦三尊像復元プロジェクトの着手, イスラム原理主義勢力タリバンにより破壊されたバーミヤン東大仏の天蓋を飾っていた壁画「太陽神と飛天」等の 3D 原寸大復元（奥行き 7.2m, 幅 6.6m, 高さ 3.2m）制作など, 幅広い領域において大きな成果をあげた（資料 23ー3：COI 拠点事業成果 参照）。

資料 23ー3：COI 拠点事業成果例



（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）芸術分野を超えた他分野・他機関との連携により, 学際的領域研究が積極的に行われていることに加え, COI 拠点事業の成果など, 最先端の科学技術等との融合により新たな芸術価値の創造が推進されているため, 実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（研究）に関連する記載のある箇所】

美術学部・美術研究科 質の向上度「研究成果の状況」（P.1-27）

【関連する学部・研究科等研究業績】

美術学部・美術研究科

業績番号 13 研究テーマ「模倣と超越－美術における学習と創造－」

②優れた点及び改善を要する点等

（優れた点） 伝統文化や新たな芸術表現創造に関する研究成果を，展覧会や演奏会等を通して積極的に社会に発信し，国際的に評価の高い賞を受賞するなど我が国の芸術文化向上に貢献したこと。（計画1－1【19】）

（改善を要する点）該当なし

（特色ある点）1．多様な様態をもつ芸術資料をデジタル化によりアーカイブし，データベースを構築し利用可能とすることによって，新しい芸術創造推進のための基盤を整備したこと。（計画1－3【21】）
2．芸術分野を超えた他分野・他機関との連携により，従来行われてこなかった最先端科学技術等との融合など，新たな芸術価値の創造が行なわれていること。（計画1－5【23】）

(2) 中項目 2 「研究実施体制等に関する目標」の達成状況分析

① 小項目の分析

○ 小項目 1 「国内外の芸術諸機関との連携及び教（職）員の研究・研修を活性化する仕組みを充実させる。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 1-1 「【24】国公立 5 芸術大学を中心とした連携の拡大とともに私立の芸術系大学とのネットワークを構築し、交流活動を活性化させる。」に係る状況

国公立 5 芸術大学（本学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学、沖縄県立芸術大学、愛知県立芸術大学）においては、教職員の交流はもとより、「五芸祭」と呼ばれる体育及び文化芸術活動の年一回の催しは、平成 27 年度に 61 回を迎え、学生間においても長きにわたり交流を深めてきたところである。

平成 22 年 12 月 21 日、本学美術学部絵画棟大石膏室において、文化庁長官と首都圏及び国公立芸術系大学長によるシンポジウム「豊かな感性、強い日本へ」を開催した。このシンポジウムでは、近藤誠一文化庁長官（当時）、宮田本学学長、久世金沢美術工芸大学学長（当時）、堤桐朋学園大学学長（当時）のほか、26 におよぶ芸術系大学の学長等が参加し、芸術系大学、地域、官公庁など多種多様な組織間のネットワークを構築し相乗効果を生み出すことや、人々のもつ「感性」を育む教育体制のあり方などについて意見交換を行い、文化庁と芸術系大学の連携や芸術系大学相互の連携の強化などをうたった「政策提言」を取りまとめ、近藤文化庁長官に手交した（資料 24-1：政策提言 参照）。



（参考）近藤長官（左）へ政策提言を手交する宮田学長（右）

また、平成 22 年度～平成 24 年度に設置されたアジアにおける芸術系大学のハブ＝拠点校としての地位確立を図るための事業「東京芸術大学アジア総合芸術センタープロジェクト」（3 国際化に関する目標 計画 2-2 【33】（P.124）参照）では、五芸大学間留学生短期交換事業を実施し、各大学から留学生を受け入れるとともに、各大学へ本学の留学生を派遣した。本交換事業は、アジア総合芸術センタープロジェクト終了後も継続実施している（資料 24-2：五芸大留学生交換事業 参照）。

芸術系大学学長からの政策提言

「豊かな感性、強い日本へ」

長い歴史の中で培われた、日本独自の繊細な感性と磨き上げられた匠の技、そして思いやりの心は、第二次世界大戦後の荒廃を乗り越え、奇跡的な経済成長を成し遂げる素晴らしい力となった。しかし、経済的な成長が進むにつれ、日本が持っていた文化の素晴らしさは徐々に失われ、近年では将来の展望を描くことすら困難な状況にある。

そもそも文化とは人間の営み全てを包摂する概念であり、我々は、心が十分に育ってこそ科学や経済の花が咲くことを再認識し、心豊かな社会を実現しなければならない。

また、文化芸術は様々な活動における新たな付加価値の源泉であり、持続可能な成長が求められる現代にはもっとも相応しく、創造性や感性豊かな人材の育成は、芸術家に限定されることなく「強い日本」の実現のための喫緊の課題といえよう。

このため、芸術家や芸術活動を支える人材の育成を使命とする芸術系大学は、我が国の文化芸術の発展に積極的に貢献することを目指し、以下の政策を提言する。

- 一 文化芸術の社会との連携を推進し、我が国の文化芸術の創造、発展、継承を担う人材の育成を強化すること
- 二 文化政策を推進するため、大学等の研究機関による文化芸術に関する調査研究の充実を図ること
- 三 我が国の特色ある文化芸術を世界に発信し、国際文化交流を活性化すること
- 四 本シンポジウムを契機として、芸術系大学相互のネットワーク作りや、文化庁と芸術系大学との連携に加え、初等中等教育における芸術教育に関する連携についても一層強化すること

平成二十二年十二月

資料 24-1：芸術系大学からの政策提言
http://prmagazine.bunka.go.jp/pr/public/bunkachou_geppou/2011_05/news/news_04.html

資料 24－2：五芸大留学生交換事業

年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
受入	4	4	4	4	4	5
派遣	4	4	4	4	4	6

私立の芸術系大学との連携については、平成 25 年 12 月、美術文化の発展とその教育普及を目的として、相互の連絡協議を促進するため、女子美術大学、多摩美術大学、東京藝術大学美術学部・大学院映像研究科、東京造形大学、日本大学芸術学部、武蔵野美術大学の美術系 6 大学による「美術系大学連絡協議会」を発足し、本学において学長、学部長、研究科長が覚書に署名した（資料 24－3：美術系大学連絡協議会の発足 参照）。学術研究や共同事業、初等中等教育における美術教育への支援、美術文化振興策について、共同での協議を進めている。



資料 24－3：美術系大学連絡協議会の発足

さらに、2020 年オリンピック・パラリンピック東京競技大会の開催決定を受け、同大会が「文化の祭典」であることを踏まえ、本学の発案により、国公立の 18 大学をはじめ、文部科学省、文化庁、オリンピック・パラリンピック組織委員会、東京都、ブリティッシュカウンシル等関係機関約 80 名が参加し、平成 27 年 11 月「2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた芸術系大学の連携の在り方に関する懇談会」を開催した。同会において、芸術系大学連携の実質化のための全国展開・組織化を目指し、新たに「全国芸術系大学コンソーシアム（仮称）」を設置することが確認され、これにより今後更なるネットワークの強化が期待されることである。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）シンポジウム開催や留学生交換事業等を通し、国公立 5 芸術大学との連携を強化するとともに、全国芸術系大学コンソーシアム（仮称）の立ち上げ等により私立の芸術系大学とのネットワーク構築を目指すなど、教員の積極的な研究交流体制の整備が進められたため、実施状況が良好であると判断できる。

計画 1－2 「【25】【★】研究者及び学生の研究交流を充実させるため、国際交流協定締結校を中心にネットワークを強化する。」に係る状況

本学はこれまで、海外の芸術系大学や関係機関のみならず、各国の芸術家、演奏家、研究者らと交流を積み重ね、共同プロジェクトなどを通じて相互理解を深めるとともに、文化の多様性の保持と発展に寄与してきた。

こうした国際的なネットワークを生かした学生・研究者支援策をさらに拡充していくため、「スーパーグローバル大学創成支援事業」（平成 26 年度）や「大学の世界展開力強化事業」、「国立大学機能強化」（平成 27 年度）における戦略的取組、文化芸術関係補助金等により、交換留学を含む大学間交流協定や共同プログラム・カリキュラムの実施をはじめ、教員・学生の積極的な派遣・受入れによって、大学のグローバル環境を整備しており、平成 21 年度末の時点で 17 国/地域、43 大学/機関だった国際交流協定校・機関数を、平成 27 年度末時点では 23 国/地域、63 大学/機関に拡充（資料 25－1：国際交流協定校一覧 参照）。イスラエルのベツァルエル美術デザインアカデミーやドイツのベルリン芸術大学など海外の有力な美術大

学・音楽大学のほか、文化財の保存修復分野において先進的な研究を行っている中国の敦煌研究院とも連携関係を構築した。

資料 25-1 : 国際交流協定校一覧（平成 28 年 3 月 31 日時点）

地域	国・地域名	大学・機関名
北アメリカ	アメリカ	スミソニアン研究所フリーア美術館・サックラー美術館 シカゴ美術館附属美術大学
ヨーロッパ	イギリス	英国王立音楽院 王立北部音楽院 ユニバーシティ・フォー・ザ・クリエイティブ・アーツ ロンドン芸術大学 ロイヤルアカデミースクールズ グラスゴー美術大学
	ドイツ	ミュンヘン音楽演劇大学 シュトゥットガルト音楽演劇大学 ワイマール・パウハウス大学 ハレ・ブルグ・ギービヒェンシュタイン芸術大学 シュトゥットガルト美術大学 ベルリン芸術大学
	フランス	パリ国立高等音楽舞踊院 パリ国立高等美術学校 ナント芸術大学 エコール・ブール国立工芸学校 国立高等装飾芸術学校
	スペイン	カタルーニャ工科大学バルセロナ建築学部
	オランダ	オランダ芸術科学保存協会
	イタリア	ミラノ工科大学 トリノ工科大学
	ハンガリー	リスト音楽院
	フィンランド	シベリウス音楽院 アアルト大学
	ポーランド	ブロツワフ美術大学
	オーストリア	ウィーン音楽演劇大学 ウィーン工科大学 ウィーン応用芸術大学 ウィーン美術アカデミー
	スイス	ジュネーヴ音楽大学
	リヒテンシュタイン	リヒテンシュタイン国立大学
アジア	中国	中央美術学院 中央音楽学院 清華大学美術学院 上海音楽学院 中国美術学院 新疆芸術学院 陝西師範大学音楽学院 敦煌研究院 広州美術学院
	台湾	国立台南芸術大学 国立台湾芸術大学 国立台北芸術大学 国立台湾師範大学
	韓国	ソウル大学校美術大学 ソウル大学校音楽大学 韓国芸術綜合学校 大邱大学校 韓国映画アカデミー 韓国伝統文化大学校 檀国大学 映像コンテンツ専門大学院
	タイ	シラパコーン大学
	ベトナム	ベトナム美術大学

	シンガポール	ラサール芸術大学
	ウズベキスタン	ウズベキスタン国立音楽院
オセアニア	オーストラリア	RMIT 大学 シドニー大学 グリフィス大学
中東	トルコ	アナドル大学 ミマール・シナン美術大学
	イスラエル	ベツアルエル美術デザインアカデミー

ベツアルエル美術デザインアカデミーとの交流については、平成 27 年度に大学の世界展開力強化事業の採択を受け、東洋と西洋の芸術文化が交錯・融合する「中東地域」をターゲットに、トルコのミマール・シナン美術大学及びアナドル大学との交流と合わせ、魅力的な芸術文化リソースを有する中東 3 大学との連携により、教員及び学生の相互交流を拡充し、相互の芸術文化リサーチや共同プロジェクトの推進を開始した。

敦煌研究院と本学は研究教育活動の連携を 30 年以上続けており、特に大学院美術研究科文化財保存学（保存修復日本画、保存油画、保存科学）、美術学部絵画科（油画、日本画）、芸術学科等において研究院との交流、研究員の研修受入を行ってきた。協定締結は、30 周年の節目に日中の芸術文化交流、美術教育の歴史を振り返り最新の研究成果を交流することを目的としている。敦煌研究院は中国における壁画芸術の調査、研究、保存公開活動の拠点であり、本学と同研究院との交流は、日中芸術研究・教育機関が友好関係を深めお互いに発展していく為に大きな意義を持つ。

また、平成 27 年 11 月 9 日には、オランダ王国マルク・ルッテ首相及びオランダ科学研究機構(NWO)、アムステルダム国立美術館、アムステルダム大学(UvA)、オランダ文化遺産局(RCE)及びデルフト工科大学(TU Delft)などによって構成されるオランダ芸術科学保存協会(NICAS)のロバート・ファン・ラング会長らと文化財保存及び芸術と科学との融合等の分野における国際連携体制の構築・国際共同プロジェクトの実施に向けた協議を行い、平成 28 年 2 月には本学教職員がオランダを往訪し、同機関との包括的な国際交流協定を締結した。絵画は物理的な接触の他、日光や空気と触れるだけでも退色が進み、用いられた画材の種類によって退色の過程も異なり、現在我々が美術館で目にしている名画の多くは、描かれた当時よりはより鮮やかな色合いを見せていたと言われている。NICAS が有する最新技術を駆使することで判明する、描画に使用された画材の科学的な分析結果と、本学の特許を用いた画期的な複製技術を組み合わせることで、まるで画家本人が描き上げたばかりのような、オリジナルに近い複製絵画制作の実現が期待される。文化財を国の貴重な観光・教育資源であると認識している両機関は、これまで贋作・偽物として捉えられることもあった複製絵画を、より社会に貢献するためのツールとして用いることを目指している。



（参考 1）ベルリン大学との協定（H27.10.9）

<http://global.geidai.ac.jp/reports/035/st/>



（参考 2）オランダ芸術科学保存協会(NICAS)との協定（H28.2.1）

<http://global.geidai.ac.jp/reports/054/>

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）国際交流協定校・機関数が順調に拡充されており、いずれも世界の有力な美術大学・音楽大学・芸術関係機関等が相手先であることから、効果的な研究者の交流及び学生の研究交流が期待でき、また、芸術と科学との融合等の先進的な分野においても連携が進んでいる為、実施状況が良好であると判断できる。

計画 1－3 「【26】今後の運営費交付金等の動向による財政的制約の中で実施可能なサバティカル制度の内容や導入方法等を検討し、教（職）員の研究・研修の活性化を図る。」に係る状況

各学部において、ワーキンググループを設置し、研修資格者、研修期間、手続き、代替措置などサバティカル研修制度の実態について調査、検討を行った。

その結果、音楽学部では、教員の教育研究能力の向上を図るとともに、教育研究の発展に資することを目的として、教員の職務の全部を一定期間免除し、その代替・支援措置を講じた上で、教員が国内外の教育研究機関等において研究活動に従事するため、「東京芸術大学音楽学部における教員のサバティカル研修に関する申合せ」を策定し、これに基づき運用を開始することとした（資料 26－1 参照）。平成 25 年度において、音楽学部楽理科教員 1 名が平成 25 年 7 月 19 日～平成 26 年 1 月 7 日の 173 日間、ソウル大学や韓国芸術総合学校において同制度を活用し研修を実施した。

資料 26－1：東京芸術大学音楽学部における教員のサバティカル研修に関する申合せ

○東京芸術大学音楽学部における教員のサバティカル研修に関する申合せ

（平成 25 年 6 月 13 日）
教授会決定

（趣旨）

第 1 条 この申合せは、音楽学部（言語・音声トレーニングセンター及び演奏芸術センターを含む。以下「本学部」という。）における教員のサバティカル研修に関し必要な事項を定める。

（定義）

第 2 条 この申合せにおいて、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- （1）教員 教授、准教授及び講師をいう。
- （2）サバティカル研修 本学部教員の教育研究能力の向上を図るとともに、本学部における教育研究の発展に資することを目的として、教員の職務の全部を一定期間免除し、その代替・支援措置を講じた上で、教員が国内外の教育研究機関等において研究活動に従事する研修をいう。

（研修資格）

第 3 条 サバティカル研修に従事することができる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- （1）本学部の専任教員として 7 年以上継続して勤務した者で、サバティカル研修に従事したことがないもの
 - （2）サバティカル研修に従事したことがある者で、直近のサバティカル研修に従事した期間の終了した日から 7 年以上継続して勤務したもの
- 2 前項の規定にかかわらず、研修を開始しようとする日の前年度末において 60 歳以上の者又は過去 5 年間に連続する 6 月以上の出張若しくは研修の期間のある者については、原則としてサバティカル研修を利用することができないものとする。

(研修期間)

第4条 サバティカル研修に従事することができる期間(以下「研修期間」という。)は、原則として2月以上1年以内の継続する期間とする。

- 2 研修期間の始期及び終期は、学期区分を考慮するものとする。ただし、サバティカル研修中の活動の形態、内容、期間の長短、代替・支援措置等に応じて、サバティカル研修に従事する教員及びその所属部会(東京藝術大学音楽学部運営会議内規第3条で規定する学科等及び演奏芸術センターをいう。以下同じ。)が実施可能と判断する始期又は終期とするなど、弾力的に取り扱うことができるものとする。

(申請手続)

第5条 サバティカル研修に従事しようとする者は、事前に所属部会の了承を得たうえで、原則としてサバティカル研修に従事しようとする期間の始期が属する年度(以下「研修年度」という。)の前年度までに音楽学部長に対して、サバティカル研修計画書(研修期間、研修先機関、研究課題、研究計画の概要、旅費(研究助成団体等による支弁の有無、有の場合その名称、金額)、その他研修の準備状況を示す参考となる事項を明記する。)をもって申請しなければならない。

- 2 音楽学部長は、前項の申請を受けた場合、音楽学部運営会議(人事)及び教授会において、研修期間における代替・支援措置、教育研究・管理運営上の支障の程度等を勘案の上、研修期間、代替・支援措置その他必要な事項を審議・決定し、原則として研修年度の前年度に許可するものとする。サバティカル研修に従事しようとする者が複数名いる場合においても同様とする。

- 3 海外におけるサバティカル研修を許可されたもの者は、本学が定める海外研修届を提出するものとする。

(身分等)

第6条 研修期間中は、本学の職員としての身分を有し、給与の全額(支給要件を欠くこととなる諸手当(大学院調整額を含む。)を除く。)を支給する。

- 2 研修期間中であっても、信用失墜行為の禁止、倫理の保持その他の服務規律を遵守しなければならない。

(代替職員の措置)

第7条 第3条第1項の研修資格により、サバティカル研修を許可された者については、研修期間中の担当授業について、必要に応じ、通年に換算して2コマ(4時間)以内の非常勤講師を新たに委嘱することができるものとする。なお、当分の間、代替分の経費については、余剰ポイント転換分により措置するものとする。

- 2 前項の措置は、非常勤講師委嘱料削減の対象外として取り扱うものとする。

(研修期間中の兼業)

第8条 研修期間中の兼業は、サバティカル研修の趣旨を考慮し、原則として許可しないものとする。ただし、当該兼業が継続中であるもの又は特段の事情があると認める場合は、東京藝術大学職員の兼業に関する規則に定める承認を経て、兼業に従事することができる。

(研修成果の報告)

第9条 サバティカル研修を終えた者は、当該研修の終了後30日以内に、研修成果を音楽学部長に文書により報告するものとする。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、サバティカル研修に関し必要な事項は、音楽学部長が別に定める。

附 則

この申合せは、平成25年6月13日から施行する。

(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) サバティカル制度を導入し、財政的な制約のある中、教員の研修が実施されるなど、教員の研究・研修の活性化が図られているため、実施状況が良好であると判断できる。

②優れた点及び改善を要する点等

(優れた点) 世界の有力な美術大学・音楽大学・芸術関係機関等との協定の拡充，ネットワーク強化が進み，教員及び学生の研究交流体制の活性化が図られていること。(計画1－2【25】)

(改善を要する点) 該当なし

(特色ある点) 該当なし

3 社会連携・社会貢献，国際化に関する目標（大項目）

（１）中項目１「社会との連携や社会貢献に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目１「展覧会，演奏会，発表会等により，教育研究成果を広く社会に提供し，芸術文化の振興を図り，地域の活性化に貢献する。」の分析

関連する中期計画の分析

計画１－１「【27】【★】自治体，企業及び海外の関係機関等との連携により，芸術に関する各種プロジェクト，展覧会，演奏会等を実施する。」に係る状況

芸術は，世界に「ときめき」をもたらす，社会全体の活力として無くてはならないものであるという理念の下，本学は社会との連携及び社会貢献についての目標を掲げ，芸術文化の啓蒙及び発展に取り組んでおり，地域住民に対してのみならず，広く国内外において教育研究成果を発表し，芸術文化の向上を図っているが，大学を出ての活動においては，自治体や企業等関連機関との連携は不可欠であり，キャンパスの所在する台東区，足立区，取手市，横浜市等との連携はもとより，国内全域において各自治体等と連携し，活動を展開している。

また，平成 17 年度から実施している「受託事業」では，受託研究制度の枠にあてはまらない，演奏会等の企画・実施等の受入を行っており，その事業数は毎年増加傾向にある（資料 27－１：受託事業一覧 参照）。

資料 27－１：受託事業一覧

No.	受入部局	実施 代表者	研究題目	委託者
平成 22 年度				
1	音楽学部	植田克己	2010 年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	（財）国際科学技術財団
2	美術学部	飯野一朗	2010「TOKYO GOLD WEEK」における金のオブジェ制作	田中貴金属工業（株）
3	美術学部	田甫律子	持続可能な環境芸術の創出と彩生事業	文化庁
4	美術学部	山下了是	多様化したテキスタイルアート表現法に於ける人材育成を目的としたシンポジウムと展覧会	文化庁
5	美術学部	大西博	赤倉芸術交流センターを拠点にしたアカデミー・イン・レジデンス事業	特定非営利活動法人 天心記念妙高赤倉芸術振興協会
6	美術研究科	宮廻正明	『仏頭画』観智院所蔵の復元模写及び補彩	観智院
7	演奏芸術センター	松下功	平成 22 年春の叙勲勲章伝達式における演奏，平成 22 年春の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課
8	演奏芸術センター	杉木峯夫	霞ヶ関コモンゲートコンサート①	霞ヶ関コモンゲート管理組合 管理者（株）新日鉄都市開発
9	美術研究科	簀内佐斗司	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館「酔胡王」調査及び模造事業	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
10	美術学部	松下計	都営交通 100 周年記念事業に係るロゴマークの作成	東京都交通局
11	美術学部	橋本和幸	「GEIDAI DESIGN PROJECT 2010」の設営運営委託	財団法人東京都交通局協力会
12	映像研究科	藤幡正樹	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業①	横浜市文化観光局
13	美術研究科	荒井経	平成 22 年度二国間交流事業共同研究・セミナー（中日の岩彩教育と東洋画の将来展望）	独立行政法人日本学術振興会
14	音楽学部	山本正治	小山実稚恵&東京芸術大学学生オーケストラの協演	財団法人 岡谷市振興公社
15	音楽学部	植田克己	文京シビック合唱団第 8 回定期演奏会	文京シビック合唱団
16	音楽学部	植田克己	第 60 回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

17	演奏芸術センター	松下功	平成22年度文化功労者顕彰式における演奏	文部科学省大臣官房人事課
18	演奏芸術センター	杉木峯夫	北とびあ国際音楽祭 2010『藝大とあそぼう in 北とびあ』	北区文化振興財団
19	音楽学部	植田克己	LEXUS Concert in 東京藝大 2010	東京トヨペット（株）
20	美術学部	池田政治	GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト実施委託①	台東区
21	美術学部	池田政治	GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト実施委託①	墨田区
22	音楽学部	亀川徹	足立区立中学校校歌の音源制作	足立区教育委員会
23	演奏芸術センター	松下功	平成22年文部科学大臣優秀教員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
24	音楽学部	守山光三	「四世花柳寿輔傘寿の会」における演奏	四世花柳寿輔傘寿の会」実行委員会
平成23年度				
25	演奏芸術センター	杉木峯夫	霞ヶ関コモンゲートコンサート②	霞ヶ関コモンゲート管理組合 管理者（株）新日鉄都市開発
26	演奏芸術センター	杉木峯夫	霞が関ビルディングコンサート①	三井不動産株式会社 上記代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
27	大学院映像研究科	堀越謙三	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業②	横浜市文化観光局
28	音楽学部	植田克己	文京シビック合唱団第9回定期演奏会	文京シビック合唱団
29	美術学部	三田村有純	東京芸術大学漆の箸教育事業 2011 実行委員会 ワークショップ お箸づくり教室『私だけの箸を作ってみませんか？』	北杜市子どもクラブ指導者連絡協議会
30	社会連携センター	宮廻正明	東京芸術大学サマースクール in 奥出雲	奥出雲芸術文化創造町づくり実行委員会
31	美術学部	藤崎圭一郎	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 2011」の運営委託	株式会社 大丸松坂屋百貨店
32	美術研究科	藪内佐斗司	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 「崑崙」復元模造事業	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
33	演奏芸術センター	松下功	平成23年春の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成23年春の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
34	美術学部	橋本和幸	「GEIDAI DESIGN PROJECT 2011」の設営運営委託	財団法人東京都交通局協力会
35	美術研究科	宮廻正明	『眞生光明阿弥陀仏画』観智院所蔵 補彩	観智院
36	演奏芸術センター	杉木峯夫	北とびあ国際音楽祭 2011『藝大とあそぼう in 北とびあ』における演奏	財団法人北区文化振興財団
37	演奏芸術センター	松下功	平成23年度文化功労者顕彰式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
38	音楽学部	松下功	LEXUS Concert in 東京藝大 2011 — A Night at the Opera —	東京トヨペット株式会社
39	美術学部	池田政治	平成23年度環境アート作品の設計及び制作委託（GTS）	墨田区長
40	音楽学部	植田克己	第61回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
41	美術研究科	藪内佐斗司	木造地藏菩薩立像制作	宗教法人 善光寺
42	音楽学部	西岡龍彦	足立区立本木小学校校歌の音源制作	足立区教育委員会
43	演奏芸術センター	松下功	平成23年度文部科学大臣優秀教員表彰式における演奏	文部科学省初等中等局
44	美術学部	池田政治	GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト実施委託②	台東区
平成24年度				
45	演奏芸術センター	多田羅迪夫	霞ヶ関コモンゲートコンサート③	霞ヶ関コモンゲート管理組合 管理者（株）新日鉄都市開発

46	演奏芸術センター	多田羅迪夫	霞が関ビルディング コンサート②	三井不動産株式会社 上記代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
47	大学院映像研究科	堀越謙三	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業③	横浜市文化観光局
48	社会連携センター	宮廻正明	公開講座「楽器作り&演奏会」	北杜市
49	美術学部	藤崎圭一郎	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 2012」の運営委託	株式会社 大丸松坂屋百貨店
50	美術研究科	簀内佐斗司	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 伎楽面「呉公」復元模造事業	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
51	演奏芸術センター	松下功	平成24年春の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成24年春の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
52	美術学部	日比野克彦	東京ホテル ひかりの神輿パレード	株式会社博報堂
53	音楽学部	西岡龍彦	世代を超えて、未来へ向けて～あだち8ミリフィルムアーカイブ～	足立区
54	美術学部	工藤晴也	小中高生と芸大生とのふれあい事業①	袋井市
55	音楽学部	植田克己	2012年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
56	美術学部	池田政治	第2回日本再光万燈会会場演出	宗教法人 奈良薬師寺東関東別院水雲山潮音寺
57	美術学部	池田政治	第29回全国都市緑化フェアTOKYO 上野恩賜公園会場シンボルモニュメント制作・展示	第29回全国都市緑化フェアTOKYO実行委員会
58	美術学部	長濱雅彦	東京芸術大学 特別公開講座 「ゴムで生活雑貨をつくろう」	墨東ゴム工業会
59	美術学部	藤崎圭一郎	東京芸術大学 特別公開講座「ちびっこ藝大でアートにチャレンジ！」	株式会社 大丸松坂屋百貨店
60	演奏芸術センター	多田羅迪夫	北とびあ国際音楽祭2012『芸大とあそぼう in 北とびあ』における演奏	北区文化振興財団
61	演奏芸術センター	松下功	第29回全国都市緑化フェアTOKYOのPRイベント、開会式、閉会式における演奏	株式会社電通
62	演奏芸術センター	松下功	IMF世界銀行総会にあわせて開催されるレセプションでの演奏	株式会社電通
63	学生支援課	渡辺健二	「隅田川夕日見～藝大みこし汐入パレード～」の企画・運営	公益財団法人東京都歴史文化財団
64	音楽学部	松原勝也	高等専門学校制度創設50周年記念式典及び記念祝賀会における演奏	独立行政法人国立高等専門学校機構
65	音楽学部	松下功	LEXUS Concert in 東京藝大2012	東京トヨペット株式会社
66	社会連携センター	宮廻正明	大人の休日倶楽部趣味の会「東京芸術大学で学ぶ はじめての陶芸講座」における実技指導	株式会社びゅうトラベルサービス
67	社会連携センター	宮廻正明	北杜市公開講座「八ヶ岳南麓混声合唱団指導」	北杜市
68	美術学部	池田政治	GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト実施委託③	台東区
69	総合芸術アーカイブセンター	北郷悟	「高崎市立甲種商業学校校歌」他 CD制作	高崎商業高等学校
70	美術学部	池田政治	乾草によるゾウのモニュメントの公開制作	恩賜上野動物園
71	演奏芸術センター	松下功	平成24年度文化功労者顕彰式における演奏 平成24年秋の叙勲 勲章伝達式における演奏 平成24年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
72	社会連携センター	宮廻正明	（仮称）長坂統合小学校校歌制作事業	北杜市
73	美術学部	池田政治	シンボルモニュメント「立つ人」移設に関する監修等事業	TSP太陽株式会社
74	音楽学部	植田克己	第62回チャリティーコンサート「メサイア」	朝日新聞厚生文化事業団

75	大学院映像研究科	桐山孝司	平成24年度かながわの遺跡展・巡回展「勝坂縄文展」のための展示	神奈川県
76	美術学部	池田政治	平成24年度環境アート作品の制作委託	墨田区
77	社会連携センター	宮廻正明	平成25年新年互礼会並びに叙勲・褒章・県政功績者表彰受章（章）祝賀会での指揮及び演奏	北杜市
78	美術学部	藤崎圭一郎	東京芸術大学 特別公開講座「ちびっこ藝大でアートにチャレンジ！秋」	株式会社 大丸松坂屋百貨店
79	美術研究科	木島隆康	新海覚雄の油彩画13作品の修復と調査	東京都現代美術館
80	演奏芸術センター	松下功	文部科学大臣賞優秀教員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局
81	美術学部	日比野克彦	東京都美術館・東京芸術大学アートコミュニティ形成事業	公益財団法人東京都歴史文化財団
82	美術学部	林武史	TOKYOガンダムプロジェクトのPR用モニメント ガンダム大理石像の制作	TOKYOガンダムプロジェクト実行委員会
平成25年度				
83	演奏芸術センター	多田羅迪夫	霞ヶ関から文化プロジェクト参加企画霞ヶ関コモンゲートコンサート④	霞ヶ関コモンゲート管理組合 管理者（株）新日鉄都市開発
84	演奏芸術センター	多田羅迪夫	霞が関から文化力プロジェクト参加企画 霞が関ビルディング コンサート③	三井不動産株式会社 上記代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
85	大学院映像研究科	岡本美津子	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業④	横浜市文化観光局
86	美術学部	工藤晴也	小中高生と芸大生とのふれあい事業②	袋井市
87	音楽学部	植田克己	2013年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
88	演奏芸術センター	松下功	平成25年春の叙勲 勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
89	美術学部	日比野克彦	上野地区文化教育施設連携事業「ミュージアム・スタートあいうえの」	公益財団法人東京都歴史文化財団
90	美術研究科	藪内佐斗司	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 伎楽面「波羅門」復元模造事業	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 館長
91	美術学部	金田充弘	YCAM10周年コログルパビリオン 構造検討及び現場監修	Assistant 代表 松原 慈
92	美術学部	藤崎圭一郎	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 2013」の運営委託	大丸松坂屋百貨店
93	美術研究科	木島隆康	篠原勇司男作品7点、尾藤豊作3点の修復事業	東京都現代美術館
94	大学院映像研究科	桐山孝司	カラーハンティング展に出展するライオンシェーズのためのモーションシステム開発	2121 DESIGN SIGHT 株式会社
95	社会連携センター	宮廻正明	北杜市公開講座（彫金研究室）ワークショップ	北杜市長
96	美術研究科	藪内佐斗司	教住寺 地藏菩薩立像制作事業	教住寺
97	美術学部	北郷悟	いわき市勿来地区の津波災害者が実体験を未来に遺すタイムカプセル事業	特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター
98	美術学部	永田和宏	平成25年度国際研究集会 「第8回金属の歴史国際会議」	（独）日本学術振興会理事長
99	総合芸術アーカイブセンター	北郷悟	国宝仏頭のデジタル復元	凸版印刷株式会社
100	美術学部	金田充弘	石岡屋台村計画 構造検討	nSTUDIO
101	音楽学部	松原勝也	文京シビック合唱団第111回定期演奏会	文京シビック合唱団
102	演奏芸術センター	大石泰	北とびあ国際音楽祭2013 芸大とあそぼう in 北とびあにおける演奏	北区文化振興財団
103	社会連携センター	宮廻正明	「みんなで作ろうアートの世界 東京芸術大学ワークショップ」	第63回“社会を明るくする運動”中央推進委員会事務局 法務省保護局長

104	美術学部	三井田盛一郎	「田善フォーラム（仮称）」の開催，及び「亜欧堂田善と銅版画の町すかがわ」に向けての総合プロデュース提案	須賀川商工会議所青年部
105	美術学部	本郷寛	幼児のための美術教育（屋外活動）プログラムの実践①	学校法人宮沢学園 富田幼稚園
106	音楽学部	松下功	LEXUS Concert in 東京藝大 2013	東京トヨペット株式会社
107	音楽学部	植田克己	第63回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
108	美術学部	藤崎圭一郎・松下計	新しい市場性を持った紙の開発，ブランディング	北越紀州製紙株式会社
109	音楽学部	寺谷千枝子	NHK 交響楽団 第1774回定期演奏会	公益財団法人 NHK 交響楽団
110	学生支援課	渡辺健二	「隅田川夕日見 2013～藝大みこし汐入パレード～」の企画・運営等の委託	公益財団法人東京都歴史文化財団
111	美術学部長	三井田盛一郎	飛騨高山文化芸術祭こだま〜れ 2013 実行委員会プロジェクト 今日から私もアーティスト「東京藝大の作品展・ワークショップを楽しもう」	高山市役所市民活動部生涯学習課内 飛騨高山文化芸術祭実行委員会
112	演奏芸術センター	松下功	平成25年度文部科学大臣優秀教職員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局
113	社会連携センター	宮廻正明	映像制作「記憶〜丸の内から未来へ〜」短縮版	三菱地所株式会社
114	演奏芸術センター	松下功	(1) 平成25年度文化功労者顕彰式における演奏 (2) 平成25年秋の叙勲 勲章伝達式における演奏 (3) 平成25年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
115	社会連携センター	宮廻正明	「新しい東北」先導モデル事業①	復興庁
平成26年度				
116	音楽学部	山本正治	北本市芸術文化活動事業	北本市
117	美術学部	日比野克彦	東京都美術館・東京芸術大学アートコミュニティ形成事業	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
118	美術研究科	藪内佐斗司	長禅寺 木造十一面観音菩薩立像制作事業	大鹿山長禅寺
119	音楽学部	松原勝也 高田利英	文京シビック合唱団第12回定期演奏会	文京シビック合唱団
120	演奏芸術センター	山本正治 松下功	霞が関ビルディングコンサート	三井不動産株式会社
121	演奏芸術センター	山本正治 松下功	霞ヶ関コモンゲート コンサート	新日鉄興和不動産株式会社
122	演奏芸術センター	松下功	(1) 平成26年春の叙勲 勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
123	演奏芸術センター	松下功	(2) 平成26年春の褒章 褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
124	美術学部	工藤晴也	市民と芸大生とのふれあい事業	静岡県袋井市
125	音楽学部	澤和樹	2014年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
126	音楽学部	植村幸生	平成26年度研究成果の社会還元・普及事業	日本学術振興会
127	美術学部	中村政人	北秋田市地域における地域資源の効果的プレゼンテーションならびに地域活性化に関する事業	北秋田市
128	美術学部	乾久美子	松島邸 デザイン検討及び現場監修	松島正
129	社会連携センター	宮廻正明	映像作品「東京駅 100年の軌跡」	東日本旅客鉄道株式会社
130	社会連携センター	宮廻正明	東京芸術大学漆の箸教育事業 2014 実行委員会ワークショップ 親子箸作り教室	北杜市
131	演奏芸術センター	山本正治	日本更生保護協会設立 100周年記念式典・祝賀会における演奏	更生保護法人日本更生保護協会
132	美術学部	藤崎圭一郎	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 2014」の運営委託①	株式会社大丸松坂屋百貨店

133	美術学部	藤崎圭一郎	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 2014」の運営委託②	株式会社大丸松坂屋百貨店
134	音楽学部	山本正治	北杜市制施行 10 周年記念 芸術文化事業	北杜市
135	映像研究科	岡本美津子	東アジア文化都市 2014 横浜事業	2014 年東アジア文化都市実行委員会
136	社会連携センター	宮廻正明	「東京 JAZZ CIRCUIT2014 ジャズ in 藝大 @Marunouchi」における演奏	三菱地所プロパティマネジメント株式会社
137	映像研究科	岡本美津子	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業⑤	横浜市文化観光局
138	美術学部	橋本和行	「三越×藝大 夏の芸術祭 2014」中央ホールイベントの企画委託	株式会社 三越伊勢丹 三越日本橋本店
139	美術学部	尾登誠一	産学連携デザインイノベーション事業プロジェクト	株式会社西川精機製作所
140	美術学部	橋本和行	GTS 観光アートラインを巡るフォトラリーにおけるノベルティー制作事業	台東区文化産業観光課部文化振興課
141	演奏芸術センター	山本正治	北とびあ国際音楽祭 2014 芸大とあそぼう in 北とびあにおける演奏	公益財団法人 北区文化振興財団事業係
142	美術学部	本郷寛	幼児のための美術教育(屋外活動)プログラムの実践②	学校法人宮沢学園 富田幼稚園
143	美術学部	本郷寛	幼稚園周年に伴う木製レリーフボード制作	荒川区
144	社会連携センター	宮廻正明	「新しい東北」先導モデル事業②	復興庁
145	美術学部	工藤晴也	茨城県立取手第二高校改築校舎壁面レリーフ制作	山本・松丸特定建設工事共同企業体 株式会社 山本工務店
146	美術学部	橋本和行	GTS ワークショップ実施事業	台東区文化産業観光課部文化振興課
147	美術学部	保科豊巳	東京芸術大学連携事業の実施に係る業務	香川県
148	美術学部	保科豊巳	アートマネジメント人材育成事業の実施に係る業務	公益財団法人置県百年記念香川県文化芸術振興財団
149	社会連携課	相澤尚登	「JOBAN アートアンブレラ in 上野」の企画・運営等の委託	JOBAN アートライン協議会
150	音楽学部	澤和樹	東京芸術大学コンサート	坂東市文化振興事業団
151	音楽学部	澤和樹	メトロコンサート in 渋谷	公益財団法人メトロ文化財団
152	演奏芸術センター	松下功	(1) 平成 26 年度文化功労者顕彰式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
153	演奏芸術センター	松下功	(2) 平成 26 年秋の叙勲 勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
154	演奏芸術センター	松下功	(3) 平成 26 年秋の褒章 褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
155	美術学部	金田充弘	キッザニア東京協賛に関する業務委託	YKK 株式会社
156	音楽学部	澤和樹	第 64 回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
157	音楽学部	澤和樹	LEXUS Concert in 東京藝大 2014	東京トヨペット株式会社
158	映像研究科	岡本美津子	青葉区政 20 周年事業連携	横浜市青葉区
159	社会連携センター	宮廻正明	地域創生と日本文化の発酵 I	野村総合研究所
160	演奏芸術センター	松下功	平成 26 年度文部科学大臣優秀教職員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局
161	社会連携課	事務局長 馬場剛	東アジア文化都市 2014 横浜「藝大アーツ学生サミット 2014」実施業務	2014 年東アジア文化都市実行委員会
162	社会連携センター	宮廻正明	コレド室町芸術文化事業	三井不動産株式会社
163	社会連携センター	宮廻正明	第 61 回全日本チンドンコンクール	全日本チンドンコンクール実行委員会
平成 27 年度				
164	美術学部	日比野克彦	東京都美術館・東京芸術大学アートコミュニティ形成事業	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

165	社会連携センター	宮廻正明	三菱地所関連事業 2015 (ラフォーレジュルネ)	三菱地所プロパティマネジメント株式会社
166	社会連携センター	宮廻正明	東京芸術大学 ワークショップ親子シルクスクリーン教室『オリジナルバックをつくろう』	北杜市
167	音楽学部	澤和樹	2015 年日本国際賞授賞式式典及び祝宴における演奏	公益財団法人国際科学技術財団
168	演奏芸術センター	山本正治	霞が関から文化力プロジェクト参加企画 霞が関コモンゲート・コンサート	新日鉄興和不動産株式会社 (霞が関コモンゲート管理組合管理者)
169	演奏芸術センター	山本正治	霞が関から文化力プロジェクト参加企画 霞が関ビルディング コンサート	東京都千代田区霞が関 3-2-5 三井不動産株式会社 上記代理人 三井不動産ビルマネジメント株式会社
170	美術学部	藤崎圭一郎	「さくらパンダ GEIDAI プロジェクト 2015」の運営委託	株式会社 大丸松坂屋百貨店
171	演奏芸術センター	松下功	(1) 平成 27 年春の叙勲 勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
172	演奏芸術センター	松下功	(2) 平成 27 年春の褒章 褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
173	美術学部	金田充弘	コンピューテーションによる屋内遊具の設計協力に関する事業	ソニーピーシーエル株式会社
174	美術学部	手塚雄二	東京芸術大学特別公開講座「絹に描く 大人の藝大ワークショップ」	公益財団法人 台東区芸術文化財団
175	音楽学部	澤和樹	東京藝大プロデュース LEXUS ミニコンサート	東京トヨペット株式会社
176	美術学部	ヨコミゾマコト	新潟県新発田市市長徳寺における永代供養墓(合葬墓)の設計監理	長徳寺 護持会
177	演奏芸術センター	山本正治	北とびあ国際音楽祭 2015 芸大と遊ば in 北とびあ	公益財団法人北区文化振興財団
178	音楽学部	澤和樹	メトロ ステーションコンサート in 渋谷	公益財団法人メトロ文化財団
179	映像研究科	岡本美津子	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業	横浜市文化観光局
180	美術学部	本郷寛	東京藝大交流事業	袋井市
181	美術学部	ヨコミゾマコト	石巻市雄勝半島における防災集団移転地の造成模型制作とまちなみ形成に関する計画支援	雄勝地区震災復興まちづくり協議会
182	社会連携センター	宮廻正明	富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館開館セレモニー事業	富山市
183	映像研究科	岡本美津子	日中韓学生アニメーション国際共同制作	ユニジャパン
184	映像研究科	岡本美津子	ASEAN 諸国への専門家派遣事業	ユニジャパン
185	美術学部	本郷寛	幼児のための美術教育(屋外活動)プログラムの実践	学校法人宮沢学園 富田幼稚園
186	美術研究科	簗内佐斗司	磐梯山慧日寺資料館「とくいつ芸術祭」支援事業	磐梯町
187	映像研究科	筒井武文	荒川区 P R ビデオ制作事業	荒川区
188	社会連携センター	宮廻正明	三菱地所関連事業 2015 (ジャズ in 藝大)	三菱地所プロパティマネジメント株式会社
189	美術研究科	木島隆康	岸田劉生《椿君に贈る自画像》他油彩画 4 作品の修復事業	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
190	美術学部	保科豊巳	「2074, 夢の世界」アワード(仮題)	コルベール委員会
191	美術学部	保科豊巳	東京芸術大学連携事業の実施に係る業務	香川県
192	美術学部	保科豊巳	アートマネジメント人材育成事業の実施に係る業務	公益財団法人置県百年記念香川県文化芸術振興財団
193	音楽学部	澤和樹	メトロ ステーションコンサート in 渋谷(同タイトル今年度 2 件目)	公益財団法人メトロ文化財団
194	社会連携センター	宮廻正明	三菱地所関連事業 2015 (ストリートウォールペインティング)	三菱地所プロパティマネジメント株式会社
195	美術学部	橋本和幸	GTS ワークショップ実施事業	台東区
196	美術学部	保科豊巳	「富士ヶ丘小学校プロジェクト 2015」の運営委託	北茨城市

197	演奏芸術センター	松下功	(1) 平成 27 年度文化功労者顕彰式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
198	演奏芸術センター	松下功	(2) 平成 27 年秋の褒章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
199	演奏芸術センター	松下功	(3) 平成 27 年秋の叙勲勲章伝達式における演奏	文部科学省大臣官房人事課長
200	美術学部	松下計	DRAW	株式会社博報堂
201	音楽学部	澤和樹	第 65 回チャリティーコンサート「メサイア」	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団
202	音楽学部	澤和樹	LEXUS Concert in 東京藝大 2015	東京トヨペット株式会社
203	音楽学部	川崎和憲	どりーむコンサート vol.94 オーケストラの扉 IV	公益財団法人府中文化振興財団
204	美術学部	橋本和幸	スターバックス上野恩賜公園店アートワーク設置事業	スターバックスコーヒージャパン株式会社
205	美術研究科	木島隆康	目黒区美術館所蔵作品 10 点の修復事業	公益財団法人 目黒区芸術文化振興財団
206	映像研究科	岡本美津子	文化芸術創造都市づくりの推進に向けた地域貢献事業 (青葉区)	横浜市文化観光局
207	美術研究科	木島隆康	中村不折油画作品の調査と修復	台東区
208	音楽学部	澤和樹	東京芸術大学コンサート	坂東市文化振興事業団
209	演奏芸術センター	松下功	平成 27 年度文部科学大臣優秀教職員表彰式における演奏	文部科学省初等中等教育局
210	映像研究科	岡本美津子	タカシマヤ文化基金 25 周年記念映像制作	株式会社高島屋
211	美術研究科	木島隆康	伊丹市立美術館 ジェイムズ・アンソール《キリストの誘惑》に付属する額縁の補修とグレーディング	公益財団法人伊丹市文化振興財団
212	社会連携センター	宮廻正明	ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭 2016 における演奏	三菱地所プロパティマネジメント株式会社
213	音楽学部長	山本正治	東京芸術大学との連携事業	和歌山県文化振興財団

また、三菱地所株式会社との共同主催事業「藝大アーツイン丸の内」は、丸ビル（東京都千代田区）を舞台に、「芸術によるまちづくり」をテーマとして毎年実施されている。平成 27 年度においては第 9 回開催を迎え、三菱地所賞美術部門受賞記念作品展、音楽部門受賞記念リサイタル開催のほか、美術学部の学生によるストリートウォールペインティング（10 月 24～25 日）、芸大教員による計 7 回の出張講義（10 月 20～25 日）、スタインウェイ・ピアノによる藝大コンサート（10 月 21 日～25 日）では現役学生約 80 名によるコンサートが期間内において終日開催されるなど、芸術と都市が結びつき、社会における芸術文化振興に貢献した（資料 27-2：藝大アーツイン丸の内 参照）。

資料 27-2：藝大アーツイン丸の内



(参考 <http://www.marunouchi.com/geidaiarts/index.html?event#firstPage>)

さらに、文部科学省国立大学の機能強化事業において、本学は「グローバル展開戦略」を掲げており、海外の関係機関等と連携した取組実績については「1 教育に関する目標 中項目2 計画1-2【8】(P.32))」に記載するとおりである。

しかし、本戦略は海外における展開や国際舞台を標榜した活動だけでなく、日本国内全域において我が国固有の「芸術文化潜在能力」を高め、もって世界を相手に伍して競える国力を増加させるという、戦略的取組を同時に有している。

その代表的な取組として、音楽分野における「早期教育プロジェクト (EEP: Early Educational Project) ～夢を夢で終わらせない～」が挙げられる。

本プロジェクトは、音楽分野における「早期教育」の有効性に着目し、日本全国の小中学生を対象に、その地元でのレッスン（無料）を実施し、幼少期から継続的・段階的に指導を行うことで優れた才能を開花させ、世界への飛躍に繋げることを目指すものである。同時に、特に昨今、少子化や経済情勢により音楽家を目指す若者が減少傾向にあり、受験等様々な流れ・選択の過程で、才能ある子どもが音楽家への道を断念してしまう状況が絶えないことを鑑み、子どもたちの可能性を発見して最大限伸ばし、夢の実現に繋げることを目的としている。また、レッスンは広く一般に公開され、実施地域の住民に対しても「音楽の魅力」や「芸術の力」に触れる機会を提供しており、地域の活性化に繋げ、地方創生へ資するものとなっている（資料27-3：早期教育プロジェクト 参照）。

資料27-3：早期教育プロジェクト実施一覧

No.	開催日	地域	場所	実施教員
1	H27.2.7	福岡県	西南コミュニティーセンター	Vn. 澤和樹 教授（音楽学部長） Fl. 高木綾子 准教授
2	H27.3.14～15	北海道	カワイ札幌	Pf. 植田克己 教授、安田里沙 非常勤講師 Vn. 玉井菜採 准教授 Fl. 小池郁江 非常勤講師
3	H27.7.28	東京都	東京芸術大学奏楽堂他	Vn. 澤和樹 教授（音楽学部長） Vc. 河野文昭 教授
4	H27.8.20	和歌山県	県立図書館・文化情報センター	Vn. 澤和樹 教授（音楽学部長）
5	H27.9.26	静岡県	アクトシティ浜松	Pf. 渡邊健二 教授（教育担当理事） Vn. 澤和樹 教授（音楽学部長） Vc. 中木健二 准教授
6	H27.12.6	宮城県	日立システムズホール	Pf. 角野裕 教授
7	H27.12.26	福岡県	北九州市立響ホール	Pf. 植田克己 教授（前音楽学部長） Vn. 澤和樹 教授（音楽学部長）
8	H28.1.31	宮城県	日立システムズホール他	Vn. 漆原朝子 准教授 Fl. 高木綾子 准教授、八木瑛子（在学生） Cl. 山本正治 教授、日比野裕幸（宮城教育大 教授）、 下路詞子（仙台フィル） Ob. 小畑善昭 教授、戸田智子（藝大フィル） Fg. 大内秀介、吉田陽香（在学生） Sax. 上野耕平、都筑惇（在学生） Hr. 日高剛 准教授、齋藤雄介（仙台フィル） Trp. 栃本浩規 准教授、金子美保（在学生） Trb. 古賀慎治 准教授、菊池公佑（仙台フィル） Euph. 庄司燦（在学生） Tuba 池田侑太（在学生） Per. 金井麻理、廣政志（在学生） Cb. 那須野直裕（東京藝高 教諭） ソルフェージュ 平川加恵（東京藝高 教諭）

9	H 28. 3. 12～13	宮崎県	メディキット県民文化センター	Fl. 八木瑛子（在学生） Cl. 山本正治（音楽学部教授）、横田 揺子（GSC 特任准教授） Sax. 上野耕平（在学生） Hr. 日高剛（音楽学部准教授） Trp. 松山 萌（藝大フィルハーモニア）、蓮田奈津美（在学生） Trb. 山下純平（在学生） Euph. 佐藤采香（在学生） Tuba 池田侑太（在学生） Per. 金井麻理（在学生） ソルフェージュ 平川加恵（東京藝高 教諭）
10	H 28. 3. 28～29	北海道	札幌コンサートホール	Vn. 澤和樹 教授（音楽学部長） Pf. 植田克己 教授



(参考 <http://www.geidai.ac.jp/information/measure/eep>)

【実施状況の判定】実施状況が良好である。

【判断理由】自治体や企業、海外関係機関等との連携により、各分野における芸術に関するプロジェクト、展覧会、演奏会等を実施し、芸術文化の振興を積極的に図っており、また、「早期教育プロジェクト」という従来行われてこなかった全国的な新しい試みを実施しているため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

音楽学部 観点「教育内容・方法」（P.3-25）

計画 1-2 「【28】大学美術館、演奏堂の施設や学内ギャラリー、音楽ホール等で、所蔵品の展示や教育研究成果を発表する展覧会、演奏会等を開催する。」に係る状況

本学において日常的に生み出される教育研究の成果は、各種の展示会、演奏会及び関連企画を通し、広く一般に向けて発表が行われている。

大学美術館では、学部・大学院の卒業・修了時に実施される「卒業・修了制作展」「博士展」が行われる他、特別展・企画展においては、毎年テーマを設定し開催される大学美術館収蔵作品による「藝大コレクション展」をはじめ、様々な内容の展示が実施されている。また、美術分野の教員の退任時には、その永年の研究成果の集大成として、退任記念展が実施されている（資料 28-1：展覧会一覧、資料 28-2：所蔵数 参照）。

資料 28-1 : 大学美術館 展覧会一覧

※会場欄の「本」は大学美術館本館,「陳」は陳列館,「正」は正木記念館

No.	会場	展覧会名	会期	合計	一日平均 入場者数
平成 22 年度					
1	本	コレクション展 Part 1. 朝倉文夫—朝倉彫塑館所蔵—Part 2. 芸大コレクション—動物を中心に—	H22. 4. 6～H22. 6. 6	15,253	277
2	本	ポンピドー・センター所蔵作品展 シャガール ロシア・アヴァンギャルドとの出会い 交錯する夢と前衛	H22. 7. 3～H22. 10. 11	207,179	2,354
3	本	明治の彫塑 ラグーザと荻原礫山 第一部: ラグーザとその弟子たち 第二部: 没後 100 年 荻原礫山	H22. 10. 23～H22. 12. 5	13,323	351
4	本	黙示録—デューラー／ルドン	H22. 10. 23～H22. 12. 5	13,612	358
5	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	H22. 12. 12～H22. 12. 24	5,306	482
6	本	第 59 回 東京藝術大学卒業・修了作品展	H23. 1. 29～H23. 2. 3	17,692	2,949
7	本	ぼくの色,わたしの形 第 63 回台東区小・中学校連合 作品展	H23. 2. 6～H23. 2. 9	6,295	1,574
8	陳	天野太郎の建築展 あるべきようは	H22. 5. 11～H22. 5. 23	2,205	184
9	陳	東京スカイツリー®を描く絵画展	H22. 10. 6～H22. 10. 11	2,757	460
10	陳	TEXTILE CONNECTION-WOVEN テキスタイル コネクション—宇宙を織りなす—	H22. 10. 19～H22. 11. 7	3,005	158
11	陳	彫刻展示室(田中記念室)開室	H22. 10. 26～H22. 11. 7	1,713	156
12	陳	素描展—東京藝術大学日本画第二研究室	H22. 11. 14～H22. 11. 30	1,904	127
13	陳	佇む木々—田中一幸展	H22. 12. 9～H22. 12. 23	1,790	138
14	陳	スケルトンドミノ[プロトタイプ]展	H23. 1. 9～H23. 1. 22	1,467	113
15	陳	[木のデザイン]落葉松からのメッセージ展	H23. 1. 9～H23. 1. 22	1,420	109
平成 23 年度					
16	本	芸大コレクション展 —春の名品選—	H23. 4. 7～H23. 6. 19	3,689	63
17	本	香り かぐわしき名宝	H23. 4. 7～H23. 5. 29	47,446	1,009
18	本	特集陳列 海外の日本美術品の修復 在外日本古美術 品保存修復協力事業	H23. 6. 7～H23. 6. 19	2,838	237
19	本	今,美術の力で—被災地美術館所蔵作品から—	H23. 8. 2～H23. 8. 21	7,034	391
20	本	区長賞創設 30 周年記念 台東区コレクション展	H23. 8. 2～H23. 8. 21	16,372	496
21	本	国宝 源氏物語絵巻に挑む—東京藝術大学 現状模写—	H23. 9. 9～H23. 9. 25	13,156	877
22	本	彫刻の時間—継承と展開	H23. 10. 7～H23. 11. 6	7,834	280
23	本	高山登退任記念展「枕木—白い闇×黒い闇」	H23. 11. 17～H23. 12. 4	3,107	194
24	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	H23. 12. 11～H23. 12. 21	4,638	515
25	本	ぼくの色,わたしの形 —第 64 回台東区小・中学校連合 作品展	H24. 1. 14～H24. 1. 18	6,849	1,370
26	本	第 60 回 東京藝術大学卒業・修了作品展	H24. 1. 29～H24. 2. 3	16,688	2,781
27	陳	東京藝術大学アジア総合芸術センター美術学部交流事 業 伝統と現代	H23. 5. 12～H23. 6. 19	3,459	124
28	陳	アフガニスタン 流出仏教壁画片の修復展	H23. 6. 25～H23. 7. 10	1,382	99
29	陳	素描展 東京藝術大学日本画第二研究室	H23. 7. 17～H23. 7. 29	1,552	119
30	陳	ICHIKENTEN 2011	H23. 8. 30～H23. 9. 11	2,321	179
31	陳	国際陶芸教育交流展	H23. 9. 19～H23. 9. 25	1,537	220
32	陳	モチハコブカタチ—カバンのトップメーカー, エース のデザイン展	H23. 10. 4～H23. 10. 23	4,448	222
33	陳	東京スカイツリーを描く絵画展	H23. 10. 27～H23. 10. 30	1,040	260
34	陳	日本画第二研究室「絹に描く」	H23. 11. 8～H23. 11. 14	1,048	150
35	陳	大西博遺作展 限りなく透明に近い青を求めて	H24. 3. 20～H24. 4. 8	3,318	0

36	陳	平櫛田中コレクション 2011 彫刻展示室(田中記念室) 開室	H23.4.29～H23.5.12	2,584	199
平成 24 年度					
37	本	芸大コレクション展―春の名品選―	H24.4.5～H24.6.24	6,127	88
38	本	近代洋画の開拓者 高橋由一	H24.4.28～H24.6.24	80,233	1,573
39	本	日中国交正常化 40 周年記念 特別展 草原の王朝 契丹―美しき 3 人のプリンセス―	H24.7.12～H24.9.17	35,344	609
40	本	東京藝術大学創立 125 周年記念事業 漆芸 軌跡と未来	H24.10.5～H24.10.21	6,265	418
41	本	尊厳の芸術展 -The Art of Gaman-	H24.11.3～H24.12.9	55,601	1,738
42	本	退任記念展 中島千波 人物図鑑	H24.11.15～H24.12.2	15,247	953
43	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展	H24.12.16～H24.12.25	4,955	496
44	本	Tokyo Sonic Art Weeks アートと音楽「共感覚実験劇場」	H25.1.7～H25.1.17	2,251	205
45	本	第 61 回 東京藝術大学卒業・修了作品展	H25.1.26～H25.1.31	16,092	2,682
46	陳	研究報告発表展 -東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究室-	H24.4.26～H24.4.30	1,195	239
47	陳	東京藝術大学助手有志展	H24.6.8～H24.6.17	2,976	298
48	陳	「素描展 視点と観点」 ※関連企画：新旧の視点	H24.7.13～H24.7.25	1,792	138
49	陳	谷川岳高山植物図鑑原画展	H24.9.4～H24.9.17	6,492	464
50	陳	ICHIKENTEN 2012	H24.9.20～H24.9.26	715	102
51	陳	イモノの景色 東京・金沢・高岡・秋田 鋳金展	H24.9.30～H24.10.6	841	140
52	陳	東京スカイツリー®を描く 絵画展	H24.10.30～H24.11.4	1,053	176
53	陳	公益財団法人芳泉文化財団 第一回文化財保存学日本研究発表展 美しさの新機軸 -日本画 過去から未来へ-	H24.11.1～H24.11.11	1,757	160
54	陳	退任記念 山下了是 染色作品展 赧 -TANN	H24.11.20～H24.12.2	3,567	297
55	陳	渡辺好明遺作展 -光ではかられた時	H24.12.7～H24.12.24	3,645	228
56	陳	池田政治 退任記念展 「Out of Sight」(アウト・オブ・サイト)	H25.1.4～H25.1.22	2,831	177
57	陳	平櫛田中コレクション 2012 彫刻展示室(田中記念室) 開室	H24.11.15～H24.12.12	10,234	426
平成 25 年度					
58	本	FENDI - UN ART AUTRE Another Kind of Art, Creation and Innovation in Craftsmanship ～フェンディ もうひとつのアート, クリエイションとイノベーションの軌跡～	H25.4.3～H25.4.29	15,315	638
59	本	芸大コレクション展―春の名品選―	H25.4.5～H25.5.6	21,206	731
60	本	夏目漱石の美術世界展	H25.5.14～H25.7.7	74,518	1,552
61	本	興福寺創建 1300 年記念 国宝 興福寺仏頭展	H25.9.3～H25.11.24	175,457	2,437
62	本	東京藝術大学大学院美術研究科博士審査	H25.12.15～H25.12.24	4,047	405
63	本	佐藤一郎 退任記念展	H26.1.6～H26.1.19	5,369	384
64	本	「見ること・描くこと」―油画技法材料研究室とその周縁の作家たち	H26.1.6～H26.1.19	5,529	395
65	本	第 62 回 東京藝術大学卒業・修了作品展	H26.1.26～H26.1.31	15,870	2,645
66	陳	物質と彫刻―近代のアポリアと形見なるもの	H25.4.2～H25.4.21	3,698	218
67	陳	平櫛田中コレクション 2013 平櫛田中記念室 開室	H25.4.2～H25.4.21	3,328	185
68	陳	研究報告発表展 -東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究室-	H25.4.25～H25.4.29	2,060	412
69	陳	平成 24 年度 受託研究「絵画用紙の諸相とその発揮について」成果発表 紙本の絵画展	H25.5.9～H25.5.18	1,165	117

70	陳	マテリアライジング展 - 情報と物質とそのあいだ / 23名の建築家・アーティストによる思索 -	H25. 6. 8～H25. 6. 23	4,497	321
71	陳	素描展 それぞれの眼差し	H25. 6. 28～H25. 7. 10	2,604	200
72	陳	Delta	H25. 7. 16～H25. 7. 23	761	95
73	陳	Ichiken ten 2013 -東京芸術大学 日本画第一研究室 発表展-	H25. 9. 2～H25. 9. 12	2,858	260
74	陳	日本・中国「東洋茶文化交流」 展覧会	H25. 9. 25～H25. 10. 6	1,746	159
75	陳	東京美術学校の漆芸が海を渡り、そして今 台湾・日本芸術文化交流事業 台湾・日本漆芸交流展ー過去、現在そして未来ー	H25. 10. 23～H25. 10. 30	1,528	218
76	陳	公共建築から考えるアーバンデザインの実験「大宮東口プロジェクト展 2013」	H25. 11. 2～H25. 11. 10	747	107
77	陳	平櫛田中コレクション 2013 彫刻展示室（田中記念室）開室	H25. 11. 12～H25. 11. 24	7,457	621
78	陳	元倉眞琴教授退任記念「都市への愛・キャンパスへの愛」展	H25. 11. 14～H25. 11. 24	3,832	295
79	陳	第4回東京アートミーティング SEVEN of Wonder -ありふれたマテリアルのもうひとつの様相-	H25. 12. 6～H25. 12. 18	2,092	161
80	陳	文化財保存学教育成果発表作品展 山川異或風月同天	H26. 2. 2～H26. 2. 8	673	56
81	陳	永田和宏教授退任展 「和鉄 たたらと鍛冶」	H26. 3. 15～H26. 3. 21	1,136	189
平成 26 年度					
82	本	※観音の里の祈りとくらし展ーびわ湖・長浜のホトケたちー	H26. 3. 21～H26. 4. 13	19,213	915
83	本	※藝大コレクション展 ー春の名品選ー	H26. 3. 21～H26. 4. 13	19,043	907
84	本	法隆寺ー祈りとかたち	H26. 4. 26～H26. 6. 22	96,063	1,884
85	本	第2回国際木版画会議特別企画展「木版ぞめきー日本でなにが起こったかー」	H26. 8. 30～H26. 9. 14	6,038	403
86	本	台湾の近代美術ー留学生たちの青春群像（1895-1945）	H26. 9. 12～H26. 10. 26	10,493	269
87	本	平櫛田中コレクションーつくる・みる・あつめるー	H26. 9. 23～H26. 10. 19	6,944	289
88	本	美術教育研究会第20回大会企画展「つくったり 考えたり ー美術教育からのメッセージー」	H26. 10. 31～H26. 11. 3	1,975	494
89	本	河北秀也 東京芸術大学退任記念 地下鉄10年を走りぬけて iichiko デザイン 30年展	H26. 11. 13～H26. 11. 26	9,462	676
90	本	博士審査展	H26. 12. 18～H26. 12. 25	4,616	577
91	本	卒業・修了作品展	H27. 1. 26～H27. 1. 31	13,246	2,208
92	陳	保存修復彫刻研究室研究報告発表展	H26. 4. 16～H26. 4. 20	1,231	246
93	陳	別品の祈りー法隆寺金堂壁画ー	H26. 4. 26～H26. 6. 22	40,268	790
94	陳	日本画第二研究室 素描展	H26. 6. 27～H26. 7. 10	1,637	117
95	陳	マテリアライジング展Ⅱ	H26. 7. 19～H26. 8. 8	5,195	289
96	陳	Ichiken ten2014ー東京芸術大学日本画第一研究室発表展ー	H26. 8. 18～H26. 8. 26	1,706	213
97	陳	第2回 国際木版画会議 国際公募展 「国際木版画展 2014」	H26. 8. 30～H26. 9. 30	1,984	153
98	陳	ー台湾絵画の巨匠ー 陳澄波 油彩画作品修復展	H26. 9. 12～H26. 10. 2	2,933	173
99	陳	第5回企業のデザイン展 花王株式会社 「にほんのきれいのあたりまえ」	H26. 10. 4～H26. 10. 26	7,632	332
100	陳	日本・台湾現代美術の現在と未来 ーローカリティとグローバルの振幅ー	H26. 11. 4～H26. 11. 16	1,175	90
101	陳	邦楽器が受け継ぐ技・形・音：こめられた丹精	H26. 11. 20～H26. 11. 30	1,852	168
102	陳	美しさの新機軸ー日本画 過去から未来へー	H26. 11. 23～H26. 12. 3	2,331	212
103	陳	大宮東口プロジェクト2014 公共建築から考えるアーバンデザインの実験	H26. 12. 9～H26. 12. 14	164	27

104	陳	東谷武美退任展 日蝕・水の肖像	H27. 1. 5～H27. 1. 15	1, 773	161
平成 27 年度					
105	本	ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美	H27. 4. 4～H27. 5. 17	41, 056	1, 026
106	本	ヘレン・シャルフベックー魂のまなざしー	H27. 6. 2～H27. 7. 26	48, 098	1, 002
107	本	うらめしや～, 冥途のみやげ 展 ー全生庵・三遊亭圓 朝 幽霊画コレクションを中心にー	H27. 7. 22～H27. 9. 13	68, 139	1, 450
108	本	武器をアートにーモザンビークにおける平和構築	H27. 10. 17～H27. 11. 23	9, 615	291
109	本	藝大コレクション展 美の収穫祭 特集展示 平櫛田中ゆかりの作品を中心に	H27. 11. 10～H27. 11. 29	4, 582	255
110	本	藤田嗣治資料, 公開展示	H27. 12. 1～H27. 12. 6	5, 532	922
111	本	藤田嗣治の絵画技法に迫る大原美術館《舞踏会の前》 修復完成披露	H27. 12. 1～H27. 12. 6		
112	本	博士審査展	H27. 12. 15～H27. 12. 24	5, 722	572
113	本	卒業・修了作品展	H28. 1. 26～H28. 1. 31	17, 437	2, 906
114	陳	保存修復彫刻研究室研究報告発表展	H27. 4. 15～H27. 4. 19	1, 603	321
115	陳	「ハイカラー覚醒するジャポニズムー」ボストン美術館 スボルディング・コレクション	H27. 4. 25～H27. 5. 13	7, 697	453
116	陳	蓮見智幸回顧展 『宇宙色（そらいろ）のかたち』	H27. 5. 20～H27. 6. 7	2, 749	162
117	陳	Digital Humanize (デジタル・ヒューマナイズ)	H27. 6. 14～H27. 6. 22	1, 200	133
118	陳	日本画第二研究室 素描展	H27. 6. 26～H27. 7. 9	2, 962	212
119	陳	《写真》見えるもの／見えないもの #02	H27. 7. 13～H27. 8. 1	4, 151	208
120	陳	うるしのかたち展	H27. 8. 7～H27. 8. 16	1, 662	185
121	陳	イチケンテン 2015 ー東京藝術大学 日本画第一研究 室 発表展ー	H27. 8. 30～H27. 9. 13	3, 338	223
122	陳	チューリッヒ芸術大学+東京藝術大学 国際交流展 「半解をただよう, 半壊をあるく, 半開のあいだ」	H27. 10. 6～H27. 10. 20	822	55
123	陳	北緯 2 3 ° / 北緯 3 5 ° ー東京藝術大学美術学部と広 州美術学院教員作品共同展ー	H27. 10. 29～H27. 11. 15	2, 047	114
124	陳	第 1 0 回アトリエの末裔あるいは未来展	H27. 11. 20～H27. 11. 29	2, 115	235
125	陳	島田文雄退任記念展	H27. 12. 15～H27. 12. 24	2, 509	251
126	陳	関 出退任記念展	H27. 12. 15～H27. 12. 24	2, 378	238
127	陳	尾登誠一退任記念展	H28. 1. 6～H28. 1. 17	2, 181	182
128	陳	箕浦昇一退任記念展	H28. 1. 6～H28. 1. 17		
129	陳	東京藝術大学藝祭 1 0 0 年の歴史展	H28. 3. 23～H28. 3. 30	2, 683	383

資料 28－2：美術工芸品・標本・資料 所蔵数

分類	数量
文化財	32
東洋画真蹟	1, 965
東洋画模本	5, 201
西洋画	1, 320
版画	681
書蹟	55
彫刻	1, 326
金工	1, 804
漆工	1, 259
陶磁器	809
染織	232
建築製図・模型	195
考古	488
学生制作品(美術)	9, 393
雑美術工芸品	575

デザイン	5
雑標本	839
写真	512
写真種版	78
石膏標本	379
音楽資料	326
学生制作作品(音楽)	19
学生制作作品(映像)	7
版木	9
複製	1,281
拓本	399
教育研究資料	4
計	29,193

藝大アートプラザでは、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため「藝大アートプラザ大賞」という学内コンペティションを設け、大賞・優秀賞・奨励賞の各賞を授与するほか、入選作は「藝大アートプラザ入賞作品展」として展示を行っている（資料 28－3：アートプラザ入賞者一覧 参照）。また同時に、藝大アートプラザでの作品販売の機会も与えられており、芸術家・作家としての自覚を促すことにも貢献している。

資料 28－3：藝大アートプラザ入賞者一覧

受賞回	受賞名	氏名	所属	作品名
第 5 回 (H22)	大賞	玉川 みほの	美術研究科漆芸専攻修士 1 年	けろり
	優秀賞	御手洗 真理	美術研究科陶芸専攻修士 1 年	Shell Forum I -貝のフォルム-
		福島 沙由美	美術研究科油画専攻修士 1 年	Breath of the memory -記憶の呼吸-
	奨励賞	村中 恵理	美術研究科ガラス造形専攻修士 2 年	breathing
		福村 彩乃	音楽研究科応用音楽学専攻修士 2 年	ため息
		小林 真理子	美術学部絵画科(油画) 4 年	星の囁き
第 6 回 (H23)	大賞	大谷 佳那子	美術学部工芸科(漆芸) 3 年	妙に清らの
	優秀賞	長尾 睦美	美術研究科彫刻専攻修士 2 年	永遠を見る
		府川 大吾	美術学部デザイン科 3 年	日本の伝統色クレヨン 「桜」「梅」「桔梗」
	奨励賞	石田 菜々子	美術研究科ガラス造形専攻修士 2 年	Waiting
		先崎 了輔	美術学部デザイン科 2 年	ユメクイノヨル
		安河内 裕也	美術研究科版画専攻修士 2 年	アナトミーシックス
第 7 回 (H24)	大賞	加藤 萌	美術研究科工芸専攻(漆芸) 修士 1 年	それは目に見えなくとも
	優秀賞	地村 洋平	美術研究科美術専攻(ガラス造形) 博士後期 1 年	流れ星
		若林 真耶	美術研究科工芸専攻(鍛金) 修士 1 年	雨に想ふ
	奨励賞	岡田 麻里恵	美術学部工芸科(漆芸) 4 年	明日みる夢
		山岡 忠廣	美術研究科絵画専攻(日本画) 修士 2 年	帆
		吉川 浩平	美術学部絵画科(油画) 3 年	『アルジャーノンに花束を』
第 8 回 (H25)	大賞	小林 あずさ	美術研究科絵画専攻(油画) 修士 1 年	妙なる 綾なる
	優秀賞	宮永 友里恵	美術研究科工芸専攻(鋳金) 修士 1 年	ささめく
		井上 俊博	美術学部工芸科(陶芸) 4 年	将棋盤 銘 明仄
	奨励賞	酒井 望	美術研究科工芸専攻(染織) 修士 1 年	mimetic words (擬態語)
		先崎 了輔	美術学部デザイン科 4 年	鼓動
		藤枝 奈々	美術研究科工芸専攻(ガラス造形) 修士 1 年	葦笛
第 9 回 (H26)	大賞	荒井 由美	美術研究科工芸専攻(漆芸) 修士 1 年	smooth
	優秀賞	細田 麻理奈	美術研究科デザイン専攻修士 2 年	もやき
		薦田 梓	美術研究科文化財保存学専攻(保存科学) 修士 1 年	深海ノ花
	奨励賞	鹿間 麻衣	美術研究科絵画専攻(日本画) 修士 2 年	実

第 10 回 (H27)		村尾 優華	美術研究科絵画専攻（日本画）修士 1 年	for awaking（覚醒）
		先崎 了輔	美術研究科デザイン専攻修士 1 年	待つ
	大賞	龐 夢我	美術研究科絵画専攻（版画）修士 1 年	晴れている日
	優秀賞	小田川 史弥	美術学部絵画科（日本画）2 年	光子の装飾（みつこの そうしょく）
		濱口 京子	美術研究科先端芸術専攻修士 1 年	斜日
	奨励賞	村尾 優華	美術研究科絵画専攻（日本画）修士 2 年	木立（こだち）
		NGUYEN THI TUE THU	美術研究科絵画専攻（版画）修士 1 年	嫉妬で撃ち殺す
		縣 健司	美術研究科絵画専攻（油画）修士 2 年	R2

奏楽堂では、音楽学部・音楽研究科のカリキュラムとして実施される「学内演奏会」「修士リサイタル」「博士リサイタル」、卒業・修了時において実施される「卒業演奏会」「大学院学位審査会」のほか、各科・専攻の定期演奏会等が行われている。また、演奏芸術センターにおいて企画される演奏会では、本学に所属するプロオーケストラ「藝大フィルハーモニア（東京芸術大学管弦楽研究部）」はもとより、本学教員、学生、卒業生の演奏により実施され、各企画公演を実施している。加えて、約 40 年以上の歴史がある「モーニング・コンサート」では、作曲、ピアノ、オルガン、弦楽、管打楽の各専攻科から選抜された優秀な学生がソリストとして、あるいは作曲家として、藝大フィルハーモニアと共演し質の高い充実した演奏を行っており、若手音楽家である学生の研鑽の場となっている。さらに、演奏芸術センターでは、新しい芸術表現の可能性や総合的な教育効果を目的に、全学生を対象とした「奏楽堂企画学内公募」コンペを実施し、最優秀企画を奏楽堂で上演している他、受託事業等による依頼演奏会等【計画 27 参照】も行われ、本学の教育研究成果を昼夜発信し続けている（資料 28－4：奏楽堂演奏会等一覧 参照）。

また、近年芸術の世界において重要視されている障がい者の芸術活動支援を目的に、平成 23 年より「障がいとアーツ」コンサートを毎年開催し、藝大フィルと障がい者とのコラボレーションコンサート等を奏楽堂で実施している（資料 28－4：No.115, 257, 388, 487, 488, 550, 551 参照）。特に平成 27 年度においては、全盲障がいを抱えた演奏家と本学学生による暗譜アンサンブル、カンボジアからの障がい者アーティスト招聘、シンポジウム、障がい者により制作された作品の展示等を行った。また、株式会社ヤマハと共同特許出願に至った本学 COI 拠点事業の成果の一つである、障がいを持つ演奏者の演奏に合わせ自動的にピアノのペダルが駆動する装置による演奏も披露されるなど、芸術文化そして科学による力を活かした支援事業を展開した。

資料 28－4：奏楽堂演奏会等一覧

No.	演奏会名	開催日	入場者数
平成 22 年度			
1	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介演奏会（第 3 3 8 回藝大定期）	H22. 4. 15	740
2	同声会新人演奏会 第 1 部（昼夜通し券）	H22. 4. 17	494
3	同声会新人演奏会 第 2 部（昼夜通し券）	H22. 4. 17	608
4	藝大 2 1 創造の杜 ヤニス・クセナキス～音の建築家～	H22. 4. 22	680
5	藝大 2 1 アジア・躍動する音たち 「ブータン 仏教音楽の世界」	H22. 5. 7	555
6	モーニング・コンサート 1 (Vc・Pf)	H22. 5. 13	1, 053
7	室内楽コンサート 第 2 日～ライブツィヒ・カルテットを迎えて～	H22. 5. 15	496
8	モーニング・コンサート 2 (Sax・Pf)	H22. 5. 20	727
9	モーニング・コンサート 3 (Vn)	H22. 5. 27	1, 020
10	第 4 2 回藝大学生オーケストラ定期演奏会（第 3 3 9 回藝大定期）	H22. 5. 28	644
11	モーニング・コンサート 4 (Fl・Vn)	H22. 6. 3	1, 043
12	東京藝大チェンバーオーケストラ 第 1 5 回定期演奏会	H22. 6. 4	364
13	上野の森オルガンシリーズ 1 5 フランツ・リスト 栄光と祈り	H22. 6. 5	320
14	モーニング・コンサート 5 (Cl・Bar)	H22. 6. 10	694

15	第340回藝大フィルハーモニア定期演奏会	H22.6.18	462
16	モーニング・コンサート6(F1・作曲)	H22.6.24	563
17	うたシリーズX-1 日本歌曲をたどって	H22.6.26	548
18	モーニング・コンサート7(Msop・Org)	H22.7.1	612
19	モーニング・コンサート8(Cl.Fg・Vn)	H22.7.8	1,187
20	管打楽器シリーズ ベルリン⇄東京⇄パリ1 ヴェンツェル・フックスを迎えて	H22.7.9	463
21	管打楽器シリーズ ベルリン⇄東京⇄パリ2 パリ国立高等音楽院と藝大の精鋭たち	H22.7.13	454
22	藝大21 和楽の美 邦楽絵巻「南都の夢 悟空ひとり旅」	H22.9.9	753
23	藝大21 藝大とあそぼう アジアの子どもサミット 「邦楽器による子どものためのコンサート」	H22.10.2	454
24	藝大オペラ定期第56回「イル・カンピエッロ」第1日	H22.10.9	845
25	藝大オペラ定期第56回「イル・カンピエッロ」第2日	H22.10.10	847
26	藝大フィルハーモニア定期(第341回藝大定期)	H22.10.22	823
27	ハイドン・シリーズ 第1日 室内オーケストラ演奏会	H22.11.6	386
28	うたシリーズX-2 「宗教音楽の楽しみ」	H22.11.7	262
29	ピアノシリーズ第1回「凜」 一天才たちの青春 (ショパン・シューマン・リスト)	H22.11.9	355
30	モーニング・コンサート10(Trb・Vn)	H22.11.11	1,086
31	第43回藝大生オーケストラ(藝大定期第342回)	H22.11.12	628
32	ハイドン・シリーズ 第2日 室内楽演奏会	H22.11.14	252
33	藝大フィルハーモニア・合唱定期演奏会(藝大定期第343回)	H22.11.19	729
34	藝大定期 吹奏楽 第76回	H22.11.23	966
35	モーニング・コンサート9(作曲・Pf)	H22.11.25	825
36	ピアノシリーズ第2回「技」 ヴィルトゥオジティとフォルムの邂逅 (ショパン・シューマン・リスト)	H22.11.27	497
37	弦楽シリーズ 音楽に息づく詩	H22.11.28	588
38	藝大定期 邦楽 第77回	H22.12.1	738
39	ピアノシリーズ第3回「舞」 一躍動するピアノリズム (ショパン・シューマン・リスト)	H22.12.18	659
40	ピアノシリーズ第4回「空」 一永遠なる高みへ (ショパン・シューマン・リスト)	H22.12.25	778
41	ピアノシリーズ第5回「響」 ピアノとオーケストラのための作品 (ショパン・シューマン・リスト)	H23.1.10	1,054
42	英国ルネサンスと現代の音楽 一文化交流の視点から	H23.1.23	480
43	藝大定期 室内楽 第37回 第1日	H23.2.5	480
44	藝大定期 室内楽 第37回 第2日	H23.2.6	377
45	モーニング・コンサート12	H23.2.10	822
46	平山郁夫先生一周忌追悼 オペラ遣唐使～阿倍仲麻呂～ 全4幕 第1日	H23.2.11	807
47	平山郁夫先生一周忌追悼 オペラ遣唐使～阿倍仲麻呂～ 全4幕 第2日	H23.2.12	728
48	東京藝大チェンバーオーケストラ 第16回定期演奏会	H23.2.13	690
49	モーニング・コンサート13	H23.2.17	835
50	管打楽器シリーズII サクシズム・ナイト ～サクソフォーン・アンサンブルの夕べ～	H23.2.18	512
平成23年度			
51	モーニング・コンサート1	H23.5.12	728
52	「元禄～その時、世界は？」第1回 江戸の音風景～歌舞伎と文楽	H23.5.7	418
53	学内演奏会(オルガン)	H23.5.10	76
54	学内演奏会(古楽)	H23.5.10	133
55	室内楽コンサート 第1日 ライブツィヒ弦楽四重奏団を迎えて	H23.5.11	314
56	学内演奏会(管打楽)	H23.5.13	210
57	室内楽コンサート 第2日 ライブツィヒ弦楽四重奏団を迎えて	H23.5.14	471
58	「元禄～その時、世界は？」第2回 琳派の美, ロココのこころ	H23.5.15	347
59	モーニング・コンサート2	H23.5.19	728
60	学内演奏会(ピアノ)	H23.5.19	219
61	学内演奏会(管打楽)	H23.5.20	145
62	学内演奏会(管打楽)	H23.5.23	142
63	学内演奏会(ピアノ)	H23.5.25	182

64	モーニング・コンサート 3	H23. 5. 26	788
65	藝大学生オーケストラ第 44 回定期演奏会 (第 345 回藝大定期)	H23. 5. 27	560
66	モーニング・コンサート 4	H23. 6. 2	709
67	学内演奏会 (ピアノ)	H23. 6. 2	195
68	藝大フィルハーモニア定期演奏会 (第 346 回藝大定期)	H23. 6. 10	602
69	上野の森オルガンシリーズ ジャン・アラン生誕 100 年記念 Fantasmagorie～幻影と憧憬～	H23. 6. 12	321
70	学内演奏会 (ピアノ)	H23. 6. 14	238
71	学内演奏会 (ピアノ)	H23. 6. 17	180
72	奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろう IX」	H23. 6. 18	698
73	附属音楽高等学校公開実技試験 (ピアノ)	H23. 6. 19	521
74	モーニング・コンサート 5	H23. 6. 23	500
75	附属音楽高等学校公開実技試験 (弦楽, 作曲)	H23. 6. 24	296
76	学生オーケストラ プロムナード・コンサート 3	H23. 6. 28	568
77	モーニング・コンサート 6	H23. 6. 30	595
78	藝大プラス学内演奏会	H23. 6. 30	767
79	東京藝大チェンバーオーケストラ 第 17 回定期演奏会	H23. 7. 3	700
80	モーニング・コンサート 7	H23. 7. 7	769
81	リスト生誕 200 年記念 リスト音楽院&東京芸術大学コラボレーションコンサート	H23. 7. 9	634
82	モーニング・コンサート 8	H23. 7. 14	678
83	管打楽器シリーズ ドイツで活躍する名手 D. ヨナスと W. フックスを迎えて	H23. 7. 14	715
84	NPO 法人日本声楽家協会特別演奏会 海にきらめく珠玉のチャリティガラコンサート IX	H23. 7. 18	1,000
85	尾高惇忠退任記念コンサート	H23. 7. 31	840
86	藝大オペラ定期第 57 回「コシ・ファン・トゥッテ」ゲネプロ	H23. 9. 29	68
87	藝大オペラ定期第 57 回「コシ・ファン・トゥッテ」ゲネプロ	H23. 9. 30	154
88	藝大オペラ定期 第 57 回 第 1 日	H23. 10. 1	809
89	藝大オペラ定期 第 57 回 第 2 日	H23. 10. 2	818
90	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介演奏会(第 344 回藝大定期)	H23. 10. 7	758
91	「元禄～その時、世界は？」第 3 回 西と東～もしも鎖国がなかったら	H23. 10. 8	384
92	学内演奏会 (声楽第 I)	H23. 10. 11	199
93	学内演奏会 (声楽第 II)	H23. 10. 12	182
94	学内演奏会 (声楽第 III)	H23. 10. 13	179
95	学内演奏会 (声楽第 IV)	H23. 10. 14	201
96	「元禄～その時、世界は？」第 4 回 オスマン帝国の栄光～トルコ行進曲の秘密	H23. 10. 15	354
97	多 美智子退任記念演奏会	H23. 10. 16	948
98	藝大フィルハーモニア定期演奏会 (第 347 回藝大定期)	H23. 10. 21	752
99	学内演奏会 (日本舞踊, 三味線, 雅楽)	H23. 10. 24	124
100	学内演奏会 (箏曲, 尺八)	H23. 10. 25	149
101	学内演奏会 (邦楽・能楽)	H23. 10. 26	18
102	学内演奏会 (指揮)	H23. 10. 27	54
103	附属音楽高等学校 第 23 回定期演奏会	H23. 10. 29	826
104	「元禄～その時、世界は？」第 5 回 二人の巨人～バッハと八橋検校	H23. 10. 30	434
105	学内演奏会 (弦楽)	H23. 11. 1	215
106	学内演奏会 (弦楽)	H23. 11. 2	180
107	学内演奏会 (弦楽)	H23. 11. 4	178
108	ハイドン・シリーズ 2011 第 1 日 室内オーケストラ演奏会	H23. 11. 5	340
109	うたシリーズ X I 「イタリア歌曲の楽しみ」	H23. 11. 6	409
110	モーニング・コンサート 9	H23. 11. 10	864
111	藝大学生オーケストラ第 45 回定期演奏会(藝大定期第 348 回)	H23. 11. 11	705
112	ハイドン・シリーズ 2011 第 2 日 室内楽演奏会	H23. 11. 12	268
113	藝大フィルハーモニア・合唱定期(藝大定期第 349 回)	H23. 11. 18	881
114	藝大アーツスペシャル 2011 奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろう X」	H23. 11. 19	798
115	藝大アーツスペシャル 2011 障がいとアート ～中国の天才画家、羅(ロウ)鈺(ツェン)を迎えて	H23. 11. 20	670
116	藝大定期吹奏楽第 77 回	H23. 11. 23	884
117	モーニング・コンサート 10	H23. 11. 24	847
118	学内演奏会 (作曲)	H23. 11. 25	120

119	学内演奏会（作曲）	H23. 11. 29	138
120	邦楽定期演奏会第78回	H23. 11. 30	960
121	レクサスコンサート “A N i g h t a t t h e O p e r a” 第一部	H23. 12. 4	493
122	レクサスコンサート “A N i g h t a t t h e O p e r a” 第二部	H23. 12. 4	468
123	モーニング・コンサート 11	H23. 12. 8	1,061
124	第31回記念「台東第九公演」 下町で第九	H23. 12. 10	1,038
125	卒業演奏会（ピアノ）	H23. 12. 12	293
126	卒業演奏会（ピアノ）	H23. 12. 13	215
127	学内演奏会（楽理科研究演奏会）	H23. 12. 13	200
128	卒業演奏会（ピアノ）	H23. 12. 14	150
129	卒業演奏会（管打楽）	H23. 12. 15	198
130	卒業演奏会（管打楽）	H23. 12. 16	191
131	藝大21 創造の杜 藝大現代音楽の夕べ	H23. 12. 18	284
132	同声会新人演奏会 第1日（第1日・第2日通し券）	H24. 1. 7	435
133	同声会新人演奏会 第2日（第1日・第2日通し券）	H24. 1. 8	479
134	卒業演奏会（声乐）	H24. 1. 10	374
135	卒業演奏会（声乐）	H24. 1. 11	291
136	卒業演奏会（指揮）	H24. 1. 12	61
137	卒業演奏会（邦楽・尺八、箏曲）	H24. 1. 13	186
138	修士学位審査会公開演奏会（ソルフェージュ・ピアノ）	H24. 1. 13	45
139	卒業演奏会（弦楽）	H24. 1. 16	223
140	卒業演奏会（弦楽）	H24. 1. 17	238
141	卒業演奏会（オルガン）	H24. 1. 18	121
142	卒業演奏会（古楽）	H24. 1. 18	99
143	修士学位審査会公開演奏会（弦楽）	H24. 1. 18	220
144	卒業演奏会（邦楽・三味線音楽、日本舞踊、雅楽）	H24. 1. 19	205
145	卒業演奏会（邦楽・能楽）	H24. 1. 19	41
146	修士学位審査会公開演奏会（弦楽）	H24. 1. 19	120
147	修士学位審査会公開演奏会（室内楽）	H24. 1. 19	60
148	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	H24. 1. 23	230
149	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	H24. 1. 24	230
150	修士課程学位審査会（オルガン）	H24. 1. 25	40
151	修士課程学位審査会（古楽）	H24. 1. 25	100
152	修士課程学位審査会（ピアノ）	H24. 1. 25	70
153	修士課程学位審査会（ピアノ）	H24. 1. 26	130
154	修士課程学位審査会（古楽）	H24. 1. 27	150
155	修士課程学位審査会（ピアノ）	H24. 1. 27	50
156	修士学位審査会公開演奏会（邦楽）	H24. 1. 30	150
157	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	H24. 1. 31	180
158	修士学位審査会公開演奏会（管打楽）	H24. 1. 31	120
159	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	H24. 2. 1	180
160	修士学位審査会公開演奏会（管打楽）	H24. 2. 1	100
161	藝大定期室内楽 第38回 第1日	H24. 2. 4	496
162	藝大定期室内楽 第38回 第2日	H24. 2. 5	510
163	博士課程学位演奏審査会（室内楽：山本 美樹子）	H24. 2. 6	77
164	平成23年度 管打楽器 試演会	H24. 2. 7	105
165	博士課程学位演奏審査会（管打楽 sax：佐藤 淳一）	H24. 2. 7	225
166	モーニング・コンサート 12	H24. 2. 9	1,150
167	博士課程学位演奏審査会（邦楽，長唄三味線：河合 佐季子）	H24. 2. 9	103
168	博士課程学位演奏審査会（オペラ：中嶋 克彦）	H24. 2. 10	180
169	東京藝大チェンバーオーケストラ 第18回定期演奏会	H24. 2. 11	581
170	東京芸術大学バッハカンタータクラブ定期演奏会	H24. 2. 12	1,009
171	モーニング・コンサート 13	H24. 2. 16	925
172	弦楽シリーズ フェリックス・アーヨの「四季」	H24. 2. 17	1,107
173	藝大21 和楽の美 邦楽絵巻「悟空・韓国（からくに）めぐり」	H24. 2. 22	683
174	北川暁子退任記念コンサート	H24. 3. 16	811
175	守山光三退任記念コンサート	H24. 3. 17	586
176	安藤政輝退任記念コンサート	H24. 3. 18	901
177	伊原直子退任記念コンサート	H24. 3. 19	944

178	杉木峯夫退任記念コンサート	H24. 3. 20	839
179	三浦正義退任記念コンサート	H24. 3. 22	673
180	日中青少年交流演奏会	H24. 3. 27	364
181	藝大 21 第 6 回東京芸術大学奏楽堂企画学内公募演奏会「サーバ／周辺／世界」	H24. 3. 31	555
平成 24 年度			
182	同声会新人演奏会 第 1 部 (第 1 部・第 2 部通し券)	H24. 4. 14	448
183	同声会新人演奏会 第 2 部 (第 1 部・第 2 部通し券)	H24. 4. 14	482
184	藝大フィルハーモニア新卒業生紹介演奏会	H24. 4. 20	838
185	モーニング・コンサート 1	H24. 4. 26	941
186	学内演奏会 (古楽)	H24. 5. 8	80
187	モーニング・コンサート 2	H24. 5. 10	1, 079
188	学内演奏会 (管打楽)	H24. 5. 11	172
189	学内演奏会 (オルガン)	H24. 5. 14	60
190	モーニング・コンサート 3	H24. 5. 17	957
191	学内演奏会 (ピアノ)	H24. 5. 17	197
192	学内演奏会 (管打楽)	H24. 5. 18	155
193	藝大プロジェクト 2012「幕末～その時、世界は？」Ⅰ ロマン主義とナショナリズム	H24. 5. 19	332
194	学内演奏会 (管打楽)	H24. 5. 21	152
195	学内演奏会 (ピアノ)	H24. 5. 23	189
196	モーニング・コンサート 4	H24. 5. 24	1, 099
197	藝大学生オーケストラ定期演奏会	H24. 5. 24	870
198	藝大プロジェクト 2012「幕末～その時、世界は？」Ⅱ 海を渡った浮世絵～文化文政期の日本音楽	H24. 5. 26	580
199	上野の森オルガンシリーズ 2012 神秘の J.S. バッハ	H24. 5. 27	980
200	学内演奏会 (ピアノ)	H24. 5. 29	186
201	藝大 21 創造の杜 ドイツ作曲界の偉才 ヴォルフガング・リーム 生誕 60 年記念コンサート	H24. 6. 1	474
202	室内楽コンサート 2012 ライブツィヒ弦楽四重奏団を迎えて 第 1 日	H24. 6. 2	659
203	モーニング・コンサート 5	H24. 6. 7	1, 017
204	室内楽コンサート 2012 ライブツィヒ弦楽四重奏団を迎えて 第 2 日	H24. 6. 8	653
205	学内演奏会 (ピアノ)	H24. 6. 12	108
206	モーニング・コンサート 6	H24. 6. 14	913
207	学内演奏会 (ピアノ)	H24. 6. 15	147
208	学長と語ろう X I	H24. 6. 16	1, 102
209	附属音楽高等学校公開実技試験 (ピアノ)	H24. 6. 17	532
210	藝大フィルハーモニア定期・特別演奏会	H24. 6. 21	988
211	藝大学生オーケストラプロムナードコンサート	H24. 6. 26	722
212	附属音楽高等学校公開実技試験 (弦楽, 作曲)	H24. 6. 29	532
213	東京藝大チェンバーオーケストラ 第 19 回定期演奏会	H24. 6. 30	854
214	D コンサート 2	H24. 7. 1	130
215	モーニング・コンサート 7	H24. 7. 5	818
216	東京藝大ウィンドオーケストラ 学内演奏会	H24. 7. 5	856
217	藝大 21 藝大とあそぼう ジョン・ケージ生誕 100 年 現代音楽なんかこわくない	H24. 7. 7	251
218	モーニング・コンサート 8	H24. 7. 12	798
219	NP0 法人日本声楽家協会特別演奏会 海にきらめく珠玉のチャリティガラコン サー 1 0	H24. 7. 16	988
220	管打楽器シリーズ 金管アンサンブルのタベ ～新任の先生とともに～	H24. 7. 18	353
221	藝大 21 時の響き 「幕末～その時、世界は？」番外編 ジャズ in 藝大～語りとジャズ	H24. 7. 21	773
222	芸術大学交流演奏会 世界の芸術大学～ベルリン芸術大学	H24. 7. 26	483
223	モーニング・コンサート 9	H24. 9. 12	1, 136
224	藝大オペラ定期第 5 8 回「ドン・ジョヴァンニ」ゲネプロ	H24. 9. 27	123
225	藝大オペラ定期第 5 8 回「ドン・ジョヴァンニ」ゲネプロ	H24. 9. 28	160

226	藝大オペラ第 58 回定期公演 『ドン・ジョヴァンニ』全 2 幕	H24. 9. 29	838
227	藝大オペラ第 58 回定期公演 『ドン・ジョヴァンニ』全 2 幕	H24. 9. 30	837
228	藝大 21 和楽の美 邦楽絵巻「悟空と九尾の狐」	H24. 10. 11	729
229	藝大プロジェクト 2012 「幕末～その時、世界は？」Ⅲ ジャポニスム～外から見たニッポン	H24. 10. 13	221
230	藝大定期第 353 回 藝大フィルハーモニア定期演奏会	H24. 10. 19	838
231	藝大プロジェクト 2012 「幕末～その時、世界は？」Ⅳ 黒船来航と外来音楽	H24. 10. 20	242
232	学内演奏会（声楽第Ⅰ）	H24. 10. 22	159
233	学内演奏会（声楽第Ⅱ）	H24. 10. 23	166
234	学内演奏会（声楽第Ⅲ）	H24. 10. 24	160
235	学内演奏会（能楽）	H24. 10. 24	18
236	学内演奏会（声楽第Ⅳ）	H24. 10. 25	163
237	奏楽堂シリーズ特別演奏会「隅田川＋カーリユー・リヴァー」ゲネプロ（※カーリユー・リヴァーのみ）	H24. 10. 27	29
238	奏楽堂シリーズ特別演奏会 隅田川＋カーリユー・リヴァー	H24. 10. 28	854
239	学内演奏会（箏曲，尺八）	H24. 10. 29	138
240	学内演奏会（三味線音楽，日本舞踊，雅楽）	H24. 10. 30	114
241	モーニング・コンサート 10	H24. 11. 1	1, 081
242	京都芸大，東京藝大 学生オーケストラ交流演奏会	H24. 11. 1	885
243	音楽学部附属音楽高等学校 第 24 回定期演奏会	H24. 11. 3	829
244	学内演奏会（弦楽）	H24. 11. 5	182
245	学内演奏会（弦楽）	H24. 11. 6	105
246	学内演奏会（弦楽）	H24. 11. 7	134
247	学長と語ろう XⅡ	H24. 11. 10	865
248	モーニング・コンサート 11	H24. 11. 15	1, 122
249	D コンサート 3	H24. 11. 16	130
250	藝大フィルハーモニア・合唱定期演奏会 藝大定期第 354 回	H24. 11. 23	871
251	藝大定期吹奏楽 第 78 回	H24. 11. 24	647
252	ハイドン・シリーズ 2012 最終回 第 1 日 室内楽演奏会	H24. 11. 25	332
253	学内演奏会（作曲）	H24. 11. 27	160
254	邦楽定期演奏会 第 79 回	H24. 11. 28	845
255	ハイドン・シリーズ 室内オーケストラ演奏会	H24. 11. 30	459
256	学内演奏会（作曲）	H24. 11. 30	157
257	藝大アーツスペシャル 2012 障がいとアーツ ～韓国から障がい者アーティストを迎えて	H24. 12. 2	551
258	レクサスコンサート in 東京藝大 2012 第 1 回公演	H24. 12. 8	960
259	レクサスコンサート in 東京藝大 2012 第 2 回公演	H24. 12. 8	933
260	レクサスコンサート in 東京藝大 2012 第 3 回公演	H24. 12. 9	951
261	レクサスコンサート in 東京藝大 2012 第 4 回公演	H24. 12. 9	965
262	卒業演奏会（ピアノ）	H24. 12. 10	353
263	卒業演奏会（ピアノ）	H24. 12. 11	180
264	卒業演奏会（ピアノ）	H24. 12. 12	116
265	藝大学生オーケストラ第 47 回定期演奏会(藝大定期第 355 回)	H24. 12. 13	738
266	第 32 回 「台東第九公演」 下町で第九	H24. 12. 15	986
267	卒業演奏会（管打楽）	H24. 12. 17	225
268	卒業演奏会（管打楽）	H24. 12. 18	131
269	卒業演奏会（三味線音楽・日本舞踊・雅楽）	H25. 1. 7	202
270	卒業演奏会（声楽）	H25. 1. 8	330
271	卒業演奏会（声楽）	H25. 1. 9	235
272	卒業演奏会（オルガン）	H25. 1. 11	93
273	卒業演奏会（古楽）	H25. 1. 11	67
274	卒業演奏会（弦楽）	H25. 1. 15	147
275	卒業演奏会（弦楽）	H25. 1. 16	219

276	卒業演奏会（能楽）	H25. 1. 16	67
277	修士学位審査会公開演奏会（指揮）	H25. 1. 17	70
278	卒業演奏会（尺八・箏曲）	H25. 1. 18	162
279	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	H25. 1. 22	160
280	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	H25. 1. 23	150
281	修士学位審査会公開演奏会（邦楽）	H25. 1. 23	120
282	修士学位審査会公開演奏会（弦楽）	H25. 1. 25	100
283	修士学位審査会公開演奏会（室内楽）	H25. 1. 25	60
284	修士課程学位審査会（古楽）	H25. 1. 25	120
285	修士学位審査会公開演奏会（弦楽）	H25. 1. 28	100
286	修士課程学位審査会（ピアノ）	H25. 1. 29	100
287	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	H25. 1. 29	250
288	修士課程学位審査会（ピアノ）	H25. 1. 30	100
289	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	H25. 1. 30	250
290	修士課程学位審査会（ピアノ）	H25. 1. 31	100
291	修士課程学位審査会（オルガン）	H25. 1. 31	100
292	修士学位審査会公開演奏会（管打楽）	H25. 2. 1	120
293	藝大定期室内楽 第39回 第1日	H25. 2. 2	520
294	藝大定期室内楽 第39回 第2日	H25. 2. 3	422
295	修士学位審査会公開演奏会（管打楽）	H25. 2. 4	120
296	博士課程学位演奏審査会（ピアノ：渡邊 麻子）	H25. 2. 6	91
297	モーニング・コンサート 12	H25. 2. 7	1,140
298	東京藝大チェンバーオーケストラ 第20回定期演奏会	H25. 2. 10	630
299	博士課程学位演奏審査会（ソプラノ：岩下 晶子）	H25. 2. 12	105
300	東京芸術大学バッハカンタータクラブ定期演奏会	H25. 2. 17	677
301	モーニング・コンサート 13	H25. 2. 21	993
302	牧真弓退任記念公演	H25. 3. 16	974
303	稲川榮一退任記念演奏会	H25. 3. 17	851
304	直野資退任記念演奏会	H25. 3. 19	970
305	成田英明退任記念演奏会	H25. 3. 20	944
306	長瀬賢弘 博士リサイタル	H25. 3. 21	230
307	藝大21 第7回東京芸術大学奏楽堂企画学内公募演奏会 「IO-希臘神譚蓮牛章」	H25. 3. 30	847
平成 25 年度			
308	同声会新人演奏会 第1部（昼夜通し券）	H25. 4. 13	427
309	同声会新人演奏会 第2部（昼夜通し券）	H25. 4. 13	570
310	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介演奏会（藝大定期第356回）	H25. 4. 19	797
311	「消える昭和～その時、世界は？」第1回 戦争の世紀①～二つの戦争のはざままで	H25. 5. 18	231
312	第48回藝大学生オーケストラ（藝大定期第357回）	H25. 5. 23	702
313	藝大21 創造の杜 2013 藝大現代音楽のタベ	H25. 6. 7	408
314	「消える昭和～その時、世界は？」第2回 戦争の世紀②～東西冷戦と音楽	H25. 6. 16	292
315	藝大フィルハーモニア定期（藝大定期第358回）	H25. 6. 21	678
316	東京藝大チェンバーオーケストラ 第21回定期演奏会	H25. 6. 29	661
317	藝大21 藝大とあそぼう 2012 つなごう！三世代のきずな コンサート「あの唄 この歌 ぼくのうた」	H25. 7. 6	344
318	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol. I 第1日 ピアノ・デュオ演奏会	H25. 7. 7	752
319	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol. I 第2日 ショパンのタペーエヴァ・ポプウォッカ先生を迎えてー	H25. 7. 8	493
320	弦楽シリーズ バルトーク弦楽四重奏団創設者ペーター・コムローシュを迎えて	H25. 7. 12	515
321	管打楽器シリーズ 2013 ベルリン・フィル首席クラリネット奏者 ヴェンツェル・フックスを迎えて	H25. 7. 17	815
322	藝大21 時の響き ジャズ in 藝大 2013 藝大から巣立ったジャズメン Part1	H25. 7. 27	760
323	藝大オペラ定期 第59回 第1日	H25. 10. 5	755
324	藝大オペラ定期 第59回 第2日	H25. 10. 6	647
325	藝大21 和楽の美 邦楽絵巻「弁財天縁起」	H25. 10. 9	633
326	「消える昭和～その時、世界は？」第3回 テレビと音楽～放送から見える昭和	H25. 10. 12	326
327	上野の森オルガンシリーズ 2013 異国の J. S. BACH イタリア編	H25. 10. 20	390

328	藝大フィルハーモニア定期演奏会＋うたシリーズ 200年「ヴェルディとワーグナー」(第359回藝大定期)	生誕 H25.10.25	690
329	「消える昭和～その時、世界は？」第4回 ビートルズとワールドミュージック	H25.10.26	293
330	東京芸術大学・ジュネーヴ音楽大学 交流演奏会 東京公演	H25.10.27	616
331	藝大フィルハーモニア・合唱定期(藝大定期第360回)	H25.11.16	915
332	藝大定期吹奏楽第79回	H25.11.23	784
333	邦楽定期演奏会第80回	H25.11.27	937
334	藝大学生オーケストラ第49回定期演奏会(藝大定期第361回)	H25.11.28	768
335	藝大定期室内楽 第40回 第1日	H26.2.1	519
336	藝大定期室内楽 第40回 第2日	H26.2.2	448
337	東京藝大チェンバーオーケストラ 第22回定期演奏会	H26.2.20	741
平成25年度			
338	モーニングコンサート第1回	H25.4.25	496
339	モーニングコンサート第2回	H25.5.9	833
340	モーニングコンサート第3回	H25.5.16	503
341	モーニングコンサート第4回	H25.5.23	539
342	モーニングコンサート第5回	H25.5.30	381
343	モーニングコンサート第6回	H25.6.13	544
344	モーニングコンサート第7回	H25.6.27	648
345	モーニングコンサート第8回	H25.7.4	831
346	モーニングコンサート第9回	H25.7.11	624
347	モーニングコンサート第10回	H25.9.12	634
348	モーニングコンサート第11回	H25.11.21	849
349	モーニングコンサート第12回	H25.11.28	734
350	モーニングコンサート第13回	H26.2.20	1,058
351	学内演奏会(古楽)	H25.5.8	162
352	学内演奏会(管打楽)	H25.5.10	148
353	学内演奏会(オルガン)	H25.5.13	105
354	学内演奏会(ピアノ)	H25.5.16	101
355	学内演奏会(管打楽)	H25.5.17	143
356	学内演奏会(管打楽)	H25.5.20	149
357	学内演奏会(ピアノ)	H25.5.22	144
358	五芸祭コンサート	H25.5.25	656
359	学内演奏会(ピアノ)	H25.5.28	192
360	イエール大学合唱団&ジュリアード音楽院古楽オーケストラ演奏会	H25.6.2	968
361	学内演奏会(ピアノ)	H25.6.11	157
362	学内演奏会(ピアノ)	H25.6.14	158
363	奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろうXⅢ」	H25.6.22	947
364	附属音楽高等学校公開実技試験(ピアノ)	H25.6.23	539
365	附属音楽高等学校公開実技試験(弦楽器, 作曲)	H25.6.28	392
366	東京藝大シンフォニーオーケストラ プロムナードコンサート5	H25.7.2	350
367	平成25年度学内演奏会 東京藝大ウィンドオーケストラ	H25.7.4	748
368	オペラハイライトⅠ	H25.7.5	300
369	NP0 法人日本声楽家協会特別演奏会 海にきらめく珠玉のチャリティガラコンサート11	H25.7.15	1,043
370	藝大オペラ定期第59回「秘密の結婚」ゲネプロ	H25.10.3	83
371	藝大オペラ定期第59回「秘密の結婚」ゲネプロ	H25.10.4	188
372	東京藝大シンフォニーオーケストラ プロムナードコンサート6	H25.10.10	278
373	附属音楽高等学校 第25回定期演奏会	H25.10.19	784
374	学内演奏会(声楽第Ⅰ)	H25.10.17	185
375	学内演奏会(声楽第Ⅱ)	H25.10.18	115
376	学内演奏会(声楽第Ⅲ)	H25.10.21	144
377	学内演奏会(声楽第Ⅳ)	H25.10.22	135
378	学内演奏会(箏曲, 尺八)	H25.10.28	126
379	学内演奏会(三味線音楽, 日本舞踊, 雅楽)	H25.10.29	100
380	奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろうXⅣ」	H25.11.2	828
381	学内演奏会(弦楽)	H25.11.5	177
382	学内演奏会(弦楽)	H25.11.6	107
383	学内演奏会(弦楽)	H25.11.7	216

384	オルガン科修士リサイタル	H25.11.8	112
385	第58回 台東区合唱祭	H25.11.10	-
386	学内演奏会（作曲）	H25.11.26	143
387	学内演奏会（作曲）	H25.11.29	180
388	藝大アーツ・スペシャル 2013 障がいとアーツ ～聞こえる色，見える音～	H25.12.1	477
389	第32回「台東第九公演」 下町で第九	H25.12.8	1,065
390	卒業演奏会（ピアノ）	H25.12.9	256
391	卒業演奏会（ピアノ）	H25.12.10	131
392	卒業演奏会（ピアノ）	H25.12.11	161
393	レクサスコンサート in 東京藝大 2013 第1回公演	H25.12.14	963
394	レクサスコンサート in 東京藝大 2013 第2回公演	H25.12.14	916
395	レクサスコンサート in 東京藝大 2013 第3回公演	H25.12.15	976
396	レクサスコンサート in 東京藝大 2013 第4回公演	H25.12.15	978
397	卒業演奏会（管打楽）	H25.12.16	218
398	卒業演奏会（管打楽）	H25.12.17	159
399	卒業演奏会（オルガン）	H26.1.7	121
400	卒業演奏会（古楽）	H26.1.7	100
401	卒業演奏会（邦楽（三味線音楽・日本舞踊・雅楽））	H26.1.8	121
402	卒業演奏会（声楽）	H26.1.9	300
403	卒業演奏会（声楽）	H26.1.10	197
404	卒業演奏会（弦楽）	H26.1.14	260
405	卒業演奏会（弦楽）	H26.1.15	177
406	修士学位審査会公開演奏会（指揮）	H26.1.16	190
407	卒業演奏会（邦楽（尺八・箏曲））	H26.1.17	176
408	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	H26.1.21	200
409	修士学位審査会公開演奏会（独唱）	H26.1.22	140
410	卒業演奏会（指揮）	H26.1.23	184
411	修士学位審査会公開演奏会（オルガン）	H26.1.27	140
412	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	H26.1.30	250
413	修士学位審査会公開演奏会（オペラ）	H26.1.31	250
414	修士学位審査会公開演奏会（古楽）	H26.2.4	120
415	博士課程学位演奏審査会（ピアノ：朴 瑛実）	H26.2.5	120
416	博士課程学位演奏審査会（ソプラノ：臼木 愛）	H26.2.6	100
417	オーケストラヴィンデ第4回演奏会	H26.2.8	313
418	東京芸術大学パッハカンタータクラブ定期演奏会	H26.2.16	832
419	博士課程学位演奏審査会（ピアノ：長瀬 賢弘）	H26.2.18	130
420	博士課程学位演奏審査会（メゾソプラノ：谷地畝 晶子）	H26.2.19	250
421	博士課程学位演奏審査会（ヴァイオリン：廣瀬 麻名）	H26.2.20	35
422	博士課程学位演奏審査会（ピアノ：川崎 翔子）	H26.2.21	200
423	多田羅迪夫 退任記念演奏会	H26.3.20	901
424	西国領君嘉 博士リサイタル	H26.3.22	300
425	藝大21 第8回東京芸術大学奏楽堂企画学内公募演奏会 「白頭稲荷祭禮絵巻」	H26.3.28	240
平成26年度			
426	AURA Prologue	H26.4.8	300
427	同声会新人演奏会 第1部（昼夜通し券）	H26.4.12	500
428	同声会新人演奏会 第2部（昼夜通し券）	H26.4.12	544
429	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介演奏会（藝大定期第362回）	H26.4.18	767
430	藝大21 創造の杜2014 「作曲家 尹伊桑」	H26.4.25	324
431	モーニングコンサート第1回 秋本 悠希（Ms），富田 楓（Pf）	H26.5.1	618
432	モーニングコンサート第2回 清水 奏花（Org），西村 翔太郎（Pf）	H26.5.15	743
433	「シェイクスピア ～人とその時代」 第1回 シェイクスピアとエリザベス朝の時代	H26.5.18	511
434	モーニングコンサート第3回 高濱 絵里子（作曲），有馬 律子（Hp）	H26.5.22	551
435	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol.2 「ベートーヴェンのソナタ」 第1日 ウィーン時代初期	H26.5.25	667
436	第50回 藝大学生オーケストラ（藝大定期第363回）	H26.5.29	550
437	モーニングコンサート第4回 上野 耕平（Sax），渡邊 智道（Pf）	H26.5.29	775
438	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol. II ベートーヴェンのソナタ 第2日 ウィーン時代中期	H26.6.1	729

439	「シェイクスピア ～人とその時代」 第2回 目で見るシェイクスピア, 音で読む『ハムレット』	H26. 6. 7	292
440	藝大フィルハーモニア定期 (藝大定期第 364 回)	H26. 6. 13	394
441	奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろう X III」	H26. 6. 14	975
442	モーニングコンサート第 5 回 逢坂 裕 (作曲), 伊東 裕 (Vc)	H26. 6. 19	703
443	東京藝大チェンバーオーケストラ 第 2 3 回定期演奏会	H26. 6. 21	650
444	附属音楽高等学校公開実技試験 (ピアノ)	H26. 6. 22	500
445	モーニングコンサート第 6 回 山本 楓 (Ob), 務川 慧悟 (Pf)	H26. 6. 26	1,029
446	附属音楽高等学校公開実技試験 (弦楽器, 作曲)	H26. 6. 27	326
447	東京藝大シンフォニーオーケストラ プロムナードコンサート 5	H26. 7. 1	458
448	平成 26 年度学内演奏会 東京藝大ウィンドオーケストラ	H26. 7. 3	1,120
449	モーニングコンサート第 7 回 久保 哲朗 (作曲), 小川 響子 (Vn)	H26. 7. 3	512
450	藝大 21 藝大とあそぼう 2014「オーケストラへの招待」	H26. 7. 5	401
451	モーニングコンサート第 8 回 河本 朋美 (Fl), 秋元 孝介 (Pf)	H26. 7. 10	783
452	管打楽器シリーズ 2014 「日独名手の響演」	H26. 7. 11	550
453	弦楽シリーズ 2014 「生誕 150 年記念 R. シュトラウスの弦の響き」	H26. 7. 12	591
454	「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第 12 陣 東京芸術大学訪問・交流演奏会	H26. 7. 15	-
455	東京芸術大学昭和 63 年度入学男声コンサート「昭和最後の伊達男」	H26. 7. 19	977
456	NPO 法人日本声楽家協会特別演奏会 海にきらめく珠玉のチャリティガラコンサート 1 1	H26. 7. 21	1,060
457	モーニングコンサート第 9 回 秋山 友貴 (作曲), 阪田 知樹 (Pf)	H26. 7. 24	793
458	藝大 21 時の響き ジャズ in 藝大 2014 藝大から巣立ったジャズメン Part2	H26. 7. 26	873
459	アルフレッド・ジャール講演会「IT IS DIFFICULT」	H26. 9. 7	422
460	モーニングコンサート第 10 回 藤田 華 (Cl), 鈴木 梨香 (Vn)	H26. 9. 10	691
461	藝大オペラ定期第 60 回「コシ・ファン・トゥッテ」ゲネプロ (非公開)	H26. 10. 2	83
462	藝大オペラ定期第 60 回「コシ・ファン・トゥッテ」ゲネプロ (公開)	H26. 10. 3	156
463	藝大オペラ定期 第 60 回 第 1 日	H26. 10. 4	636
464	藝大オペラ定期 第 60 回 第 2 日	H26. 10. 5	595
465	藝大 21 和楽の美 邦楽絵巻「義経記～静と義経を巡って」	H26. 10. 8	576
466	東京藝大シンフォニーオーケストラ プロムナードコンサート 8	H26. 10. 9	488
467	上野の森オルガンシリーズ 2014 異国の J. S. BACH フランス編	H26. 10. 12	507
468	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol. 2 「ベートーヴェンのソナタ」 第 3 回 傑作の森	H26. 10. 13	720
469	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol. 2 「ベートーヴェンのソナタ」 第 4 回 ウィーン時代後期	H26. 10. 19	782
470	藝大フィルハーモニア定期演奏会 (第 365 回藝大定期) 「生誕 150 年 オール・R. シュトラウス・プログラム」	H26. 10. 24	527
471	奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろう X VI」	H26. 10. 25	759
472	ウィーンの魔笛 ヘンリク・ヴィーゼを迎えて	H26. 10. 26	456
473	「シェイクスピア ～人とその時代」 第 3 回 時空を越えたシェイクスピア	H26. 11. 1	378
474	学内演奏会 (三味線音楽, 日本舞踊, 雅楽)	H26. 11. 4	121
475	オルガン科修士リサイタル	H26. 11. 6	145
476	うたシリーズ 2014 生誕 150 年リヒャルト・シュトラウスの歌曲とオペラ	H26. 11. 7	697
477	附属音楽高等学校 創立 60 周年記念 第 26 回定期演奏会	H26. 11. 8	715
478	音楽学部附属音楽高等学校 創立 60 周年記念 藝大同窓会演奏会	H26. 11. 9	679
479	第六回萩岡松韻りさいたる	H26. 11. 11	768
480	モーニングコンサート第 11 回 大久保 祐奈 (Fl), 高橋 奈緒 (Vn)	H26. 11. 13	770
481	藝大学生オーケストラ第 51 回定期演奏会(藝大定期第 366 回)	H26. 11. 15	1,051
482	藝大フィルハーモニア・合唱定期(藝大定期第 367 回)	H26. 11. 22	906
483	藝大定期吹奏楽第 8 1 回	H26. 11. 23	1,094
484	モーニングコンサート第 12 回 石若 駿 (Per), 三輪 莉子 (Vn)	H26. 11. 27	929
485	「シェイクスピア ～人とその時代」 第 4 回東西が響き合うシェイクスピア	H26. 11. 30	396
486	邦楽定期演奏会第 8 1 回	H26. 12. 3	849
487	藝大アーツ・スペシャル 2014 障がいとアーツ 第 1 日	H26. 12. 6	131
488	藝大アーツ・スペシャル 2014 障がいとアーツ 第 2 日	H26. 12. 7	516
489	レクサスコンサート in 東京藝大 2014 第 1 回公演	H26. 12. 13	963
490	レクサスコンサート in 東京藝大 2014 第 2 回公演	H26. 12. 13	916
491	レクサスコンサート in 東京藝大 2014 第 3 回公演	H26. 12. 14	976
492	レクサスコンサート in 東京藝大 2014 第 4 回公演	H26. 12. 14	978

493	第34回「台東第九公演」 下町で第九	H26.12.21	1,065
494	澤和樹還暦記念ファン・レイジング・コンサート	H27.1.4	900
495	東京芸術大学音楽学部ホームカミングデイ第1回演奏会	H27.1.10	513
496	藝大定期室内楽第41回 第1日	H27.1.31	548
497	藝大定期室内楽第42回 第2日	H27.2.1	611
498	東京藝大チェンバーオーケストラ 第24回定期演奏会	H27.2.11	612
499	モーニングコンサート第13回 西あゆみ (Sop), 戸原 直 (Vn)	H27.2.19	761
500	東京芸術大学バッハカンタータクラブ定期演奏会	H27.2.21	628
501	東京・春・音楽性2015 リヒテルに捧ぐI (生誕100年記念) 舞踏協奏曲《オーバーード》	H27.2.21	350
502	藝大21 第9回奏楽堂企画学内公募演奏会	H27.3.27	240
平成27年度			
503	同声会新人演奏会 第1部 (昼夜通し券)	H27.4.11	476
504	同声会新人演奏会 第2部 (昼夜通し券)	H27.4.11	590
505	藝大フィルハーモニア定期 新卒業生紹介演奏会(藝大定期第362回)	H27.4.17	910
506	藝大21 創造の杜2015 「藝大現代音楽のタベ」	H27.4.24	408
507	「ゲーテ ～人とその時代」 第1回 「『ファウスト』ことはじめ」	H27.5.9	441
508	管打楽器シリーズ2015 「ベルリン・フィル首席トロンボーン奏者 オラフ・オットを迎えて」	H27.5.22	719
509	ピアノ・シリーズ2015 「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス 室内楽のよろこび 第1回	H27.5.24	533
510	第52回藝大学生オーケストラ (藝大定期第369回)	H27.5.28	572
511	Arts&Science LAB. 竣工記念コンサート 色舞奏 (和太鼓・林英哲)	H27.5.29	918
512	Arts&Science LAB. 竣工記念コンサート 色舞奏 (舞・坂東玉三郎)		1,016
513	Arts&Science LAB. 竣工記念コンサート 色舞奏 (舞・坂東玉三郎)	H27.5.31	1,027
514	「ゲーテ ～人とその時代」 第2回 ゲーテと音楽仲間	H27.6.6	398
515	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol.3 ブラームス 室内楽のよろこび 第2回	H27.6.7	580
516	藝大フィルハーモニア定期 (藝大定期第370回)	H27.6.13	504
517	東京藝大チェンバーオーケストラ 第25回定期演奏会	H27.6.20	463
518	奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろうXVII」	H27.6.27	878
519	平成27年度学内演奏会 東京藝大ウィンドオーケストラ	H27.7.2	990
520	藝大21 藝大とあそぼう2015「邦楽のお作法～邦楽と友達になろう！」	H27.7.4	451
521	〈民族音楽〉との邂逅ー 小泉文夫のメッセージ	H27.7.5	1,102
522	シモン・ゴールドベルク メモリアル・コンサート	H27.7.7	709
523	東京藝大シンフォニーオーケストラ プロムナードコンサート9	H27.7.7	533
524	ベルリン・フィル首席クラリネット奏者 ヴェンツェル・フックスを迎えて	H27.7.9	702
525	メゾ・ソプラノ 青山恵子 日本の詩コンサート 《小泉八雲の世界》アンコール 公演 耳なし芳一	H27.7.19	594
526	藝大21 時の響き ジャズ in 藝大2015 ～ジャズとロックとフュージョンと	H27.7.25	897
527	～戦後70年 夢を奪われた音楽学徒～ 東京音楽学校の本科作曲部一年で出陣した二人の作品演奏会	H27.7.27	344
528	早期教育プロジェクト (ヴァイオリン)	H27.7.28	200
529	藝大21 和楽の美 邦楽絵巻「ヒミコ」	H27.9.11	563
530	藝大オペラ定期第61回「フィガロの結婚」ゲネプロ (非公開)	H27.10.1	50
531	藝大オペラ定期第61回「フィガロの結婚」ゲネプロ (公開)	H27.10.2	277
532	藝大オペラ定期 第61回 第1日	H27.10.3	847
533	藝大オペラ定期 第61回 第2日	H27.10.4	872
534	奏楽堂トーク&コンサート「学長と語ろうXVI」	H27.10.10	836
535	管打楽器シリーズ2015 名手で聴くバロック音楽「オール協奏曲プログラム」	H27.10.17	545
536	附属音楽高等学校 第27回定期演奏会	H27.10.24	760
537	「ゲーテ ～人とその時代」 第3回 恋するゲーテ ～恋愛遍歴と創作	H27.10.25	418
538	藝大フィルハーモニア定期演奏会 (第371回藝大定期)「オール・バルト ーク・プログラム」	H27.10.30	587
539	弦楽シリーズ2015 フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」	H27.10.31	731
540	うたシリーズ2015 山田耕筰没後50年	H27.11.7	836
541	ピアノ・シリーズ「音楽の至宝」Vol.2 「Vol.3 ブラームス 室内楽のよろこび」 第3回	H27.11.8	559

542	第 53 回 東京藝大シンフォニーオーケストラ（藝大定期第 372 回） 藝大プロジェクト 2015	H27. 11. 14	741
543	東京芸術大学&延世大学校音楽学部交流演奏会 I	H27. 11. 17	235
544	藝大フィルハーモニア・合唱定期(藝大定期第 373 回)	H27. 11. 21	974
545	パスカル・モラゲスを迎えて「モーツァルトはお好き？」	H27. 11. 22	555
546	藝大定期吹奏楽第 8 1 回	H27. 11. 23	1,072
547	信時潔 没後 50 周年記念演奏会「海道東征」	H27. 11. 28	914
548	弦楽シリーズ 2015 フランスの名手たち「フォーレとドビュッシー」+C22:C42	H27. 11. 29	718
549	邦楽定期演奏会第 8 1 回	H27. 12. 2	950
550	藝大アーツ・スペシャル 2015 障がいとアーツ 第 1 日	H27. 12. 5	414
551	藝大アーツ・スペシャル 2015 障がいとアーツ 第 2 日	H27. 12. 6	487
552	レクサスコンサート in 東京藝大 2015 第 1 回公演	H27. 12. 12	909
553	レクサスコンサート in 東京藝大 2015 第 2 回公演	H27. 12. 12	893
554	レクサスコンサート in 東京藝大 2015 第 3 回公演	H27. 12. 13	917
555	レクサスコンサート in 東京藝大 2015 第 4 回公演	H27. 12. 13	907
556	第 3 5 回「台東第九公演」 下町で第九	H27. 12. 20	1,062
557	フィリップ・ミュレールを迎えて	H28. 1. 22	400
558	藝大定期室内楽 第 4 1 回 第 1 日	H28. 2. 6	498
559	藝大定期室内楽 第 4 1 回 第 2 日	H28. 2. 7	369
560	東京藝大チェンバーオーケストラ 第 2 2 回定期演奏会	H28. 2. 11	1,002
561	東京芸術大学・海上自衛隊東京音楽隊合同演奏会	H28. 2. 14	985
562	東京芸術大学パッハカンタータクラブ定期演奏会	H28. 2. 19	821
563	上野の森オルガンシリーズマックス・レーガー没後 200 年を記念して	H28. 2. 21	346
564	博士課程学位演奏審査会(日舞：宇津木)	H28. 3. 16	200
565	ぱんだウインドオーケストラ CD 発売記念コンサート	H28. 3. 20	1,030
566	コーロ・ヌオーヴォ第 57 回演奏会	H28. 3. 21	983
567	藝大 2 1 第 1 0 回東京芸術大学奏楽堂企画学内公募演奏会 「星の王子様～memories of aviator～」	H28. 3. 31	940



参考：「障がいとアーツ」コンサート（No.115, 257, 388, 487, 488, 550, 551）

大学美術館，奏楽堂以外にも陳列館をはじめとした展示スペース，ギャラリー，能舞台を含む各種ホール，上映スペース等を複数保有しており，日常的に教育研究成果の公開が行われている状況にある。

その一つである第 6 ホール（約 200 名収容）は，平成 26 年度，音楽学部 4 号館の改修にあたり，ホール内についても全面改修が行われ，新たな教育研究施設として生まれ変わった。竣工時には，7 日間連続で各音楽分野の記念演奏会が本学教員により実施された（資料 28－5：第 6 ホール・記念演奏会 参照）。

資料 28－5：第 6 ホール・竣工記念演奏会



（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）大学美術館や奏楽堂、ギャラリー、音楽ホール等の学内施設を最大限活用し、本学が保有する芸術資産や、日常的に生み出される教育研究成果を積極的に発表しており、地域における芸術文化の振興が図られているため、実施状況が良好であると判断できる。

○小項目 2「社会人の受入れ、公開講座の実施等を通じて、生涯学習社会の形成に資する。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 2－1「【29】生涯学習やリカレント教育の観点から、社会人受け入れ方法等の見直しやプロジェクト等を実施する。」に係る状況

本学では、社会人教育の一つとして、科目等履修生（一般・派遣）、委託生の受入を行ってきている。（資料 29－1：科目等履修生数 参照）

派遣の科目等履修生は、キャリアアップを望む芸術系の現職学校教員等や、音楽技術の向上を目指す自衛隊・警察音楽隊からの受入を行っている。他に、資格取得を目的とした本学卒業生の科目等履修を受け入れており、卒業生ケアのための制度としても活用されている。

資料 29－1：科目等履修生数

年度	科目等履修生等人数				
	美術	（内）一般	音楽	（内）派遣	計
22	13	6	17	8	30
23	11	4	13	6	24
24	13	7	22	6	35
25	13	7	23	9	36
26	19	10	21	9	40
27	21	8	20	9	41

また、音楽を担当する小・中・高校の教員・指導者を対象とした伝統音楽指導者研修会（文部科学省主催。毎年 8 月の数日間本学で実施）では、学習指導要領の主旨を踏まえ、伝統音楽について必要な研修プログラムを実施するにあたり、本学邦楽科の教員が企画・運営に参画している。

さらに、近年その重要性が高まっているアートマネジメント（文化芸術経営）人材の育成に注力し、多様な経験を有する人材を広く募り、美術・音楽・映像分野において事業を展開している。アートマネジメント人材育成については、文化庁補助金事業「大学を活用した文化芸術推進事業」を積極的に活用し、「東京芸術大学の美術的資産を活用したアートマネジメント人材育成」（美術分野 平成 25 年度）、

「オペラにおけるアートマネジメント人材育成事業」（音楽分野 平成 25～27 年度）、「リサーチ型アートプロジェクトのための人材育成事業」（映像メディア分野 平成 26～28 年度）を実施している（資料 29－2：アートマネジメント人材育成事業 参照）。

資料 29－2：アートマネジメント人材育成事業

年度	事業名	内容等
25	東京芸術大学の美術的資産を活用したアートマネジメント人材育成	本事業は、東京芸術大学美術学部及び大学美術館が有する美術的資産や人的な資源を活用して香川県高松市・福島県いわき市で開催するアートプロジェクトを実践の場として、アートマネジメントに携わる人材を育成しようとするものである。本事業では、当該美術館博物館等の学芸員の他、地方公共団体の文化担当職員・中学高校教員あるいは一般市民から広く公募して受講者を募り、アートプロジェクトの企画から実施までを体験することで、実践的なアートマネージャーを育成する。
25～27	オペラにおけるアートマネジメント人材育成事業	本事業は、劇場・音楽堂職員、音楽事業経営者、公共機関等の文化担当者、音楽大学の演奏企画担当者等を研修者として募集し、質の高いオペラ公演が実現できるアートマネジメント人材育成を目的としている。 研修者が東京芸術大学音楽学部オペラ定期公演の企画・制作・評価等に広く関わることを通じて、実践的・総合的なオペラマネジメントを体験するとともに、これまで我が国のオペラマネジメントにおいてはほとんど未経験であった、国際的視点に立った世界水準のオペラマネジメント実践例等を体系的にレクチャーすることにより、国内での限られた情報や現場経験に依存することの多かった我が国のオペラマネジメントに、新たな理論と斬新な発想等を導入していくことで、グローバル化の進展に即応し、次世代型のオペラマネジメントを牽引できる人材育成を推進する。
26～28	リサーチ型アートプロジェクトのための人材育成事業	本事業は、本学の教育研究資源を最大限に活用し、国内外の諸機関と協働しながら、「リサーチ型アートプロジェクトのための人材育成事業」を実施する。 ①領域横断的なマネジメント能力、調査能力、法務や財務の実務能力、教育普及活動能力をもち、さらにそれを学術知と接続させながら言説化し、社会に向けて発信できるリサーチャーやプログラムディレクターを育成する。 ②国内外でアジアの文化交流を促進できる人材を育成する。芸術への西洋のアプローチと非西洋のアプローチを総合的に再検証する場として＜アジア＞を捉え、実践的な対話を続けながら、アジア圏における芸術の役割を更新できる人材を育成する。 ③東京芸術大学大学院映像研究科メディア映像専攻が有する設備と資源を活用することで、理論的及び実践的なリサーチを「メディアの実践」として形にし、アーティストによる作品とは異なる形式で社会に対して表現し、リサーチャーやプログラムディレクターだからこそ可能な公共のプラットフォームを構築していくことのできる人材を育成する。

他機関との連携により生涯学習を実施する例もある。平成 24 年にリニューアルオープンした東京都美術館との連携事業である「とびらプロジェクト」では、アートを介しコミュニティを育むことを目的に、毎年広く一般からアート・コミュニケータ（愛称：とびラー）を募集している。とびラーは、学芸員や本学の教員、そし

て第一線で活躍中の専門家を中心としたプロジェクトチームと共に美術館を拠点に活動し、子供や障がいのある方々への支援や、体験プログラムの立案等美術館を拠点に様々な活動を行う「基礎講座」や「実践講座」、あるいは自らが講師役となるゼミなどを通し、美術館に集まる多種多様な人びととのコミュニケーションを取りながら、そこから生まれる新しい価値を社会に届けることを目指している。

こうした取組に加え、より積極的な社会貢献の促進及び社会人等の学生以外の者を対象とした体系的な学習プログラムを提供するため、学校教育法第 105 条及び学校教育法施行規則第 164 条の規定に基づく「履修証明プログラム」を導入することとし、同プログラムの実施等に関して必要な規定を定めるとともに、社会的なニーズを考慮し、音楽分野における新たな専門コースの開講等、各部局において実施可能な教育プログラムの検討に入った。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）科目等履修生制度やアートマネジメント人材育成支援事業をはじめ、他機関との連携による学習機会の提供等を実施し、また、履修証明プログラムに基づいた社会人受け入れ方法等の検討など、芸術分野における生涯学習の取組を積極的に行っているため、実施状況が良好であると判断できる。

計画 2-2 「【30】専門教育で培ってきたノウハウを生かし、社会のニーズに対応した公開講座を実施する。」に係る状況

本学が保有する専門的・総合的芸術教育機能を活用し、広く社会に学習の機会を提供するものとして「東京芸術大学公開講座」を開設し、毎年多くの市民が受講している（資料 30-1：公開講座実施状況 参照）。

資料 30-1：平成 27 年度 東京芸術大学公開講座 実施状況等

No.	分野	講座名	開講場所	開講日数	募集人数	受講者数
1	美術	楽しく自分を解放する「動きとは」(初級)-古武術的身体操作から種々の体操を通じて-	上野	4	15	20
2	美術	楽しく自分を解放する「動きとは」(中級)-古武術的身体操作から種々の体操を通じて-	上野	4	15	9
3	美術	陶芸初級「手びねりでティータイムの器を作ろう」	上野	6	45	22
4	美術	陶芸上級「ろくろでティータイムの器を作ろう」	上野	6	15	17
5	美術	陶芸中級「三島手で盛鉢を作ろう」	上野	4	45	26
6	美術	今日の美術を楽しむ	上野	7	30	16
7	美術	油画(前期)「人体のシルエットを捉える」クロッキーから油彩制作へ	上野	7	60	30
8	美術	油画(後期)「生命感のある人物像～油彩クロッキーから学ぶ～」	上野	7	60	51
9	美術	版画～銅版画実技～	上野	7	18	17
10	美術	版画～木版画実技～	上野	7	18	18
11	美術	『テラコッタ技法による彫刻制作(ヒトを造る)』	上野	8	30	35
12	美術	『テラコッタ技法による彫刻制作(首を造る)』	上野	8	16	16
13	美術	人物ヌードデッサン A	上野	3	50	33
14	美術	人物ヌードデッサン B	上野	3	50	41
15	美術	彫刻(石膏像)をデッサンしよう-初級コース-	上野	3	36	34
16	美術	彫刻(石膏像)をデッサンしよう-中級コース-	上野	3	15	16
17	美術	彫刻(石膏像)をデッサンしよう-上級コース-	上野	3	15	14
18	美術	木彫-樟から彫り出す動物-(平日)	上野	5	25	11
19	美術	木彫-樟から彫り出す動物-(土日祝日)	上野	5	25	26
20	美術	みんなでつくる木工作	上野	4	11 組 22 名	8 組 22 名
21	美術	蒔絵で描く風景	上野	6	28	24
22	美術	漆と金で飾る装身具(漆入門編) A	上野	3	24	18
23	美術	漆と金で飾る装身具(漆入門編) B	上野	3	24	21
24	美術	自分で描く漆のお椀とお箸	上野	3	24	23

25	美術	銀でつくる装身具	上野	6	22	21
26	美術	本友禅染による小風呂敷	上野	4	15	22
27	美術	墨による現代表現	上野	5	30	71
28	美術	油画デッサンコンクール	上野	2	150	174
29	美術	工芸科デッサン講習会	上野	2	100	67
30	美術	デザイン科デッサン講習会(構成デッサン)	上野	2	100	83
31	美術	デザイン科デッサン講習会(石膏デッサン)	上野	2	100	89
32	美術	先端芸術表現科 実技講習会	上野	2	60	51
33	美術	演劇体験～出会いから公演まで～	上野	6	15	15
34	美術	木工～木製サイドテーブル～	取手	7	20	22
35	美術	ガラス造形講座「ガラス工芸キルンワーク」初級コース	取手	4	12	9
36	美術	ガラス造形講座「ガラス工芸キルンワーク」中級コース	取手	4	12	7
37	美術	ガラス造形講座「ガラス工芸ホットワーク」午前コース	取手	4	8	6
38	美術	ガラス造形講座「ガラス工芸ホットワーク」午後コース	取手	4	8	7
39	美術	伝統工芸シリーズ～盆を彩る螺鈿と高蒔絵～	取手	6	20	20
40	美術	ブリカジュール～アール・ヌーヴォー期の七宝表現～	取手	7	16	16
41	音楽	古楽に親しむ①小中高生のリコーダー教室 ②ポジティブオルガン体験講座	上野	2	30	33
42	音楽	はじめての中国琵琶	上野	3	20	8
43	音楽	初めてのお囃子	上野	3	50	55
44	音楽	中高生のための初めてのお囃子	上野	3	45	5
45	音楽	声楽公開講座	上野	3	100	93
46	音楽	おとあそび親子教室 前期 1	千住	10	18 組 22 名	18 組 22 名
47	音楽	おとあそび親子教室 前期 2	千住	10	18 組 22 名	18 組 22 名
48	音楽	おとあそび親子教室 前期 3	千住	8	25 組 22 名	25 組 22 名
49	音楽	おとあそび親子教室 前期 4	千住	8	25 組 22 名	17 組 22 名
50	音楽	おとあそび親子教室 後期 1	千住	10	18 組 22 名	18 組 22 名
51	音楽	おとあそび親子教室 後期 2	千住	10	18 組 22 名	18 組 22 名
52	音楽	おとあそび親子教室 後期 3	千住	8	25 組 22 名	25 組 22 名
53	音楽	おとあそび親子教室 後期 4	千住	8	25 組 22 名	25 組 22 名

公開講座に限らず、子供向けの企画も多く開催している。「計画 2-1 【29】(P.117)」に記載した、社会人向け「とびらアートプロジェクト」と連動した「museum start あいうえの」プロジェクトは、本学と東京都美術館が推進役となり、上野公園に集まる 9 つの文化施設が連携して行なうラーニング・デザイン・プロジェクトである。子供の『ミュージアム・デビュー』を支援し、子どもと大人がフラットに学び合える環境を創造することを目的としている。「とびらプロジェクト」のアート・コミュニケーター(とびラー)は各種プログラムのファシリテーターやサポートを担当している。

また、法務省が主唱する「社会を明るくする運動」においては、子どもと保護者が一緒に過ごせる創作・表現の場と、その指導に当たる専門家との交流の機会を提供するワークショップ「匠に学ぶワークショップ in 東京芸術大学」を平成 15 年より開催している。平成 27 年度は美術学部工芸科鍛金研究室による「銀のスプーンを作ろう！」が開設され、台東区内の小学生とその保護者 15 組 30 名が、本学教員や学生の指導を受けながら、親子で 1 本のスプーンを完成させた。

(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) 専門的な内容から初心者向きの入門講座まで、本学が有する芸術教育機能を活かした公開講座を幅広く実施しており、また、募集人数に対する受講人

数も平成 25 年度～平成 27 年度までの参加年平均で約 85.3%と高い数値となっており、受講者のニーズに応じているといえ、生涯学習社会の形成に資しているため、実施状況が良好であると判断できる。

②優れた点及び改善を要する点等

(優れた点) 自治体、企業のみならず、海外の関係機関等との連携により、芸術に関する各種プロジェクト、展覧会、演奏会等を実施し、国内全域において芸術文化の振興を図っていること。(計画 1-1 【27】)

(改善を要する点) 該当なし

(特色ある点) 本学が保有する芸術資産や、日常的に生み出される教育研究成果を、大学美術館や奏楽堂、ギャラリー、音楽ホール等の学内施設を最大限に活用し、積極的に発表していること。(計画 1-2 【28】)

(2)中項目2「国際化に関する目標」の達成状況分析

①小項目の分析

○小項目1「徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 1-1 【31】【★】スーパーグローバル大学創成支援「藝大力創造イニシアティブ」事業の目標達成に向け、分野横断型の教員組織である「芸術研究院」の新設などの教育研究組織改革のほか、海外から 40 名規模の一線級アーティスト・クリエイターを教員として招聘し、国際芸術祭等の実践的環境を活かした国際共同カリキュラムの実施や学生の海外派遣や留学生支援等国际交流機能強化のためのグローバルサポートセンターの新設など、国内外との連携・ネットワーク基盤強化によるグローバル人材育成プログラム・指導体制の抜本的強化を図るとともに、日本人学生の海外留学をこれまでの 90 人から 130 人に拡大する。また、上野の文化施設をはじめ、文化庁や東京都・台東区等関係機関、海外一線級アーティスト等との連携による国際共同プロジェクトや国際イベントの実施等を通じた“上野の杜”の国際教育研究拠点化、さらには、国内外の芸術系大学における教育研究活動状況等に係る情報収集・分析の実施等、芸術系大学におけるブランディングシステム構築等の取組を推進する。」に係る状況

本学は平成 26 年度文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」において、全国 37 のスーパーグローバル大学の一つに、芸術系大学として唯一採択された。国立大学の機能強化と連動した本事業により、本学のグローバル化を強力に推進している。

具体的な取組としては、分野横断型の教員組織である「芸術研究院」を新設し(2 研究に関する目標 中項目 1 計画 1-4 【22】(P.64) 参照)、国際芸術創造研究科や美術研究科グローバルアートプラクティス専攻、音楽研究科オペラ専攻の設置準備(1 教育に関する目標 中項目 2 計画 2-2 【12】(P.43) 参照)など、グローバル化に対応した教育研究組織の改革を進めたほか、平成 27 年度は、海外の芸術系大学・機関等から延べ 169 名の一線級アーティスト・クリエイターを教員または特別講師として招聘した(1 教育に関する目標 中項目 2 計画 1-1 【7】(P.24) 参照)。

美術分野におけるパリ国立高等美術学校等との国際共同カリキュラムや、音楽分野における世界一線級アーティストとの共同演奏会、映像分野における国際共同制作などにより、人材育成プログラム・指導体制が抜本的に強化されたほか、グローバルサポートセンターの新設（1 教育に関する目標 中項目 3 計画 1-2 【17】

（P.53）及び計画 3-1 【36】（P.127）参照）によって国際交流機能、留学生支援機能、海外留学を希望する日本人学生の支援機能などが大幅に強化され、また、海外芸術系大学・機関との連携・ネットワーク基盤強化（2 研究に関する目標 中項目 2 計画 1-2 【25】（P.84）参照）により、海外からの教員誘致や国際共同プロジェクトの実施について規模の拡充及び継続性・安定性・発展性が確保された。こうした取り組みの成果のひとつとして、平成 27 年度に海外留学を開始した学生及び海外研修を実施した学生の延べ人数は約 180 名にのぼり、計画を大きく上回る実績が出ている（資料 37-3（P.130）参照）。さらに、学生の実践的な英語力向上のための集中講義「Introduce Yourself as an Artist」の実施、e-learning システムの導入による自学自習環境構築のほか、専任英語教員を言語・音声トレーニングセンターに採用し、TOEFL 対策講座を実施するなど、語学教育を大幅に強化した（計画 3-2 【37】（P.128）参照）。

また、上野の杜の国際教育研究拠点化については、本学が中心となり文化庁等関係機関との協議を進め、平成 27 年 1 月 31 日に上野「文化の杜」新構想シンポジウムを開催し、各分野の専門家と 200 名を超える来場者と意見を交わした。平成 27 年度には正式に上野「文化の杜」新構想実行委員会の事務局が開設され、各文化施設の連携により、上野地区の文化施設を網羅した共通入場券「UENO WELCOME PASSPORT」の発行のほか、平成 28 年 3 月 25 日～27 日にかけて『上野「文化の杜」アーツフェスタ・2016 春』を開催した。

加えて、芸術系大学におけるブランディングシステム構築等の取組として、国内外の芸術系大学を対象として教育研究活動状況等に係る情報収集・分析を実施し、システム構築について試行を開始したほか、世界大学ランキング等を運営する外部機関とも協議を進め、芸術系大学の評価にかかる共同研究に向けた連携体制を構築した（計画 2-4 【35】（P.126）参照）。



（参考）上野「文化の杜」アーツフェスタ・2016 春

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/11381/>

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）スーパーグローバル大学創成支援「藝大力創造イニシアティブ」事業の目標達成に向け教育研究組織改革が計画どおり推進されており、海外からの一線級アーティスト・クリエイターを教員として招聘及び国際芸術祭等の実践的環境を活かした国際共同カリキュラムの構築により、グローバル人材育成プログラム・指導体制の抜本的強化が図られている。また、グローバルサポートセンターの新設により国際交流機能及び学生支援機能が拡充されており、海外芸術系大学・機関とのネットワーク強化も順調に進められている。このほか、“上野の杜”の国際教育研究拠点化及び芸術系大学におけるブランディングシステム構築等の取組についても具体的な進捗・成果が見られる為、実施状況が良好であると判断できる。

○小項目 2 「大学間国際交流協定締結校との連携強化を中心として、戦略的な芸術大学ネットワークを構築する。」の分析

関連する中期計画の分析

計画 2-1「【32】【★】ロンドン芸術大学やベルリンフィルハーモニー管弦楽団等、国際交流協定締結校や海外関係機関等から、世界一線級のアーティスト・クリエーターや優れた教員・研究者を招聘し、ワークショップ、演奏指導、講演、共同プロジェクト等、国際舞台で活躍できる芸術家育成のための人材育成プログラムを開発・実施するとともに、平成 29 年度導入予定の国際共同カリキュラム構築に向けた協議を行う。」に係る状況

国際舞台で活躍できる芸術家育成のための人材育成プログラムの開発として、美術分野では平成 27 年に、ロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校、シカゴ美術館附属美術大学との世界最高峰の 4 芸術大学による「国際共同カリキュラム（ジョイント・ディグリー）」構築に向けた連携協定を締結した。これは、これまで培ってきた各機関との連携実績を発展させ、国境の枠を超えたグローバル人材育成プログラムとして、世界トップの芸術大学同士の連携により実施することを目的としており、本協定を受けて平成 27 年度、連携大学の教員、学生のコラボレーションによる「グローバルアート国際共同カリキュラム（共同制作プロジェクト）」を実施した（1 教育に関する目標 中項目 1 計画 3-2【6】（P.14）参照）。本プロジェクトについては、大学の垣根を越えた共通単位が付与されており、今後のカリキュラム共通部の拡充やジョイント・ディグリーの構築に向け、体制整備の段階にある。

音楽分野においては、パリ国立高等音楽院やベルリンフィルハーモニー管弦楽団などから世界の第一線で活躍する演奏家を教員として招聘し、学生に対する個人レッスンを大幅に拡充したほか、本学奏楽堂等における演奏会での共演も実現し、最高峰の指導者による教育プログラムとその成果発表を連動させた（1 教育に関する目標 中項目 2 計画 1-1【7】参照）。また、平成 27 年にハンガリーのリスト音楽院と大学間交流協定を締結、共通学位（ジョイント・ディグリー）の構築に向けて、協議を進めている。

映像分野においても、南カリフォルニア大学等の世界的な映像教育機関から多数の教員を招聘し指導体制を強化したほか、日中韓アニメーション共同制作や日仏韓映画共同制作などの継続的实施によってプロジェクトベースの少人数教育を推進し、国際的に活躍できる人材育成プログラムを実行している（1 教育に関する目標 中項目 2 計画 1-1【7】参照）。

加えて、全学的な取り組みとして、平成 27 年 8 月 3 日にイタリア共和国マッテオ・レンツィ首相による日本とイタリアとの芸術文化交流をテーマとした特別講演を開催し、また、同年 10 月 19 日にはフランス前首相・ナント市名誉市長であるジャン＝マルク・エロー氏による特別講演「よみがえるナントー文化による都市再生の軌跡」を開催した。これら一連の特別講演「グローバル・リーダーズ特別講演」は、本学が大学の国際性を高める取組の一環として、世界で活躍するグローバル・リーダーを特別講師に招いて開催したものであり、文化芸術を学ぶ学生に対する教育プログラムとしても機能させた。（資料 32-1：グローバル・リーダーズ特別講演 参照）。

資料 32-1：グローバル・リーダーズ特別講演



参考：イタリア共和国マッテオ・レンツィ首相特別講演（左）

フランス前首相・ナント市名誉市長ジャン＝マルク・エロー氏特別講演（右）

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）各分野において国際交流協定締結校や海外関係機関等から世界一線級のアーティスト、演奏家、優れた教員を招聘し、様々な形態の教育プログラムが実施されており、国際共同カリキュラムの構築に向けた協議も推進されている。加えて、国際的な要人による特別講演等も開催されており、全学的なグローバル化が着実に実行されている為、実施状況が良好であると判断できる。

計画 2-2 「【33】アジアにおける芸術教育研究の拠点大学となるべく、アジア諸国における人材育成支援のための諸活動を展開するとともに、研究成果発表や情報交換の機会を提供する。」に係る状況

本学の 120 余年の歴史は、アジア唯一であり、その伝統と実績を最大限に生かして、国内及びアジアの芸術系大学との多様な交流を強化し、次世代を担う若手芸術家の創造性の高度化とアジア芸術文化の新たな創成を達成し、アジアにおける芸術大学の拠点としての地位を確立することを目指すものとして、文部科学省特別経費支援のもと、「東京芸術大学アジア総合芸術センター事業」(平成 22 年～平成 24 年)を展開した。

本事業において、本学とアジア各地域における大学・関連機関等の間で絵画、彫刻、工芸、映画、アニメーション分野等における共同制作の実施、各機関に蓄積される技術の交流、それらの成果による交流展覧会・演奏会・上映会の開催、ワークショップやサマースクールの開講、国際学術会議の実施、また、これらの事業展開に伴う留学生や若手研究者の受入、本学教職員・学生の派遣等、数々の取組によりアジア全域におけるより広範なネットワーク形成をすすめ、その集大成として、平成 24 年 10 月「藝大アーツ・サミット 2012 アジアから世界へー連携と共生ー」を開催した。このサミットでは、日本、韓国、台湾、モンゴル、インドネシア、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシアの 8 ヶ国一地域から合計 23 大学の学長等を招き「アジアにおける芸術の独創的創造」と「アジアの芸術 今後の連携の在り方」をテーマとしたシンポジウムを行い、また、総括して「藝大アーツ・サミット 2012 宣言」に全大学が調印し、アジアにおける芸術の発展のために、お互いを尊重し、交流を深め、ますます連携を強めていくことを確認した。

また、平成 26 年度には「藝大アーツ学生サミット 2014」を開催し、同イベントでは過去 2 度（2007, 2012）に渡って開催してきたサミットで話し合われた連携構想の具体的な成果実現に焦点を当て、文化庁「東アジア文化都市」事業とも連携し、3 カ国で芸術を学ぶ 81 名の学生が、本学教員陣による指導のもと 5 日間をともに過ごし、共同制作、演奏会を通して交流を深めた。成果発表では、一般市民に向け、日中韓学生共作の美術・音楽・映像作品を披露するとともに、本学副学長・松下功が日中韓交流の明るい未来を願って作曲した「私は未来」を全員で合唱し、芸術文化による、言葉を越えた国際交流の実現に成功した。

加えて、平成 27 年度には「国際芸術教育会議 2015」を開催し、アジア、特に ASEAN 諸国の芸術系大学との更なる連携構築を図った。アジア各国より集まった 10 機関は、会期序盤では共同ワークショップ、シンポジウム、特別講義など研究室単位での個別交流を実施し、その成果を終盤の全体会議で全参加者と共有したうえで、「芸術教育の現場にとって、グローバル化とはどういうことか？」をテーマに協議したことで、今後のアジアにおける芸術教育の新たな可能性を探った。

このほか、平成 27 年度に国際交流基金、ASEAN 事務局、ASEAN 代表部、ASEAN 日本政府代表部協力のもと、ASEAN 本部を置くインドネシアの ISI ジョグジャカルタが主催した第 1 回「日 ASEAN 芸術大学ネットワーク会合」に、日本代表機関として唯一参加した。今後も引き続きネットワークの創立メンバーとして、また日本の代表として、今後開催が予定されている「文化交流訪問事業」に積極的に参加し、2020 年のオリンピックイヤーには本学が本事業のホスト校となり、芸術文化の活用による国際協調に貢献することを視野に入れている。

さらに、ASEAN については人材育成支援、及び我が国を代表する文化であり、世界的にニーズの高いポップカルチャーである映画及びアニメーション分野の発信と国際文化交流を目的として、本学と公益財団法人ユニジャパンが協力し、「ASEAN 文化交流・協力事業」を実施した。日本を代表する高い技術と経験を持った一流制作者である本学教員等を、マレーシア、シンガポール、タイの ASEAN 3 カ国に派遣し、実際の制作体験に基づく実践的ワークショップや、専門性の高いレクチャーを行ったほか、現地教育関係者や映像制作者らと当該分野における人材育成方法について活発な意見交換を実施。受講した現地学生のアンケートにおいて非常に高い評価を得るなど、現地人材育成に貢献した。



参考：藝大アーツ・サミット 2012（左）
国際芸術教育会議 2015（中央）
日 ASEAN 芸術大学ネットワーク 2015（右）

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）様々な分野において交流展覧会、共同研究等の個々の交流活動が行われているだけでなく、藝大アーツ・サミット 2012、藝大アーツ学生サミット 2014、国際芸術教育会議 2015 など、アジア諸国の芸術系大学・機関との交流促進を図る大規模なイベントを実施しており、また、日 ASEAN 芸術大学ネットワーク会合への参画など、今後の更なる発展に繋がる事業についても推進されている為、実施状況が良好であると判断できる。

計画 2－3 「【34】【★】音楽学部においては、飛び入学をはじめとする早期教育制度の導入に向けた制度設計を行う。」に係る状況

本学における入試改革及び人材育成プログラム改革の一つとして、高校 2 年からの「飛び入学」を起点として展開する「スペシャルソリストプログラム(SSP:Special Soloist Program)」制度を、音楽学部器楽科ピアノ専攻及び弦楽専攻（ヴァイオリン、チェロ分野）において構築し、平成 28 年度より導入することとした。

音楽分野においては早期教育が有効とされており、本学では長年附属音楽高校と

連携し、本学教員等による早期英才教育を実施してきたが、類まれな才能を持った若手演奏家人材の発掘と育成を強化するため、本制度の構築に至ったものである。本プログラムでは、次の特別カリキュラムが適用される。

- (1) 個人レッスンの時間を通常カリキュラムから倍増すること
- (2) 海外一流演奏家による特別レッスンをはじめ、海外一流音楽大学等への留学や国際舞台における演奏の機会等を優先的に提供すること
- (3) 選択科目は実技教員と検討の上、自由な組み合わせ（語学科目に重点を置く等）が可能となること
- (4) 成績優秀者については、学部を3年間で早期卒業して、大学院進学や海外留学を可能とする特別カリキュラムを編成するとともに、授業料免除や特別奨学金による経済支援を開始すること
- (5) 複数教員による手厚い指導・サポート体制等、充実したキャリア形成支援を行うこと

上述したように、本プログラムでは特別カリキュラムや修学面でのサポートの充実のほかに、通常より最短で2年早く学士課程を卒業することも可能となっている。パリ国立高等音楽院等の海外大学等において、入学に年齢の制限を設けている場合が多くあり、通常の学士課程や修士課程を卒業・修了したのち留学するという際に支障をきたすという問題がこれまでであったが、本プログラムを活用することで、そうしたギャップを埋めることができ、卒業後の円滑な海外展開に寄与するものとなっている。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）グローバル化を牽引する人材育成プログラムを構築するとともに、新聞等メディアを活用した広報を積極的に展開し、飛び入学試験を実施した。平成28年度入試の合格者はいなかったものの、類まれな才能を有する人材を発掘し、戦略的に育成することを目的としているため、実施状況が良好であると判断できる。

【現況調査表（教育）に関連する記載のある箇所】

音楽学部 観点「教育内容・方法」（P.3-11）

計画2-4「【35】国内芸術系大学及び国際交流協定締結校等との連携・協力により、芸術分野の特殊性を踏まえた芸術系大学の評価・検証システム構築に向けた制度設計を行う。」に係る状況

世間に既に流通する大学ランキング等の限定的な指標による定量的評価によって醸成されるイメージに対して、芸術系大学のプレゼンスを保つためには、芸術系大学自身から、その多元的な活動、成果の発信が不可欠であり、また、一つの大学単体ではなく芸術系大学全体として、芸術系大学のブランディングに取り組む必要があると考えられる。

本学ではこのような認識のもと、国際プレゼンスの確立及び国際発信を目的として、芸術分野固有の観点・指標等に基づき、芸術系大学の相対的な強み・特色等を明確化する、いまだ前例のない「芸術系大学ブランディング・システム」の開発に着手した。

システム開発推進体制として、平成26年度、学長の下に「戦略企画インテリジェンスユニット」を設置し、専任の教員2名を配置した。同ユニットにおいて、国内における評価機関の動向や制度、近年における芸術系大学の取組み、海外における評価制度の実態等、先導的ブランディング・システムの構築に関する指標の整理・予備調査・分析を行うとともに、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学、沖縄県立芸術大学に対して事前調査・意見聴取を実施、本学システム構築について試行したほか、世界大学ランキング等を運営する外部機関とも協議を進

め、芸術系大学の評価にかかる共同研究に向けた連携体制を構築した。

(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) 国内外の芸術系大学の情報収集・分析の実施、システム構築の試行のほか、外部機関との連携体制構築等も進められている為、実施状況が良好であると判断できる。

○小項目3「国際交流増進に結びつく体制等を整備する。」の分析 関連する中期計画の分析

計画3-1「【36】外国人学生・研究者の受入れ体制を構築する。」に係る状況

本学ではこれまで、理事室に「国際交流室」、及び「留学生センター」を置き、大学等間交流協定の締結や交流計画の立案等を行うとともに、外国人留学生等の支援体制を整え、「外国人留学生向けハンドブック」の発行やガイダンス実施によりサポートを行ってきたが、平成26年度以降、大学改革・機能強化戦略である「グローバル展開戦略」を受け、より充実した支援体制を構築するため、平成26年12月に「グローバルサポートセンター」を新設した(1教育に関する目標 中項目3計画1-2【17】(P.53)参照)。平成27年度には新たに特任教授、特任講師、特任助教、特任事務職員各1名を採用し、体制を強化したことにより、日本語・日本事情担当教員の拡充も行われ、留学生の為の日本語科目を増設した。

同じく事務体制についても、これまで外国人留学生への対応は、学生支援担当の「学生課」にて行ってきたが、国際交流業務の体制強化として「国際企画課」が整備されるに伴い、留学生関係業務も同課に移管され、グローバル展開に連動した留学生支援が可能となった。加えて、国際交流協定の締結にあたり、これまで各部署で行っていた協定書の文面の相手校との調整を、部局の要望に基づきつつ、グローバルサポートセンター及び国際企画課で一元的に行なうことにより、機動的な協定の締結が可能な体制を整備した。

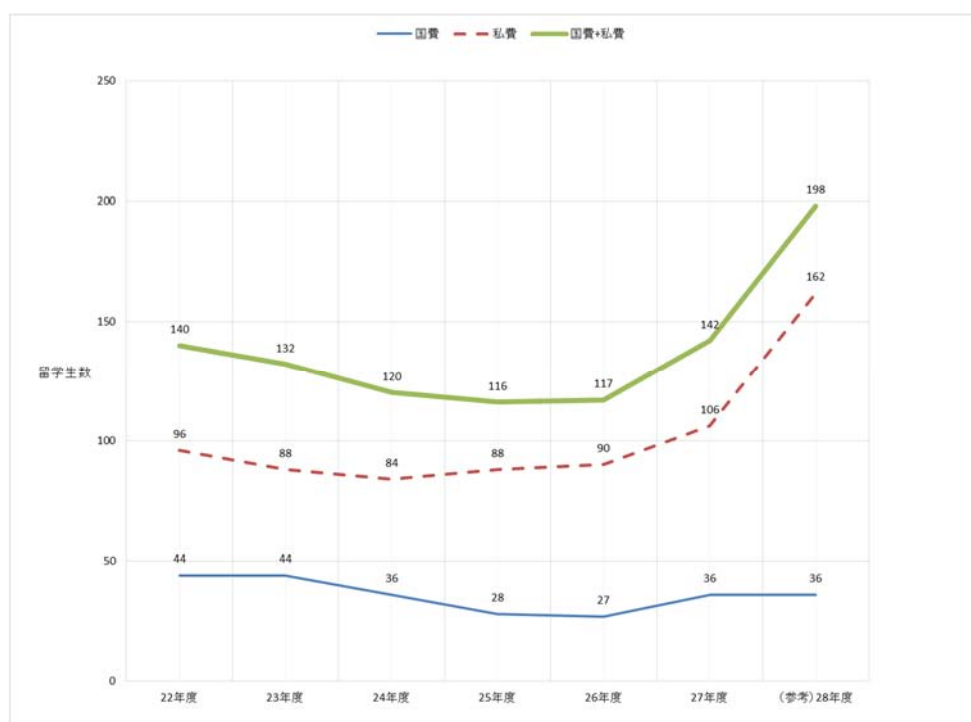
また、従来制度を抜本的に改編し研究室・専門領域単位で全学的に配置した「留学生支援チューター」制度の拡充、国際交流会館の環境改善(内装工事、WIFI環境構築等)、外国人留学生に係る各種手続き等に係る資料・案内・申請書類等の英訳・WEB掲載、各種募集要項・シラバスの英訳・本学WEBサイトでの公開、外国人留学生による藝大体験記(和英併記)のWEB発信、若手事務職員に対する英語研修プログラムの実施、助教・教育研究助手に対する英語学習サービスの提供など、外国人留学生・研究者の受入体制を多角的・総合的に強化する為に様々な取り組みを実施した。

加えて、英語版の大学パンフレットを新規制作・発行し、国際交流協定校や日本学生支援機構の海外事務所等に送付することで、国外の外国人学生に対して本学の情報を広く発信した。

(実施状況の判定) 実施状況が良好である。

(判断理由) 外国人学生・研究者の受入に係る学内体制の整備及び情報発信等を積極的に行い、国際交流増進に結びつく基盤整備が進められており、留学生数も増加傾向にあるため、実施状況が良好であると判断できる。

資料 36－1：外国人留学生数推移



年度	国費留学生	私費留学生	計
22年度	44	96	140
23年度	44	88	132
24年度	36	84	120
25年度	28	88	116
26年度	27	90	117
27年度	36	106	142
(参考) 28年度	36	162	198

※各年度5月1日現在 在留資格が「留学」である外国人留学生数

計画3－2「【37】日本人学生の海外留学を支援する。」に係る状況

計画3－1【36】に記載した「国際交流室」や「留学生センター」、及びそれらの発展である「グローバルサポートセンター」といった国際交流支援体制により、海外留学を希望する学生向けの説明会の実施や「海外留学ハンドブック」「留学体験記」の作成、経済的な支援策では、寄附金を活用した学部・学科独自の支援制度や、財団等からの奨学金の斡旋により、学生の海外展開をサポートしてきたが、スーパーグローバル大学創成支援事業や国立大学の機能強化等によってグローバル化へ大きく転換する中で、学生への支援も内容を充実させてきている。

海外留学及び海外研修の支援策の一つである、海外実践型の研修授業「ASAP(Arts Study Abroad Program)」は、各国の芸術祭や音楽祭への参加、海外芸術系大学との共同制作・演奏等、教員が専門分野の特色を活かして企画するプログラムで、平成26年度試行的に実施し、平成27年度からは単位化された。美術・音楽・映像の3分野計11の活動を通じて80名を超える学生が海外を舞台にした芸術実践を行った(資料36－1：ASAP事業 参照)。本事業の参加学生には、「海外派遣奨学金」が給付され、渡航費や滞在費等の負担が軽減される仕組みとなっている。また、一定期間以上の海外留学を行う学生については、給付型の「海外留学支援奨学金」を創設した。

資料 37-1 : 平成 27 年度 ASAP 事業

No.	プロジェクト名称	実施場所	期間	代表教員	参加学生数
1	カンボジア石造世界遺産現場体験型プログラム	カンボジア (シェムリアップ)	11.20～24	原 真一 (彫刻科准教授)	6
2	中国工芸史に関する日中学生会議	中国(北京・上海・蘇州・南京・杭州)	9.20～26	片山 まび (芸術学科准教授)	8
3	C/WS 1:Eccentric Urbanism	英国(ロンドン)	7.5～25	トム・ヘネガン (建築科 教授)	7
4	ベトナム美術大学・東京芸術大学 漆芸技術交流授業	ベトナム(ハノイ)	11.1～7	小椋 範彦 (工芸科准教授)	7
5	東京藝大エスノ・アート・ラボ&「サンギャン/儀礼の力」プロジェクト	インドネシア (バリ島)	7.15～31	伊藤 俊治 (先端芸術表現科教授)	6
6	ホルン専攻生による 47th International Hornsociety Symposium 出演事業	米国(ロサンゼルス)	8.1～9	日高 剛 (器楽科准教授)	15
7	第11回日中音楽比較研究国際学術会議	中国(ウルムチ)	11.8～13	植村 幸生 (楽理科教授)	8
8	英国湖水地方音楽祭・講習会参加	英国(アンブルサイド)	8.3～15	澤 和樹 (器楽科教授)	10
9	アントレプレヌール支援：邦楽科におけるグローバル・キャリア展開	ロシア(モスクワ)	9.23～28	檜山 哲彦 (言語芸術教授)	5
10	芸術アニメーションの音楽制作(国際共同制作の新たな展開)	台湾(台南)	9.10～15	西岡 龍彦 (音楽環境創造科教授)	7
11	GEIDAI-FEMIS WORKSHOP in Paris 2016	フランス(パリ)	12.14～18	諏訪 敦彦 (映画専攻教授)	7

また、海外留学に備えた語学教育プログラムの強化として、芸術分野という特別な領域で活躍する学生の実践的な英語力向上のための集中講義「Introduce Yourself as an Artist～自分と作品を世界に語ろう～」の実施(平成27年度24名受講)、無償で利用できる自学自習用のe-learningシステムの導入(平成27年度78名受講)、TOEFL対策を中心に担当する専任英語教員を言語・音声トレーニングセンターに採用しTOEFL対策講座を実施(平成27年度延べ169名受講)するなど、英語教育を強化し、加えて、ドイツ語、フランス語、イタリア語の語学集中講座(平成27年度延べ44名受講)を実施した(資料36-2:語学教育プログラム参照)。併せて、英、仏、独、伊、西、葡、露、中、韓の各国語の外部語学試験を受験した者や日本語能力試験を受験した外国人留学生で一定の成績を得た者に給付する「語学学習奨励奨学金」を創設し、学生の語学学習意欲向上及び語学能力の客観的測定の促進を図った。さらに、言語・音声トレーニングセンターでは、留学を希望する学生に対して、語学指導はもとより、留学のための資料作成方法及び添削、模擬面接、留学先の情報提供等の個別指導を行っている。

資料 37-2 : 語学教育プログラム例

自分のペースで英語を学習しませんか？
e-Learning英語学習システム
- Practical English6 -
無料 利用希望者募集 抽選 100名

特徴

- ・スマートフォン用アプリも使えて、いつでもどこでも学習可能！
- ・レベルに合わせて学習内容を自動でカスタマイズ！
- ・楽しみながら取り組める双方向型のアクティビティ教材！

利用期間：2016年3月31日まで
 応募締切：2015年5月20日（水）
 応募方法：Eメールにて下記の通り申込み
 申込先：国際交流課国際企画係（事務課1F）
 Email: international@taikei.ac.jp
 期間：10時～18時（受付時間）
 申込み・お問い合わせ先
 申込先：国際交流課国際企画係（事務課1F）
 Email: international@taikei.ac.jp
 期間：10時～18時（受付時間）

※このシステムでの学習によって単位を取得することはできません。
 ※当システムは6月期よりシステムを利用できます（予定）

特別集中講義 受講者募集！
講義名 Introduce Yourself as an Artist
 ～英語でアーティスト 自分と作品を世界に語ろう～

講師 井谷 恵
 東京芸術大学
 クリエイティブ・アートセンター
 特任教授

募集人数 12名 **語学力** 不明
対象学生 全分野（美術・音楽・映像）の大学1年生（修士・博士）
募集期間 5月11日（月）10:00～21日（木）17:00

国際派アーティストに必要なのは、語学力≠表現力！
 少人数制の講義で実践的な英語表現を学び、
 世界中にあなたと、あなたの作品を発信しませんか？

「留学に行ってもいい」「海外のコンテストに応募してみたい」「作品紹介のサイト、Facebookに載せる作品写真」... 英語は海外で必要不可欠なスキルです。しかし、英語が苦手な学生は、海外で活躍の機会を逃してしまいがちです。本講義では、英語が苦手な学生でも、海外で活躍の機会を逃さずに、自分の作品を世界に発信することができます。少人数制の講義で、実践的な英語表現を学び、世界中にあなたと、あなたの作品を発信しませんか？

【講義内容】
 ・英語で自分の作品を紹介する
 ・英語で自分の作品を紹介する
 ・英語で自分の作品を紹介する

言語・音声トレーニングセンター
集中講座

ドイツ語
 Goethe-Zertifikat (A1/A2) 対策講座
フランス語
 DELF/A1/A2 / TCF 対策講座
イタリア語
 特別集中講座 (A1/A2)

【日時】 2015年12月16日（水）～22日（火）5日間 定時授業
 1 期（10:40～12:10）、2 期（13:00～14:30）または、
 3 期（13:00～14:30）、4 期（14:40～16:10）（第1日2コマ）

【会場】 東京芸術大学 音楽学部 4-5 号館講義室

【対象】 東京芸術大学学生（学部生・大学院生）

【募集人数】 各講座 10 名程度（希望者多数の場合は抽選となります）

【応募条件】
 ・全ての講義に必ず出席すること
 ・外国語科目（学部・音・語）中級レベル以上の授業を履修済みであること
 または当該外国語において、CEFR A2 レベル以上であること

【申込方法】 受講を希望する学生は、【10 月 28 日（水）10 時～11 月 10 日（火）17 時】に言語・音声トレーニングセンター（音楽学部 4 号館 4 階 4-201）にある所定の申込用紙に必要事項を記入の上、提出してください。

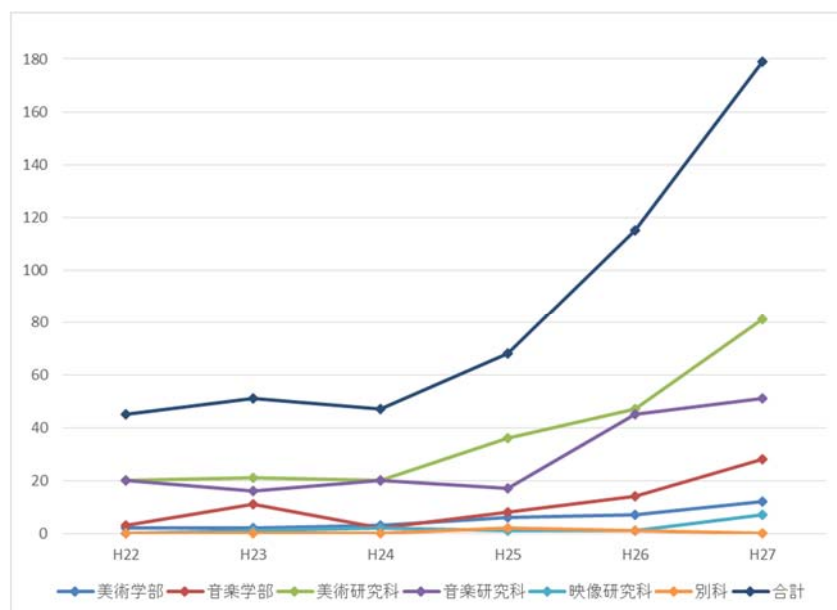
【問合せ先】 言語・音声トレーニングセンター Tel: 050-3525-2461（内線 2730）
 音楽学部 4 号館 2 階（4-201） 開講時間 10:00～17:00

このほか、海外留学を志望する日本人学生に向けた情報発信の強化として、従来発行してきた冊子『日本人学生のための海外留学案内』を大幅に拡充した『留学の手引』の作成や、海外留学関係のイベント・奨学金等に係る各種手続き資料・案内・申請書類等の WEB 化を実施し、また、海外留学や作品の国際発信等を志望する日本人学生に向けた支援策の拡充として、英文ライティングサポートを開始した。

（実施状況の判定）実施状況が良好である。

（判断理由）日本人学生の海外留学支援に係る学内体制の整備、教育プログラムの構築・実施、経済的支援制度の拡充及び情報発信等を積極的に行い、国際交流増進に結びつく基盤整備が進められており、また、学生の海外留学等も増加している（資料 37-3 : 海外留学・海外派遣等人数 参考）ため、実施状況が良好であると判断できる。

資料 37-3 : 在学生海外留学・海外派遣等人数（年度における総数）



区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
美術学部	2	2	3	6	7	12
音楽学部	3	11	2	8	14	28
美術研究科	20	21	20	36	47	81
音楽研究科	20	16	20	17	45	51
映像研究科		1	2	1	1	7
別科		1		2	1	
計	45	52	47	68	115	179

※日本学生支援機構「留学生調査」より

②優れた点及び改善を要する点等

- (優れた点) 1. 海外からの一線級アーティスト・クリエイターを教員として招聘し、グローバル人材プログラム・指導体制の抜本的強化が図られていること。また、グローバルサポートセンターの設置等により、国際交流機能及び学生支援機能が拡充され、海外芸術系大学・機関とのネットワーク強化が進められていること。(計画1-1【31】)
2. 各分野において国際交流協定締結校や海外関係機関等から世界一線級のアーティスト、演奏家、優れた教員を招聘し、様々な形態の教育プログラムが実施されていること。また、国際的な要人による特別講演の開催等、全学的なグローバル化が実行されていること。(計画2-1【32】)

(改善を要する点)該当なし

(特色ある点)音楽学部において、飛び入学を起点とする早期教育制度を構築し、世界トップアーティストの育成を戦略的に行う体制を整えたこと。(計画2-3【34】)